

令和5年度

シラバス

国語科

令和 5 年度シラバス

科目名	単位数	学 年	学 期	必修・選択	対象学科
現 代 の 国 語	2	1	全	必 修	自然環境科・普通科

1 概要および目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 評価の観点及び趣旨

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

3 成績評価

- ・定期テスト 5 回（1 学期は期末考査のみ 1 回、2 学期は中間・期末考査 2 回。3 学期は期末考査のみ 1 回。）
- ・豆テスト
- ・宿題、自習（1 年を通して課する他、夏休みの読書感想文も提出。）
- ・ノート及びファイル（各定期テストの直前に、それまでのノート及びファイルを提出する。）
- ・授業態度（出席や授業の積極性。学習課題の達成に向けて、自己の学習を適切に調整しようとする。）

上記を加味し、「知識・技能」「思考・判断・評価」「主体的に学習に取り組む態度」の各三観点について、A・B・Cの三段階で評価する。

4 使用教科書・教材

- ・教科書「高等学校 標準現代の国語」第一学習社

5 授業の展開と形態

普通科、環境科それぞれ 1 クラスを、習熟度別の 2 クラスで展開する。

- ・年度初めに高校1年の国語の学習方法についてのガイダンスを行う。（シラバス参照）
- ・学習單元ごとにワークシートを用意し、振り返りを通して自己の学習の進捗状況を管理する。
- ・国語ファイルを準備し、配布されたワークシート類を綴っておく。
- ・生徒間の教え合いを推奨し、協働を通して主体的で対話的な深い学びの実現を目指す。

観点	学習項目	学習内容及び評価の観点	a	b	c	評価方法
2	なぜ本を読むのか （又吉直樹）	- 筆者の考える読書の効用について、文章構成をもとに理解し、自分に照らして考えを深める。 - 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 - 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 - 自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明のしかたを工夫する。 - 読書の効用について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 - 話し言葉と書き言葉の特徴を理解する。 - 常用漢字を文や文章の中で活用する。 - 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 - 例示などの修辭を理解する。 - 主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 - 粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿って要旨をまとめようとしている。 - 本文を粘り強く読み、個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。 - 読書の効用について積極的に考え、学習課題に従ってまとめようとしている。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
2	世界は謎に満ちている （手塚治虫）	「世界は謎に満ちている」ことを説明するための工夫を、文章の構成や取り上げられた事例から把握する。 - 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 - 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する方法を学ぶ。 - 自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明のしかたを工夫する。 - 好奇心の重要性について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 - 調べたことを整理して、説明資料にまとめる。 - 常用漢字を文や文章の中で活用する。 - 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 - 主張と論拠、個別と一般化、推論など、情報と情報との関係を理解する。 - 粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿って要旨をまとめようとしている。 - 積極的に主張と論拠の関係を理解し、理解したことを踏まえて使おうとしている。 - 学習課題に沿って積極的に実社会の中から適切な題材を集め、表現の仕方を工夫して書こうとしている。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 調査・まとめ 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
2	言葉遣いとアイデンティティ （中村桃子）	- 人間関係を調整する「言葉」と「言葉遣い」の役割について、具体的事例とともに理解を深める。 - 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 - 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 - 言葉遣いの役割について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 - 言葉には、認識や思考を支えるはたらきがあることを理解する。 - 話し言葉と書き言葉の特徴を理解する。 - 常用漢字を文や文章の中で活用する。 - 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 - 例示などの修辭を理解する。 - 主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 - 粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿って要旨をまとめようとしている。 - 本文を読んで自分の考えを深め、実社会から求めた題材を用いて検証しようとしている。 - 言葉には認識や思考を支える働きがあることを理解し、考えたことを積極的に発表しようとしている。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ 	○ ○ ○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ

順	学習項目	学習内容及び評価の観点	a	b	c	評価方法
3	法律の改正に関わる文章を読み比べる	・改正前後の法律文を読み比べて必要な情報を読み取り、複数の文章を関連づけながら理解したことをまとめる。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する方法を学ぶ。 ・異なる形式で書かれた複数の文章を読み、理解したことをまとめる。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるように、表現のしかたを工夫する方法を学ぶ。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味のしかたを理解し、活用する。 ・異なる形式で書かれた複数の文章を粘り強く読み、理解したことを学習課題に沿ってまとめようとしている。 ・複数の文章から読み取った情報を粘り強く吟味し、表現の仕方を工夫してまとめようとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 発表・報告 ノートの提出 リフレクション シート ポートフォリオ
3	図書委員会のポスターの掲示内容を検討する	・与えられた資料と会話文を関連づけながら、課題に即して必要な情報を読み取り、活用する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する方法を学ぶ。 ・異なる形式で書かれた複数の文章を読み、理解したことをまとめる。 ・事柄が的確に伝わるように、表現のしかたを工夫する方法を学ぶ。 ・読み手からの助言などを踏まえて、目的に応じて書かれているかを確認、書き直す手順を学ぶ。 ・異なる形式で書かれた複数の文章を粘り強く読み、理解したことを学習課題に沿ってまとめようとしている。 ・複数の文章から読み取った情報を粘り強く吟味し、文章の構成に注意してまとめようとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 発表・報告 ノートの提出 リフレクション シート ポートフォリオ
2	「弱いロボット」の誕生（岡田美智男）	・「弱いロボット」の開発意図を理解し、人との間に生まれた関係性について考えを深める。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・筆者が開発した「弱いロボット」について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 ・粘り強く段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って本文の構成を捉えようとしている。 ・動画と本文を比較して、わかったことを積極的に説明しようとしている。 ・本文を読んでロボットと人間との関係性について考えを深め、表現を工夫して自分の考えを書こうとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 学習課題集の提出 定期考査 リフレクション シート ポートフォリオ
2	人はなぜ仕事をするのか（内田樹）	・本文で使われている「パス」という言葉の意味を考え、筆者が述べる仕事の本質について考察する。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明のしかたを工夫する。 ・筆者の仕事観について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・話し言葉と書き言葉の特徴を理解する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・例示などの修辞を理解する。 ・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 ・粘り強く段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って本文の構成を捉えようとしている。 ・積極的に比喻や例示の効果を理解し、読み取ったことを説明しようとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 学習課題集の提出 定期考査 リフレクション シート ポートフォリオ

階級	学習項目	学習内容及び評価の観点	a	b	c	評価方法
		- 積極的に話し言葉と書き言葉の特徴を理解し、話し言葉を挿入した効果について説明しようとしている。 - 本文を読んで働くことに対する考えが深まったかどうかを進んで振り返り、根拠をあげて説明しようとしている。			○	
2	イースター島になぜ森がないのか（鷲谷いづみ）	- イースター島の歴史について理解し、筆者が提示する人類と生態系のあり方について考察する。 - 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 - 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 - 自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明のしかたを工夫する。 - 持続可能性について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 - 調べたことを整理して、説明資料にまとめる。 - 常用漢字を文や文章の中で活用する。 - 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 - 例示などの修辭を理解する。 - 主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 - 粘り強く段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って本文の構成を捉えようとしている。 - 個別の事例を一般化する文章の効果的な組立て方を理解し、学習課題に即して解釈を深めようとしている。 - 本文の解釈を踏まえて持続可能性について考えを深め、積極的に考えたことをまとめようとしている。 - 本文を読んで考えを深め、表現を工夫して自分の考えを書こうとしている。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 話し合い 発表・報告 調査とまとめ 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
2	黄色い花束（黒柳徹子）	- コソボの話題と筆者の子供時代の話との関係を把握し、子供たちに対する筆者の思いについて考えを深める。 - 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 - 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 - 自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明のしかたを工夫する。 - 戦争や平和について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 - 話し言葉と書き言葉の特徴を理解する。 - 常用漢字を文や文章の中で活用する。 - 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 - 例示などの修辭を理解する。 - 主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 - 粘り強く段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って本文の構成を捉えようとしている。 - 本文を粘り強く読み、個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。 - 戦争や紛争について考えを深め、表現を工夫して自分の考えを書こうとしている。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
2	論理分析【対比】 「間」の感覚（高階秀爾）	- 文章を分析的に読み、対比構造を用いた論理の展開について理解する。 - 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 - 事柄が的確に伝わるように、表現のしかたを工夫する。 - 主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 - 情報と情報を対比させながら展開する評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析しようとしている。 - 論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を生かして要旨をまとめようとしている。	○	○ ○ ○	○ ○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 要約文の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
2	論理分析【具体と抽象】 日本語は世界をこのように捉える（小浜逸郎）	- 文章を分析的に読み、具体例を多用した論理の展開について理解する。 - 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 - 事柄が的確に伝わるように、表現のしかたを工夫する。 - 主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 - 具体例を示しながら展開する評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析しようとしている。 - 論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を生かして筆者の主張をまとめようとしている。	○	○ ○ ○	○ ○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 要約文の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
2	論理分析【推論】 AIは哲学できるか（森岡正博）	- 文章を分析的に読み、仮説を積み上げて結論を導く論理の展開について理解する。 - 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 - 事柄が的確に伝わるように、表現のしかたを工夫する。		○ ○ ○		授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出

級	学習項目	学習内容及び評価の観点	a	b	c	評価方法
		・主張と論拠、個別と一般化、推論など、情報と情報との関係を理解する。 ・帰納法で推論する評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析しようとしている。 ・論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を生かして筆者の主張をまとめようとしている。	○		○	要約文の提出 定期考査 リフレクション シート ポートフォリオ
2	話し方の工夫	・話し言葉と書き言葉の特徴を理解する。 ・相手・目的・場面に応じた言葉遣いを理解する。 ・相手により伝わりやすい表現方法を理解する。 ・積極的に話し言葉と書き言葉の違いを理解し、学習課題に沿って話し合おうとしている。 ・積極的に場の状況に応じて言葉遣いを選び、学習課題に沿って使おうとしている。 ・積極的に婉曲的な表現を用い、学習課題に沿って使おうとしている。 ・積極的に伝わりやすい表現を考え、学習課題に沿って説明や発表をしようとしている。	○	○ ○	○	授業態度 発問評価 発表・報告 学習課題集の提出 ノートの提出 リフレクション シート ポートフォリオ
2	待遇表現	・敬語表現を意識した言葉遣いを理解する。 ・敬語表現が選択される視点を理解する。 ・相手や場に応じた表現が選択できるようになる。 ・積極的に敬語表現を理解し、学習課題に沿って使おうとしている。	○	○ ○	○	授業態度 発問評価 発表・報告 学習課題集の提出 ノートの提出 リフレクション シート ポートフォリオ
2	論理的な表現	・論理的に表現するための、主張と理由の関係性や妥当性について理解する。 ・説得力を意識した表現のしかたについて理解する。 ・進んで主張と根拠と理由付けの関係性を理解し、学習課題に沿って話し合ったりしようとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 話し合い 発表・報告 ノートの提出 リフレクション シート ポートフォリオ
2	情報の探索と選択	・必要な情報を探す方法を理解する。 ・情報の信頼性や妥当性の吟味のしかたを理解する。 ・情報の探索と選択を実践できるようになる。 ・進んで情報探索の重要性を理解し、学習課題に沿って情報を探そうとしている。 ・進んで情報の信頼性や妥当性を確かめ、学習の見通しをもって吟味しようとしている。 ・情報の妥当性を具体的に検討し、学習課題に沿って情報を探そうとしている。	○	○ ○	○	授業態度 発問評価 話し合い 発表・報告 ノートの提出 リフレクション シート ポートフォリオ
2	情報源の明示	・引用の目的とその効用を理解する。 ・引用の具体的な方法を理解する。 ・引用を適切に活用できるようになる。 ・進んで引用の目的と方法を理解し、例を踏まえて理解しようとしている。	○ ○	○	○	授業態度 発問評価 発表・報告 調査とまとめ ノートの提出 リフレクション シート ポートフォリオ
2	スピーチで自分を伝える	・自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法を理解し、実践する。 ・他の人のスピーチを聞き取り、評価する方法を学ぶ。 ・進んで材料を集めたり吟味したりし、今までの学習を生かしてスピーチを行おうとしている。 ・進んで表現や話し方を工夫し、今までの学習を生かして効果的に話そうとしている。 ・積極的にスピーチを聞き、評価シートを活用して評価しようとしている。		○	○ ○ ○ ○	授業態度 発問評価 発表・報告 ノートの提出 リフレクション シート ポートフォリオ

順	学習項目	学習内容及び評価の観点	a	b	c	評価方法
2	相手に伝わる案内をする	・目的に沿って的確に案内する方法を理解する。 ・相手に配慮しながら案内する方法を理解する。 ・相手や場の状況を押さえて案内することができる。 ・今までの学習を生かして相手・目的・場面を考慮し、積極的に案内役を演じようとしている。 ・進んで表現や話し方を工夫し、今までの学習を生かして効果的に話そうとしている。 ・積極的に来場者役や評価者を務め、評価の観点に沿って評価しようとしている。		○ ○ ○	○ ○ ○	授業態度 発問評価 発表・報告 ノートの提出 リフレクション シート ポートフォリオ
3	理想の修学旅行をプレゼンする	・情報を大勢の聞き手にわかりやすく説明するプレゼンテーションの方法を理解し、実践する。 ・効果的なスライドの作り方を理解する。 ・今までの学習を生かして相手・目的・場面を考慮し、積極的にプレゼンテーションを行おうとしている。 ・進んで表現や話し方を工夫し、今までの学習を生かして効果的に話そうとしている。 ・協働して資料や機器を用い、相手の理解を得られる工夫をしようとしている。 ・積極的にプレゼンテーションを聞き、評価の観点に沿って評価しようとしている。		○ ○	○ ○ ○ ○ ○	授業態度 発問評価 話し合い 発表・報告 ノートの提出 リフレクション シート ポートフォリオ
3	合意形成のための話し合いを行う	・話し合いの進め方のルールを理解する。 ・論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いを実践する。 ・実生活における合意形成のための話し合いの重要性を理解し、積極的に話し合いの進め方を理解しようとしている。 ・今までの学習を生かして相手・目的・場面を考慮し、話し合いによって結論を出そうとしている。 ・進んで表現や話し方を工夫し、今までの学習を生かして効果的に話そうとしている。 ・積極的に話し合いを振り返り、今までの学習を生かして評価しようとしている。		○ ○	○ ○ ○ ○ ○	授業態度 発問評価 話し合い 発表・報告 ノートの提出 リフレクション シート ポートフォリオ
3	書き方の基礎レッスン	・表記・表現の基本ルールを理解する。 ・接続表現の種類や用法を理解する。 ・比喩などの表現技法を理解する。 ・進んで表記・表現の基本ルールを理解し、正確で分かりやすい文を書こうとしている。 ・学習の見通しをもって接続表現の種類や用法を理解し、適切な接続表現を選ぼうとしている。 ・効果的に書くための方法を積極的に理解し、表現の工夫を身につけようとしている。	○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○	授業態度 発問評価 発表・報告 学習課題集の提出 ノートの提出 リフレクション シート ポートフォリオ
3	身近な製品の取扱説明書を作成する	・情報を的確に説明する方法を理解する。 ・情報を相手にわかりやすく説明する方法を理解する。 ・わかりやすい説明を実践できるようになる。 ・教科書の例を参考に、説明や表現の仕方を工夫して、積極的に身近な製品の取扱説明書を書こうとしている。 ・書いた説明書を進んで批評し合い、批評を踏まえて文章の構成・展開や表現を工夫しようとしている。		○ ○ ○	○ ○ ○ ○	授業態度 発問評価 発表・報告 調査とまとめ 取扱説明書の提出 リフレクション シート ポートフォリオ
3	実用的な手紙文の書き方	・実用的な手紙文として、依頼文と案内文の書き方を理解し、実践する。 ・相手に情報を適切に伝える文章の書き方を習得する。 ・教科書の例を参考に、説明や表現の仕方を工夫して、積極的に依頼文や案内文を書こうとしている。 ・書いた手紙文を進んで批評し合い、批評を踏まえて文章の構成・展開や表現を工夫しようとしている。		○ ○	○ ○ ○ ○	授業態度 発問評価 発表・報告 手紙文の提出 リフレクション シート ポートフォリオ
3	地域の魅力を紹介する	・情報を的確に紹介する方法を理解する。 ・必要な情報や資料を収集・整理し、わかりやすい紹介文を書くために活用する方法を理解する。 ・教科書の例を参考に、説明や表現の仕方を工夫して、積極的に紹介文を書こうとしている。 ・目的に応じて題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を粘り強く吟味しようとしている。 ・書いた紹介文を進んで批評し合い、批評を踏まえて文章の構成・展開や表現を工夫しようとしている。		○ ○	○ ○ ○ ○	授業態度 発問評価 発表・報告 紹介文の提出 リフレクション シート ポートフォリオ

級	学習項目	学習内容及び評価の観点	a	b	c	評価方法
3	自校の生徒の生活 実態を調査する	・相手と目的に応じた報告文のあり方を理解する。 ・目的に沿った調査の方法を理解し、実践する。 ・報告文の書き方を理解し、実践し、評価する。 ・教科書の例を参考に、説明や表現の仕方を工夫して、積極的に報告文を書こうとしている。 ・目的に応じてテーマを決め、集めた情報の妥当性や信頼性を粘り強く吟味しようとしている。 ・書いた報告文を進んで批評し合い、批評を踏まえて情報の扱いや表現の仕方を工夫しようとしている。		○ ○ ○	○ ○ ○	授業態度 発問評価 発表・報告 調査とまとめ 報告文の提出 リフレクション シート ポートフォリオ
3	社会に対する意見 文を書く	・意見文とはどういうものかを理解する。 ・自分の経験の中から意見を導き出せるようになる。 ・意見文の書き方を理解し、実践し、評価する。 ・教科書の例を参考に、説明や表現の仕方を工夫して、積極的に意見文を書こうとしている。 ・目的に応じてテーマを決め、集めた情報の妥当性や信頼性を粘り強く吟味しようとしている。 ・書いた意見文を進んで批評し合い、批評を踏まえて論理の展開や表現の仕方を工夫しようとしている。		○ ○ ○	○ ○ ○	授業態度 発問評価 話し合い 発表・報告 意見文の提出 リフレクション シート ポートフォリオ

令和 5 年度シラバス

科目名	単位数	学 年	学 期	必修・選択	対象学科
言 語 文 化	2	1	全	必 修	自然環境科・普通科

1 概要および目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 評価の観点及び趣旨

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

3 成績評価

- ・定期テスト 5 回（1 学期は期末考査のみ 1 回、2 学期は中間・期末考査 2 回。3 学期は期末考査のみ 1 回。）
- ・豆テスト
- ・宿題、自習（1 年を通して課する他、夏休みの読書感想文も提出。）
- ・ノート及びファイル（各定期テストの直前に、それまでのノート及びファイルを提出する。）
- ・授業態度（出席や授業の積極性。学習課題の達成に向けて、自己の学習を適切に調整しようとする。）

上記を加味し、「知識・技能」「思考・判断・評点」「主体的に学習に取り組む態度」の各三観点について、A・B・Cの三段階で評価する。

4 使用教科書・教材

- ・教科書「高等学校 標準言語文化」第一学習社

5 授業の展開と形態

普通科、環境科それぞれ 1 クラスを、習熟度別の 2 クラスで展開する。

6 学習方法

- ・年度初めに高校1年の国語の学習方法についてのガイダンスを行う。（シラバス参照）
- ・学習單元ごとにワークシートを用意し、振り返りを通して自己の学習の進捗状況を管理する。
- ・国語ファイルを準備し、配布されたワークシート類を綴っておく。
- ・生徒間の教え合いを推奨し、協働を通して主体的で対話的な深い学びの実現を目指す。

7 学習内容

単元	学習項目	学習内容及び評価の観点	a	b	c	評価方法
2	とんかつ(三浦哲郎) 文学のしるべ	・謎の母子の登場に始まる話の構成と展開を理解し、せりふや行動から人物像と心情を読み取る。 ・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・冒頭から母子の滞在の目的がわかるまでを注意深く読み、構成と展開の工夫について批評している。 ・叙述を基に人物像や心情を捉え、学習課題に沿ってまとめようとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 指名音読 話し合い 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
2	よろこびの歌(宮下奈都) 文学のしるべ	・「私」と周囲との意識のずれが何から生じているのかを捉えながら、「私」の心情の動きを読み取る。 ・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・粘り強く主人公の心情をたどり、学習課題に沿って説明しようとしている。 ・叙述された状況や心情を捉え、学習課題に沿って、異なる視点から一部を書き換えようとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
1	道程(高村光太郎)	・近代詩の鑑賞のしかたを理解し、作品に示された作者の思いを読み取る。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・近代詩の表現の技法とその効果について理解する。 ・繰り返し音読し、積極的に詩のリズムを理解しようとしている。 ・詩の展開や表現の仕方を吟味し、進んで作者の思いを読み取ろうとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
1	小景異情(室生犀星)	・文語で書かれた詩のリズムや表記の特徴を理解し、作品にこめられた作者の思いを読み取る。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・繰り返し音読し、積極的に詩のリズムを理解しようとしている。 ・詩の構成や表現の仕方を吟味し、進んで作者の思いを読み取ろうとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 指名音読 話し合い 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
1	I was born(吉野弘)	・散文詩に親しみ、「I was born」という言葉がどのようなイメージで捉えられているかを読み取る。 ・「僕」「父」の心情など、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・繰り返し音読し、積極的に詩のリズムを理解しようとしている。 ・「僕」の理解したイメージを自分事として共有し、考えたことを積極的に話し合おうとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 指名音読 話し合い 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
1	二十億光年の孤独(谷川俊太郎)	・現代詩の鑑賞のしかたを理解し、対比や比喩など、この詩の発想のおもしろさを読み取る。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・繰り返し音読し、積極的に詩のリズムを理解しようとしている。 ・この詩の発想のおもしろさを積極的に考え、表現に即して説明しようとしている。	○	○	○	授業態度 発問評価 指名音読 話し合い 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート

級	学習項目	学習内容及び評価の観点	a	b	c	評価方法
						ポートフォリオ
2	羅生門（芥川龍之介） 文学のしるべ	・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。 ・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の成立した背景を踏まえて、内容の解釈を深める。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・登場人物の行動や心理を粘り強く読み解き、内容や展開を捉えようとしている。 ・老婆の語る論理を、叙述を基に読み解き、下人がどのように判断したか、説明しようとしている。 ・典拠となった『今昔物語集』の説話と粘り強く読み比べ、作者の工夫をまとめようとしている。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 調査とまとめ 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
2	公園（三崎亜記） 文学のしるべ	・架空の設定を実感を伴って描いた小説を通して、私たちを取り巻く日常についての考えを深める。 ・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・叙述を注意深く読み、そこにこめられた風刺や皮肉について論じようとしている。 ・作品の内容や解釈をふまえ、日常でのものの見方、考え方を深めようとしている。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 話し合い 発表・報告 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
2	清水へ	・我が国の伝統文化の一つである短歌の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する歌人の作品を味わう。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・我が国の言語文化に特徴的な、短歌の表現の技法とその効果について理解する。 ・短歌の形式や表現を進んで理解し、学習の見通しをもって短歌文芸に親しもうとしている。 ・作品に表れている情景や心情を鑑賞し、自分のものの見方、感じ方を豊かにしようとしている。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
2	手毬唄	・我が国の伝統文化の一つである俳句の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する俳人の作品を味わう。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・我が国の言語文化に特徴的な、俳句の表現の技法とその効果について理解する。 ・俳句の形式や表現を進んで理解し、学習の見通しをもって俳句文芸に親しもうとしている。 ・作品に表れている情景や心情を鑑賞し、自分のものの見方、感じ方を豊かにしようとしている。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
1	〔言語活動〕 折句を用いて短歌を作る	・折句を用いて、感じたことを短歌で表す。 ・我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解する。 ・進んで折句の技法と伝統を理解し、学習課題に沿って折句を用いて短歌を創作しようとしている。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	授業態度 発問評価 短歌の提出 リフレクションシート
2	夢十夜（夏目漱石） 文学のしるべ	・「夢」という非日常性を持った世界において、「自分」は何を判断の根拠としているかを読み解く。 ・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・「夢」という設定の中での判断やその根拠を捉え、内容及び作品世界を解釈しようとしている。 ・『夢十夜』の他の話を積極的に読み、あらすじをまとめて発表しようとしている。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
2	鏡（村上春樹） 文学のしるべ	・恐怖体験の一つとして語られる、幽霊でも超常現象でもない、人の内面に潜む恐怖とは何かを読み解く。 ・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 学習課題集の提出

階	学習項目	学習内容及び評価の観点	a	b	c	評価方法
		・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・人の内面に潜む恐怖の正体を進んで考察し、解釈したことを説明しようとしている。 ・恐怖体験を語る小説における、暗示や比喩の効果について、積極的に評価しようとしている。	○ ○ ○		○ ○ ○	定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
2	人形浄瑠璃文楽 ―三業一体の技	・我が国の伝統芸能に関する文章を読んで、扱われている題材や内容、表現の技法などについて興味を広げる。 ・我が国の伝統芸能について書かれた文章を読み、関連する事項について調べたことを整理して説明資料にまとめ、発表する。 ・言葉には、文化の継承を支えるはたらきがあることを理解する。 ・我が国の伝統芸能について書かれた文章を積極的に読み、自分の考えをもとうとしている。 ・継承されてきた言語文化に興味をもち、学習課題に沿って、調査した内容を説明資料にまとめようとしている。	○	○ ○ ○ ○		授業態度 発問評価 発表・報告 調査とまとめ リフレクションシート
1	祭りの笛(三浦哲郎)	・我が国の伝統行事について書かれた文章を読んで、内容を効果的に伝えるための筆者の工夫を理解する。 ・随筆という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・「言語活動」への見通しをもって随筆を読み、我が国の伝統行事についてももの見方を深めようとしている。 ・粘り強く随筆を読み、学習課題に沿って、その構成・展開や表現について評価しようとしている。		○ ○ ○ ○		授業態度 発問評価 調査とまとめ リフレクションシート
2	〔言語活動〕「祭り」をテーマに随筆を書く	・我が国の伝統文化に関する題材を選んで、随筆に書き表す。 ・伝統文化に関して積極的に題材を集め、集めた題材のよさや味わいを吟味しようとしている。 ・「祭りの笛」を振り返り、構成や表現に工夫を凝らして随筆を書こうとしている。				授業態度 発問評価 随筆の提出 リフレクションシート
1	古文の学習 〔古典のしるべ〕 平仮名の誕生	・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を知る。 ・「古典のしるべ」を活用し、時間の経過による文字の変化について理解する。 ・これからの学習に見通しをもって、我が国の言語文化に興味・関心を深め、それを継承していくことについて強く自覚をもとうとしている。		○ ○ ○		授業態度 発問評価 リフレクションシート
1	児のそら寝 古文を読むために1	・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。 ・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主として歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語のきまりを理解する。 ・積極的に説話を読み味わい、互いに話のおもしろさを伝え合おうとしている。 ・時間の経過による言葉の意味の変化を理解し、学習の見通しをもって調べたり説明したりしようとしている。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
1	三文にて歯二つ 古文を読むために2	・古典の文章に慣れるとともに、古文における人物造形のおもしろさを読み取る。 ・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主として品詞の種類について、文語のきまりを理解する。 ・積極的に説話を読み、叙述に基づいて人物造形のおもしろさを捉えようとしている。 ・文の構成単位を理解し、学習の見通しをもって、文を文節や単語に分けようとしている。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
1	なよ竹のかぐや姫	・現代まで受け継がれる物語の読み取りを通して、古文の世界への親しみを深める。 ・作り物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主として動詞の活用について、文語のきまりを理解する。 ・初期仮名物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って伝奇性や心情描写の特色を捉えようとしている。 ・用言の活用について理解し、学習の見通しをもって正格活用動詞の活用表を作成しようとしている。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
1	絵仏師良秀	・古文における人物造形のおもしろさを読み味わい、古文の世界への親し		○		授業態度

階	学習項目	学習内容及び評価の観点	a	b	c	評価方法
	古文を読むために3	・みを深める。 ・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・主として動詞の活用について、文語のきまりを理解する。 ・積極的に説話を読み、叙述に基づいて人物造形のおもしろさを捉えている。 ・用言の活用について理解し、学習の見通しをもって変格活用動詞の活用表を作成しようとしている。	○ ○ ○	○ ○	○ ○	発問評価 指名音読 発表・報告 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
1	〔言語活動〕 古典から受け継がれる話の由来を調べる	・文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・課題に応じて調査する。 ・言語文化の継承に関心と自覚をもち、粘り強く話の由来について調べようとしている。		○ ○ ○		授業態度 発問評価 発表・報告 調査とまとめ リフレクションシート
3	枕草子 〔歴史の窓〕	・自由に記述された随筆を読んで、当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解する。 ・随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・「歴史の窓」と読み合わせて、作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・主として形容詞・形容動詞の活用と助動詞について、文語のきまりを理解する。 ・「春は、あけぼの」「うつくしきもの」では、時間の経過による言葉の変化について理解する。 ・学習の見通しをもって随筆のさまざまな文体や取り上げられた対象に触れ、進んで解釈を深めようとしている。 ・作品に表れたものの見方・考え方や美意識を積極的に理解し、学習課題に沿って自分の考えを伝え合おうとしている。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
4	伊勢物語 古文を読むために4 〔歴史の窓〕	・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 ・歌物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・「東下り」では課題に応じて調査する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・「歴史の窓」と「筒井筒」の課題を踏まえて、作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・主として助動詞について、文語のきまりを理解する。 ・歌物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って和歌の果たす意味を捉えようとしている。 ・古文読解における助動詞の重要性について理解し、学習の見通しをもって助動詞の意味とはたらきを理解しようとしている。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 調査とまとめ 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
3	徒然草 〔歴史の窓〕	・『枕草子』とは異なる思索的な随筆を読んで、作者の批判的精神が提示する事柄を具体的に読み解く。 ・随筆という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・「歴史の窓」と読み合わせて、作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・文語のきまりを理解する。 ・各章段の構成・展開や表現の仕方などの特徴を理解し、学習の見通しをもって評価しようとしている。 ・本文中に表れた作者の批判・教訓・感動などを積極的に読み取り、考えたことを伝え合おうとしている。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 調査とまとめ 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
2	平家物語 〔古典のしるべ〕 和漢混交文	・原文と口語訳とを比較しながら、軍記物語の合戦場面の生き生きとした描写を味わう。 ・軍記物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れている先駆けの功名に対する武士の考え方を捉え、内容を解釈する。 ・古文の原文と口語訳、さらに複数の口語訳を読み比べ、理解したことをまとめる。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・文語のきまりを理解する。 ・「古典のしるべ」と読み合わせて、歴史的な文体の変化について理解する。 ・文体の歴史的背景を踏まえて本文を読み、学習の見通しをもって表現や描写・文体の特色を評価しようとしている。 ・積極的に二つの口語訳を読み比べ、学習課題に沿ってそれらを比較して批評しようとしている。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ

級	学習項目	学習内容及び評価の観点	a	b	c	評価方法
2	万葉・古今・新古今 〔古典のしるべ〕 和歌の伝統と継承 古文を読むために5	・調べや修辞技法に留意しながら、和歌の鑑賞のしかたを理解する。 ・和歌という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解する。 ・我が国の言語文化の特質や、外国の文化との関係について理解する。 ・主として和歌の修辞について、文語のきまりを理解する。 ・和歌の修辞技法を進んで理解し、学習の見通しをもって和歌文芸の特徴を捉えようとしている。 ・作品に表れている情景や心情を粘り強く読み取り、これまでの学習を生かして和歌を鑑賞しようとしている。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
2	〔言語活動〕古典 の和歌を現代の 言葉で書き換える (俵万智)	・文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・和歌を書き換えて、互いの解釈を比べ合う。 ・我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解する。 ・『伊勢物語』との関係を踏まえながら本文を読み、解釈を深めようとしている。 ・古典の和歌を現代の言葉で書き換える意義を積極的に理解し、学習課題に沿って、古典の和歌を現代の言葉で書き換えようとしている。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 和歌の提出 リフレクションシート
2	奥の細道 〔古典のしるべ〕 『奥の細道』と和 漢の文学	・俳諧紀行文における散文と句の関係を理解し、作品に表れた作者の思想や心情を捉える。 ・俳諧紀行文という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・我が国の言語文化に特徴的な俳諧の表現の技法とその効果について理解する。 ・「古典のしるべ」と読み合わせて、我が国の言語文化の特質や、外国の文化との関係について理解する。 ・文語のきまりを理解する。 ・和漢の古典を取り入れて成立した作品を粘り強く読み、これまでの学習を踏まえて解釈を深めようとしている。 ・俳諧紀行文の特徴を積極的に理解し、学習課題に沿って作者の感じ方や考え方を捉えようとしている。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 調査とまとめ 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
1	漢文の学習	・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典としての漢文を読むことの意義を知る。 ・我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ・これからの学習に見通しをもって、我が国の言語文化に大きな影響を与えた漢文に興味・関心を深めている。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	授業態度 発問評価 リフレクションシート
3	訓読に親しむ 漢文を読むために	・漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方を習得する。 ・漢文を訓読するための基礎知識として、助字のはたらきと意味を習得する。 ・漢文を訓読するための基礎知識として、再読文字の種類と読み方を習得する。 ・故事成語や格言に多く触れることにより、語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ・訓読のきまりを理解する。 ・これからの学習に見通しをもって、漢文訓読の基礎知識を積極的に身につけようとしている。 ・日常的に使う故事成語や格言の量を積極的に増やし、漢文が我が国の言語文化と不可分の関係にあることを理解しようとしている。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート
3	五十歩百歩 矛盾 蛇足	・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを学ぶ。 ・文章の種類を踏まえて、たとえ話を読み解き、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・訓読のきまりを理解する。 ・故事成語の由来となった話を読み、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 ・故事成語の由来となった話を積極的に読み、わかった内容を工夫してまとめようとしている。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 成果物の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
1	〔言語活動〕故 事成語の由来と 意味を調べる 〔歴史の窓〕	・課題に応じて調査する。 ・故事成語の由来を調べ、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 ・故事成語の由来と意味を積極的に調べ、調べた内容を工夫してまとめようとしている。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	授業態度 発問評価 調査とまとめ 成果物の提出 リフレクションシート

週	学習項目	学習内容及び評価の観点	a	b	c	評価方法
5	唐詩の世界 漢詩のきまり 〔歴史の窓〕	・表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・漢詩のきまりを理解する。 ・漢詩のきまりを進んで理解し、学習の見通しをもって漢詩を鑑賞しようとしている。 ・粘り強く漢詩を読み比べ、よまれた情景や心情を説明しようとしている。	○ ○ ○	○ ○	○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
1	日本の漢詩 漢詩のきまり 〔歴史の窓〕	・日本の各時代によまれた漢詩を鑑賞し、人への思いがどのように表現されているかを読み取る。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・漢詩のきまりを理解する。 ・今までの学習を生かして漢詩のきまりを押さえ、よまれた心情を積極的に説明しようとしている。 ・我が国の文化に漢詩が浸透していたことに興味を持ち、中国の文化との関係に理解を深めている。	○ ○	○ ○	○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
1	鶏口牛後	・戦国時代を背景とした各国の状況を知るとともに、蘇秦の言葉が諸侯を動かした理由を理解する。 ・史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・課題に応じて調査する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・訓読のきまりを理解する。 ・「鶏口牛後」「合従連衡」の由来を知り、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 ・積極的に史伝を読み、戦国時代の遊説家の説得術を解釈しようとしている。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 調査とまとめ 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
1	完璧	・史伝の舞台となる時代背景を知るとともに、作中に描かれた藺相如の考えや人物像を読み取る。 ・史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・「渾池の会」と読み比べ、課題に応じて調査する。 ・訓読のきまりを理解する。 ・「完璧」の由来を知り、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 ・積極的に史伝を読み、藺相如の考え方や人物像を説明しようとしている。 ・藺相如の登場する別の話と粘り強く読み比べ、表された人物像の相違点をまとめようとしている。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 調査とまとめ 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
1	先従隗始 〔歴史の窓〕	・戦国時代を背景とした国の状況を知るとともに、郭隗が用いた論理の巧みさを読み解く。 ・史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・訓読のきまりを理解する。 ・「先従隗始」の由来と現代の意味の違いを知り、が古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 ・積極的に史伝の特徴を理解し、たとえ話における論理を説明しようとしている。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 調査とまとめ 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ
3	論語 〔歴史の窓〕	・日本にも大きな影響を及ぼした『論語』について知り、孔子のものの見方や考え方を理解する。 ・文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ・孔子のエピソードを調べて文章にまとめる課題に応じて調査する。 ・訓読のきまりを理解する。 ・古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 ・『論語』が我が国の文化に及ぼした影響について理解し、孔子の理想とするとところを粘り強く説明しようとしている。 ・孔子について興味をもち、図書館の資料などを用いて、そのエピソードを調べようとしている。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	授業態度 発問評価 指名音読 発表・報告 調査とまとめ 学習課題集の提出 定期考査 リフレクションシート ポートフォリオ

令和 5 年度シラバス

科 目 名	単位数	学 年	学 期	必修・選択	対象学科
文 学 国 語	4	2	全	必 修	環境科・普通科

1 概要および目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 評価の観点及び趣旨

評価の観点		
a.知識・技能	b.思考・判断・表現	c.主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力や、創造的に考える力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

3 成績評価

- ・定期テスト5回（1学期は期末考査のみ、2学期は中間・期末考査2回。3学期は期末考査のみ1回。）
- ・豆テスト
- ・宿題、自習（1年を通して課する他、意見文や漢字学習帳も提出。）
- ・ノート及びファイル（各定期テストの直前に、それまでのノート及びファイルを提出する。）
- ・授業態度（出席や授業の積極性。忘れ物、携帯電話の使用やマンガを読まない。）

上記を加味し、「知識・技能」「思考・判断・評点」「主体的に学習に取り組む態度」の各三観点について、A・B・Cの三段階で評価する。

4 使用教科書・教材

- ・教科書「新編 文学国語」大修館書店

5 授業の展開と形態

普通科、環境科それぞれ1クラスを、習熟度別の2クラスで展開する。

6 学習方法

- ・年度初めに高校2年の国語の学習方法についてのガイダンスを行う。（シラバス参照）
- ・プリントされたワークシートを用いて授業を進める。
- ・国語ファイルを準備し、配布されたプリント類を綴っておく。

7 その他

成績評価は、定期テストを重視するが、提出物や授業態度も加味する。

8 文学国語学習内容（4単位・140時間）

学期	月	教科書単元名／教材名	時間	学習の目標	評価規準例
一学期	4	随想1 そとみとなかみ	5	・筆者のいう「外側」と「内側」を理解し、外側と内側の関係について考える。 ・「外側と内側」のように物事を比較してとらえ、認識を深める。	【知識・技能】 ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔(2)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。〔B(1)ア〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・筆者の考え方と比較しながら、自分の生き方について考えを深めようとしている。
		ナイン	7	・場面の設定のしかたをとおして登場人物の心情を考える。 ・情景描写の効果を考えながら読む。	【知識・技能】 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定のしかた、表現の特色について評価することをとおして、内容を解釈している。〔B(1)イ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・文学作品の描写や会話、特徴のある表現に興味をもち、登場人物の人間関係や心理を読み取ろうとしている。
	5	星取り	7	・話のおもしろさをとらえる。	【知識・技能】 ・文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。〔(2)ア〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。〔B(1)ア〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・古文を読むことに興味をもち、積極的に読みに慣れようとしている。
		言葉でスケッチ ①一言で心をつかもう		・写真やイラストに合ったおもしろい言葉を考える。 ・読み手の共感が得られるような言葉や表現を工夫して書く。	【知識・技能】 ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。〔A(1)ア〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・読み手の共感が得られるような言葉や表現を工夫して書こうとしている。
		山月記	8	・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 ・漢文訓読調の文章の魅力を味わう。	【知識・技能】 ・文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。〔(2)ア〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。〔B(1)ウ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に興味をもち、小説の文体や登場人物の心情について理解を深めようとしている。

	6	小景異情	3	・それぞれの作品に描かれている情景や心情を読み取る。 ・詩歌の形式や表現の特徴について理解を深める。	【知識・技能】 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。[(1)ウ] ・文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。[(2)ア] 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係をふまえ、作品の解釈を深めている。[B(1)オ] 【主体的に学習に取り組む態度】 ・詩歌を読むことに興味をもち、それらの形式や表現の特徴をふまえながらそれぞれの作品に描かれている情景や心情を読み取ろうとしている。
		永訣の朝	3	・詩に表された作者の心情を読み味わう。 ・詩のさまざまな表現と、その効果について考える。	【知識・技能】 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。[(1)ウ] 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現のしかたをふまえ、解釈の多様性について考察している。[B(1)エ] 【主体的に学習に取り組む態度】 ・詩を読むことに興味をもち、その形式や表現の特徴を意識しながら、情景や心情を味わおうとしている。
		月やあらぬ	7	・男が月を見て感じた心情を読み取る。	【知識・技能】 ・文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。[(2)ア] 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。[B(1)ア] 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に興味をもち、登場人物の心情を読み取ろうとしている。
	7	柿	6	・さまざまな文章を読み、構成や表現の工夫を読み取る。	【知識・技能】 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。[(1)ウ] 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定のしかた、表現の特色について評価することをとおして、内容を解釈している。[B(1)イ] 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に興味をもち、文章の構成や表現の工夫について考えながら読み味わおうとしている。
		【書く】思いを言葉に ①エッセイを書こう	5	・不特定の読み手を想定し、自分の思いを表現したエッセイを書く。 ・既存の作品も参考にしながら、構成や表現を工夫して書く。	【知識・技能】 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。[(1)ウ] 【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。[A(1)イ] 【主体的に学習に取り組む態度】 ・読み手を想定して、相手に応じた内容や構成、表現を工夫しながら書こうとしている。
	9	古典3 はしたなきもの	8	・作品に表れている作者の感性をとらえる。	【知識・技能】 ・文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。[(2)ア] 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。[B(1)ア] 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に興味をもち、自分と比較しながら作者の感性をとらえようとしている。

二 学 期		鉄道員	8	・読書に興味をもち、積極的に読書に取り組む。 ・登場人物の人間関係や心情、印象的な言葉や表現などを意識しながら、作品を味わう。	【知識・技能】 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。[(2)イ] 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。[B(1)ア] 【主体的に学習に取り組む態度】 ・読書に興味をもち、登場人物の人間関係や心情などを意識しながら作品を味わおうとしている。
	10	現代の恋／ 近代の恋	7	・さまざまな文章を読み、構成や表現の工夫を読み取る。	【知識・技能】 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。[(1)ウ] 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。[B(1)ア] ・「書くこと」において、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。[A(1)ウ] 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に興味をもち、身の回りのことに当てはめながら筆者の主張を理解しようとしている。 ・さまざまなできごとや心情、情景を詩歌で印象的に表現することに興味をもち、進んで創作に取り組もうとしている。
		クルミの小部屋	6	・筆者の家族観や、家族間の心情の機微を読み取る。 ・文体の特徴や比喩の効果について考える。	【知識・技能】 ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。[(1)ア] 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。[B(1)ア] 【主体的に学習に取り組む態度】 ・文体の特徴や比喩の効果に注目しながら本文を読み味わい、筆者の心情を読み取ろうとしている。
	11	待合室	8	・登場人物の視点や表現の特色に注目し、その働きを意識しながら読む。 ・登場人物の考え方をとらえ、自分の考えと比較しながら自分の考えを広げる。	【知識・技能】 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。[(1)イ] 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定のしかた、表現の特色について評価することとおして、内容を解釈している。[B(1)イ] 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に興味をもち、登場人物の視点や表現の特色に注目しながら内容を読み取ろうとしている。
		若紫	8	・登場人物の設定や描写のしかたをとらえ、読みを深める。	【知識・技能】 ・文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。[(2)ア] 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。[B(1)ア] 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に興味をもち、登場人物の設定や描写のしかたをとらえようとしている。
	12	夏の月	6	・筆者の考える夏の月の良さをとらえる。 ・引用された作品を読み、解釈を深める。	【知識・技能】 ・文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。[(2)ア] 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈をふまえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。[B(1)カ] 【主体的に学習に取り組む態度】 ・引用された作品に興味をもち、筆者の考えを読み取ったり、解釈を深めたりしようとしている。

三 学 期		短歌	4	・形式や表現に注意して短歌を読み味わう。	【知識・技能】 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。〔(1)ウ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現のしかたをふまえ、解釈の多様性について考察している。〔B(1)エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・短歌を読むことに興味をもち、その形式や表現に注意してそれぞれの作品を読み味わおうとしている。
	12	俳句	3	・形式や表現に注意して俳句を読み味わう。 ・できごとや心情を短歌や俳句の形式で表現する。	【知識・技能】 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。〔(1)ウ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現のしかたをふまえ、解釈の多様性について考察している。〔B(1)エ〕 ・「書くこと」において、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。〔A(1)ウ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・俳句を読むことに興味をもち、その形式や表現に注意してそれぞれの作品を読み味わおうとしている。 ・さまざまなできごとや心情、情景を俳句や短歌の形式で印象的に表現することに興味をもち、進んで創作に取り組もうとしている。
	1	山椒魚	8	・登場する生き物たちの性格や心理を読み取る。 ・話のおもしろさと、そこに込められた寓意を読み味わう。	【知識・技能】 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。〔(1)ウ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現のしかたをふまえ、解釈の多様性について考察している。〔B(1)エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に興味をもち、話のおもしろさや、そこに込められた寓意を読み味わおうとしている。
		四面楚歌	7	・漢文の表現に着目し、項王の心情を読み取る。	【知識・技能】 ・文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。〔(2)ア〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。〔B(1)ア〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・漢文の表現に興味をもち、登場人物の心情を読み味わおうとしている。
	2	こころ	9	・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 ・優れた表現に触れ、読み味わう。	【知識・技能】 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 ・文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。〔(2)ア〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈をふまえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔B(1)カ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に興味をもち、登場人物の生き方から自分自身の生き方に関する考えを深めようとしている。
	3	タイムリミット	8	・さまざまな小説を読み、構成や表現の工夫を読み取る。	【知識・技能】 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。〔(1)ウ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔B(1)キ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・さまざまな小説を読むことに興味をもち、構成や表現の工夫を読み取ろうとしている。

令和5年度シラバス

1 概要及び目標

国語を適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。

科目名	単位数	学年	学期	必修・選択	対象学科
国語表現	3	3	全	必修	環境科・普通科

2 評価の観点及び趣旨

関心・意欲・態度	国語や言語文化に対する関心を高め、国語を尊重し、その向上を図り、進んで表現し、理解するとともに、伝え合おうとする。
書く能力	自分の考えをまとめ、深めることで、目的や場所に応じ、筋道を立てて話をしたり、的確に聞き取ったりする。
読む能力	自分の考えをまとめ、深めることで相手や目的に応じて、筋道を立てて的確に読み取り、読書に親しめる。
知識・理解	表現と理解に役立てるための音声・文法・表記・語句・漢字等と解し、知識を身につけている。

3 成績評価

- ・定期テスト年5回（1・2・3学期の中間期末テストのみ。）
- ・宿題・自習課題（通年の授業と並行して実施、評価する。）
- ・ノート・プリント（ノートや、単元に応じた学習プリントの提出。）
- ・授業態度（授業に対する積極性、発言や参加の状況を加味する。忘れ物、授業妨害、居眠り、携帯電話の使用、マンガ等の授業と関係ないものの持ち込みと使用をしない。）

定期テスト50%	豆テスト・提出物・授業態度50%
----------	------------------

4 使用教科書

教科書・・・「国語表現 改訂版」教育出版
 ノート・・・「国語表現 改訂版 演習ノート」教育出版

5 授業の展開と形態

普通科3単位の必修授業として行う。

6 学習方法

- ・年度初めにガイダンスを行い、シラバスの活用法、ノートの活用法（プリントの保存）について説明する。
- ・毎時間課題に取組み基礎力を養う。

7 その他

成績評価は定期テストを重視するが、提出物や授業態度も加味する。

学期	月	単元・教材名	学習内容	時間
一学期	4	1 年間の学習予告	評価法・ノートの取り方等について理解する	1
		1 コミュニケーションのために ウォームアップ①ジェスチャーゲーム ウォームアップ②質問して当てよう ウォームアップ③他己紹介をしよう	◎アイスブレイクを行い、コミュニケーションのための土台を作る。 ○言葉を発することなく、ジェスチャーだけで伝達するゲームを行う。 ○質問だけでお題を当てるゲームを行う。 ○ペアで交互にインタビューを行い、他己紹介をする。	3
	5	2 文章表現の基礎 ステップ① 連絡文の書き方 ステップ② 効果的な説明の方法 ステップ③ 相手や目的に応じた文章 ズームアップ1 レトリックの工夫	◎相手や目的に応じて正確で効果的な伝達や表現の方法を理解し、その技術を身につける。 ○記書きなどの理解をとおして、正確に伝達するための文書の作成技術を身につけ、連絡文書を書く。 ○わかりやすい情報の配列や効果的な説明の手順を理解することで、工夫された伝達文や説明文を書く。 ○二つの文章を比較して、相手や目的に応じた表現について理解し、実際に紹介文を書く。 ○文章を効果的に表現する工夫の一つとして、レトリックを理解する。	6
	6	3 小論文Ⅰ ステップ① 意見を論理的に述べる ステップ② セルフ・ディベート ステップ③ 文章の「型」——構成の方法 ステップ④ 構成ノート ステップ⑤ テーマ型小論文の実際 ステップ⑥ 文章のリフォーム——推敲 ズームアップ2 レトリックの工夫	◎文章の「型」を各種のトレーニングを通して習得し、論理的文章を書くための基礎力を養成する。 ○小論文は根拠に支えられた意見を述べるものであることを理解し、具体的なトレーニングを通して意見と根拠を短文で書く。 ○与えられた論題から適切な問いを見つける方法を学ぶ。 ○異論や反論を想定した意見提示の方法として紙上におけるディベートを行い、防衛力と説得力のある論理展開の仕方を学ぶ。 ○文章構成のバリエーションを学ぶとともに、特に小論文の「型」としての三段構成の特徴を理解する。 ○文章執筆のための設計図としての「構成ノート」を理解し実際に作成してみることで小論文執筆の準備の仕方を学ぶ。 ○テーマ型小論文の特徴を知り、「問い」と「答え」と「根拠」に着目しながら実際に執筆する。 ○書き上げた文章を推敲するときの観点を具体的に学び、典型的な悪文について理解を深めることで、他者に理解されやすい文章の書き方を学ぶ。	15
		達成度テスト	○目標点数を定め努力する	2

一 学 期	7	4 声の表現 ステップ① 声を出そう——発声・発音 ステップ② 文字を声に変える ステップ③ スピーチの方法 ステップ④ 声の発表会 「私のおススメBOOK」 ズームアップ3 他者に劈かれた声 竹内敏晴	◎発声・発音に始まり、音読・朗読やスピーチ・紹介など、声を発する具体的な場面を想定した学習をとおして、音声言語による表現方法の基礎を学ぶ。 ○呼吸の仕組みと腹式呼吸の方法について理解し、発音に留意した声の出し方を学ぶ。 ○文の構造を把握し、その意味を伝える音読の仕方、特に声の高低や間の工夫について学ぶ。 ○古文の読み方について基本的な留意事項を理解する。 ○スピーチのための事前の準備について理解し、本番の体験をとおして、その方法を学ぶ。 ○他者の興味・関心をひく文献の紹介と朗読の工夫について習熟する。	10
		5 人とつながる言葉 ステップ① 挨拶と人間関係 ステップ② 待遇表現——敬語によるコミュニケーション ステップ③ 励ます言葉・受け入れる言葉	◎ことばの性質やことばと人間とのかかわりについて理解し、言語生活や具体的な表現活動に役立て、人間関係を維持・構築していこうとする認識を養う。 ○挨拶が人間関係や社会生活にどのような影響を及ぼしているかを理解し、自らの言語生活を検証してみる。 ○敬語が人間関係の調整や場の状況にどのようなにはたらいているか考え、自己表現としての敬語の使用方法を理解する。 ○ことばの可能性と危険性についてさまざまな角度から理解するとともに、「聴く」ことの働きについて考察する。	7
		達成度テスト	○目標点数を定め努力する	2
		6 面接——社会との接点 ステップ① 自己を分析する ステップ② 質問と応答のレッスン ステップ③ 模擬面接をする ズームアップ4ジョハリの窓	◎自己を知り、場面を判断し相手に配慮して、自分の意見を述べるという面接の学習をとおして、社会への参加能力を育てる。 ○自己分析をとおして自分を理解し自己アピールを作成する。 ○実際の面接の場面を想定し、伝わる話し方について理解して、面接における心構えと技術を習得する。 ○模擬面接をとおして、面接の基本事項を学び、実践力を身につける。	6
	8	読書感想文	読書感想文の提出	

一 学 期	9	7 言葉遊びと創作 ステップ① 言葉遊びを楽しむ ステップ② 川柳を作る ステップ③ 「二次創作」に挑戦する	◎言語による表現の娯乐的・創作的な側面を理解し、関心を深めるとともに、言語生活の歴史的連なりや社会的広がりについて学ぶ。 ○言語表現の多様な側面を理解し、またその楽しさを知る。 ○川柳について理解を深めるとともに、実作をとおして、ことばのもつ批評性を知る。	6
	9	8 言葉を届ける ステップ1 電子メール ステップ2 電話とメモ ステップ3 手紙 文章サンプル集4 ・手紙について(高村薫) ・市子ちゃんの手紙(内海隆一郎) ・「若シ書ケルナラ僕ノ目ノ明イテル内ニ今一便ヨコシテクレヌカ」正岡子規から夏目漱石へ(梯久美子)	◎日常的なコミュニケーションに必要な基礎知識を理解し、自らの表現に生かす。 ○電子メールのマナーを理解し、適切な形式と内容で電子メール文書を作成する。 ○適切な電話応対をし、メモを取る。 ○伝統的な手紙の形式を学び、場面に応じたことばの意味について理解を深める。 ○形式にとらわれない手紙を書くことで、表現の可能性について考える。	4
二 学 期		9 プレゼンテーションの方法 ステップ① プレゼンテーションの技術 ステップ② プレゼンテーションの実際	◎これまで培ってきたコミュニケーションのさまざまな技術をプレゼンテーションにおいて実践するとともに、話し言葉と書き言葉、言語と非言語の違いに気付き、場や道具などがコミュニケーションの重要な要素であるという認識を育てる。 ○プレゼンテーションの流れについて理解し、説得力のある話し方の技術について学習する。 ○自分広告を作り、テーマと内容について工夫したり、プレゼンテーションの実際例をもとに、全体の構成の方法や効果的な話し方の技術を習得したりする。 ○総合的な音声言語表現であるプレゼンテーションの表現要素、評価の観点、情報の視覚化の方法について学習する。	4
		達成度テスト	○目標点数を定め努力する	2
		ステップ③ スライドを使ったプレゼンテーション ズームアップ6 説明と説得の技術	○情報の視覚化の方法として、プレゼンテーション・ソフトによるスライドの作成について理解し、それを使用して実際に行ってみる。	3

二 学 期	10	10 小論文Ⅱ ステップ① 要約の方法 ステップ② 課題文から問いを見つける ステップ③ 課題文型小論文の実 際	◎要約の方法を理解し、二つタイプの小論文の実践的な書き方を身につけ、論理的に意見を述べる力を養う。 ○文章を要約する際の基本的な観点を理解し、実際に要約文を書くトレーニングをととして、的確な読解力と適切な表現力を身につける。 ○課題文を読んでから書く小論文の特徴を知り、設問の要求を的確に読み分けることや、課題文の要約、引用の仕方などに習熟する。 ○課題文提示型の小論文を実際に執筆する。また、課題文型もテーマ型と同様、明確な意見提示と、十分な根拠によって展開されることを学ぶ。 ○グラフや表などのデータの読み方を理解し、小論文を構成する要素を取り出し、実際の執筆に役立てる。 ○データから読み取れた内容が実際の小論文ではどのように展開されているかを理解する。	20
	11	ステップ④ データを読む ステップ⑤ データ型小論文の実 際 ズームアップ4 つなぐ言葉		
	12	11 話し合いの方法 ステップ①ブレインストーミング 目的に応じた話し合い ステップ②ディベートの方法 ステップ③意思決定・合意形成のための会議 ズームアップ8 多数決と全員一致	◎目的に合わせた話し合いの形式や手法を学び、意思決定や合意形成のための会議の方法とルールを理解する。 ○話し合いの目的に応じてなされている工夫を理解し、アイデアの出し方や原案の作り方を習得する。 ○ディベートの流れときまりについて確認し、論題についての調査から立案までの方法を学ぶ。 ○実際の流れにそって、ディベートにおけることばの使い方や発言の技術を学び、ディベートを実践する。 ○家族会議の記録を題材にして、意思決定や合意形成の方法やルールについて理解する。 ◎ディベートの基本的な流れについて理解し、実際に取り組む。 ○ブレインストーミングの方法を理解し、アイデアの出し方や原案の作り方を習得する。 ○ディベートの流れとルールを理解し、ディベートを実践する。 ○家族会議の記録を題材にして意思決定や合意形成の方法やルールについて理解する。	7
	12	12 エッセイを書く ステップ① エッセイを読む ステップ② エッセイを書く ステップ③ 作品集作りと相互批評 ズームアップ9 投書のすすめ	◎読者を意識し、手法を工夫したエッセイが欠ける ◎作品集を作り、合評会で意見を述べ合うことができる。 ○他者を楽しませる文章の特性を知る。 ○エッセイを読み、文章の魅力と効果的な手法を見つける。 ○ステップ1で学んだ具体的な手法を意識して、エッセイを書く。 ○編集委員会を組織し、作業を分担して作品集を作り、合評会を行う。	4

		13 物語を作る ステップ① 物語作りの基礎レッスン ステップ② テーマから物語を紡ぎ出す ステップ③ 作品集作りと合評会	◎物語を作りながら表現を楽しみ、作品を一冊の物語集にまとめる。 ○絵カードを並べ替えながら想像し、ストーリーを作成する。 ○抽象語によるメインテーマを起点にして具体化させていくピラミッドワークを用いて、物語を作成する。 ○編集委員会を組織し、作業を分担して作品集を作り、合評会を行う。	8
		14 メディア・リテラシー ステップ① メディアの特性を知る ステップ②広告というメディアを読む	◎身の回りのさまざまなメディアについて知り、それぞれの特性をふまえた情報発信とその社会的意味について認識を深める。 ○言語と画像について、メディアとしての特徴を知り、表現手段としての性質を理解する。 ○同一の対象についての記事でもその表現内容に違いが現れることを理解し、メディアが立場の違いをメッセージに反映させていることを理解する。 ○広告におけるAIDMAの法則について理解し、実際の広告を分析して、表現上の工夫を確認する。	6
	三学期	1 ステップ③ 情報を編集する ズームアップ6 情報の海を航海する——メディア・リテラシーの課題	○情報を発信する場合には、読み手が理解しやすいようにメディアの特性を生かした編集上の工夫が必要であることを理解し、実際に表現してみる。	2
	2	15 社会にはたらきかける表現 ステップ① 地域社会を知る——インタビュー ステップ② 地域と関わる——企画を立てる ステップ③ 地域とつながる表現活動——イベントの実行へ ズームアップ11 社会にはたらきかける表現	◎ 学校内におけるチャリティコンサートというイベントを企画し実行することを想定して、企画会議、渉外・広報活動、会場準備、事後処理などの一連の流れを学習することによって高等学校における国語表現の学習の総まとめを行う。 ○ポップ作りをとおして、人をひきつける情報発信の手法を学習する。 ○学校紹介のスライド作りをとおして、受け手の五感に訴える表現の仕方を学ぶとともに、情報発信の際のさまざまなルールを理解する。 ○地域社会に出かけ、企画のアイデアや手法を学び、地域の人々のアドバイスをもとに企画書にまとめていく。 ○イベントを実行することを想定して、企画会議を開く段階から、イベント当日、更には事後処理の段階に至るまでに必要とされる表現技術のポイントについて学習する。 ○広報や渉外活動におけるメディア選択の観点について考察することで、表現とメディアの関係について学習する。	16
		一年間の反省	○一年間の反省を行う。 感想シートと授業評価の記入。	

令和5年度年度シラバス

科 目 名	単位数	学年	学期	必修・選択	対 象 学 科
古典A	2	3	全	選 択	環境科・普通科

1. 概要及び目標

- ・高校生活最後の古典の授業として、『国語総合』とのつながりを意識し、古典単語等の語句の意味を確認するとともに、古典文法、古典常識等にも触れることで、古典に親しむことを意識する。
- ・古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。
- ・古典作品を通し、言語活動を活性化するように、グループ活動やプレゼンテーション等の活動を多く取り入れる。

2. 評価の観点及び趣旨

関心・意欲・態度	・国語や言語文化に対する関心を高め、国語を尊重し、その向上を図り、進んで表現し、理解するとともに、伝え合おうとする。 ・グループ活動を通し、自らの役割を理解するとともに、協調する態度や、貢献する態度を養う。
書 く 能 力	・自分の考えをまとめ、深めることで相手や目的に応じて、筋道を立てて適切に文章に書く。
読 む 能 力	・自分の考えをまとめ、深めることで相手や目的に応じて、筋道を立てて的確に読み取り、読書に親しむ。
知 識・理 解	・表現と理解に役立てるための音声・文法・表記・語句・漢字等を理解し、知識を身につける。

3. 成績評価

- ・单元ごとにテストを行う。
- ・ノート・プリント（ノートや、单元に応じた学習プリント）の提出。
- ・授業態度（授業に対する積極性、発言や参加の状況を加味する。忘れ物、授業妨害、居眠り、携帯電話の使用、マンガ等の授業と関係ないものの持ち込みと使用をしない。）

定期テスト70%	豆テスト・提出物・授業態度30%
----------	------------------

4. 使用教材

- ・教 材・・・「高等学校標準古典A（物語選）」 第一学習社

5. 授業の展開と形態

環境科・普通科それぞれの選択科目として1クラス開設する。

6. 学習方法

- ・年度初めにガイダンスを行い、シラバスの活用法、ノートの活用法（プリントの保存）について説明する。
- ・『標準古典A（物語選）』を用いて学習する。

7. その他

成績評価は定期テストを重視するが、提出物や授業態度も加味する。

○進度予定表

	月	学 習 の 内 容	配当 時間	学習のねらいと評価の観点 (◎) 書く能力(書)、関心・意欲・態度(関)、読む能力(読)、知識・理解(知)
学 期	4	・「シラバス」を活用した オリエンテーション	1	・古典文学の面白さを知る。
		・古文編【説話】 「十訓抄」より 文字一つの返し 「古今著聞集」より 小式部内侍・・・	(3) 1 1	・古典やそれにかかわる諸作品を自ら読むようになる。 ◎古典の表現に慣れ、正しく音読している。(話・関) ◎話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 (読・知)
		* 達成度確認テスト	1	○目標点数を定め、それを越えるために自学学習ができる。
	5	・古文編【物語】 「竹取物語」より あらすじの確認 帝の求婚 かぐや姫の昇天	(6) 1 2 2	・古典に対する親しみや興味・関心を高める。 ◎比較的短い歌物語を読んで、古文に親しむ。(関・読・知) ◎話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 (読・知)。
		* 達成度確認テスト	1	○目標点数を定め、それを越えるために自学学習ができる。
	6	・漢文編【故事・寓話】 漢文の基礎確認 「助長」 「画竜点睛」 「推敲」	(8) 1 2 2 2	・それぞれの故事・寓話の意味を理解し、現代における意味や用法を習得する。 ◎漢文訓読に習熟している。(知) ◎故事の意味の成り立ちを理解し、現在の用法に慣れている。(関・知) ◎故事の叙述のおもしろさを味読している。(読・関) ◎文脈に即した現代語訳ができています。(読・知・書) ◎登場人物の心理・心情を読み取っている。(関・読)
		* 達成度確認テスト	1	○目標点数を定め、それを越えるために自学学習ができる。
	7	・古文編【随筆】 「徒然草」より 公世の二位の・・・ 「方丈記」より ゆく川の流れ 「枕草子」より 中納言参り給ひて 3作品を通し、日本人観を考察する	(8) 2 2 2 1	・随筆を読んで、人間、社会などに対する作者の思想や感情を読み取り、 ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ◎文章の内容や構成や展開に即して的確にとらえる。(読・知) ◎表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。(読・知) ◎無常観について理解し、日本文化の特質を考える。(知)
		* 達成度確認テスト	1	○目標点数を定め、それを越えるために自学学習ができる。
学 期	9	・漢文編【漢詩の鑑賞】 漢詩の基礎を学ぶ 「峨眉山月歌」 「春夜」 「臨洞庭」	(8) 1 2 2 2	・詩人たちの、人間、社会、自然などに対する様々な思想や感情を的確 に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ◎漢詩のルールを知る。(知) ◎作品を暗誦することを通して理解を深めている。(話・知) ◎詩人たちの人生観や自然観についての認識を深める。(関・読・知)
		* 達成度確認テスト	1	○目標点数を定め、それを越えるために自学学習ができる。
	10	・古文編【物語】 「源氏物語」より 光君の誕生 夕顔 葵の上	(8) 3 2 2	・作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。 ◎範読を参考に、正しく音読することができている。(話) ◎登場人物の言動をおさえながら、話の展開をつかんでいる。(読) ◎音便や挿入句といった、語り物の特色について理解する。(知)
		* 達成度確認テスト	1	○目標点数を定め、それを越えるために自学学習ができる。
	11	・漢文編【三国志の世界】 歴史的背景を知る 「十八史略」より 水魚之交 赤壁之戦	(8) 1 3 3	・作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。 ◎正しく書き下しすることができている。(話) ◎登場人物の言動をおさえながら、話の展開をつかんでいる。(読) ◎歴史的背景や中国文化の特色について理解する。(知)
		* 達成度確認テスト	1	○目標点数を定め、それを越えるために自学学習ができる。

学 期	12	・ 古典編【日記】 「蜻蛉日記」より 沓坏の水 「紫式部日記」より 日本紀の御局 「更級日記」より 門出 ----- *達成度確認テスト	(6) 1 2 2 1	・ 作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。 ◎日記を読んで、自然、人間、社会などに対する作者の思想や感情を 読み取る。(関・読・知) ◎文章の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。(読・知) ----- ○目標点数を定め、それを越えるために自学学習ができる。	
	3	1	・ 漢文編【諸家の思想】 「孟子」より 「老子」より 「莊子」より 「韓非子」より ----- *達成度確認テスト	(8) 2 2 2 1 1	・ 中国古代の思想家たちの、人間、社会などに対する様々な考え方を 理解し、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ◎諸子百家について理解している。(関) ◎正しく音読することができている。(関・読) ◎訓点に従って、漢文を正しく書き下し文に改めている。(知・書) ----- ○目標点数を定め、それを越えるために自学学習ができる。
	2	・ 古典編【和歌】 「万葉集」より 「古今和歌集」より 「新古今和歌集」より ----- *達成度確認テスト	(4) 1 1 1 1	・ 和歌の優れた表現に親しむ。 ◎和歌にこめられた思想や感情を読み取る。(読・知) ◎和歌の修辞技巧やそれぞれの歌集の表現・語法上の特色を理解する。 (知) ----- ○目標点数を定め、それを越えるために自学学習ができる。	
	3	・ 漢文編【不思議な世界】 「枕中記」より ----- *一年間の反省	(2) 1 1	・ 漢文に親しみを持ち、古代中国人の発想のおもしろさに興味を持つ ◎話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう(読・知) ◎本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。(読・知) ----- 一年間の反省を行う。	

令和 5 年度 シラバス
(国語科 文章表現 2 単位 70 時間)

科 目 名	単位数	学年	学期	必修・選択	対 象 学 科
文章表現	2	3	全	選 択	普通科・環境科

1, 概要及び目標

国語で適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。

2, 評価の観点及び趣旨

関心・意欲・態度	国語や言語文化に対する関心を高め、国語を尊重し、その向上を図り、進んで表現し、理解するとともに、伝え合おうとする。
書 く 能 力	自分の考えをまとめ、深めることで相手や目的に応じて、筋道を立てて適切に文章に書ける。
読 む 能 力	自分の考えをまとめ、深めることで相手や目的に応じて、筋道を立てて的確に読みとり、読書に親しめる。
知 識・理 解	表現と理解に役立てるための音声・文法・表記・語句・漢字等を理解し、知識を身につけている。

3, 成績評価

- ・単元ごとにテストを行う。
- ・漢字力検定の習得を奨励し、準 2 級習得に挑戦し、合格した者は、成績に加味する。
- ・ノート・プリント（ノートや、単元に応じた学習プリント）の提出。
- ・授業態度（授業に対する積極性、発言や参加の状況を加味する。忘れ物、授業妨害、居眠り、携帯電話の使用、マンガ等の授業と関係ないものの持ち込みと使用をしない。）

定期テスト 70 %	豆テスト・提出物・授業態度 30 %
------------	--------------------

4, 使用教材

- ・副教材・・・「国語必携 パーフェクト演習 三訂版」尚文出版

5, 授業の展開と形態

環境科・普通科それぞれの選択科目として 1 クラス開設する。

6, 学習方法

- ・年度初めにガイダンスを行い、シラバスの活用法、ノートの活用法（プリントの保存）について説明する。
- ・『実践 国語常識・作文 ステップアップ』を用いて学習する。

7, その他

成績評価は定期テストを重視するが、提出物や授業態度も加味する。

○進捗予定表

	月	学 習 の 内 容	配当時間	学習のねらいと評価の観点 (◎) 書く能力(書)、関心・意欲・態度(関)、読む能力(読)、 知識・理解(知)
1 学 期	4	1年間の学習予告	1	・シラバスを使用し、評価の基準や加点について確認する。
		第一章 漢字・語句 〈書き取り〉 A 同訓異字 B 同音異義語 C 類似字形 D 実践問題	6	・誤りやすい同訓異字・同音異義語を理解し、定着させる。 ◎ 課題に取り組んでいるか。(関) ◎ 同訓異字・同音異義語・類字字形を理解しているか(知)
		* 達成度確認テスト		○目標点数を定め、努力する。
	5	〈熟語〉 A 常用漢字 B 表外漢字 C 特殊な読み	8	・基礎的な漢字の読み書きの徹底を図る。 ◎ 課題に取り組んでいるか。(関) ◎ 熟語・表外漢字の意味を理解しているか。(知) ◎ 難読語を理解しているか。(知)
		* 達成度確認テスト	1	○目標点数を定め、努力する。
	6	〈熟語〉 A 訓読語 B 実践問題 〈反対語・対照語〉 A 反対語・対照語 B 相対字	8	・難読な漢字の読み書きの徹底を図る。 ◎ 課題に取り組んでいるか。(関) ◎ 実践問題で自分の達成度を確認しているか。(関) ◎ 反対語・対照語・相対字を理解しているか。(知)
		* 達成度確認テスト		○目標点数を定め、努力する。
	7	〈四字熟語〉 A 四字熟語 B 故事成語 C ことわざ 〈履歴書の書き方〉 A 履歴書を書く 志願理由書を書く	6	・四字熟語や故事成語に対する理解を深めさせる。 ・学んだ四字熟語などを実践で使えるようにさせる。 ・履歴書や志願理由書の書き方を理解させる。 ◎ 課題に取り組んでいるか。(関) ◎ 四字熟語・故事成語・ことわざを理解しているか(知) ◎ 履歴書を書くことができる。(書・知)
		* 達成度確認テスト		○目標点数を定め、努力する。
2 学	9	第二章 〈正しい表現〉 A 正しい文 B 副詞の呼応 C 敬語 D 実践問題	7	・正しい表現の方法を理解させる。 ・副詞の呼応について理解させる。 ◎ 課題に取り組んでいるか。(関) ◎ 話し言葉を書き言葉に改めることができる。(書・知) ◎ 敬語の種類や違いについて理解している。(知)
		* 達成度確認テスト		○目標点数を定め、努力する。

期		〈作文〉 A 作文の書き方 B 横書きの書き方 C 課題作文への対策	7	・作文の書き方、文章の整え方を理解させる。 ・自分の考え・思いを文章にまとめさせる。 ◎ 課題に取り組んでいる。(関) ◎ 作文の書き方を理解している。(知) ◎ 課題文に対する意見をまとめ、自分の意見をまとめている。(関・知・書)
	10	*達成度確認テスト	1	○目標点数を定め、努力する。
	11	〈作文〉 A 実践問題(小論文) 〈文学史の基礎知識〉 A 日本の文学 B 有名な作品の冒頭 C 外国の文学	7	・課題文型小論文の特徴を知り、設問の要求を的確に読み分け、自分の論を展開させる。 ・文学史に対する知識を養わせる。 ◎ 自分の意見を論理的にまとめることができる。(関・知) ◎ 課題文を読み小論文が書ける。(書) ◎ 日本や外国の代表的な文学作品がわかる。(知)
		*達成度確認テスト	1	○目標点数を定め、努力する。
	12	〈手紙文の書き方〉 A 手紙文の構成 B 手紙のマナー C 採用礼状の書き方 D 封筒の書き方・はがきの書き方	6	・手紙の書き方を理解させる。 ◎ 構成を考えて手紙が書ける。(書) ◎ 手紙のマナーを理解している。(知)
学 期	3 1	〈電話の応対〉 A 電話のかけ方・受け方 B 電話での話し方 〈現代用語〉 A 文芸用語 B 常識用語 C 時事用語	5	・話すことにおける発音・発声の重要性を理解し、わかりやすい発音・発声に心がけることができる。 ・現代用語を理解させる。 ◎ 発音の基本に沿って発声できる。(話) ◎ 現代用語を理解している。(知)
	2	第三章 〈総合演習〉	5	・1年の学習のまとめとして、自分の一年の達成度を確認させる。 ◎ 課題に取り組んでいる。(関) ◎ 1年の学習の成果が現れている。(知・書・関)

地歴公民科

令和5年度 公共 シラバス

科目名	単位数	学年	クラス
公共	2 単位	1 学年	1 年 1 組、1 年 2 組

1. 概要及び目標

現代社会における様々な課題の学習を通じ、基礎的な知識を習得することにより、広い視野に立って現代社会と人間についての理解を深めさせる。また、倫理面や文化面・政治面など、多角的な観点から問題に焦点をあてることにより、現代社会と自己との関わりについての関心を高め、自らの在り方生き方を主体的に判断し活動する生徒を育てる。

2. 評価の観点及び評価方法

評価の観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
社会問題を客観的かつ多角的に分析し、公正な判断力を養うために必要な、基礎的基本的な知識の定着を徹底する。	教科書や資料集等から適切な情報を読みとり、ノートの整理や教材への記述、授業での発言などを通して、その理解を深めることができる。	現代社会の学習活動を通して、社会と自己とのかかわりに関心を持ち、学習活動や授業に真剣に取り組む、自ら積極的に学ぶ姿勢を養う。
評価方法	評価方法	評価方法
中間や期末の定期考査で評価する。	授業での発言や板書、課題やノート、プリント、プレゼンや発表などで評価する。	出席状況や授業態度、課題への取り組む姿勢や提出物などで評価する。

上記の評価の観点を踏まえ次のような配分で総合評価を行う。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

3. 使用教科書教材等

- ① 教科書 「高等学校 新公共」 (第一学習社)
- ② 副読本 「『高等学校 新公共』教科書準拠 新公共ノート」 (第一学習社)

4. 授業の展開と形態

1 年自然環境科 (1 組)、1 年普通科 (2 組) をそれぞれ単独クラスで行う。

5. 学習方法

①授業における学習方法

- a 予習として、授業を行う単元の範囲を読んでおくことが望ましい。
- b 授業においては、教師の話を聞くだけではなく、疑問点や理解が難しい点がある場合には積極的に発言することでより強い印象を得られ、より深い理解につながる。
- c ノートやプリントなど、授業毎の課題はきちんと行い、できれば自らすすんで教材に書き込みすれば、後の復習において有効に活用できる。
- d 板書や発問に対する応答を積極的にすることは、思考・意識が常に学ぼうとする状態となるので私語や居眠りを防ぐ意味でも望ましい。

②家庭における学習

- a 授業の日は、その日のうちに復習することで、授業の理解を保つことができる。
- b できれば定期的に復習する時間を持つ。短時間でも復習することで知識の定着がすすむ。

③定期考査に向けての学習

- a 定期考査前の学習は、ただ読むだけよりも、自分で何度も書き込むことで知識が定着する。
- b 自ら特徴的な分類を行うことで、より理解が進む。
- c 疑問点や難しい点は、積極的に教師に質問する。(放課後等も活用する)
- d 学習方法の改善が困難な場合は、教科担当に相談すること。

6. その他：履修上の留意点等

①履修・修得における注意点

- a 欠課時数が総時数(2単位×35週＝70時間)の3分の1(24時間)を超えた生徒は履修を認めない。
- b 時数が不足している生徒のうち、正当な理由がある生徒については、原則として6時間については補充を行う。
- c 学年末の評定が「2」以上の生徒は、単位を修得したものと認める。

②授業における注意点

- a 教科書や資料集、その他授業に必要な教材は、必ず持参して授業を受ける。
- b 私語や居眠り等、怠惰な態度や授業を妨害する行為は行わない。度が過ぎている場合は、減点の対象となる。
- c 提出物や課題は、期限をきちんと守り提出する。

令和5年度 地理総合 シラバス

教科	科目	単位数	指導学年	学科
地理歴史	地理総合	2	2 学年	自然環境科・普通科

1. 概要及び目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2. 評価の観点及び評価方法

知識 ・ 技能	思考 ・ 判断 ・ 表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。
評価方法	評価方法	評価方法
中間考査・期末考査など、定期考査で評価する。	授業での発言や板書、課題やノート(ファイルなど)、プリント、プレゼンや発表などで評価する。	出席状況や授業態度、課題への取り組む姿勢や状況、発表などで評価する。

3. 上記の評価の観点を踏まえ、次のような配分で総合評価を行う。

知識・技能 40％ 思考・判断・表現 30％ 主体的に学習に取り組む態度 30％

4. 使用教科書・教材

- ①教科書「高校生の地理総合」(帝国書院)
- ②副読本「高校生の地理総合ノート」(帝国書院)

5. 授業の展開と形態

・2 学年 普通科と自然環境科

6. 学習方法及び履修上の注意

- ① 授業開きに授業オリエンテーションを行い、学習計画・評価方法等を説明する。
- ② プリント(教科書準拠内容・白地図等・教師作成)と資料プリントを使用する。

- ③ 授業は進度予定表に従って行い、テストや課題を実施して学習内容の徹底を図る。
- ④ ICT 機器や視聴覚教材などを積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びを図る。

2023 年度 地誌演習シラバス

科目名	単位数	学年	クラス
地誌演習	2 単位	2 学年	2 年 2 組 (普通科)

1. 概要及び目標

地誌学は、地理的条件の複合性を構造的に把握し、地域現象を解釈する地理学の一分野です。本授業では、地理学の中での地誌学の位置づけを学び、その視点と方法を身につけます。そして、主に近隣の村々をとりあげ、他集落との比較を通じ、その特徴についての理解を深めます。

地表面に展開する多様な生活形態や文化景観は、地域固有の自然環境や歴史・社会性を反映しながら具現化されています。この地域固有の事象がいかに関係形成されたのかということを自然と人間の関わりを通して明らかにする。したがって、地域固有の事象が地理的諸条件の関連によって成り立っていることを理解することを目指す。

2. 評価の観点及び評価方法

評価の観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
社会問題を客観的かつ多角的に分析し、公正な判断力を養うために必要な、基礎的基本的な知識の定着を徹底する。	教科書や資料集等から適切な情報を読みとり、ノートの整理や教材への記述、授業での発言などを通して、その理解を深めることができる。	現代社会の学習活動を通して、社会と自己とのかかわりに関心を持ち、学習活動や授業に真剣に取り組む、自ら積極的に学ぶ姿勢を養う。
評価方法	評価方法	評価方法
中間や期末の定期考査で評価する。	授業での発言や板書、課題やノート、プリント、プレゼンや発表などで評価する。	出席状況や授業態度、課題への取り組む姿勢や提出物などで評価する。

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の各三観点について、三段階（A：B：C）で評価する。

上記の評価の観点を踏まえ次のような配分で総合評価を行う。

3. 使用教材等

- ・各字（国頭村、大宜味村）の地誌書、やんばるの昔話や伝承本：各教育委員会編集
- ・各村編さんのガイドブック

4. 授業の展開と形態

- ・2 年普通科（2 組）の地誌演習選択者で行う。

5. その他：履修上の留意点等

①履修・修得における注意点

- a. 欠課時数が総時数(2単位×35週＝70時間)の3分の1(24時間)を超えた生徒は履修を認めない。
- b. 時数が不足している生徒のうち、正当な理由がある生徒については、原則として6時間については、補充を行う。
- c. 学年末の評定が「2」以上の生徒は、単位を修得したものと認める。

②授業における注意点

- a. 教科書や資料集、その他授業に必要な教材は、必ず持参して授業を受ける。
- b. 私語や居眠り等、怠惰な態度や授業を妨害する行為は行わない。度が過ぎている場合は、減点の対象となる。
- c. 提出物や課題は、期限をきちんと守り提出する。

令和5年度 地政演習シラバス

沖縄県立辺土名高等学校

科目名	単位数	学年	クラス
地政演習	2単位	2学年	2年2組(普通科)

1. 概要及び目標

地政演習では、それぞれの国が置かれている地理的環境に注目して国家間の関係を分析するなど、様々な課題に関する学習を通し、基礎的な知識を習得していく。また、広い視野に立って国家と国家の国際社会における関係についての理解を深めさせる。国家の政治面・経済面・文化面など、多角的な観点から焦点をあて探究することにより、関心を高め、自らの在り方生き方へとつなげ、主体的に判断し活動する生徒を育てる。

2. 評価の観点及び評価方法

評価の観点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地政学に関する諸問題に探究活動を通して客観的かつ多角的に分析し、公正な判断力を養うために必要な基礎的な知識の習得・定着を徹底する。	地政学に関する様々な問題を多角的な視点で捉え、主体的に分析することによって、広い視野に立った客観的で公正な判断ができる洞察力の基礎を養うと同時に、ノートの整理や授業での発言などを通してその理解を深めることができる。	探究活動を通して、社会と自己との関わりに関心を持ち、学習活動や授業に真剣に取り組む、自ら意欲的・積極的に学ぶ姿勢を養うことができる。
評価方法	評価方法	評価方法
課題やプリント、プレゼンテーション、新聞作成などで総合的に評価する。	授業での発言やその考え方、プリントの内容や発表内容などで総合的に評価する。	出席状況や授業態度、学習に取り組む姿勢、提出物の提出状況などで総合的に評価する。

上記の評価の観点を踏まえ次のような配分で総合評価を行う。

○知識・理解 : 思考・判断・表現 : 主体的に学習に取り組む態度 = 1 : 1 : 1

知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	1	1

3. 使用教材等

- ・「新地政学」(朝日新聞出版)
- ・「地政学」(新星出版社) 他

4. 授業の展開と形態

- ・ 2 年普通科（2 組）の地政演習選択者で行う。

5. その他：履修上の留意点等

①履修・修得における注意点

- a 欠課時数が総時数（2 単位×35 週＝70 時間）の 3 分の 1（24 時間）を超えた生徒は履修を認めない。
- b 時数が不足している生徒のうち、正当な理由がある生徒については、原則として 6 時間については補充を行う。
- c 学年末の評定が「2」以上の生徒は、単位を修得したものと認める。

②授業における注意点

- a 教科書や資料集、その他授業に必要な教材は、必ず持参して授業を受ける。
- b 私語や居眠り等、怠惰な態度や授業を妨害する行為は行わない。度が過ぎている場合は、減点の対象となる。
- c 提出物や課題は、期限をきちんと守り提出する。

『高校世界史』についてのシラバス

沖縄県立辺土名高等学校

科目	世界史B	単位	4単位	学年	3	科目の 到達目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特徴を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
使用教科書	『高校世界史』（山川出版社）						

- 評価方法・・・定期テスト70％ 授業態度20％ ノート・提出物10％
 - 定期テスト・・・学期毎にテストを実施する。テストは授業内容を主にして出題する。
 - 授業態度・・・授業への参加状況、授業の態度、発問への主体的姿勢等により総合的判断する。
 - ノート・・・板書事項を写しているかなどの確認やまとめ方で評価。
 - 提出物・・・授業の進度に応じ出した課題について提出させる。
- 授業の展開と形態
普通科、環境科それぞれ1クラスの全員一斉授業で行う。
- 学習方法及び履修上の注意
 - 授業開きに授業オリエンテーションを行い、学習計画・評価方法等を説明する。
 - プリント（教科書準拠内容・発展問題等）と資料プリントを使用する。
 - 授業は進度予定表に従って行い、テストや課題を実施して学習内容の徹底を図る。
 - 視聴覚教材やNIEなどを積極的に活用し、現代の社会の状況とリンクさせるとともに世界の中の日本を意識させる、主体的・対話的で深い学びをめざす

月	時間数 小計	時間数	学習項目	学習内容	評価の観点				評価方法
					関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
4	1	1	序章 先史の世界	・人類が自然環境に適応しながら進化し、農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げたことに気付くと同時に、人類と言語の分化を理解する。	・人類の進化とその特徴について、関心を持って学習しようとしている。 ・文明の特徴を理解し、人種や民族、語族といった概念に関心を持って学習しようとしている。	・人類の進化の過程、農耕・牧畜の開始の意義などを、多角的に考察し、文章にまとめる。 ・人種や民族といった分類を、偏見なく客観的に判断している。	・教科書に掲載されている進化図や道具図、洞穴絵画などの図版や写真を適切に活用している。	・人類の進化、文明の成立、人類と言語の分化に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
4	7	2	第Ⅰ部 第1章 オリエン特と地中海世界 1. 古代オリエン特世界	・西アジア世界の地理的特質を把握し、オリエン特文明の盛衰、イラン人の活動を理解する。	・メソポタミアとエジプトの灌漑農業を基盤とした古代文明を、関心を持って学習しようとしている。 ・アケメネス朝やササン朝の文明の果たした役割を追究しようとしている。	・六十進法や暦など、オリエン特の古代文明の現代にまで与えている影響の大きさを考察し、文章にまとめる。 ・アケメネス朝やササン朝の文明が、東西諸民族の交流やその文明に影響を与えたことを考察し、文章にまとめる。	・教科書に掲載されているメソポタミア・エジプトの各文明の資料・図版・写真などを適切に活用している。 ・アケメネス朝やササン朝の文明を代表する工芸品の図版を活用している。	・西アジア世界の地理的特質、メソポタミアとエジプトを中心としたオリエン特世界の展開、イラン人王朝の活動とその文明の特徴を理解し、その基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

5		2	2. ギリシア世界	・地中海一帯の地理的特質を把握し、エーゲ文明、ギリシア・ヘレニズム文明の特徴を理解する。	・オリエントの影響を受けたエーゲ文明とポリスを中心とするギリシア文明の意義を探究しようとしている。	・ギリシア文明がアレクサンドロスの遠征で広く西アジア一帯に伝えられたことや、民主政治のち世界に与えた影響を考察し、文章にまとめる。	・教科書に掲載されているギリシア世界の地図やアテネのアクロポリス、重装歩兵の図版などの諸資料を適切に活用している。	・地中海一帯の地理的特質、ギリシア文明の形成とその基盤となったポリス世界の特色について、基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		2	3. ローマ世界	・都市国家から大帝国に発展したローマ文明の特質を理解する。	・ローマ世界の特色とキリスト教発展の意義を、関心を持って学習しようとしている。	・皇帝理念やキリスト教の発展をもたらしたローマ文明と、のちのヨーロッパ世界との繋がりを多角的に考察し、文章にまとめる。	・教科書に掲載されているローマ世界の地図や図版、および新約聖書などの諸資料を適切に活用している。	・ローマの帝国化の過程やローマ法、皇帝理念、キリスト教などについて把握し、基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
6		2	第2章 アジア・アメリカの古代文明 1. インドの古典文明	・南アジアの地理的特質を把握し、インド文明の成立と発展、独自の宗教・社会制度など、南アジア世界の形成過程を理解する。	・南アジアの多様な自然条件の中で、北インドを中心にインダス文明やアーリヤ人の諸国家が形成、発展していったことを、関心を持って学習しようとしている。 ・バラモン教やヴァルナ制度、仏教の特徴について関心を持って学習しようとしている。	・インダス文明の都市的な性格、マウリヤ朝・グプタ朝の発展と宗教との繋がり、南インドの非アーリヤ人王朝の動向を多角的に考察し、文章にまとめる。 ・ヒンドゥー教とカースト制が南アジア世界に統一性を与える要素となったことや、仏教の伝播の意義を多角的に考察し、文章にまとめる。	・教科書に掲載されているインダス文明とアーリヤ人の進入を示した地図やインド諸王朝の領域図、「海の道」とおもな産物を示した地図、遺跡や仏像などの写真を適切に活用している。	・高度な都市文明であったインダス文明の特色とアーリヤ人・非アーリヤ人の王朝の展開を理解し、その基本的な知識を身につけている。 ・ヒンドゥー教とカースト制の特徴、南アジアにおける仏教衰退の理由を把握し、その基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		8	2. 東南アジアの諸文明	・東南アジアの地理的特質を把握し、東南アジア世界の国家形成の過程を理解する。	・東南アジアの諸民族独自の歩みや国家形成を、南アジア文明や中国文明の影響と関連させながら学習しようとしている。	・東南アジアの諸民族が海上交易の拡大に伴って港市国家を形成・発展させていった過程を多角的に考察、判断している。	・教科書に掲載されている東南アジアの地図や宗教遺跡などの写真を適切に活用している。	・東南アジア諸民族がインド・中国文明の影響を受けながら、独自の発展をしていったことを理解し、その基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
6		2	3. 中国の古典文明	・東アジアの地理的特質を把握し、中国文明の起源、殷・周の成立から秦・漢帝国の動向までを理解する。	・モンスーン気候地帯に属している東アジア世界の風土とともに、黄河・長江の新石器文明から殷・周、秦・漢帝国という中華文明形成期の社会や文化の特質を追究しようとしている。	・殷・周時代の文字や秦・漢帝国の皇帝観など、中華文明の重要な要素の出現の意義を考察し、文章にまとめる。 ・周辺諸国との冊封関係などから、中国を中心とする東アジア世界の骨格が形成されたことを考察し、文章にまとめる。	・農耕を中心とする東アジアの社会や生活、文化や思想に関する資料を収集し、考察した結果を適切に表現している。 ・教科書に掲載されている東アジアの地勢図や歴史地図、図版を適切に活用している。	・中国文明の起源である黄河・長江文明、殷・周時代と春秋・戦国時代の社会変動や新思想の形成を理解し、その基本的な知識を身につけている。 ・秦・漢帝国の意義や世界との繋がりを理解し、その基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発表・討論 ・授業態度

		2	4. 南北アメリカ文明	・先住民による南北アメリカ文明の形成とその特色を理解する。	・南北アメリカ文明の基層文化とインカ・アステカ両王国の特色を、関心を持って学習しようとしている。	・アメリカ先住民の農耕文明の特色と、マヤ文明などの都市文明の独自性を考察し、表などにまとめる。	・南北アメリカ文明の形成とその特色を考察する際、地図や遺跡などの写真を適切に活用している。	・アメリカ先住民の農耕文明や、マヤ・アステカ・インカといった南北アメリカ諸文明の特色を把握し、その基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
	6	2	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成 1. 草原の遊牧民とオアシスの定住民	・内陸アジアの地理的特質を把握し、台頭した遊牧民とその国家の動向を、オアシス民の活動とともに理解する。	・スキタイの影響を受けた匈奴など騎馬遊牧民による国家の活動を、オアシス民の生活と比較しながら学習しようとしている。	・内陸アジア東部に進出した匈奴を代表とする騎馬遊牧民の動向を、その文化や軍事力と関連付けて考察し、文章にまとめる。	・教科書に掲載されている内陸アジアの地勢図、オアシスの生活を理解する図版やスキタイのコラム、遊牧民の写真などを適切に活用している。	・内陸アジアの乾燥した風土を理解し、匈奴を代表とする騎馬遊牧民と秦・漢帝国のオアシス都市の覇権をめぐる抗争に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		2	2. 北方民族の活動と中国の分裂	・東アジアにおける北方游牧民族の動向と、三国時代から魏晋南北朝という中国の分裂と動乱の時代を理解する。	・北方諸民族の王朝と江南に移った漢族の王朝の興亡に関して、その社会経済や文化を比較しながら学習しようとしている。	・魏晋南北朝時代の社会経済の変化、日本をはじめとする周辺国家の形成を中国史全体の流れと関連付けて考察し、文章にまとめる。	・教科書に掲載されている分裂時代の諸王朝の領域図や、魏晋南北朝の文化を示す資料や図版を適切に活用している。	・遊牧民の華北進出と定住化、均田制などの新しい制度のしくみを理解し、中国分裂期の基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		2	3. 東アジア文化圏の形成	・隋唐帝国の国家制度や文化、日本を含む東アジア世界諸国の国家体制の整備やその動向を理解する。	・隋唐帝国の成立が遊牧民と漢人の融合、内陸アジアでの突厥の成立を背景にしていることを理解し、その役割を日本など隣接諸国の動向とともに学習しようとしている。	・唐王朝が名実ともに東アジア文化圏を形成したことを、その築き上げた整然とした国家制度や文化から判断し、文章にまとめる。	・唐王朝の社会や文化の国際性を示す資料・図版・写真などを適切に活用している。 ・玄奘の図版や唐三彩などの工芸品の図版から、文化の密接な交流の例を調べている。	・律令制度や文化の理解に加え、唐王朝が東アジア世界と内陸アジア世界を含む政治的秩序を形成したことを把握し、日本や新羅などの国家体制の整備に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
6		3	第II部 第4章 イスラーム世界の形成と発展 1. イスラーム世界の形成	・イスラーム世界成立の背景とその特質、アラブ人による発展とイスラーム帝国の形成を理解する。	・ムハンマドの活動やイスラーム教の特質について、関心を持って学習しようとしている。 ・イスラーム帝国の統治システムについて、関心を持って学習しようとしている。	・イスラーム教の成立を西アジアの情勢や社会的な背景と関連付けて考察し、文章にまとめる。 ・アラブ帝国とイスラーム帝国の差異、イスラーム世界の拡大について、多角的に考察し、文章にまとめる。	・教科書に掲載されているイスラーム以前の西アジアの地図やイスラーム世界の領域図、コルドバのモスクなどの写真を適切に活用している。	・イスラームの特質やその形成過程について、基本的な知識を身につけている。 ・カリフによる征服活動や、イスラーム法に基づくアッバース朝の国家体制に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
7	10	2	2. イスラーム世界の発展	・トルコ系民族が内陸アジアから進出し、ムスリムの連携を維持しながらイスラーム世界を拡大させていった過程を理解する。	・イスラーム世界の分裂と変容の過程について、関心を持って学習しようとしている。 ・ムスリム商人が築いた海域・内陸のネットワークについて、関心を持って学習しようとしている。	・イスラーム世界の東方への拡大と西方における変容を、内陸アジア世界やヨーロッパ世界の動向と関連付けて考察し、文章にまとめる。 ・経済の発展をカイロの繁栄を軸に考察し、文章にまとめる。	・教科書に掲載されている11世紀後半のイスラーム世界の地図、マムルークの図版やアルハンブラ宮殿の写真などを適切に活用している。	・トルコ系民族を軸としたイスラーム世界の諸地域における発展に関して、基本的な知識を身につけている。 ・ムスリムの交易活動やイクター制の内容を理解している。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

		3	3. イスラーム化の進展	・神秘主義(スーフィズム)の影響, インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化など, イスラーム世界の拡大の過程を理解する。	・インドや東南アジア, アフリカのイスラーム化とその地域に与えた影響について, 意欲的に学習しようとしている。	・インドや東南アジアなど諸地域世界のイスラーム化の影響を, 現代の国際政治・社会の視点から考察し, 文章にまとめる。	・インドや東南アジアへのイスラームの伝播を示す地図, アフリカのイスラーム化に関する地図や図版などを適切に活用している。	・諸地域世界のイスラーム化の過程, ムスリム商人や神秘主義教団の果たした役割に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		2	4. イスラーム文明の発展	・イスラーム文明の特質とその影響, 学問と文化活動の内容, イスラーム都市を中心としたネットワークの役割を理解する。	・イスラーム文明の具体的な影響や役割, 形成されたネットワークの意義について意欲的に学習しようとしている。	・イスラーム世界の統一性が守られてきた理由を, イスラーム文明の基盤から考察し, 文章にまとめる。	・イスラームの社会を理解するため, モスクの構造図などの図版・写真などを適切に活用している。 ・音楽やミニアチュールなどを活用し, イスラーム文明の特色に触れることができる。	・イスラーム文明が古代以来の西アジア文明を基盤としてユーラシア各地の要素を加えて形成された融合文明であることを理解し, その学問と文化活動の基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		3	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 1. 西ヨーロッパ世界の成立	・地中海世界解体後, ヨーロッパ世界が東西に分かれ, ゲルマン人移動後の西ヨーロッパでは, 外部勢力との対抗の中で封建社会が形成されていったことを理解する。	・フランク王国とローマ教皇の提携の意義, ノルマン人などの諸民族進入の影響について, 関心を持って学習しようとしている。	・地中海世界の解体をゲルマン人の移動やイスラーム勢力の進出と関連付けて考察し, 文章にまとめる。 ・封建社会の仕組みとローマ教皇権の発展を多角的に考察し, 文章にまとめる。	・教科書に掲載されている地勢図や領域図, ゲルマン民族の移動図などを適切に活用している。 ・荘園の構造などの概念図や図版・写真・資料を適切に活用している。	・ゲルマン人の移動やノルマン人などの諸民族の進出による影響, フランク王国とローマ教皇の提携の意義など, 西ヨーロッパ世界の形成と発展に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
7	10	2	2. 東ヨーロッパ世界の成立	・ビザンツ帝国の繁栄とその社会や文化, スラヴ人と周辺諸民族の自立の過程を理解する。	・ビザンツ帝国の特色とスラヴ人など周辺民族の活動を意欲的に学習しようとしている。	・ビザンツ帝国の首都コンスタンティノープルが経済的に発展した理由や, 帝国とスラヴ人との関係を多角的に考察し, 文章にまとめる。	・教科書に掲載されているビザンツ帝国や東ヨーロッパ世界の領域図, 特色ある聖堂や聖母子のアイコン, プラハなど東欧の景観といった図版を適切に活用している。	・ビザンツ帝国やスラヴ人諸国家によって形成された, 東ヨーロッパのギリシア的世界の多様性に関して, 基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		3	3. 西ヨーロッパ中世世界の変容	・十字軍以降の西ヨーロッパ中世世界の変容と諸国の動向を理解する。	・西ヨーロッパの中世都市の発展や封建社会の変容過程を, 関心を持って学習しようとしている。 ・中世西ヨーロッパ諸国の政治・社会の動向について, 関心を持って学習しようとしている。	・封建社会の変容やヨーロッパの拡大を, 国王による中央集権化と関連付けて考察し, 文章にまとめる。 ・商業の発展や自治都市の形成を封建社会の衰退と関連付けて考察し, 文章にまとめる。	・教科書に掲載されている十字軍と西ヨーロッパ勢力の拡大, 中世都市と交通路といった地図や, マグナ=カルタ, フスラ人物コラムなどの資料, 図版を適切に活用している。	・西ヨーロッパ封建社会の変容, 中世都市と商業の発展, 諸国の国王による中央集権化の過程に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		2	4. 西ヨーロッパの中世文化	・教会と修道院, 大学やスコラ学などから, ヨーロッパ中世文化の特色を理解する。	・中世文化の特色とキリスト教会の果たした役割について関心を持って学習しようとしている。	・修道院運動やイスラーム文明の影響など, 中世ヨーロッパ文化を多面的に考察し, 文章にまとめる。	・教会建築や騎士道文学, 当時の農民や都市の生活の様子を理解する図版などにより, 中世ヨーロッパ社会の特色に触れることができる。	・修道院の果たした役割, 12世紀ルネサンスや美術・文学など, 中世文化に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

	7	2	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開 1. トルコ化とイスラーム化の進展	内陸アジア世界におけるトルコ人の活動とイスラーム化の進展を理解する。	トルコ人のイスラーム化と西方への民族移動の世界的影響について関心を持って学習しようとしている。	トルコ民族の内陸アジアにおける台頭をトルキスタンの成立と関連付けて考察し、文章にまとめる。	教科書に掲載されている中央アジアのトルコ化と東西トルキスタンの地図、ウイグルの仏教壁画などの図版を適切に活用している。	遊牧国家ウイグルの崩壊以降、トルコ系遊牧民が広く内陸アジアに定住し、イスラーム化していったことに関する基本的な知識を身につけている。	- 定期考査 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度
		2	2. 東アジア諸地域の自立化	契丹や女真といった遊牧諸勢力の台頭や日本を含めた東アジア諸地域の勢力交替、宋の興亡と社会や文化の特色を理解する。	中国周辺諸国の変化、契丹や女真と宋の政治的・軍事的対立と交流、宋代の産業や文化の発展について関心を持って学習しようとしている。	中国周辺諸国の独自の文化形成、遊牧諸国家の支配体制の特徴、宋の統治体制とその社会や文化の特色を、東アジア文化圏の統合力の変化という視点から考察し、文章にまとめる。	教科書に掲載されている通行証に記された諸民族の文字や、清明上河図など宋代の社会・文化の特色を示す写真・図版などを適切に活用している。	- 日本や高麗といった東アジア周辺諸国の政治権力の交替や、文化の確立に関する基本的な知識を身につけている。 - 契丹や女真の二重支配体制の仕組み、宋の中央集権的統治体制とその社会経済の発展や中国的文化の特色に関して、基本的な知識を身につけている。	- 定期考査 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度
		3	3. モンゴルの大帝国	モンゴル帝国の興亡と、その活動が日本を含む諸地域世界にあたえた影響の大きさを理解する。	- モンゴル帝国が掌握した内陸アジア全体に及ぶネットワークとその影響について、関心を持って学習しようとしている。 - モンゴルの侵攻を乗り越えて中国との交易を続けた日本の動向について、関心を持って学習しようとしている。	モンゴル帝国が内陸アジア諸都市の、また元朝が海域のネットワークを支配下に置いた意味を、社会経済的な視点から考察し、文章にまとめる。	教科書に掲載されているモンゴル帝国の領域図や帝室の系図・ワールシュタットの戦いといった図版・写真などを適切に活用している。	- モンゴル帝国のユーラシアと元朝の東アジア支配の過程と、その支配の特色に関する基本的な知識を身につけている。 - モンゴル人が築き上げたネットワークと、14世紀以降、その再編・解体がもたらした諸地域世界への影響に関する基本的な知識を身につけている。	- 定期考査 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度
9	9	3	第Ⅲ部 第7章 アジア諸地域の繁栄 1. 東アジア世界の動向	中華帝国を再現した明朝の動向とともに、朝鮮や日本など東アジア世界の状況を理解する。	- 明朝の経済的繁栄と銀経済の進展、科学技術への関心を特色とする文化活動について、関心を持って学習しようとしている。 - いわゆる鎖国体制をとった日本の対外関係の実態を確認しようとしている。	明朝が近隣諸国との間に築きあげた冊封＝朝貢体制の変化を、日本や女真などの動向を中心とした東アジアの状況と関連付けて考察し、文章にまとめる。	教科書に掲載されている明朝の領域図や周辺諸地域図、倭寇や「坤輿万国全図」といった図版などを適切に活用している。	- 明朝の発展による朝貢世界の確立とその動揺に関する基本的な知識を身につけている。 - 日本や女真を中心とした東アジアの状況の変化に関する基本的な知識を身につけている。	- 定期考査 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度
		2	2. 清代の中国と隣接諸地域	清朝の形成した広大な領域支配とその社会や文化とともに、東アジア世界の動向を理解する。	清代の中国とチベットや琉球・日本・朝鮮といった隣接諸地域の動向に関して、関心を持って学習しようとしている。	清朝と周辺諸地域との関係の変化を、東南アジアの状況やヨーロッパ勢力の活動と関連付けて考察し、文章にまとめる。	教科書に掲載されている清帝国の領域図や周辺諸地域図、チベットや琉球の図版などを適切に活用している。	清朝の中国統治や宣教師によってもたらされた文化の特色、その隣接諸地域の動向に関する基本的な知識を身につけている。	- 定期考査 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度

10		2	3. トルコ・イラン世界の展開	・トルコ・イラン世界に誕生したイスラーム帝国の動向とその社会や文化の特質を理解する。	・オスマン帝国、ティムール朝、サファヴィー朝の領域拡大の過程や興隆について、関心を持って学習しようとしている。	・中央アジア、西アジアに成立した広大な版図を持つ各イスラーム諸王朝の支配の特色や共通点を考察し、表などにまとめる。	・教科書に掲載されているオスマン帝国の最大領域を示す地図や、イエニチェリなどの図版を適切に活用している。	・オスマン帝国などのイスラーム帝国の強大な皇帝権や官僚制、ヨーロッパ世界との関わり、異民族統治の特色に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		2	4. インド・東南アジア世界の展開	・南アジアに誕生したムガル帝国の動向とインド社会や文化の変化、東南アジア交易の発展を理解する。	・インドにおけるイスラーム支配とヒンドゥー教徒との融和や対立について、関心を持って学習しようとしている。 ・イスラームの東南アジアへの浸透やヨーロッパ勢力の進出について、関心を持って学習しようとしている。	・ムガル帝国の支配の特色やその政策の変化を、インドの地方勢力に与えた影響と関連付けて考察し、文章にまとめる。 ・ポルトガルやスペインの進出と東南アジア交易世界の発展を、多面的に考察し、文章にまとめる。	・教科書に掲載されているムガル帝国の領域を示す地図、タージ=マハルの写真などを適切に活用している。	・ムガル帝国の統治システムとイスラーム教徒とヒンドゥー教徒融合の試み、インド地方政権の台頭や東南アジア交易世界の発展に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
10	9	2	第8章 近世ヨーロッパの形成 1. ヨーロッパ世界の拡大	・ヨーロッパ世界の拡大とアメリカ大陸の征服、それに伴うヨーロッパ社会の変革の動きを理解する。	・新航路の開拓事業や征服活動と、それに伴うアメリカ先住民社会の変容や商業革命に関して、意欲的に学習しようとしている。	・大航海時代を世界の一体化や資本主義経済発展の基盤と関連付けて考察し、文章にまとめる。	・教科書に掲載されているヨーロッパ人の航路と探検図、世界地図やアステカ征服の図版、ラス=カサスの著作などの資料を適切に活用している。	・大航海時代の探検・征服事業の過程とアメリカ先住民社会の変容に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		2	2. ルネサンス	・ルネサンスのもたらした芸術・思想・科学の変革の内容と意義を理解する。	・ルネサンスの背景と影響、芸術作品に関して、意欲的に学習しようとしている。	・ルネサンスを中世世界の継承・発展という側面と、近現代の出発点という両面から多角的に考察し、文章にまとめる。	・教科書に掲載されている作品群やルネサンス期の文化と美術の図版などを適切に活用している。	・ルネサンスの意義やその具体的な文芸と美術に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		2	3. 宗教改革	・ドイツから始まった宗教改革の理念とその拡大、カトリック教会の対応を理解する。	・宗教改革の背景と影響、宗派や広がった国家による差異に関して、意欲的に学習しようとしている。	・宗教改革やカトリック教会の革新を、世俗の政治秩序の変化と関連付けて考察し、文章にまとめる。	・教科書に掲載されている新旧両教派の分布地図や「九十五カ条の論題」などの資料、図版を適切に活用している。	・ルター、カルヴァンによる宗教改革の拡大、イギリスの改革、対抗宗教改革に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

		3	4. ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成	・近代国家の原型となった主権国家体制の特色と、体制の形成に向かうヨーロッパ諸国の内乱や戦争の動向を理解する。	・ヨーロッパ諸国がたがいに独立した主権国家として競合しながら国際秩序を形成していった過程を、関心を持って学習しようとしている。	・オランダ・フランス・イギリスといったヨーロッパ諸国の勢力交替を、「17世紀の危機」の時代を境界として考察し、文章にまとめる。 ・ウェストファリア条約の意義や東ヨーロッパの動向を、プロイセンやロシアを軸に考察し、文章にまとめる。	・教科書に掲載されているヨーロッパ主権国家の領域地図や内乱、戦闘の図版を適切に活用している。	・15世紀末からヨーロッパ諸国が主権国家体制を確立していった過程に関する基本的な知識を身につけている。 ・三十年戦争に代表される、17世紀前半の「危機の時代」におけるヨーロッパ諸国の動向に関して、基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		3	第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 1. 重商主義と啓蒙専制主義	・17～18世紀におけるヨーロッパ主権国家諸国の動向を、重商主義と啓蒙専制主義を柱として理解する。	・イギリス革命やフランスを中心とした国家間の抗争、東ヨーロッパ諸国の台頭を、関心を持って学習しようとしている。	・17～18世紀のヨーロッパ諸国の活発な経済活動と植民地争奪戦争を、重商主義と関連付けて考察し、文章にまとめる。	・教科書に掲載されている18世紀半ばのヨーロッパ諸国の領域をあらわした地図や図版、王家の系図や「権利の章典」などの資料を適切に活用している。	・議会政治の確立したイギリス、ルイ14世の時代のフランス、プロイセンとオーストリアの抗争、バルト海の覇権を巡る戦いなど、17～18世紀におけるヨーロッパ諸国の動向に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
11	9	3	2. ヨーロッパ諸国の海外進出	・ヨーロッパ諸国の植民地争奪と大西洋世界の三角貿易のもたらした国際的枠組みを理解する。	・アジア市場とアメリカの植民地をめぐるヨーロッパ諸国の抗争の過程と、三角貿易のもたらした国際的な社会・経済の変化について、関心を持って学習しようとしている。	・大西洋世界で確立した三角貿易が西ヨーロッパ有力国にもたらした莫大な利益を、産業革命の前提条件である資本の蓄積と関連付けて考察し、文章にまとめる。	・教科書に掲載されている17世紀半ばのヨーロッパ諸国の植民地をあらわした地図、社会風俗の図版などを適切に活用している。	・西ヨーロッパ諸国の経済活動と植民地争奪戦争の状況、その結果としてアメリカ・アフリカを巻き込んだ大西洋世界に近代分業システムが成立したことに、関して、基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		3	3. 17～18世紀のヨーロッパの文化と社会	・17～18世紀におけるヨーロッパ文化の特色と、それを生み出した社会状況を理解する。	・科学革命と啓蒙思想を背景とするヨーロッパの文芸思潮について、関心を持って学習しようとしている。	・17～18世紀におけるヨーロッパ文化の特色を、宮廷文化と市民文化とを対比しながら考察し、表にまとめる。	・バロックやロココの美術作品の図版や啓蒙思想家の著作から、その文化の特色に触れることができる。	・科学革命や国際法、啓蒙思想、バロックやロココの芸術の具体的事例と、それを生み出した背景や社会状況に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
	8	2	第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 1. 産業革命	・イギリス産業革命の背景と展開、産業資本主義体制の確立とその影響について理解する。	・産業革命の世界史的背景、技術革新や交通革命の進展と波及について、関心を持って学習しようとしている。	・資本主義体制の確立と社会の変容について、社会問題・労働問題と関連付けて考察し、文章にまとめる。	・教科書に掲載されている産業革命期の地図や図版、都市の人口増を示す表などの諸資料を適切に活用している。	・産業革命が最初にイギリスにおこった理由、繊維部門の技術革新と交通機関の改良、資本主義体制が世界市場に与えた影響などに関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

12		3	2. アメリカ独立革命	・アメリカ独立革命の経過と、独立が近代民主政治に与えた影響を理解する。	・共和政の大国を確立したアメリカの独立と、その憲法の内容や思想的背景に関心を持って学習しようとしている。	・アメリカ独立革命が提起した近代市民社会の原理を、現代社会の諸問題と対比しながら考察し、文章にまとめる。	・「独立宣言」の抜粋などの資料から近代民主政治の基本原則に触れることができる。	・イギリスの北アメリカ植民地の状況、独立戦争の経過と合衆国憲法の特徴に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		3	3. フランス革命とナポレオン	・アメリカ独立革命とフランス革命が近代民主政治に与えた影響を理解する。	・フランス革命の経済的、思想的背景について関心を持って学習しようとしている。 ・ナポレオンの政策と革命の継承点について、関心を持って学習しようとしている。	・フランス革命を大西洋を挟んでおきたアメリカ独立革命と対比しながら考察し、文章にまとめる。 ・ナポレオンの戦争を、国民国家の理念をヨーロッパ諸国に広げたことと関連付けて考察し、文章にまとめる。	・「人権宣言」や革命期の絵画資料、ナポレオンの活動を表した絵画や図版、彼らの全盛期ヨーロッパ地図などを適切に活用している。	・フランス革命がおこった社会構造、恐怖政治に至る革命の進展過程に関する基本的な知識を身につけている。 ・皇帝ナポレオン誕生の背景やその大陸支配の経過に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		2	第11章 欧米における近代国民国家の発展 1. ウィーン体制の成立	・ウィーン体制の成立と、その体制下に広がったヨーロッパ諸国の自由主義とナショナリズムの運動を理解する。	・ウィーン体制の特色とその崩壊過程、社会主義思想の成立と普及について、関心を持って学習しようとしている。	・1848年革命を、ヨーロッパの「大衆貧困」といった社会問題と関連付けて考察し、文章にまとめる。	・教科書に掲載されているウィーン会議後のヨーロッパ諸国の地図や絵画・図版などを適切に活用している。	・フランスの革命運動を中心に、ウィーン体制を崩壊させたヨーロッパ諸国の自由主義や民主主義的な政治改革の動向に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
	9	3	2. ヨーロッパの再編	・クリミア戦争以後の国際秩序の動揺と再編、イタリア・ドイツにおける国民国家の形成過程、ロシア・オーストリアの皇帝主導の近代化を理解する。	・ロシアの南下政策とそれに伴うヨーロッパ列強の対立、イタリア・ドイツの統一の背景や過程について、関心を持って学習しようとしている。	・クリミア戦争以後の国際対立とビスマルク外交に関して、のちの第一次世界大戦に関連付けて考察し、文章にまとめる。 ・イタリア・ドイツの統一を日本の明治維新と比較しながら考察し、表などにまとめる。	・教科書に掲載されているイタリアとドイツの統一、ベルリン会議後のバルカン半島といった地図や、写真・図版などを適切に活用している。	・クリミア戦争とロシアの皇帝主導の近代的改革、ヴィクトリア時代のイギリスの繁栄、フランス第二帝政とその崩壊、イタリア・ドイツの統一とビスマルクによる協調外交といった、ヨーロッパ諸国の国民国家形成期の基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
		3	3. 南北アメリカの発展	・ラテンアメリカの独立、アメリカ合衆国の領土拡張と南北戦争以後の発展を理解する。	・ラテンアメリカ独立後における社会・経済の状況を理解しようとしている。 ・アメリカ合衆国の西部への領土拡大が、独自のものの考え方や行動様式をはぐくんでいったことを学習しようとしている。	・環大西洋革命の視点から、ヨーロッパ諸国の動向とラテンアメリカの独立を関連付けて考察し、文章にまとめる。 ・アメリカ先住民や奴隷解放後の黒人への抑圧を、現在の人種・民族問題と関連付けて考察し、文章にまとめる。	・教科書に掲載されているラテンアメリカの独立、アメリカ合衆国の領域拡大をしめす地図や写真・図版などを適切に活用している。	・ラテンアメリカの独立の経過、アメリカ合衆国の西部への領土拡張や、南北戦争以後、世界一の工業国として発展したことに関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

		1	4. 19世紀欧米の文化	19世紀の欧米文化の特徴とその成立の背景を理解する。	19世紀欧米の文芸思潮の変化、近代諸科学や技術の発展の影響を意欲的に追究しようとしている。	- ロマン主義や自然主義などの文芸思潮を、自由主義やナショナリズムの進展といった社会状況と関連付けて考察し、文章にまとめる。 - 近代大都市文化の成立を、現在の都市化と比較しながら考察し、文章にまとめる。	19世紀欧米文化の美術作品の図版や都市文明の写真などから、その文化の特色に触れることができる。	19世紀のロマン主義や自然主義などの思潮に属する文芸作品、哲学と人文・社会科学、科学・技術の発展、および地理上探検に貢献した人物達に関する基本的な知識を身につけている。	- 定期考查 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度
		2	第12章 アジア諸地域の動揺 1. 西アジアの変容	西アジアにおけるオスマン帝国支配の動揺と改革、アラブ諸民族の覚醒、イラン・アフガニスタンの動向を理解する。	世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ勢力の干渉によるオスマン帝国と西アジア地域の変容について、関心を持って学習しようとしている。	西アジアでイスラーム教の伝統に回帰する動きやアラブ人のナショナリズムの萌芽がみられたことを、上からの近代化と比較しながら考察し、文章にまとめる。	教科書に掲載されている19世紀の西アジアとバルカン半島の地図や図版を適切に活用している。	オスマン帝国の動揺とタンジマート改革の挫折、アラブの民族運動、イラン・アフガニスタンの対応に関する基本的な知識を身につけている。	- 定期考查 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度
		3	2. 南アジア・東南アジアの植民地化	インドの植民地化とその社会の変貌、東南アジア諸国の植民地化の過程を理解する。	ムガル帝国の解体と東南アジアの植民地化について、関心を持って学習しようとしている。	インド大反乱の社会的背景やタイの植民地化回避の理由を、ヨーロッパ勢力の進出と国内情勢の双方の視点から考察し、文章にまとめる。	教科書に掲載されているインド・東南アジアの植民地化を示す地図、図版や写真などの諸資料を適切に活用している。	イギリスによるインドの植民地化とインド社会の停滞から発生した大反乱、ヨーロッパ諸国の東南アジアの分割と植民地化に関する基本的な知識を身につけている。	- 定期考查 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度
12		2	3. 東アジアの激動	ヨーロッパ諸国の干渉による清朝の動揺と近代化改革、日本の開国と台頭による東アジア国際秩序の再編を理解する。	- アヘン・アロー両戦争、太平天国の動乱で清朝の支配が大きく動揺し、近代化への取り組みが始まったことを、関心を持って学習しようとしている。 - 清朝の冊封体制の解体と新興国家日本の台頭の中で、東アジアの国際秩序が再編されていったことを追求しようとしている。	- 民衆の結社運動と太平天国の動乱を、アヘン戦争後の社会不安と関連付けて考察し、文章にまとめる。 - 日本の明治維新とその後のヨーロッパ文明の導入による近代化がアジア諸国に与えた影響について考察し、文章にまとめる。	教科書に掲載されているロシアの東方進出や東アジアの動向をあらわす地図、図版や写真、諸資料を適切に活用している。	- アヘン・アロー両戦争やロシアの進出により清帝国が動揺し、洋務運動に代表される近代化への取り組みが始まったことに関して、基本的な知識を身につけている。 - 日本と清朝の朝鮮をめぐる対立が激化し、日清戦争がおこる過程に関する基本的な知識を身につけている。	- 定期考查 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度
1	7	2	第IV部 第13章 帝国主義とアジアの民族運動 1. 帝国主義と列強の展開	帝国主義の特質と、帝国主義時代における欧米列強諸国の国家・社会の変化を理解する。	欧米列強では軍事力の強化がはかられる一方で労働運動が高まりを見せるなど、国内の緊張が高まっていったことを関心を持って学習しようとしている。	19世紀後半から欧米で進展した第2次産業革命と、各国の帝国主義の動きを関連付けて考察し、文章にまとめる。	教科書に掲載されている移民や列強の海外植民地面積の比較図、血の日曜日事件の図版などの諸資料を適切に活用している。	帝国主義の特質と、帝国主義時代における欧米列強の国内問題に関する基本的な知識を身につけている。	- 定期考查 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度

1		2	2. 世界分割と列強対立	帝国主義時代の欧米列強による世界各地の分割や植民地化をめぐる競合と、従属させられた地域社会の抵抗と変容を理解する。	欧米列強が植民地獲得や勢力圏拡大の競争を繰り広げた結果、列強の二極分化が進み、第一次世界大戦に繋がる危機が高まっていったことを関心を持って学習しようとしている。	経済力と軍事力を背景とする欧米列強の支配による世界の一体化が、世界各地の社会の変容に与えた影響について考察し、文章にまとめる。	教科書に掲載されているアフリカ植民地化の地図や、アメリカの対外進出の関連地図、同盟・協商関係図や図版などの諸資料を適切に活用している。	- 欧米列強のアジア、アフリカ、太平洋地域、ラテンアメリカにおける植民地獲得や勢力圏拡大の競争に関する基本的な知識を身につけている。 - 列強の二極分化の過程とバルカン半島をめぐる危機の高まりに関する基本的な知識を身につけている。	- 定期考査 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度
		3	3. アジア諸国の改革と民族運動	欧米諸国の支配を受けたアジア諸国の改革と民族運動の形成を理解する。	帝国主義列強の侵略にさらされたアジア諸国における民族運動の形成と、このような世界情勢の中で日本が列強としてアジアへの勢力拡張に加わったことを、関心を持って学習しようとしている。	帝国主義列強の植民地支配を受けたアジア諸地域で民族意識が覚醒し、解放・独立をめざすナショナリズムの運動が展開されていったことを、現在の国際状況や問題と関連付けて考察し、文章にまとめる。	教科書に掲載されている、東アジアにおける列強の勢力圏を示す地図や図版を活用し、現在に残る影響を把握しようとしている。	- 中国分割の危機と辛亥革命、インド、東南アジア、西アジアにおける民族運動の形成に関する基本的な知識を身につけている。 - 日露戦争や韓国併合にみられる近代日本の台頭に関する基本的な知識を身につけている。	- 定期考査 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度
	14	3	第14章 二つの世界大戦 1. 第一次世界大戦とロシア革命	第一次世界大戦とロシア革命が国際秩序に大きな変化をもたらし、20世紀の変動の機転となったことを理解する。	- 第一次世界大戦勃発の経緯、戦時外交と総力戦の性格について、関心を持って学習しようとしている。 - ソ連邦成立に至るロシア革命の進展を、関心を持って学習しようとしている。	- 第一次世界大戦の原因や性格について、これまでの戦争との違いを多角的に考察し、文章にまとめる。 - 社会主義国家の誕生という、ロシア革命の世界史的な意義と影響について、多角的に考察し、文章にまとめる。	教科書に掲載されているバルカン諸国や第一次世界大戦の戦場となった地域をあらわす地図、新兵器などの図版を適切に活用している。	- 第一次世界大戦の帝国主義諸国間の覇権争いとしての性格、経過と影響に関する基本的な知識を身につけている。 - ロシア革命の展開とソ連邦の成立過程に関する基本的な知識を身につけている。	- 定期考査 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度
		2	2. ヴェルサイユ体制下の欧米諸国	国際協調を基調としたヴェルサイユ体制下の欧米諸国の動向を理解する。	戦間期の国際協調と平和への取り組みが実を結ばなかった理由について、関心を持って学習しようとしている。	ヴェルサイユ・ワシントン両体制のもたらした緊張関係や矛盾を多角的に考察し、表などにまとめる。	教科書に掲載されている大戦後のヨーロッパや東ヨーロッパ・バルカンの言語分布地図、ドーズ案後の資本の国際的循環を示す諸資料、図版・写真などを適切に活用している。	ヴェルサイユ・ワシントン両体制の問題点と、アメリカの繁栄、ソ連邦の社会主義建設といった欧米諸国の動向に関して、基本的な知識を身につけている。	- 定期考査 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度

		2	3. アジア・アフリカ地域の民族運動	中国や東南アジア諸国, インド, トルコや西アジア諸国, アフリカの民族運動の展開を理解する。	アジア諸民族の民族運動が大衆的な基盤を持ち, 世界史の新しい潮流をつくり出したことについて, 関心を持って学習しようとしている。	日本と中国, イギリスとインドやイスラーム諸国といった, 干渉国と民族運動の高揚の関係を多角的に考察し, 表などにまとめる。	教科書に掲載されている1920～30年代の中国, 第一次世界大戦後の西アジアの地図, 図版・写真などを適切に活用している。	中国における民族運動の高揚, ガンディーを中心としたインドの民族運動, ムスタファ＝ケマルによるトルコ革命など, アジア諸地域で展開された大衆的な基盤を持つ民族運動に関する基本的な知識を身につけている。	- 定期考査 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度
		3	4. 世界恐慌とファシズム諸国の侵略	世界恐慌以降の欧米諸国の動向や東アジアの状況から, 国際的な緊張が高まる時代を理解する。	イタリア, ドイツ, 日本のファシズムの特徴と勢力拡張の過程について, 関心を持って学習しようとしている。	ファシズムという運動を20世紀における大衆社会の出現と関連付けて考察し, 文章にまとめる。	教科書に掲載されているブロック経済の結成地図, 「ゲルニカ」をはじめとする多くの写真資料などを適切に活用している。	世界恐慌の影響と欧米諸国の対応, ファシズム諸国の攻勢やソ連邦の動向に関する基本的な知識を身につけている。	- 定期考査 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度
		4	5. 第二次世界大戦	第二次世界大戦に至る過程と戦争規模の拡大, 米ソの国際的地位の高まりを理解する。	第二次世界大戦の開戦に至る経過, 戦争の拡大と戦場の広域化, 核兵器などの大量破壊兵器の被害などを, 関心を持って学習しようとしている。	第二次世界大戦の持っている複合的で複雑な性格を戦後の国際社会の方向性と関連付けて考察し, 文章にまとめる。	教科書に掲載されているヨーロッパ戦線や太平洋戦争の地図, 第二次世界大戦の国際関係図, 図版・写真などを適切に活用している。	第二次世界大戦におけるヨーロッパから太平洋に至る戦場の広域化, 強制収容所の建設や核兵器の使用といった残虐行為など, 戦争の惨禍に関する基本的な知識を身につけている。	- 定期考査 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度
		1	第15章 冷戦と第三世界の独立 1. 戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立	- 第二次世界大戦後, 米ソを中心とした冷戦体制が成立し, 東西両陣営に世界が分裂したことを理解する。 - 中華人民共和国の成立やアジア諸地域の独立の過程を理解する。	- 米ソそれぞれの経済協力と軍事ブロックの形成による冷戦構造について, 関心を持って学習しようとしている。 - アジア諸地域の独立と建国時の困難さに関して, 関心を持って学習しようとしている。	- 親ソ政権樹立による東欧諸国の社会主義化とアメリカ合衆国の経済援助や「対ソ封じ込め」政策を比較しながら考察し, 文章にまとめる。 - アジア諸地域で推進された民族運動と干渉国の関係を多角的に考察し, 追究している。	教科書に掲載されているドイツとベルリンの分割図, 冷戦時代の諸同盟図, 第二次世界大戦後のアジア諸地域の独立を示す地図や図版を適切に活用している。	国際連合を柱とした戦後の世界秩序の形成, ヨーロッパの東西分断と冷戦体制の確立, アジア諸地域の独立に関する基本的な知識を身につけている。	- 定期考査 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度
2	4	1	2. 米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興	朝鮮戦争などによる米ソ冷戦の激化から, 日本・西欧の経済復興や「雪どけ」の始まりによって, 国際政治や経済が多極化に向かったことを理解する。	朝鮮戦争後, 核兵器開発競争や平和共存政策といった国際的な緊張・融和がくり返されたことについて, 関心を持って学習しようとしている。	西欧や日本の経済的な復興や高度成長を, 戦後の国際政治に与えた影響と関連付けて考察し, 文章にまとめる。	教科書に掲載されている朝鮮戦争の動向をあらわす地図や図版・写真を適切に活用している。	- 朝鮮戦争後の「雪どけ」と平和共存への試みに関する基本的な知識を身につけている。 - アメリカに続く西欧や日本の復興と経済成長に関する基本的な知識を身につけている。	- 定期考査 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度

		1	3. 第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り	- 戦後の20年間に段階的に独立を達成したアジア・アフリカ諸国が第三勢力として躍進し、発言力を強めたことを理解する。 - 米・ソの両大国の動揺と国際的な影響力の減退を理解する。	- 経済的自立の困難さや開発独裁体制の成立、中国の混乱など、第三世界諸国における危機について、関心を持って学習しようとしている。 - ベトナム戦争やチェコスロヴァキア軍事介入など、米ソ両大国の動揺について、関心を持って学習しようとしている。	アジア・アフリカ新興独立諸国による第三世界の台頭とキューバ危機以降の米・ソの政策を、冷戦の緩和と関連付けて考察し、文章にまとめる。	教科書に掲載されているアフリカ諸国の独立、中東戦争によるイスラエルの領土拡大をあらわす地図、諸地域の図版・写真を適切に活用している。	- アジア＝アフリカ会議や非同盟諸国会議などにみられる、第三世界の連帯の動きに関する基本的な知識を身につけている。 - キューバ危機やベトナム戦争、中ソ対立やソ連の東欧諸国に対する介入、西ドイツの東方外交による緊張緩和の進展などに関する基本的な知識を身につけている。	- 定期考査 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度
		1	4. 石油危機と世界経済の再編	ドル＝ショック、オイル＝ショック以降の国際経済の再編、冷戦の終結への流れを理解する。	オイル＝ショック以降の先進国の社会変容や途上国の工業化について、関心を持って学習しようとしている。	冷戦の終結をゴルバチョフによるソ連の改革と関連付けて考察し、文章にまとめる。	教科書に掲載されている石油価格の変遷グラフ、チェルノブイリ原子力発電所の事故の写真を適切に活用している。	オイル＝ショックなど戦後政治の転換期の動向や冷戦終結への取り組みに関する基本的な知識を身につけている。	- 定期考査 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度
		1	第16章 現在の世界 1. 社会主義世界の変容とグローバル化	東欧社会主義圏の消滅とソ連邦の解体、1990年代の情報技術革命とグローバル経済の進展を理解する。	情報技術革命によって市場経済の世界化がより進展し、地球規模での相互依存が高まったことを学習しようとしている。	東欧社会主義圏の解体とソ連邦の分裂、消滅について、その歴史的意味を多角的に考察し、文章にまとめる。	教科書に掲載されている独立国家共同体の地図、ヨーロッパ統合の歩みなどの諸資料や写真を適切に活用している。	東欧社会主義諸国の改革、ソ連邦の解体過程、EUやN A F T Aなど先進経済地域の統合化の動きに関する基本的な知識を身につけている。	- 定期考査 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度
2	4	1	2. 途上国の民主化と独裁政権の動揺	途上国の民主化の進展と、アジア社会主義国家の変容を理解する。	ラテンアメリカやアジアの途上国における強権支配の後退と民主化の進展について、関心を持って学習しようとしている。	中国・ベトナムで進む市場開放と工業化の進展を、その抱える矛盾と関連付けて考察し、文章にまとめる。	教科書に掲載されている天安門事件の写真を適切に活用している。	ラテンアメリカやアジアの途上国で進展した民主化の過程と、アジア社会主義諸国の経済開放政策やその変容に関する基本的な知識を身につけている。	- 定期考査 - 提出課題 - 発問評価 - 授業態度
		1	3. 地域紛争の激化と深刻化する貧困	世界で多発する地域紛争と同時多発テロ後の戦争、紛争解決や軍縮の試みを理解する。	新たな地域紛争の頻発、経済格差や深刻化する貧困問題など、現代の諸地域世界の情勢について関心を持って学習しようとしている。	湾岸戦争とアフガニスタンやイラクに対する対テロ戦争における国際連合の行動の差異から、新たな国際秩序の在り方を考察し、文章にまとめる。	- 教科書に掲載されているアフリカの飢餓状況の資料や写真を適切に活用している。 - インターネットや新聞などから国際社会の課題に関する情報を収集し、活用している。	東欧やロシア、中東からアジアにかけて多発する地域紛争、アフリカの民主化と貧困問題、対テロ戦争と紛争解決や軍縮の試みに関する基本的な知識を身につけている。	- 定期考査 - 課題レポートや発表 - 発問評価 - 授業態度 - 課題レポートや発表

		1	4 現代文明の諸特徴	・科学技術の発達と現代文明の抱える危機，現代思想や文化の特徴について理解する。	・高度な科学技術のもたらした生活の変化と，それに伴う諸問題について，関心を持って学習しようとしている。	・地球環境の破壊といった現代文明の危機を多角的に考察し，「多文化主義」や「共生」といった思想の探究を表現する。	・教科書に掲載されている世界女性会議の写真に加え，科学技術の発達がもたらした現代文明の課題に関する資料を，インターネットや図書館などを利用して収集し，レポートの作成，討論をおこなっている。	・科学の実用化に伴う生活や環境の変化，現代文化の思想的な枠組み，現代文明による地球的規模での危機や新しい模索に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・課題レポートや発表 ・発問評価 ・授業態度
--	--	---	-------------------	---	---	---	--	---	--

令和 5 年度 現代社会シラバス

科目名	単位数	学年	クラス
現代社会	2 単位	3 学年	3 年 1 組(環境科)

1. 概要及び目標

現代社会における様々な課題の学習を通じ、基礎的な知識を習得することにより、広い視野に立って現代社会と人間についての理解を深めさせる。また、倫理面や文化面・政治面など、多角的な観点から問題に焦点をあてることにより、現代社会と自己との関わりについての関心を高め、自らの在り方生き方を主体的に判断し活動する生徒を育てる。

2. 評価の観点及び評価方法

評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理	知識・理解
現代社会の学習活動を通して、社会と自己とのかかわりに関心を持ち、学習活動や授業に真剣に取り組み、自ら積極的に学ぶ姿勢を養う。	社会問題をさまざまな視点から捉え、主体的に分析することによって、広い視野に立った客観的で公正な判断ができる洞察力の基礎を養う。	教科書や資料集等から適切な情報を読みとり、ノートの整理や教材への記述、授業での発言などを通して、その理解を深めることができる。	社会問題を客観的かつ多角的に分析し、公正な判断力を養うために必要な、基礎的基本的な知識の定着を徹底する。
評価方法	評価方法	評価方法	評価方法
出席状況や授業態度、課題への取組と提出、ノート・プリントの提出などで評価	授業での発言やその考え方、ノート・プリントの内容や定期考査などで評価	授業での発言や板書、定期考査、課題やノート・プリント、発表学習などで評価	授業での発言や定期考査、課題やノート・プリント、発表学習などで評価

上記の評価の観点を踏まえ次のような配分で総合評価を行う。

知識・理解、表現・処理 思考・判断	関心・意欲・態度	知識・理解、表現・処理 思考・判断
定期テスト	出席状況、授業態度、取組意欲ノート・宿題等の提出	発表、ノートや提出物の内容
60～70%	30～20%	20～10%

3. 使用教科書教材等

- ① 教科書 「高等学校 改訂版 新現代社会」 (第一学習社)
- ② 副読本 「『高等学校 改訂版 新現代社会』教科書準拠 改訂版 新現代社会ノート」 (第一学習社)

4. 授業の展開と形態

3年自然環境科（1組）を単独クラスで行う。

5. 学習方法

①授業における学習方法

- a 予習として、授業を行う単元の範囲を読んでおくことが望ましい。
- b 授業においては、教師の話聞くだけでなく、疑問点や理解が難しい点がある場合には積極的に発言することでより強い印象を得られ、より深い理解につながる。
- c ノートやプリントなど、授業毎の課題はきちんと行い、できれば自らすすんで教材に書き込みすれば、後の復習において有効に活用できる。
- d 板書や発問に対する応答を積極的にすることは、思考・意識が常に学ぼうとする状態となるので私語や居眠りを防ぐ意味でも望ましい。

②家庭における学習

- a 授業の日は、その日のうちに復習することで、授業の理解を保つことができる。
- b できれば定期的に復習する時間を持つ。短時間でも復習することで知識の定着がすすむ。

③定期考査に向けての学習

- a 定期考査前の学習は、ただ読むだけよりも、自分で何度も書き込むことで知識が定着する。
- b 自ら特徴的な分類を行うことで、より理解が進む。
- c 疑問点や難しい点は、積極的に教師に質問する。（放課後等も活用する）
- d 学習方法の改善が困難な場合は、教科担当に相談すること。

6. その他：履修上の留意点等

①履修・修得における注意点

- a 欠課時数が総時数（2単位×35週＝70時間）の3分の1（24時間）を超えた生徒は履修を認めない。
- b 時数が不足している生徒のうち、正当な理由がある生徒については、原則として6時間については補充を行う。
- c 学年末の評定が「2」以上の生徒は、単位を修得したものと認める。

②授業における注意点

- a 教科書や資料集、その他授業に必要な教材は、必ず持参して授業を受ける。
- b 私語や居眠り等、怠惰な態度や授業を妨害する行為は行わない。度が過ぎている場合は、減点の対象となる。
- c 提出物や課題は、期限をきちんと守り提出する。

令和5年度 倫理シラバス

科目	倫理	単位	2	学年	3	(選択 A・選択 C)
使用教科書	「高等学校 改訂版 倫理」(第一学習社)					

学習の到達目標	人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
---------	---

評価の観点			
a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断	c. 資料活用・表現	d. 知識・理解
人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらにかかわる諸課題を探究する態度を身につけ、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択して、これらを自己形成に資するように活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
1	4	1章 青年期の課題と自己形成 ①よく生きることを求めて ②青年期の課題 1. 青年期とは何か 2. 青年期の思考と感情 3. 青年期の人間関係 4. 青年期の自己形成	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査
	5	2章 人間としての自覚 ①ギリシャの思想 1. 哲学の形成 2. ソクラテス 3. プラトン 4. アリストテレス 5. ギリシャ思想の展開	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査
	6	②キリスト教 1. ユダヤ教の世界 2. イエス 3. キリスト教の発展	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査
		③イスラーム	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出

		・メッカの方向を調べるなどして、イスラームの基本的教義（六信・五行）を実感する。 ・『クルアーン』を読み、日常の生活で行うことまで規定していることを理解する。	○	○	○	・定期考査
--	--	--	---	---	---	-------

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
1	6	④ 仏教 1. インドの思想文化 2. ゴータマの教説 3. 仏教思想の展開		○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査
	7	⑤ 中国の思想 1. 中国の思想文化 2. 儒家の思想 3. 道家の思想	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査
2	9	3章 国際社会に生きる日本人としての自覚 ① 日本の風土と伝統	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・定期考査
		② 外来思想の受容 1. 日本仏教の展開 2. 日本儒学の展開	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・定期考査
		③ 町人意識のめざめと庶民思想 1. 義理と人情 2. 国学の成立 3. 庶民の思想 4. 伝統思想の成熟	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査
	10	④ 西洋思想との出会い 1. 幕末の思想 2. 明治の啓蒙思想 3. 日本社会とキリスト教 4. 近代的自我の確立 5. 社会思想の展開 6. 近代日本の思想	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査

		課題	について考える意欲を高め、今後の生き方について考える。					
		4章 現代に生きる人間の倫理 ①人間の尊厳 1. ルネサンスと宗教改革 2. 人間性の探究	・生命、環境、家族、情報、国際化などに関する問題を概観し、私たちが取り組むべき倫理的課題について、主体的に考えるためのきっかけ作りとする。 ・これらの課題が自分の生活にどのようにかかわっているかを理解し、個々の課題について追究していくための問題意識を明確にする。 ・人間の尊厳にかかわる思想家の思索を通して、西洋の近代人は、人間の尊厳をどこに見いだしていたのかを考える。 ・現代社会において人間の尊厳を自覚することの意義について考える。 ・先哲の思想の中から、人間の尊厳に関わる資料を収集し、活用する。	○			○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
2	11	②近代の科学革命と自然観 1. 近代の科学革命 2. 経験論と合理論 3. 近代科学と社会の進歩	○	○		○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査
		③自由で平等な社会の実現 1. 社会契約の思想 2. 人格の尊厳と自由 — カント 3. 人倫と自由の実現 — ヘーゲル 4. 功利主義の思想	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査
	12	④人間性の回復と主体性の確立 1. 社会主義の思想 2. 実存主義の思想 3. プラグマティズムの思想	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査
3	1	⑤現代の思想と人間像 1. 心の深層と無意識 2. 生の哲学と現象学 3. 近代的理性と言語 4. 正義と社会 5. 他者と偏見	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査
		⑥生命への畏敬と社	○			○	・授業態度

	会参加	する興味・関心を高め、生命への畏敬や本当の愛とはどのようなものを理解する。 ・さまざまな思想家の主張をふり返りながら、私たちの生き方はどのようなものであればよいのかを、多面的・多角的に考察する。 ・思想家のことばから、自らの思想をそのままに生き、一生そのようにし続けた生き方をつかむ。	○ ○ ○	○ ○ ○	・発問評価 ・提出課題 ・ノート提出 ・定期考査
2	5章 現代の諸課題と倫理 ① 生命倫理と倫理課題 ② 環境の問題と倫理課題 ③ 家族・地域社会と倫理課題	・クローン技術、遺伝子組み換え、脳死臓器移植、安楽死と尊厳死、医療における自己決定権などのテーマから、追究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察する。 ・生命をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。 ・追究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。	○ ○ ○	○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査

月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
	④ 情報社会と倫理課題 ⑤ 宗教・文化と倫理課題 ⑥ 国際平和と人類の福祉	・国際化とはどのようなことをさしているのか、異文化を理解するときには何に気をつければよいのか、などについて考察する。 ・多様な外国人と交流する際に、私たちが守らなければならない倫理的課題は何かなどのテーマから、追究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。 ・国際化をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。 ・追究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。 ・各国間の経済格差の解消、難民や女性・子どもの人権保障、核兵器の廃絶など、人類全体の福祉実現に向けた取り組みを調べ、地球市民としての生き方を追究する。 ・頻発する地域紛争や民族紛争、難民問題、戦争と核兵器の廃絶の問題、などのテーマから、追究したい課題を見だし、多面的・多角的に考察するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。 ・人類の福祉をめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に選択して活用する。 ・追究した結果を「問題点を話し合う」「自分の考えを文章にまとめる」などの方法で適切に表現する。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査

2023 年度「3 年 B 選択 政治経済」シラバス

「政治経済」シラバス	担当	
	単位数	2 単位
	学科・学年・学級	3 年 B 選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1. 民主主義についての理論的・体系的な理解を深める 2. 現代の政治、経済、国際関係などについて客観的理解を深める 3. 現代社会の諸課題について、多面的・多角的かつ主体的に考察させ公平な判断力を養う。
使用教科書 副教材等	第一学習社 現代社会（2年次履修：普通科3年次履修中（環境科）を教科書とする NIE（地元新聞紙を使う）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学習内容	学 期	時 数	学習のねらい・目標
第1編			
第1章 民主政治の基本原理と 日本国憲法			
○政治と法の機能		6	・民主政治の本質を理解させながら政治と私たちとの関わりについて気づかせる。
○人権保障と法の支配			・基本的人権が確立するまでの歩みを理解させながら、現代の政治の特質について考察させる。
○議会制民主主義と世界の政治体制			・日本国憲法の成立過程を理解させながら、憲法の持つ意味について考察させる。また三大原理についても理解させる。
○日本国憲法の基本原理			
○平和主義と自衛隊	1	6	・憲法の全体像に触れさせながら平和や人権などの問題を考えさせる。
○基本的人権の保障と新しい人権	学		・国会・内閣・裁判所などの政治機構に触れさせながら主権者としての政治に対する関心を高めさせる。
○国会の組織と機能			
○内閣の機構と機能			
○裁判所の機能と人権保障			
○地方自治制度と住民の権利	期	6	・望ましい政治のあり方や主権者としての参政のあり方について考察させる
○政党政治と選挙制度			・選挙制度について学ばせ、参政権の保障が国民主権へと連なっていることを認識させる。
○民主政治における世論の役割			・マス＝メディアの果たす役割と問題点を理解させながら、世論の果たす役割が大きいことについて認識させる。

第2章 現代の国際政治と日本 ○国際社会と国際法 ○国際連合の役割と国際協力 ○国際政治の動向 ○国際紛争と難民問題 ○国際平和と日本の役割	2	12 ・国際政治と国内政治の違いを理解させる。又、先進国と発展途上国などのように、国家間に較差が生じていることに気づかせる。 ・冷戦終結後の国際社会の動向について理解させる ・国際連合の役割を理解させる。又現実には国際連合はどのような問題抱えているのかについても把握させる。 ・国際平和と人類の福祉に向けて日本が果たすべき役割について考えさせる。
第2編 現代の経済 第1章 経済社会の変容と経済の仕組み ○経済社会の発展 ○経済主体と経済活動 ○市場経済の機能と限界 ○経済成長と景気変動 ○財政のしくみとはたらき ○金融のしくみとはたらき ○物価の動き ○日本経済の歩み ○中小企業の地位と役割 ○農業の現状と課題 ○消費者問題 ○高度情報化社会の進展と課題 ○労働問題 ○社会保障制度の充実 ○環境保全と資源・エネルギー問題	学 期	13 ・資本主義経済の特徴を社会主義経済の特徴と比較させ理解させる。 ・経済の基本的な概念や経済理論を学習させることによって現代経済の特質について考えさせる。 ・市場の基本である、「需要と供給との関係」について正しく理解させる。 ・経済活動の目的が国民の福祉向上にあり、その実現のためは経済成長と景気の安定が必要であることに気づかせる。 13 ・財政の基本的な仕組みや役割について理解させる ・日本の財政の現状を理解させ経済活動のあり方と福祉の向上について考察させる ・インフレ、デフレなどの基本的な用語を正しく理解させる。 ・金融機関をはじめ、日本経済が抱えている問題について認識させる。

第2章 国民経済と国際経済	3	学	6	・日本経済に関する基本的な概念や理論を理解させながら、国際経済における日本が果たすべき役割について考察させる。 ・国際収支の基本的な構成を理解させ、経済摩擦の要因である不均衡が生じる原因について認識させる。 ・為替相場の国際経済における重要性について認識させる。 ・国際協調のために、どのような国際機関が存在するか把握させる。 ・貿易の自由化が経済に大きな影響を与えそれによって地域的経済統合の動きなどが見られることを認識させる。
○国際経済のしくみ				
○国際協調と国際経済機関の役割				
○国際経済の諸問題と日本の役割				
第3編 現代社会の諸課題	期	4	4	・現代の日本が抱える課題を政治と経済との関連に留意させながらさまざまな角度から考えさせ、望ましい解決のあり方を考えさせる。 ・現実社会の諸課題は政治と経済が深く結びついていることを理解させる。
第1章 現代日本の政治や経済の諸課題				
○少子高齢化社会と社会保障				
○地域社会の変貌と住民生活				
○雇用と労働をめぐる問題				
○産業構造の変化と中小企業				
○農業と食料問題				
第2章 国際社会の政治や経済の諸課題				・国際社会における課題は複雑なものであり、その為国際的な視点から追求させながら日本の役割について考察させる。 ・国際社会の課題は政治・経済の枠をこえたものが多く、国際関係に大きな影響を与えることを認識させる。
○地球環境と資源・エネルギー問題				
○国際経済格差の是正と国際協力				
○人種・民族問題と地域紛争				
○経済摩擦と外交				
○国際社会における日本の役割				

(2) 評価方法等

各学期の テスト・ 課題・ 提出物	1	ミニテスト
	学期	課題
		新聞作成等のレポート
		提出物
	各自ファイル	
	2	ミニテスト
	学期	課題
		レポート
		提出物
各自ファイル		
3	テスト	
学期	課題	
	レポート	
	提出物	
各自ファイル		
留意事項		
適時、NIEの手法を取り入れた授業を考えています		

数学科

教科	科目名	単位数	科(学年)	必・選(授業形態)
数 学	数学 I	3	普通科(1)	必修
教科書	新編数学 I (第一学習社)		副教材	ネオパル 数学 I・A (第一学習社) 新編数学 I サポートブック

【 教科(科目)の目標 】

数と式，2次関数，図形と計量およびデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

【 評価の観点 】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力，事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析の分野において，数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。

【 評価の方法 】

評価の観点	具体的な評価の方法
(a) 知識・技能	定期考査にて判断する。考査内容は授業で実施した教科書、副教材、プリントに準拠して作問する。
(b) 思考・判断・表現	授業における発問に対する回答や、問題の解決過程や考察の様子を以て判断する。
(c) 主体的に学習に取り組む態度	授業において粘り強く取り組む姿勢や、過程を振り返って評価・改善の様子から判断する。

〔知識・技能〕：〔思考・判断・表現〕：〔主体的に学習に取り組む態度〕＝1：1：1とする。

【 おすすめの学習方法・アドバイスなど 】

数学 I と数学 A の授業を直列に配列して、数学 I が終わると数学 A に移ります。クラスが少人数のため一斉授業を行います。各人の習熟度を考慮に入れて内容の理解に沿った授業展開を行っています。教材にあった問題集も使用しているので、上手く活用していく事が大切です。

【 学習内容(進度計画) 】

時数	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c
14	1 章 数と式 1 節 式の展開と 因数分解	- 文字を含む式の表し方や見方を理解する。 - 同類項の整理や、整式の和・差の計算方法を理解する。 - 整式の乗法の計算方法を理解する。 - 乗法公式を利用して、いろいろな整式の乗法ができるようにする。 - 因数分解の公式を利用して、いろいろな整式の因数分解ができるようにする。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○
7	2 節 実 数	- 数の分類、数の集合の包含関係を理解する。 - 絶対値の定義を理解する。 - 平方根の定義や性質を理解する。 - 根号を含む式の計算方法を理解する。 - 分母の有理化の方法を理解する。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○
10	3 節 1 次不等式	- 不等式とその解の意味を理解する。 - 不等式の性質を理解する。 1 次不等式の解法を理解する。 - 不等式を利用して、いろいろな問題を解けるようにする。 - 連立不等式の解法を理解する。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○
12	2 章 2 次関数 1 節 2 次関数と その グラ フ	- 関数の概念や関数の値について理解する。 $y=ax^2$ のグラフの形状や性質を理解する。 $y=ax^2$ のグラフの平行移動について理解する。 2 次式の平方完成ができるようにする。 $y=ax^2+bx+c$ のグラフをかくことができるようにする。 - 定義域に制限がない場合の 2 次関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。 - 定義域に制限がある場合の 2 次関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。 - いろいろな最大・最小の問題を解けるようにする。 - グラフに関する条件が与えられたときの 2 次関数を求めることができるようにする。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
16	2 節 2 次方程式 ・ 2 次不等式	2 次方程式の解法を理解する。 2 次方程式の実数解の個数について理解する。 2 次関数のグラフと x 軸の共有点の x 座標や共有点の個数の求め方を理解する。 2 次不等式の解法を理解する。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
14	3 章 図形と計量 1 節 三角比	- 鋭角の三角比の定義やその値の求め方を理解する。 - 三角比を利用して辺の長さを求める方法を理解する。 - 鋭角の三角比の相互関係を理解する。 - 鈍角の三角比の定義やその値の求め方を理解する。 - 鈍角の三角比の相互関係を理解する。 - 三角方程式の解法について理解する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
13	2 節 図形の計量	- 正弦定理やその利用法を理解する。 - 余弦定理やその利用法を理解する。 - 三角形の面積の求め方を理解する。 - 正弦定理や余弦定理を利用して、いろいろな図形の計量の問題を解けるようにする。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○
9	4 章 集合と論理 1 節 集合と論理	- 集合の意味や用語を理解する。 - 部分集合、共通部分と和集合、全体集合と補集合など、集合間の関係を理解する。 - ド・モルガンの法則を理解する。 - 命題の真偽や命題と集合の関係を理解する。 - 必要条件と十分条件の意味を理解する。 - 条件の否定について理解する。 - 逆・裏・対偶とそれらの相互関係を理解する。 - 対偶を利用した証明、背理法による証明ができるようにする。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○

時数	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c
10	5章 データの分析 1節 データの分析	・データを度数分布表やヒストグラムの形で整理できるようにする。	○		
		・平均値, 最頻値, 中央値を求めることができるようにする。	○	○	○
		・偏差, 分散, 標準偏差について理解し, 標準偏差を求めることができるようにする。	○	○	○
		・四分位数や外れ値の定義を理解し, 箱ひげ図をかくことができるようにする。	○	○	○
		・散布図を利用して, 相関関係を読み取ることができるようにする。	○	○	○
		・相関係数が求められるようにする。	○		○
		・仮説検定の考え方を理解する。	○	○	

教科	科目名	単位数	科（学年）	必・選（授業形態）
数 学	数学A	2	普通科（1）	必修
教科書	新編数学A（第一学習社）		副教材	ネオパル 数学ⅠA（第一学習社） 新編数学A サポートブック

【 教科（科目）の目標 】

場合の数と確率、整数の性質又は図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

【 評価の観点 】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	図形の性質、場合の数と確率及び数学と人間の活動の分野において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、事象に数学の構造を見い出そうとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。

【 評価の方法 】

評価の観点	具体的な評価の方法
(a) 知識・技能	定期考査にて判断する。考査内容は授業で実施した教科書、副教材、プリントに準拠して作問する。
(b) 思考・判断・表現	授業における発問に対する回答や、問題の解決過程や考察の様子を以て判断する。
(c) 主体的に学習に取り組む態度	授業において粘り強く取り組む姿勢や、過程を振り返って評価・改善の様子から判断する。

〔知識・技能〕：〔思考・判断・表現〕：〔主体的に学習に取り組む態度〕＝1：1：1とする。

【 おすすめの学習方法・アドバイスなど 】

数学Ⅰと数学Aの授業を直列に配列して、数学Ⅰが終わると数学Aに移ります。クラスが少人数のため一斉授業を行います。各人の習熟度を考慮に入れて内容の理解に沿った授業展開を行っています。教材にあった問題集も使用しているので、上手く活用していく事が大切です。

【学習内容（進捗計画）】

時数	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c
8	1章 場合の数 1節 数え上げの原則	- 集合の意味や用語を理解する。 - 部分集合、共通部分、和集合、全体集合と補集合など、集合間の関係を理解する。 - ド・モルガンの法則を理解し、それを用いて集合の要素の個数が求められるようにする。 - もれなく重複なく数え上げるための工夫として、樹形図などを理解する。 - 数え上げの基本である「和の法則」，「積の法則」を理解し、それらを活用できるようにする。	○ ○ ○ ○ ○	○	○
8	2節 順列・組合せ	- 順序をつけて並べるときの並べ方の総数について理解する。 - 重複順列，円順列の総数を求める場合の考え方について理解する。 - 組合せの総数を求める考え方について理解し，総数を求められるようにし，それらを活用できるようにする。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
13	2章 確率 1節 確率の基本的性質といろいろな確率	- 確率の意味について理解する。 - 事象を，集合を用いて表すことができるようにし，各根元事象が同様に確からしい場合の確率の計算ができるようにする。 - 確率の基本的な性質や確率の加法定理，一般の和事象の確率を理解し，やや複雑な事象の確率が求められるようにする。 - 余事象の考えを用いて確率を求めることができるようにする。 - 独立な試行について理解し，2つの独立な試行におけるおのおのの事象がともに起こる確率が求められるようにする。 - 反復試行の確率が求められるようにする。 - 条件つき確率の概念を理解し，具体的な場面に対して的確に活用できるようにする。 - 確率の乗法定理を理解し，活用できるようにする。 - 期待値について理解し，具体的な意思決定の場面で活用できるようにする。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
8	3章 図形の性質 1節 三角形の性質	- 平行線と線分の比について理解する。 - 線分の内分，外分について理解する。 - 三角形の角の二等分線の性質について理解する。 - 三角形の外心とその性質を理解する。 - 三角形の内心とその性質を理解する。 - 三角形の重心とその性質を理解する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
9	2節 円の性質	- 円周角の定理とその逆について確認する。 - 円に内接する四角形の性質や，四角形が円に内接する条件について理解し，それらを用いることができるようにする。 - 円外の点から円に引いた2本の接線の長さの関係について理解する。 - 円の接線とその接点を通る弦がつくる角と円周角との関係を理解し，それらを用いることができるようにする。 - 方べきの定理について理解し，それらを用いることができるようにする。 2つの円の位置関係や，共通接線について理解する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
5	3節 空間図形	- 空間における2直線の位置関係，2直線のなす角などについて理解する。 - 空間における直線と平面の位置関係，直線と平面の垂直条件などについて理解する。 - 空間における2平面の位置関係，2平面のなす角などについて理解する。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○

教科	科目名	単位数	科（学年）	必・選（授業形態）
数 学	数学Ⅱ	4	普通科（2）	必修
教科書	新編数学Ⅱ（第一学習社）		副教材	ネオパル数学Ⅱ（第一学習社） 新編数学Ⅱサポートブック

【 教科（科目）の目標 】

式と証明，複素数と方程式，図形と方程式，三角関数，指数関数・対数関数及び微分と積分についての基本的概念や原理・法則を体系的に理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。

【 評価の観点 】

a. 関心・意欲・態度	b. 数学的な見方や考え方	c. 数学的な技能
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力，事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の分野において，数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。

【 評価の方法 】

評価の観点	具体的な評価の方法
(a) 知識・技能	定期考査にて判断する。考査内容は授業で実施した教科書、副教材、プリントに準拠して作問する。
(b) 思考・判断・表現	授業における発問に対する回答や、問題の解決過程や考察の様子を以て判断する。
(c) 主体的に学習に取り組む態度	授業において粘り強く取り組む姿勢や、過程を振り返って評価・改善の様子から判断する。

〔知識・技能〕：〔思考・判断・表現〕：〔主体的に学習に取り組む態度〕＝１：１：１とする。

【 おすすめの学習方法・アドバイスなど 】

1クラス一斉授業を行います。1学年で履修した数学Ⅰが基礎となるので，苦手分野があればなるべく復習するよう心掛けましょう。授業では，教材に準拠した問題集を使用しているので，考査前や授業の後で自主的に学習する力を身に付けていきましょう。

【 学習内容（進度計画） 】

時数	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c
10	1章 式と証明 1節 式と計算	・3次の乗法公式及び因数分解の公式を理解する。 ・二項定理やその利用法を理解する。 ・整式の割り算の方法を理解する。 ・分数式の約分や四則計算の方法を理解する。	○ ○ ○ ○	○ ○	○
8	2節 等式・不等式の証明	・恒等式の意味や等式が恒等式であるための条件を理解する。 ・等式を証明する方法を理解する。 ・不等式を証明する方法を理解する。 ・相加平均と相乗平均の大小関係について理解する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
8	2章 複素数と方程式 1節 複素数と方程式の解	・複素数の四則計算の方法を理解する。 ・2次方程式の解の公式を理解する。 ・2次方程式の解の判別の仕方を理解する。 ・2次方程式の解と係数の関係やその利用法を理解する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
9	2節 高次方程式	・剰余の定理やその利用法を理解する。 ・因数定理やその利用法を理解する。 ・高次方程式の解法を理解する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
13	3章 図形と方程式 1節 点と直線	・数直線上の2点間の距離や内分点・外分点の座標を求めることができるようにする。 ・平面上の2点間の距離や内分点・外分点の座標を求めることができるようにする。 ・三角形の重心の座標を求めることができるようにする。 ・与えられた条件を満たす直線の方程式を求めることができるようにする。 ・直線の方程式の一般形について理解する。 ・2直線の平行条件・垂直条件やその適用の仕方を理解する。 ・点と直線の距離を求めることができるようにする。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
7	2節 円の方程式	・与えられた条件を満たす円の方程式を求めることができるようにする。 ・円の方程式から中心と半径を求め、図示することができるようにする。 ・円と直線の共有点の座標を求めることができるようにする。 ・円と直線の位置関係を調べる方法を理解する。 ・条件を満たす円の接線の方程式を求めることができるようにする。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
10	3節 軌跡と領域	・与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができるようにする。 ・不等式の表す領域を図示することができるようにする。 ・連立不等式の表す領域を図示することができるようにする。 ・領域を利用して1次式の最大値や最小値を求める方法を理解する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
15	4章 三角関数 1節 三角関数	・一般角について理解する。 ・弧度法による角の表し方を理解する。 ・扇形の弧の長さや面積を求めることができるようにする。 ・一般角の三角関数について理解する。 ・三角関数の相互関係や性質について理解する。 ・三角関数のグラフがかけられるようにする。 ・三角関数を含む方程式や不等式の解法を理解する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
11	2節 三角関数の加法定理	・三角関数の加法定理やその利用法を理解する。 ・2倍角の公式、半角の公式及びその利用法を理解する。 ・三角関数の合成やその利用法を理解する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○

時数	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c
9	5章 指数関数・対数関数 1節 指数関数	・0 や負の整数の指数について理解する。 ・累乗根の定義や性質及び累乗根を含む式の計算方法を理解する。 ・有理数の指数について理解する。 ・指数関数のグラフや性質を理解する。 ・指数関数の性質を数の大小比較や方程式・不等式の解法に活用できるようにする。	○ ○	○	○
9	2節 対数関数	・対数の定義について理解する。 ・対数の性質や底の変換公式の利用法を理解する。 ・対数関数のグラフや性質を理解する。 ・対数関数の性質を数の大小比較や方程式・不等式の解法に活用できるようにする。 ・常用対数及びその利用法を理解する。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○
10	6章 微分と積分 1節 微分係数と導関数	・平均変化率の定義について理解する。 ・極限值について理解する。 ・微分係数の定義やその図形的意味を理解する。 ・導関数を求めることができるようにする。 ・変数が x, y 以外の関数について、微分できるようにする。 ・導関数を利用して、微分係数を求めることができるようにする。 ・与えられた条件を満たす接線の方程式を求めることができるようにする。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
10	2節 関数の値の変化	・導関数を用いて関数の増加・減少を調べることができるようにする。 ・関数の極値を求めることができるようにする。 ・3次関数のグラフをかくことができるようにする。 ・関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。 ・グラフを利用して方程式の実数解の個数を調べたり、不等式を証明したりする方法を理解する。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
11	3節 積 分	・不定積分を求めることができるようにする。 ・定積分を求めることができるようにする。 ・定積分と微分の関係について理解する。 ・定積分を利用していろいろな図形の面積を求めることができるようにする。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○

教科	科目名	単位数	科（学年）	必・選（授業形態）
数学	数学 B	2	普通科（2）	選択
教科書	新編数学 B（第一学習社）		副教材	ネオパル数学 B（第一学習社）

【 教科（科目）の目標】

数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に表現し考察する能力を伸ばすとともに，それらを活用しようとする態度を育てる。

【 評価の観点 】

a．知識・技能	b．思考・判断・表現	c．主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力，事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数列，統計的な推測及び数学と社会生活の分野において，数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，事象に数学の構造を見い出そうとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。

【 評価の方法 】

評価の観点	具体的な評価の方法
(a) 知識・技能	定期考査にて判断する。考査内容は授業で実施した教科書、副教材、プリントに準拠して作問する。
(b) 思考・判断・表現	授業における発問に対する回答や、問題の解決過程や考察の様子を以て判断する。
(c) 主体的に学習に取り組む態度	授業において粘り強く取り組む姿勢や、過程を振り返って評価・改善の様子から判断する。

〔知識・技能〕：〔思考・判断・表現〕：〔主体的に学習に取り組む態度〕＝1：1：1とする。

【 おすすめの学習方法・アドバイスなど 】

授業では、例題をみながら教科書の問題を解き、ネオパルを使って演習を行っていきます。また、他の数学の科目に関連していく内容を確認しながら授業を展開していきます。苦手分野があればなるべく復習するよう心掛けましょう。考査前や授業の後で自主的に学習する力を身に付けていきましょう。

教科	科目名	単位数	科(学年)	必・選(授業形態)
数 学	数学Ⅲ	5	普通科(3)	必修
教科書	新編数学Ⅲ(第一学習社)		副教材	スタディ数学Ⅲ(第一学習社)

【教科(科目)の目標】

平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法についての理解を深め，知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを積極的に活用する態度を育てる。

【評価の観点】

a. 関心・意欲・態度	b. 数学的な見方・考え方	c. 表現・処理	d. 知識・理解
平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法における論理や体系に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法における事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。

【評価方法】

評価の方法	割合	具体的な評価の方法など
(1) 定期テスト	8割	テスト内容は授業で活用したプリント、教科書、副教材等に照会した練習問題などから作問する。
(2) 提出物 (ノート・課題等) 授業態度	2割	各単元の終了毎にノートや課題の提出を求める。 ノート：授業で配布したプリントは指示通り整理されているか。 課題：単元毎の練習問題やレポートなどを課す。 ①学習用品・教科書の持参 ②授業への集中の程度 ③発問への応答の有無など。

【おすすめの学習方法・アドバイスなど】

内容は少し難しめですが、理系、工学系に進学を考えている生徒は是非受講して下さい。

【 学習内容(進度計画) 】

時数	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
20	1章 複素数平面 1節 複素数平面	- 複素数の定義や四則計算について理解する。 - 複素数が座標平面上の点と対応することを理解し、複素数を図示できるようにする。 - 共役な複素数の性質と図形的意味について理解する。 - 複素数の加法・減法・実数倍の図形的意味について理解し、図示できるようにする。 - 複素数の極形式について理解する。 - 複素数の乗法・除法の図形的意味について理解する。 - ド・モアブルの定理について理解する。 - 複素数の n 乗根を求めることができるようにする。 - 複素数平面上の内分点・外分点を求めることができるようにする。 - 複素数平面上の距離について理解し、線分の垂直二等分線や円の方程式を求めることができるようにする。 - 複素数平面上の3点の位置関係を調べることができるようにする。	○		○		- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
15	2章 式と曲線 1節 2次曲線	- 放物線の定義とその方程式の標準形について理解し、放物線に関する用語の意味を理解する。 - 楕円の定義とその方程式の標準形について理解し、楕円に関する用語の意味を理解する。 - 双曲線の定義とその方程式の標準形について理解し、双曲線に関する用語の意味について理解する。 - 漸近線について理解する。 - 一般の曲線を平行移動して得られる曲線の方程式を求めることができるようにする。 2次曲線と直線の位置関係について理解する。	○			○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
10	2節 媒介変数表示と極座標	- 図形の媒介変数表示について理解する。 円、楕円、双曲線、サイクロイドなどの媒介変数表示について理解する。 - 極座標について理解する。 - 極座標と直交座標の関係について理解する。 円、直線、2次曲線などの極方程式について理解する。 - 直交座標の方程式を極方程式で表したり、極方程式を直交座標の方程式で表したりすることができるようにする。	○	○			- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
10	3章 関数と極限 1節 関数	- 分数関数について理解する。 - 無理関数について理解する。 - 逆関数、合成関数について理解する。	○				- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
15	2節 数列の極限	- 数列の収束・発散について理解する。 - 数列の極限の性質について理解する。 - 無限等比数列の極限について理解する。 - 無限級数について理解し、図形や循環小数に関する問題へ応用できるようにする。 - 無限級数の性質について理解する。		○	○		- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
13	3節 関数の極限	- 関数の極限の性質について理解する。 - 右側極限、左側極限について理解する。 - 指数関数、対数関数、三角関数の極限について理解する。 - 関数の連続性について理解する。 - 中間値の定理について理解する。	○			○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査

10	4章 微分法 1節 導関数	- 導関数の定義を確認したり、微分可能性と連続性について理解したりする。 - 関数の定数倍、和、差、積、商の導関数について理解する。 - 合成関数の微分法について理解する。 - 逆関数の微分法について理解する。	○	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
14	2節 いろいろな関数の導関数	- 三角関数の導関数について理解する。 - 対数関数の導関数について理解する。 - 対数微分法について理解する。 - 指数関数の導関数について理解する。 - 第 n 次導関数について理解する。 - 方程式 $f(x, y) = 0$ に関する微分法について理解する。 - 媒介変数表示に関する微分法について理解する。	○	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
14	3節 関数値の変化	- 曲線の接線や法線の方程式が求められるようにする。 - 平均値の定理について理解する。 - 関数の増減について理解する。 - 関数の極大・極小について理解する。 - 曲線の凹凸や変曲点について理解する。 - 増減、極値、凹凸、変曲点、漸近線などを調べてグラフをかくことができるようにする。 - 第2次導関数を用いて極値の判定ができるようにする。	○	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
11	4節 導関数の応用	- 関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。 - 関数の増減を調べることにより、不等式を証明したり、方程式の実数解の個数を求めたりすることができるようにする。 - 速度・加速度について理解する。 - 近似式について理解する。	○	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント
15	5章 積分法 1節 不定積分	- 不定積分の意味、関数の定数倍や和、差の不定積分、三角関数の不定積分、指数関数の不定積分などの公式を理解する。 - 置換積分法について理解する。 - 部分積分法について理解する。 - 複雑な分数関数や三角関数の積などの不定積分について理解する。	○	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
12	2節 定積分	- 定積分の意味や性質について理解する。 - 定積分の置換積分法や偶関数・奇関数の定積分の性質について理解する。 - 定積分の部分積分法について理解する。 - 定積分で表された関数について理解する。 - 区分求積法と定積分の関係について理解する。 - 定積分と不等式の関係について理解する。	○	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
16	3節 積分法の応用	- 定積分を用いて、直線や曲線で囲まれた図形の面積を求めることができるようにする。 - 定積分を用いて、立体の体積や回転体の体積を求めることができるようにする。 - 定積分を用いて、曲線の長さを求めることができるようにする。	○	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント

教科	科目名	単位数	科（学年）	必・選（授業形態）
数 学	総合数学	3	普通科（3）	必修
教科書	数学Ⅰ、数学Aに関するプリント等		副教材	スタディ数学Ⅰ・A NEW （第一学習社）

【 教科(科目)の目標 】

数学Ⅰの内容である「方程式と不等式」、「二次関数」及び「図形と計量」について復習し、受験レベルの知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。数学Aの内容である「平面図形」、「集合と論理」、「場合の数と確率」についても復習する。
--

【 評価の観点 】

関心・意欲・態度	数学的活動を通して、方程式と不等式、2次関数及び図形と計量における考え方に興味をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。
表現・処理	方程式と不等式、2次関数及び図形と計量において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。
数学的な見方・考え方	数学的活動を通して、方程式と不等式、2次関数及び図形と計量における数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。
知識・理解	方程式と不等式、2次関数及び図形と計量における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。

【 評価方法 】

評価の方法	割合	具体的な評価の方法など
(1) 定期テスト	8割	テスト内容は授業で活用したプリント、教科書、副教材等に照会した練習問題などから作問する。
(2) 提出物 （ノート・課題等） 授業態度	2割	各単元の終了毎にノートや課題の提出を求める。 ノート：授業で配布したプリントは指示通り整理されているか。 課題：単元毎の練習問題やレポートなどを課す。 ①学習用品・教科書の持参 ②授業への集中の程度 ③発問への応答の有無など。

【 おすすめの学習方法・アドバイスなど 】

文系大学・専門学校・看護系へ進学できる実力の養成を目指し、センター試験の基礎レベルまでの力をつけます。習熟度に応じて弾力的に内容や基礎・発展の比重を変更していきます。
--

【学習内容(進捗計画)】

時数	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
18	1. 数と式 式の展開と因数分解	- 文字を含む式の表し方や見方を理解する。 - 同類項の整理や、整式の和・差の計算方法を理解する。 - 展開公式の導き方や適用の仕方を理解する。 - 因数分解の公式の導き方や適用の仕方を理解する。	○	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
	実数	- 平方根の定義や性質を理解する。 - 平方根を含む式の加法・減法・乗法を理解する。 - 分母の有理化の方法を理解する。 - 有理数を循環小数の形で表す方法を理解する。 - 数の分類、数の集合の包含関係を理解する。 - 絶対値の定義及び絶対値を含む簡単な方程式の解法を理解する。	○	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
6	1次不等式	- 不等号の意味を理解する。 - 不等式の解の意味を理解する。 - 不等式の性質を理解する。 1次不等式の解法を理解する。 - 連立不等式の解法を理解する。	○	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
	集合と論理	- 集合の意味や用語を理解する。 - 部分集合、共通部分、和集合、全体集合と補集合など、集合間の関係を理解する。 - ド・モルガンの法則を理解し、それを用いて集合の要素の個数が求められるようにする。 - 命題「$p \Rightarrow q$」の真偽と p, q の表す集合 P, Q の包含関係との関係を理解する。 - 必要条件, 十分条件, 必要十分条件の意味を理解する。 - 条件の否定について理解する。 - 逆・裏・対偶とそれらの相互関係を理解する。 - 対偶を利用した証明, 背理法による証明ができるようにする。	○	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
12	2. 2次関数 2次関数とそのグラフ	- 関数の概念や定義域・値域を理解する。 $y=ax^2$ のグラフの形状や性質を理解する。 $y=ax^2$ のグラフの平行移動について理解する。 2次式の平方完成ができるようにする。	○	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
	2次関数の最大・最小	$y=ax^2+bx+c$ のグラフをかくことができるようにする。 - グラフに関する条件が与えられたときの2次関数を求めることができるようにする。 - 定義域に制限がない場合の2次関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。 - 定義域に制限がある場合の2次関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。 - 放物線と x 軸との共有点の x 座標や共有点の個数の求め方を理解する。	○	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
9	2次方程式・2次不等式	- 因数分解を利用した2次方程式の解法を理解する。 - 平方根の考えによる2次方程式の解法を理解する。 2次方程式の解の公式を理解する。 2次方程式の実数解の個数を判別することができる。 - 未知数を適当に定めて題意を2次方程式で表し、その解が題意を満たすかどうかを確認できるようにする。 2次不等式の解法を理解する。 2次と1次の連立不等式の解法を理解する。	○	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査

12	3. 図形と計量 三角比	・鋭角の三角比の定義やその値の求め方を理解する。 ・三角比を利用して辺の長さを求める方法を理解する。 ・鋭角の三角比の相互関係を理解する。 ・鈍角の三角比の定義やその値の求め方を理解する。 ・三角方程式の解法について理解する。 ・鈍角の三角比の相互関係を理解する。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・定期考査
	図形の計量	・正弦定理やその利用法を理解する。 ・余弦定理やその利用法を理解する。 ・三角形の面積の求め方を理解する。 ・正弦定理や余弦定理を利用して、四角形の面積や空間図形の高さなどを求める方法を理解する。 ・相似な図形の相似比と面積比・体積比の関係を理解する。 ・球の体積や表面積を求めることができる。			○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・定期考査
12	4. 図形の性質 三角形の性質	・平行線と線分の比について理解する。 ・線分の内分，外分について理解する。 ・三角形の内角や外角の2等分線と対辺やその延長との交点が対辺を分ける比について理解する。 ・三角形の重心とその性質を理解する。 ・三角形の外心とその性質を理解する。 ・三角形の内心とその性質を理解する。 ・三角形の辺と角の大小関係について理解する。 ・三角形の2辺の長さの和と他の1辺の長さとの関係について理解する。	○		○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・定期考査
	円の性質	・円周角の定理について確認する。 ・円周角の定理の逆について理解し，それを用いることができるようにする。 ・円に内接する四角形の性質や，四角形が円に内接する条件について理解し，それらを用いることができるようにする。 ・円外の点から円にひいた2本の接線の長さの関係について理解する。 ・円の接線とその接点を通る弦がつくる角と円周角との関係を理解し，それを用いることができるようにする。 ・方べきの定理について理解し，それを用いることができるようにする。 ・2つの円の位置関係や，共通接線について理解する。		○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・定期考査
12	5. 場合の数 数え上げの原則 順列・組合せ	・集合の意味や用語を理解する。 ・部分集合，共通部分，和集合，全体集合と補集合など，集合間の関係を理解する。 ・ド・モルガンの法則を理解し，それを用いて集合の要素の個数が求められるようにする。 ・もれなく重複なく数え上げるための工夫として，樹形図などを理解する。 ・数え上げの基本である「和の法則」，「積の法則」を理解し，それらを活用できるようにする。 ・順序をつけて並べるときの並べ方の総数について理解する。 ・重複順列，円順列の総数を求める場合の考え方について理解する。 ・組合せの総数を求める考え方について理解し，総数を求められるようにし，それらを活用できるようにする。	○		○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・定期考査

12	6. 確率 確率の基本性質といろ いろな確率	・確率の意味について理解する。 ・事象を,集合を用いて表すことができるようにし,各 根元事象が同様に確からしい場合の確率の計算が できるようにする。 ・確率の基本的な性質や確率の加法定理,一般の和事 象の確率を理解し,やや複雑な事象の確率が求めら れるようにする。 ・余事象の考えを用いて確率を求めることができるよ うにする。 ・独立な試行について理解し,2つの独立な試行にお けるおのおのの事象がともに起こる確率が求めら れるようにする。 ・反復試行の確率が求められるようにする。 ・条件つき確率の概念を理解し,具体的な場面に対し て的確に活用できるようにする。 ・確率の乗法定理を理解し,活用できるようにする。	○			○	○	・授業態度 ・発問評価 ・課題プリント ・定期考査
6	7. 整数の性質 倍数と約数 ユークリッドの互除法	・倍数や約数及びそれらの性質について理解する。 ・倍数の判定法について理解する。 ・素因数分解について理解する。 ・最大公約数や最小公倍数について理解する。 ・整数を割り算の余りで分類することを理解し,整数 に関する問題解決に利用できるようにする。 ・ユークリッドの互除法について理解し,これを用い て最大公約数を求めることができるようにする。 ・2元1次方程式とその解法を理解し,自然数に関す る問題の解決に利用できるようにする。	○			○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・定期考査
	整数の性質の利用	・分数が有限小数か循環小数になることの理由を理解 する。 ・二進法の仕組みを理解する。 ・二進数を十進数に変換したり,十進数を二進数に変 換したりできるようにする。	○	○		○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・定期考査
6	8. データの分析 データの分析	・平均値,最頻値,中央値を求めることができるよう にする。 ・偏差,分散,標準偏差について理解し,標準偏差を 求めることができるようにする。 ・四分位数の定義を理解し,箱ひげ図をかくことがで きるようにする。 ・散布図を利用して,相関関係を読み取ることができ るようにする。 ・相関係数が求められるようにする。		○		○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・定期考査

理科

令和5年度シラバス

教科	科目名	単位数	科(学年)	必・選(授業形態)
理科	物理基礎	3	普通科2年	選択
教科書	第一学習社 高等学校改訂新物理基礎		副教材	

【 教科(科目)の目標 】

自然現象について観察、実験などを行い、体験を伴う授業を多く取り入れる。そのなかで、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

【 評価の観点 】

知識・技能	教科書の基礎基本事項を正確に理解し、覚えられるかペーパーテストで確認する。実験実習では、支持された手順に沿ってきちんと行うことができるか確認する。
思考・判断・表現	与えられた課題や科学的な思考を問う内容を、理論立ててきちんと理解できるか、また適切な判断を下せるか評価する。また実験等において質問事項に対して自分の考えを正確に表現できるか評価する。
主体的に学習に取り組む態度	授業を積極的な態度で受けているか、実験実習も意欲的に取り組んでいるかな、自らの学習状況を把握して粘り強く学びを進めようとしたかなど学習態度を評価する。

【 評価方法 】

- ・定期考査(1学期中間・期末考査2回 2学期中間・期末考査2回 3学期期末考査1回)
- ・小テスト
- ・提出物(実験レポート、定期考査解き直し、その他課題)
- ・授業態度(学習用具の準備、積極的に授業に臨む姿勢)

上記を加味し、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点について、A・B・Cの三段階で評価する。

【 おすすめの学習方法・アドバイスなど 】

①授業でもらったプリントをしっかりと理解しよう。

プリントには必要最小限の学習内容を盛り込んでいます。教科書でわかりにくい内容もプリントを見ながら授業を思い出せば分かるはず→学習内容をしっかりと理解しよう。

②計画的に学習を進めよう。

課題や復習など、提出日や学習計画の日程を確認して、計画的に学習に取り組みましょう。

③テスト勉強は特にしっかりとやろう。

日頃の学習の確認として中間・期末テストが実施されます。日頃の学習を理解した上で、テスト予想問題やプリントに含まれる確認・発展問題を解こう。

④最新の科学的な話題を収集しよう。

小論や面接では、ニュースで話題になる科学的な内容も質問されます。新聞の切抜きや先生の談話などにも重要な話が含まれます。進路に合わせた情報収集を心がけよう。

【 学習内容（進度計画）と評価の観点 】 — 物理基礎 —

観点別評価 【知】技能・技能 【思】思考・判断・表現 【態】主体的に学習に取り組む態度

学 期	月	学習内容（単元・小単元）	観点別評価	配当 時間
1 学 期	4	第1章 力と運動 第1節 物体の運動 ①速さと等速直線運動 ②変位と速度 ③速度の合成・相対速度	第1章—1節 ①【知】【態】 ②【知】【思】 ③【知】【思】 ④【知】【思】	8
	5	④加速度 ⑤等加速度直線運動 ⑥重力加速度と自由落下 ⑦鉛直投げおろし・鉛直投げ上げ	⑤【知】【思】 ⑥【知】【思】【態】 ⑦【知】【思】【態】 ⑧【知】【思】【態】	
	6	⑧水平投射・斜方投射		
	7	第2節 力と運動の法則 ①力と質量 ②いろいろな力 ③力の合成・分解と力のつり合い ④慣性の法則 ⑤力と質量と加速度の関係 ⑥運動の法則 ⑦作用・反作用の法則 ⑧摩擦力 ⑨運動方程式の利用（1） ⑩運動方程式の利用（2）	第1章—2節 ①【知】【思】 ②【知】【思】 ③【知】【思】 ④【態】【思】 ⑤【知】【思】【態】 ⑥【知】【思】【態】 ⑦【態】【思】 ⑧【知】【思】【態】 ⑨【知】【思】 ⑩【知】【思】	12
		第2章 エネルギー 第1節 仕事と力学的エネルギー ①力がする仕事 ②仕事と仕事率 ③運動エネルギー ④位置エネルギー ⑤力学的エネルギー保存の法則 ⑥いろいろな運動と力学的エネルギー	第2章—1節 ①【思】【態】 ②【知】【思】 ③【知】【思】 ④【知】【思】	10
		第2節 熱とエネルギー ①温度と熱運動 ②熱と熱平衡 ③熱と仕事 ④エネルギーの変換と保存	第2章—2節 ①【知】【思】【態】 ②【知】【思】 ③【知】【思】 ④【知】【思】	6

2 学 期	9	第3章 波動	第3章—1節	10
		第1節 波の性質	①【知】【思】	
		①波と振動	②【知】【思】	
		②波の表し方	③【知】【思】	
		③波の重ねあわせと定常波		
	10	④波の反射	第3章—2節	10
		第2節 音波	①【知】【思】	
		①音の速さと3要素	②【知】【思】	
		②波としての音の性質	③【知】【思】	
	11	③弦の固有振動		
		④気柱の固有振動	第4章—1節	10
		第4章 電気	①【知】【思】	
		第1節 電荷と電流	②【知】【思】	
	12	①電荷	③【知】【思】	
		②電流と電気抵抗		
		③物質と抵抗率	第4章—2節	9
		④直流回路	①【知】【思】	
		⑤電力量と電力	②【知】【思】	
		第2節 電流と磁場		
		①磁場		
		②交流の発生と利用		
		③電磁波		
3 学 期	1	第3節 エネルギーとその利用	第3章—3節	10
		①太陽エネルギーの利用	①【知】【態】	
		②原子力エネルギー	②【知】【態】	
		終章 物理が抱く世界		10
	2	探究活動		10
		1 自由落下の加速度		
		2 力と質量と加速度の関係		
		3 静止摩擦係数の測定		
		4 力学的エネルギーの保存		
		5 比熱の測定		
	3	6 仕事と熱		
		7 弦の固有振動		
		8 気柱の固有振動		
		9 金属線の抵抗の測定		
		10 モーターの製作		
				計 105

令和5年度シラバス

教科	科目名	単位数	科(学年)	必・選(授業形態)
理科	物理基礎	3	普通科3年	選択
教科書	第一学習社 高等学校改訂新物理基礎		副教材	

【 教科(科目)の目標 】

自然現象について観察、実験などを行い、体験を伴う授業を多く取り入れる。そのなかで、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

【 評価の観点 】

関心・意欲・態度	授業を積極的な態度で受けているか、実験実習も意欲的に取り組んでいるかなど授業態度を評価する。
技能・表現	実験実習では、支持された手順に沿ってきちんと行うことができるか、また質問事項に対して自分の考えを正確に表現できるか評価する。
思考力・判断力	与えられた課題や科学的な思考を問う内容を、理論立ててきちんと理解できるか、また適切な判断を下せるか評価する。
知識・理解	教科書の基礎基本事項を正確に理解し、覚えられるかペーパーテストで確認する。

【 評価方法 】

評価の方法	割合	具体的な評価の方法など
(1) 定期テスト	6割	テスト内容は授業で活用したプリント、教科書に照会した練習問題などから作問する。
(2) 提出物 (ノート・課題等)	2割	レポート：実験ごとにレポートの提出を求める。 ファイル：授業で配布したプリントは指示通り整理されているか。 課題：適宜練習問題(プリント)を課す。
(3) 授業態度	2割	①学習用品・教科書の持参 ②授業への集中の程度 ③発問への応答の有無など。

【 おすすめの学習方法・アドバイスなど 】

①授業でもらったプリントをしっかりと理解しよう。

プリントには必要最小限の学習内容を盛り込んでいます。教科書でわかりにくい内容もプリントを見ながら授業を思い出せば分かるはず→学習内容をしっかりと理解しよう。

②テスト勉強は特にしっかりとやろう。

日頃の学習の確認として中間・期末テストが実施されます。日頃の学習を理解した上で、テスト予想問題やプリントに含まれる確認・発展問題を解こう。

③最新の科学的な話題を収集しよう。

小論や面接では、ニュースで話題になる科学的な内容も質問されます。新聞の切抜きや先生の談話などにも重要な話が含まれます。進路に合わせた情報収集を心がけよう。

【 学習内容（進度計画）と評価の観点 】 — 物理基礎 —

観点別評価 【関】 関心・意欲・態度 【技】 技能・表現 【思】 思考力・判断力 【知】 知識・理解

学 期	月	学習内容（単元・小単元）	観点別評価	配当 時間
1 学 期	4	第1章 力と運動 第1節 物体の運動 ①速さと等速直線運動 ②変位と速度 ③速度の合成・相対速度	第1章—1節 ①【知】【関】 ②【知】【思】 ③【知】【思】 【技】	8
	5	④加速度 ⑤等加速度直線運動 ⑥重力加速度と自由落下 ⑦鉛直投げおろし・鉛直投げ上げ	④【知】【思】 ⑤【知】【思】 ⑥【知】【思】【関】 【技】	
	6	⑧水平投射・斜方投射	⑦【知】【思】【関】 ⑧【知】【思】【関】	
	7	第2節 力と運動の法則 ①力と質量 ②いろいろな力 ③力の合成・分解と力のつり合い ④慣性の法則 ⑤力と質量と加速度の関係 ⑥運動の法則 ⑦作用・反作用の法則 ⑧摩擦力 ⑨運動方程式の利用（1） ⑩運動方程式の利用（2）	第1章—2節 ①【知】【思】 ②【知】【思】 ③【知】【思】【技】 ④【関】【思】 ⑤【知】【思】【関】 ⑥【知】【思】【関】 ⑦【関】【思】 ⑧【知】【思】【関】 ⑨【知】【思】【技】 ⑩【知】【思】【技】	12
		第2章 エネルギー 第1節 仕事と力学的エネルギー ①力がする仕事 ②仕事と仕事率 ③運動エネルギー ④位置エネルギー ⑤力学的エネルギー保存の法則 ⑥いろいろな運動と力学的エネルギー	第2章—1節 ①【思】【関】【技】 ②【知】【思】 ③【知】【思】 ④【知】【思】	10
		第2節 熱とエネルギー ①温度と熱運動 ②熱と熱平衡 ③熱と仕事 ④エネルギーの変換と保存	第2章—2節 ①【知】【思】【関】 ②【知】【思】 ③【知】【思】 【技】 ④【知】【思】 【技】	6

2 学 期	9	第3章 波動	第3章—1節	10
	10	第1節 波の性質 ①波と振動 ②波の表し方 ③波の重ねあわせと定常波 ④波の反射	①【知】【思】 ②【知】【思】 ③【知】【思】 【技】	
	11	第2節 音波 ①音の速さと3要素 ②波としての音の性質 ③弦の固有振動 ④気柱の固有振動	第3章—2節 ①【知】【思】 ②【知】【思】 ③【知】【思】 【技】	10
	12	第4章 電気 第1節 電荷と電流 ①電荷 ②電流と電気抵抗 ③物質と抵抗率 ④直流回路 ⑤電力量と電力 第2節 電流と磁場 ①磁場 ②交流の発生と利用 ③電磁波	第4章—1節 ①【知】【思】【技】 ②【知】【思】 ③【知】【思】 第4章—2節 ①【知】【思】【技】 ②【知】【思】	10 9
3 学 期	1	第3節 エネルギーとその利用 ①太陽エネルギーの利用 ②原子力エネルギー	第3章—3節 ①【知】【関】 ②【知】【関】	10
	2	終章 物理が抱く世界		10
	3	探究活動 1 自由落下の加速度 2 力と質量と加速度の関係 3 静止摩擦係数の測定 4 力学的エネルギーの保存 5 比熱の測定 6 仕事と熱 7 弦の固有振動 8 気柱の固有振動 9 金属線の抵抗の測定 10 モーターの製作		10
				計 105

令和5年度シラバス

教 科	科 目 名	単位数	科（学年）	必・選（授業形態）	
理科	物理	4	普通科3年	選択	
教科書	東京書籍「物理」(物理308)			副教材	

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1. 物理的な事物・現象に対する探究心を高める。
	2. 目的意識をもって観察・実験などを行い、物理的に探究する能力と態度を身につける。
	3. 物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につける。
	4. 科学技術の在り方について意思決定するために必要な、科学的な見方や考え方を身につける。

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

学 期	学習内容 (時間)	月	学習のねらい	備 考	考 査 範 囲	評価の観点の ポイント				
						関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	観 察 ・ 実 験 の 技 能	知 識 ・ 理 解	
第 1 学 期	第1編 力と運動 1章 剛体には たらく力のつり合い (2) 2章 さまざまな 運動①～平面上の運 動と放物運動～ (1) 3章 さまざまな 運動②～円運動と万 有引力～ (7)	4	大きさのある物体にはたらく力のつり合いについて理解する。 平面内で剛体にはたらく力と力のモーメントがつり合う条件について、実験を通して理解する。また、日常生活とのかわりの中で、防災などの観点から、物体の重心、関連して物体が転倒しない条件などについて理解する。 平面内を運動する物体の運動について理解する。 平面内の運動を表す変位，速度，加速度がベクトルで表されることを理解する。また，平面内の運動の合成速度，相対速度について理解する。 斜方投射された物体の運動について理解する。 簡単な投射装置を用いた実験などを行い，斜方投射された物体の運動は曲線運動であり，鉛直方向と水平方向に運動を分解して解析できることを理解する。また，速さに比例する抵抗力として空気抵抗を受けるときの力と運動の関係について理解する。 円運動をする物体の様子を表す方法やその物体に働く力などについて理解する。 円運動する物体の様子を表す方法やその物体に働く力として，等速円運動の速度，周期，角速度，向心加速度及び向心力について理解する。また，観測者が加速度運動をするときの慣性力や円運動での遠心力について理解する。	1 学年の理数物理で学習済み小テスト等で振り返りを行う。 <既習内容>「物理基礎」では，「物体の運動とエネルギー」で，直線上の運動について学習している。 <既習内容>「物理基礎」では，「物体の運動とエネルギー」で，物体の鉛直方向への落下運動を中心に学習している。小テスト等を用いて復習をする。 観察実験 等速円運動の速度の向き 等速円運動の遠心力		○		○	○	○

第 2 学 期	2章 音 (6)		波の干渉と回折について理解する。 水波実験器などを用いた水面波の観察を通して、波の回折や干渉の性質について理解する。 音の干渉と回折について理解する。 実験などを通して、音の干渉、回折、及び屈折について理解する。また、いろいろな楽器の原理について統一的に理解する。	観察実験 水面波の観察 ＜既習内容＞「物理基礎」では、「様々な物理現象とエネルギーの利用」で、気柱の共鳴、弦の振動及び音の性質について学習している。				○		○	
	3章 光 (9)	9	音のドップラー効果について理解する。 音源や観測者が同一直線上を動いているときに観測されるドップラー効果について理解する。また、音源が音速以上の速さで動いているときに起こる現象についても理解する。 ・中学校での学習を発展させ、光の伝わり方について理解を深める。 光の反射、屈折、分散、偏光、速さ、波長などについて、観察、実験を通して理解する。 ・光の回折と干渉について理解する。 ヤングの実験、回折格子及び薄膜の干渉などの観察、実験を通して、光の回折、干渉、光路長、反射による位相のずれについて理解する。また、偏光板やプリズムを用いた光の観察などを通して、光は横波であることや、光のスペクトルについて理解する。 ・鏡とレンズの幾何光学的な性質として、凹面鏡や単一レンズの焦点の存在や光の進路の規則性について理解する。	観察実験 音波による干渉の体感 観察実験 動く音源の音の観察 既習内容＞中学校では、第1分野「身近な物理現象」で、光の反射や屈折の規則性及び凸レンズのはたらきについて学習している。 観察実験 光の反射、屈折、分散、偏光 回折格子 実像と虚像の確認	第 2 学 期 中 間 考 査		○	○	○		○
	第4編 電気と磁気 1章 電界と電位 (12)		電荷が相互に及ぼし合う力や電界（電場）の表し方について理解する。 摩擦帯電や箔検電器の実験、電界の様子を観察などを通して、電荷が相互に及ぼし合う力、電気量の保存、電界の性質、電気力線について理解する。 電界と電位の関係について理解する。 導電性の紙を使って等電位線を調べる実験などを通して、電荷の移動と仕事の関係、電界と電位の関係、及び電位の基準点について理解する。 電界中の物体の様子やその内外の電界について理解する。 箔検電器などの実験を通して、静電誘導、静電遮蔽（シールド）、誘電分極について理解する。 コンデンサーの性質について理解する。 コンデンサーの放電などの実験を通して、充電と放電、電気容量、空気中に置かれた平行板コンデンサーなどの基本的な性質について理解する。また、コンデンサーの接続における合成容量や、電気容量と誘電体との関係について理解する。	＜既習内容＞中学校では、第1分野「電流とその利用」で、静電気と電流について学習している。 観察実験 電界のようすの観察 観察実験 静電気力、電場のようすを観察する 観察実験 箔検電器で帯電の正負を確かめる 観察実験 コンデンサーの作成 コンデンサーの放電 ＜既習内容＞中学校では、第1分野「電流とその利用」で、電流・電圧と抵抗、回路と電流・電圧について学習している。また、「物理基礎」では、「様々な物理現象とエネルギーの利用」で、物質によって抵抗率が異なること、電気の利用について学習している。							
	2章 電流 (7)	10	中学校での学習を発展させ、電気回路について理解を深める。 電池の起電力と内部抵抗の測定や、ホイートストンブリッジによる抵抗値の測定などを通して、キルヒホッフの法則、抵抗率の温度変化、電球の電流特性などについて理解する。また、コンデンサーを含む電気回路や、半導体の特性について理解する。				○		○	○	

	3章電流と磁界 (9) 4章電磁誘導と電磁波 (14)	中学校での学習を発展させ,電流がつくる磁界について理解を深める。 観察,実験を通して,直線電流のまわり,円形電流の中心,ソレノイドの内部にできる磁界について理解する。 中学校での学習を発展させ,電流が磁界から受ける力について理解を深める。 観察,実験を通して,電流が磁界から受ける力を表す式やローレンツ力について理解する。 中学校での学習を発展させ,電磁誘導と交流について理解を深める。 コイルを貫く磁束が変化するとき及び導線が磁束を横切るときに生じる誘導起電力,自己誘導,相互誘導,うず電流,交流発電機の仕組みなどについて理解する。 交流について理解を深める。 11 交流回路におけるコンデンサーやコイルのリアクタンス,抵抗とコンデンサーとコイルを直列につないだ回路のインピーダンスについて理解する。 電磁波の性質とその利用について理解する。 ヘルツの実験の再現などの実験を通して,電磁波の基本的な性質,電気振動,電磁波の発生,及び電波の利用について理解する。 電気や磁気に関する探究活動を行い,学習内容の理解を深めるとともに,物理学的に探究する能力を高める。	<既習内容>中学校では,第1分野「電流とその利用」で,電流がつくる磁界について学習している。 観察実験 直線電流のつくる磁界 観察実験 ソレノイド内の磁界 <既習内容>中学校では,第1分野「電流とその利用」で,磁界中の電流が受ける力について学習している。 <既習内容>中学校では,第1分野「電流とその利用」で,コイルや磁石を動かすことにより電流が得られることについて学習している 観察実験 ゆっくり落ちる不思議な磁石 コイルの自己誘導による高電圧の発生 <既習内容>「物理基礎」では,「様々な物理現象とエネルギーの利用」で,交流の発生,送電及び利用について学習している。 観察実験 抵抗・コイル・コンデンサーを流れる交流 観察実験 ヘルツの実験の再現		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
	第5編 原子 1章電子と光 (6) 2章原子と原子核 (11)	電子の発見に関する歴史的な実験にも触れながら,電子の電荷と質量について理解する。 真空放電などの実験を通して,電子の比電荷,電気素量について理解する。 電子や光の粒子性と波動性について理解する。 プランク定数の測定などの実験を通して,光電効果,光量子仮説,電子線回折,物質波について理解する。また,X線の性質や利用について理解する。 原子の構造及びスペクトルと電子のエネルギー準位の関係について理解する。 α粒子の散乱実験などの科学史を通して,原子の構造について理解する。また,水素原子のスペクトルの観察などを通して,スペクトルの波長に規則性があることや,ボーアの原子モデルなどを学び,原子が出す光のスペクトルと電子のエネルギー準位の関係について理解する。	<既習内容>中学校では,第1分野「電流とその利用」で,電子の存在について学習している。 観察実験 真空放電 <既習内容>「物理基礎」では,「様々な物理現象とエネルギーの利用」で,波の性質,太陽光のエネルギーの利用について学習している。 <既習内容>中学校では,第1分野「化学変化とイオン」で,原子が電子と原子核からできていること,原子核が陽子と中性子でできていることについて学習している。 観察実験 スペクトルの観察		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

第3学期			原子核の構成，原子核の崩壊及び核反応について理解する。 原子核の構成，原子核の崩壊，半減期，核分裂，核融合，原子核反応を扱い，質量とエネルギーの等価性，及び原子力発電のしくみについて理解する。また，原子力発電所の事故に触れながら，原子力の利用とそのリスクについて考察する。 素粒子の存在について知る。 クォークとレプトンなどの素粒子の存在, 及び4つの基本的な力（強い力，電磁気力，弱い力，重力）などについて理解する。	＜既習内容＞「物理基礎」では，「様々な物理現象とエネルギーの利用」で，放射線及び原子力の利用について学習している。	第2学期末考查	○	○		○
	総合問題演習	12	基礎・基本の定着を確認しながら問題演習を行い、学習内容の振り返りを行う。	センター試験対策					
		1	進路先に配慮しながら、記述による問題演習を行い、学習内容の理解を深める。	個別試験対策					
		2							

令和5年度 シラバス

教科名	理科	科目名	化学基礎	単位数	3	学科・コース	普通科	学年	2	クラス	2		
教科書 (出版社)	高等学校新化学基礎 (第一学習社)												

目 標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。【知識及び技能】 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。【思考力、判断力、表現力等】 (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】												
-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

◎記録に残す評価

学期	月	単元名	育成を目指す資質・能力 評価規準（達成目標）		学習項目	学習内容	知	思	態	備考（観察・実験や指導上の留意点）	評価方法	時数		
1	4	(1)(ア)化学と物質	知識・技能	物質と物質について、化学の特徴、物質の分離・精製、単体と化合物、熱運動と物質の三態の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	㊦化学の特徴 序章 化学と人間生活	化学とは何だろう？	○			【実験】うがい薬の色の变化		2		
						？から探究は始まる	○							
						探究の取り組み		○		【実験】砂糖水と食塩水				
						報告書の書き方			○					
			思考 判断 表現	化学と物質について、観察、実験などを通して探究し、科学的に考察し、表現している。	1章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素 ㊦物質の分離・精製 ㊦単体と化合物 ㊦熱運動と物質の三態	物質の分離(1)	○					1		
						物質の分離(2)		○		【実験】エタノールの分離		1		
						物質を構成する元素	○					1		
						元素の確認	○			【実験】炎色反応		2		
						探究：実験を計画する		◎		【実験】重曹に含まれる元素	ワークシート	2		
						物質の三態	○					1		
						㊦㊦㊦のまとめ			◎		振り返りシート	1		
			主体的に学習 に取り組む態度	化学と物質に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	問題演習	1章1節㊦㊦㊦	◎				定期考査	1		
1	5	(2)(ア)物質の構成粒子	知識・技能	物質の構成粒子について、原子の構造、電子配置と周期表の基本的な概念や原理・法則などを理解している。	㊦原子の構造 ㊦電子配置と周期表	原子の成り立ち	○						1	
						同位体とその利用	○						1	
						原子の電子配置		○					1	
						元素の周期律と周期表		○					1	
						実験：アルカリ金属		◎		【実験】アルカリ金属	ワークシート	1		
						㊦㊦の学習のまとめ	○					1		
			思考 判断 表現	物質の構成粒子について、規則性や関係性を見いだして表現している。		第1節のまとめ			◎		振り返りシート	1		
			主体的に学習 に取り組む態度	物質の構成粒子に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		節末問題	1章第1節	◎				定期考査	1	

1	6	(2)(4)化学と化学結合	知識・技能	分子と共有結合、金属と金属結合の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	④分子と共有結合	イオン(2)	○					1
						イオン結合	◎				小テスト	2
						イオンからなる物質		◎		【実験】イオン結晶の電気伝導性	ワークシート	2
			思考 判断 表現	物質と化学結合について、観察、実験などを通して探究し、物質と化学結合における規則性や関係性を見いだして表現している。		共有結合(1)	○				2	
						共有結合(2)	○				2	
						分子の極性		◎		【実験】分子の極性と溶解性	ワークシート	2
	分子間に働く力	○						1				
	7	主体的に学習 に取り組む態度	物質と化学結合に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	⑤金属と金属結合	共有結合(2)	○				1		
					分子からなる物質	○				1		
					共有結合の結晶	○				1		
					金属結合と金属結合	○				1		
					金属の利用		○		【実験】金属の性質	2		
節末問題					化学結合と結晶	◎		◎		定期考査、振り返りシート	2	

2	9	(3)(7)物質量と化学反応式	知識・技能	物質量と化学反応式について、物質量、化学反応式の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	2章 物質の変化 第1節 物質量と化学反応式 ⑦物質量	数値の取り扱い	○					1
原子量	○					2						
分子量・式量	○					1						
思考 判断 表現	物質量と化学反応式について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現している。	物質量と粒子の数	○				2					
物質量と式量	○				2							
物質量と気体の体積	○				2							
10	主体的に学習 に取り組む態度	物質量と化学反応式に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	④化学反応式	物質量の換算	◎				小テスト	2		
溶解と濃度		◎			ワークシート	2						
化学反応式(1)	○					2						
化学反応式(2)	○					2						
化学反応の量的関係		◎		【実験】炭酸水素ナトリウムの熱分解	ワークシート	3						
化学の発展と諸法則		○				1						
節末問題	第1節のまとめ	◎		◎		定期考査、振り返りシート	2					
3	11	(3)(4)化学反応	知識・技能	化学反応について、酸・塩基と中和、酸化と還元 の基本的な概念や原理・法則などを理解している とともに、科学的に探究するために必要な観察、 実験などに関する基本操作や記録などの基本的な 技能を身に付けている。	第2節 酸・塩基とその反応 ⑦酸・塩基と中和	酸と塩基	○					1
実験：酸と塩基		○		【実験】酸と塩基		1						
酸・塩基の強弱	◎				小テスト	1						
水素イオン濃度とpH	○					2						
pHの測定	○					1						
実験：pHの測定		○		【実験】pHの測定		1						
12	思考 判断 表現	化学反応について、観察、実験などを通して探究 し、物質の変化における規則性や関係性を見いだ して表現している。	第3節 酸化と還元 ④酸化と還元	中和と塩	○					2		
実験：塩の加水分解		◎		【実験】塩の加水分解	ワークシート	1						
中和の量的関係	○					2						
中和滴定	○					2						
探究：中和滴定		◎		【実験】中和滴定	ワークシート	1						
中和滴定曲線	○					1						
節末問題	第2節のまとめ	◎				定期考査	1					
1	(3)(4)化学反応	思考 判断 表現	化学反応について、観察、実験などを通して探究 し、物質の変化における規則性や関係性を見いだ して表現している。	第3節 酸化と還元 ④酸化と還元	酸化と還元	○					1	
酸化数	◎				小テスト	2						
酸化剤と還元剤	○					2						
実験：酸化剤と還元剤		◎		【実験】酸化剤と還元剤	ワークシート	1						
金属のイオン化傾向	○					1						
実験：イオン化傾向		◎		【実験】金属のイオン化傾向	ワークシート	1						
金属の反応性	○					1						

令和5年度シラバス

教科	科目名	単位数	科(学年)	必・選(授業形態)
理科	化学基礎	3	普通科3年	必修選択
教科書	第一学習社 改訂新化学基礎		副教材	

【教科(科目)の目標】

自然現象について観察、実験などを行い、体験を伴う授業を多く取り入れる。そのなかで、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

【評価の観点】

a 関心・意欲・態度	授業を積極的な態度で受けているか、実験実習も意欲的に取り組んでいるかなど授業態度を評価する。
b 思考力・判断力	与えられた課題や科学的な思考を問う内容を、理論立ててきちんと理解できるか、また適切な判断を下せるか評価する。
c 技能・表現	実験実習では、支持された手順に沿ってきちんと行うことができるか、また質問事項に対して自分の考えを正確に表現できるか評価する。
d 知識・理解	教科書の基礎基本事項を正確に理解し、覚えられるかペーパーテストで確認する。

【評価方法】

評価の方法	割合	具体的な評価の方法など
(1) 定期テスト	70%	テスト内容は授業で活用したプリント、教科書、副教材等に照会した練習問題などから作問する。
(2) 提出物 (ノート・課題等)	20%	各単元の終了毎にノートや課題の提出を求める。 ノート：授業で配布したプリントは指示通り整理されているか。 課題：単元毎の練習問題やレポートなどを課す。
(3) 授業態度	10%	①学習用品・教科書の持参 ②授業への集中の程度 ③発問への応答の有無など。

【おすすめの学習方法・アドバイスなど】

①授業でもらったプリントをしっかりと理解しよう。

プリントには必要最小限の学習内容を盛り込んでいます。教科書でわかりにくい内容もプリントを見ながら授業を思い出せば分かるはず→学習内容をしっかりと理解しよう。

②テスト勉強は特にしっかりとやろう。

日頃の学習の確認として中間・期末テストが実施されます。日頃の学習を理解した上で、テスト予想問題やプリントに含まれる確認・発展問題を解こう。

③課外講座や特別講座も利用しよう。

大学進学や進路で理科が必要な生徒のために特別講座を設置しています。
進路の情報を見て申し込もう。

④最新の科学的な話題を収集しよう。

小論や面接では、ニュースで話題になる科学的な内容も質問されます。新聞の切抜きや先生の談話などにも重要な話が含まれます。進路に合わせた情報収集を心がけよう。

【 学習内容（進度計画）と評価の観点 】 — 化学基礎 —

月	学習項目	学習内容(ねらい)	評価の観点				評価方法
			a	b	c	d	
4	序章 化学と人間生活 ①人間生活の中の化学 ②化学とその役割 ③化学で取り扱う変化	・化学の研究成果が人間生活に果たしている役割を、身近な具体例を通して調べる。 ・物質を対象とする化学の特徴を理解し、学習の動機付けとする。	○				・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験報告書 ・小テスト
5	第Ⅰ章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素	(1) 金属やプラスチックが、様々な化学の研究成果に基づいて製造されていることを知り、化学に対する興味・関心を高め、意欲的に取り組もうとする。 (2) 洗剤や食品添加物の化学的な働きを理解し、有効性と危険性の評価に基づいた適切な使用量について考察できる。 (3) 観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりする。 (4) 物理変化と化学変化の違いを理解し、知識を身に付けている。		○		○	
	①物質の成分と分離	・物質は混合物と純物質、化合物と単体などに分類されることを学び、元素について理解する。また、成分元素の確認法を学習する。 ・原子の構造について理解し、同位体とその利用を学習する。 ・原子の電子配置とその表し方（電子式）を学習する。 ・元素の周期律を理解し、周期表の成り立ちを理解する。	○				
	(1)						
	②物質の成分と分離	(1) 物質に関心を持ち、物質の取り扱い方を理解しようとする。 (2) 物質の構造や性質に関する事象に関心を持ち、意欲的に物質を探究しようとする。	○	○			
	(2)						
	③化合物・単体と構成元素	(3) 原子は原子核と電子からなり、電子の状態が物質の状態に大きく寄与することを推論する。		○			
	④成分元素の確認	(4) 基本的な実験器具の名称と使用法を習得する。			○		
	⑤原子のなりたち	(5) 混合物の分離や成分元素の確認などの実験を理解し、物質を探究する具体的な方法を身に付けている。			○		
	⑥同位体とその利用	(6) 図や表のデータから物質の性質を分析することができる。			○		
	⑦原子の電子配置	(7) 観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりする。		○	○		
	⑧元素の周期律と周期表	(8) 物質の構造や性質に関する基本的な概念を理解し、知識を身に付けている。 (9) 化学物質を適切に管理するための方法を身に付けている。				○	
6	第2節 物質と化学結合	・イオンの種類とその生成について学習する。 ・イオン結合、組成式を理解し、イオン結晶とその利用を学ぶ。 ・共有結合と分子の形成について学習する。					・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験報告書 ・小テスト ・定期考査
	①イオン	・分子の構造にもとづく分類と極性について学習する。					
	②イオンからできる物質	・分子結晶と種々の気体、有機化合物、高分子について学習する。					
	(1)	・おもな共有結晶について学習する。 ・金属結晶について学び、各結晶の一般的性質を比較する。 ・おもな金属の利用について学習する。					
	③イオンからできる物質	(1) 物質に関心を持ち、物質の取り扱い方を理解しようとする。 (2) 物質の構造や性質に関する事象に関心を持ち、意欲的に物質を探究しようとする。	○	○			
	(2)						
	④共有結合	(3) 物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子から成り立っていることを理解しようとする。	○				
	⑤分子の構造と極性	(4) 安全で快適な生活のために、化学が必要であることを見出す。		○			
	⑥分子からできる物質	(5) 原子は原子核と電子からなり、電子の状態が物質の状態に大きく寄与することを推論する。		○			
	(1)						
	⑦分子からできる物質						
	(2)						
	⑧共有結晶						
	⑨金属結合						
	⑩金属の利用						

		(6) 基本的な実験器具の名称と使用法を習得する。 (7) 図や表のデータから物質の性質を分析することができる。 (8) 観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりする。 (9) 物質の構造や性質に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 (10) 物質の構成粒子に関して理解し、知識を身に付けている。 (11) 化学物質を適切に管理するための方法を身に付けている。 (12) 化学式を使用できる。			○	○	○	○	
7 9	第Ⅱ章 物質の変化 第1節 物質量と化学反応式 ①原子量 ②分子量・式量 ③物質量(1) ④物質量(2) ⑤溶解と濃度 ⑥溶解度 ⑦化学変化と化学反応式 ⑧化学反応式と量的関係(1) ⑨化学反応式と量的関係(2) ⑩化学反応における諸法則	・元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。 ・物質量と粒子の数、質量との関係を学習する。 ・物質量と気体の体積の関係を学習し、空気の平均分子量を理解する。 ・質量パーセント濃度と質量モル濃度を学習する。 ・溶解度を学習し、再結晶の原理を理解する。 ・状態変化と化学変化の違いを理解し、化学反応式の作り方を学習する。 ・化学反応式と粒子の数、質量、気体の体積の関係を学習する。 ・過不足がある化学反応について学習する。 ・化学反応における諸法則を学習する。 (1) 化学変化の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。 (2) 化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを考察する。 (3) 基本的な実験器具の名称と使用法を習得する。 (4) 実験で得られたデータをグラフ化するなどの処理を行える。 (5) 観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりする。 (6) 物質の構成粒子に関して理解し、知識を身に付けている。 (7) 物質の構造や性質に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 (8) 原子量・分子量・式量・物質量を理解し物質量を用いた簡単な計算ができる。 (9) 物質量の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。	○		○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験報告書 ・小テスト ・定期考査
10	第2節 酸・塩基とその反応 ①酸と塩基 ②酸・塩基の強弱と水素イオン濃度 ③水素イオン指数 pH ④中和と塩 ⑤中和の量的関係 ⑥中和滴定 ⑦中和滴定と pH の変化	・酸と塩基の定義を理解する。 ・酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 ・水素イオン指数について学習する。 ・中和と中和によって生じる塩について学習する。 ・中和とその量的関係について学習する。 ・中和滴定の操作を習得し、中和滴定曲線を理解する。 (1) 化学変化の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。 (2) 酸、塩基や中和反応に関心をもち、それらを日常生活に関連付けて、意欲的に探究しようとする。 (3) 化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを考察する。 (4) 酸・塩基の観察、実験から共通性を見出し、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて考察する。 (5) ビュレット、ホールピペットなどの取り扱いができると同時に、中和滴定の技能を習得している。 (6) 酸・塩基の指示薬や pH メーターなどが扱え、身近な物質の pH を測定することができる。	○	○	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験報告書 ・小テスト ・定期考査

		(7) 物質量の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。 (8) 日常生活と関連付けて酸・塩基の反応を捉えることができ、さらに中和滴定の量的関係を理解している。 (9) pHの指標としての便利さおよび実用性を理解している。				○	
11	第3節 酸化還元反応 ①酸化と還元 ②酸化数と酸化還元反応 ③酸化剤・還元剤と金属のイオン化傾向 ④酸化還元反応の利用	・酸化と還元を定義を理解する。 ・酸化数を学習し、酸化剤と還元剤の反応を理解する。 ・酸化剤と還元剤の反応と金属のイオン化傾向を理解する。 ・酸化還元反応の利用例として、製錬や電池の原理を学習する。 (1) 化学変化の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。 (2) 燃焼、金属の溶解や腐食などの反応に興味をもち、電子の授受という観点から、それらを意欲的に探究しようとする。 (3) 化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを考察する。 (4) 観察、実験を通して、酸化・還元を定義と、酸化数の定義の有効性を理解し、それらをもとに事物・現象の中に共通性を見出し、酸化還元反応として論理的に考察する。 (5) 代表的な酸化剤・還元剤の観察から電子の授受としての規則性を見出し、自らの考えで表現できる。 (6) 観察、実験を通して、酸化・還元を定義と、酸化数の定義の有効性を理解し、それらをもとに事物・現象の中に共通性を見出し、酸化還元反応として論理的に考察する。 (7) 物質量の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。 (8) 酸化・還元を定義を理解し、知識を身に付けている。	○	○			・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験報告書 ・小テスト ・定期考査
12				○	○	○	○
1	発展 無機物質 ①非金属元素の単体と化合物 ②金属元素の単体と化合物	・元素の分類を理解し、無機物質の性質や用途を学習する。 ・非金属元素とその化合物について、性質や用途を学習する。 ・金属元素とその化合物について、性質や用途を学習する。 (1) 無機物質の性質や反応に関する事物・現象に関心をもち、それらに関する基本的な概念や法則を意欲的に探究しようとする。 (2) 無機物質について観察・実験を行うとともに、それらを日常生活に関連付けたり、化学工業と関連付けて、意欲的にそれらを探究しようとする。 (3) 無機物質の性質や反応などを、元素の周期表と関連付けて思考、判断する。 (4) 無機物質について観察・実験を行い、規則性を見出したり、さまざまな事象の生じる要因や仕組みを科学的に考察する。 (5) 無機物質と化学工業との関係をさまざまな観点でとらえ、科学的に考察、判断する。 (6) 無機物質の性質や反応について観察・実験を行い、その基本操作や記録の仕方を習得している。 (7) 観察・実験の過程から、自らの考えを導き出し、報告書を作成したり、発表したりする。 (8) 無機物質の性質や反応に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 (9) 無機物質を、日常生活および化学工業に関連付けて理解し、知識を身に付けている。	○	○			・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・実験報告書 ・小テスト ・定期考査
2	発展 有機化合物 ①有機化合物 ②高分子化合物	・有機化合物の特徴と分類について理解する。 ・有機化合物の性質について、観察・実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。					・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出

3		(1) 炭化水素や、官能基をもつ有機化合物の性質や反応に関する事物・現象に関心を持ち、その構造や性質、反応性について意欲的に探究しようとする。 (2) 有機化合物について観察・実験を行うとともに、それらを日常生活に関連付けて探究しようとする。 (3) 官能基をもつ有機化合物の性質や反応性が、その構造に特徴づけられることを見出し、構造異性体を論理的に考察する。 (4) 構造式からその性質や反応性を考察、判断できる。 (5) 有機化合物に関する観察・実験の基本操作や記録の仕方を習得し、適切な実験器具の選定や実験操作が身に付いている。 (6) 観察・実験の過程から、自らの考えを導き出し、報告書を作成したり、発表したりする。 (7) 有機化合物の分類とその反応性との関係や構造異性体の関係を理解し、知識を身に付けている。 (8) 代表的な官能基の性質に対する知識を身に付けている。 (9) 有機化合物の性質や反応性について、日常生活に関連付けて理解している。	○	○	○	○	○	・実験報告書 ・小テスト ・定期考査
---	--	--	---	---	---	---	---	---

令和5年度 シラバス

教科名	理科	科目名	生物基礎	単位数	3	学科・コース	普通科	学年	1	クラス	2
教科書 (出版社)	高等学校生物基礎 (数研出版)										

1 学習の目標

目 標	生物や生物現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）日常生活や社会との関連を図りながら，生物や生物現象について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】 （２）自然の事物・現象の中に問題を見いだし，見通しをもって観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。【思考力、判断力、表現力等】 （３）生物や生物現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】
-----	---

2 学習計画

◎記録に残す評価

学期	月	単元名	育成を目指す資質・能力 評価規準（達成目標）		学習項目	学習内容	知	思	態	備考（観察・実験や指導上の留意点）	評価方法	時数
1	4	第1章 生物の特徴	知識・技能	生物の特徴について、生物の共通性と耐用性、生物とエネルギーの概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	1. 生物の多様性と共通性	生物の多様性		○	○		授業態度	1
						生物の共通性と多様性の起源		○			発問評価	2
						細胞の構造にみられる共通性		◎			定期考査	4
						顕微鏡の操作	◎				実験レポート	1
						観察 植物細胞の観察と長さの測定	○					2
						観察 原核細胞、真核細胞の観察	○					2
	5		思考 判断 表現	生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。	2. 細胞とエネルギー	代謝とエネルギー、ATP	○					2
						代謝と酵素	◎		○			2
						実験 酵素カタラーゼの特性	○	○				1
						光合成	○					2
						観察 葉緑体の観察	○	○				1
						呼吸	○					2
	6		主体的に学習 に取り組む態度	生物の特徴に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		ミトコンドリアと葉緑体の起源	○					1
						酵素の特性		◎				2
	7	第2章 遺伝子とその働き	知識・技能	遺伝情報とその働きについて、遺伝情報とDNA、遺伝情報とタンパク質の合成の概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	1. 遺伝子の本体の構造	遺伝子の本体-DNA	○					2
						DNAの構造	○					2
						実験 DNAの抽出	○					1
						演習 DNA分子モデルの作製			◎			3
					2. 遺伝情報の複製と分配	細胞周期		○				2
						観察 細胞周期の観察	○					2

2	9	思考 判断 表現	遺伝情報とその働きについて、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。	3. 遺伝情報とタンパク質	遺伝情報とタンパク質	○				授業態度 発問評価 定期考査 実験レポート	2	
		主体的に学習 に取り組む態 度	遺伝情報とその働きに関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		タンパク質			○			2	
	10	知識・技能	神経系と内分泌系による調整と免疫について、体内環境維持の仕組みや免疫の概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	1. 体液とその働き	体液と物質の輸送	○					3	
					体液成分の濃度調節	◎					3	
	11	思考 判断 表現	神経系と内分泌系による調整と免疫について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。	2. 体内環境の維持のしくみ	観察　ブタの腎臓の観察	○					1	
					肝臓の働き	○	○				2	
	12	主体的に学習 に取り組む態 度	神経系と内分泌系による調整と免疫に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	3. 生体防御	自律神経系の働きと構造	○					2	
					内分泌系による調節	○					4	
	3	1	知識・技能	植生と遷移について、植生と遷移の概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	1. 植生と遷移	自律神経系と内分泌系による調節	○					2
						皮膚や粘膜での物理的・科学的な防御		○				1
		2	思考 判断 表現	植生と遷移について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。	2. バイオームとその分布	免疫に関わる細胞と器官	○					1
						自然免疫	○					2
3		主体的に学習 に取り組む態 度	植生と遷移に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	1. 生態系	獲得免疫	○				3		
					自然免疫と獲得免疫の特徴	◎				2		
3		知識・技能	生態系とその保全について、生物の多様性、生態系のバランスと保全の概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	2. 生態系のバランスと保全	免疫に関する身近な疾患		◎			2		
					免疫と医療			◎		1		
3		思考 判断 表現	生態系とその保全について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。		植生	○				3		
					植生の遷移	○				2		
3		主体的に学習 に取り組む態 度	生態系とその保全に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		バイオーム	○		○		授業態度	2	
					世界のバイオーム	○				発問評価	2	
3	知識・技能	生態系とその保全について、生物の多様性、生態系のバランスと保全の概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。		日本のバイオーム	○				定期考査	2		
				探究　葉の形態に及ぼす光の影響		◎			探究レポート	2		
3	思考 判断 表現	生態系とその保全について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。										
3	主体的に学習 に取り組む態 度	生態系とその保全に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		生態系の成り立ち	○				2			
				生態系内の物質循環とエネルギーの流れ	◎				2			
3	知識・技能	生態系とその保全について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。		生態系のバランス	○				2			
				人間活動による生態系への影響		◎			4			
3	思考 判断 表現	生態系とその保全について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。		生態系の保全			◎		3			
3	主体的に学習 に取り組む態 度	生態系とその保全に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。										
3	知識・技能	生態系とその保全について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。										
3	思考 判断 表現	生態系とその保全について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。										
3	主体的に学習 に取り組む態 度	生態系とその保全に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。										

3 評価方法とその観点

下記の(1)～(5)の項目を，評価の観点別(知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度)に評価します。
[知識・技能]：[思考・判断・表現]：[主体的に学習に取り組む態度]＝1：1：1の割合で評価します。
各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。

(1)授業への取り組み

授業に対する姿勢，学習態度，生物への関心等で判断する。評価の観点のうち，特に関心・意欲・態度の項目を評価する。

(2)ノートの記載内容

授業内容を適切にまとめているか，科学的な思考ができているかなどを評価する。

(3)観察・実験等

観察・実験等を行い，レポートを書く。観察・実験に対する姿勢，予想や考察，器具の操作，報告書などから評価する。評価の観点のうち，知識・技能，思考・判断・表現に関する配分が大きい。

(4)教科書・問題集の問題

各問題への取り組み，取り組んだ内容から評価する。

(5)中間・定期考査

学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち，知識・技能，思考・判断・表現に関する配分がもっとも大きい。

4 学習のアドバイス等

- 1 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち，その法則性について考える態度をもつこと。
- 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- 3 学んだことをより正確に記録する方法と態度を身につけること。

令和5年度 シラバス

教科名	理科	科目名	生物基礎	単位数	3	学科・コース	普通科	学年	2	クラス	2
教科書 (出版社)	高等学校生物基礎 (数研出版)										

1 学習の目標

目 標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】 (2) 自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。【思考力、判断力、表現力等】 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】
-----	--

2 学習計画

◎記録に残す評価

学期	月	単元名	育成を目指す資質・能力 評価規準（達成目標）		学習項目	学習内容	知	思	態	備考（観察・実験や指導上の留意点）	評価方法	時数
1	4	第1章 生物の特徴	知識・技能	生物の特徴について、生物の共通性と耐用性、生物とエネルギーの概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	1. 生物の多様性と共通性	生物の多様性		○	○		授業態度	1
						生物の共通性と多様性の起源		○			発問評価	2
						細胞の構造にみられる共通性		◎			定期考査	4
						顕微鏡の操作	◎				実験レポート	1
						観察 植物細胞の観察と長さの測定	○					2
						観察 原核細胞、真核細胞の観察	○					2
	5		思考 判断 表現	生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。	2. 細胞とエネルギー	代謝とエネルギー、ATP	○					2
						代謝と酵素	◎		○			2
						実験 酵素カタラーゼの特性	○	○				1
						光合成	○					2
						観察 葉緑体の観察	○	○				1
						呼吸	○					2
	6		主体的に学習 に取り組む態度	生物の特徴に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		ミトコンドリアと葉緑体の起源	○					1
						酵素の特性			◎			2
	7	第2章 遺伝子とその働き	知識・技能	遺伝情報とその働きについて、遺伝情報とDNA、遺伝情報とタンパク質の合成の概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	1. 遺伝子の本体の構造	遺伝子の本体-DNA	○					2
						DNAの構造	○					2
						実験 DNAの抽出	○					1
					2. 遺伝情報の複製と分配	演習 DNA分子モデルの作製			◎			3
						細胞周期		○				2
						観察 細胞周期の観察	○					2

2	9	思考 判断 表現	遺伝情報とその働きについて、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。	3. 遺伝情報とタンパク質	遺伝情報とタンパク質	○				授業態度 発問評価 定期考査 実験レポート	2	
		主体的に学習 に取り組む態 度	遺伝情報とその働きに関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		タンパク質			○			2	
	10	知識・技能	神経系と内分泌系による調整と免疫について、体内環境維持の仕組みや免疫の概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	1. 体液とその働き	体液と物質の輸送	○					3	
					体液成分の濃度調節	◎					3	
	11	思考 判断 表現	神経系と内分泌系による調整と免疫について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。	2. 体内環境の維持のしくみ	観察　ブタの腎臓の観察	○					1	
					肝臓の働き	○	○				2	
	12	主体的に学習 に取り組む態 度	神経系と内分泌系による調整と免疫に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	3. 生体防御	自律神経系の働きと構造	○					2	
					内分泌系による調節	○					4	
	3	1	知識・技能	植生と遷移について、植生と遷移の概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	1. 植生と遷移	自律神経系と内分泌系による調節	○					2
						皮膚や粘膜での物理的・科学的な防御		○				1
		2	思考 判断 表現	植生と遷移について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。	2. バイオームとその分布	免疫に関わる細胞と器官	○					1
						自然免疫	○					2
3		主体的に学習 に取り組む態 度	植生と遷移に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	1. 生態系	獲得免疫	○				3		
					自然免疫と獲得免疫の特徴	◎				2		
3		知識・技能	生態系とその保全について、生物の多様性、生態系のバランスと保全の概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	2. 生態系のバランスと保全	免疫に関する身近な疾患		◎			2		
					免疫と医療			◎		1		
3		思考 判断 表現	生態系とその保全について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。	1. 生態系	植生	○				3		
					植生の遷移	○				2		
3		主体的に学習 に取り組む態 度	生態系とその保全に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	2. 生態系のバランスと保全	バイオーム	○		○		授業態度	2	
					世界のバイオーム	○				発問評価	2	
3	知識・技能	生態系とその保全について、生物の多様性、生態系のバランスと保全の概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	1. 生態系	日本のバイオーム	○				定期考査	2		
				探究　葉の形態に及ぼす光の影響		◎			探究レポート	2		
3	思考 判断 表現	生態系とその保全について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。	2. 生態系のバランスと保全									
3	主体的に学習 に取り組む態 度	生態系とその保全に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	1. 生態系	生態系の成り立ち	○					2		
				生態系内の物質循環とエネルギーの流れ	◎					2		
3	知識・技能	生態系とその保全について、生物の多様性、生態系のバランスと保全の概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	2. 生態系のバランスと保全	生態系のバランス	○					2		
				人間活動による生態系への影響		◎				4		
3	思考 判断 表現	生態系とその保全について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。	1. 生態系	生態系の保全			◎			3		
3	主体的に学習 に取り組む態 度	生態系とその保全に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	2. 生態系のバランスと保全									
3	知識・技能	生態系とその保全について、生物の多様性、生態系のバランスと保全の概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	1. 生態系									
3	思考 判断 表現	生態系とその保全について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。	2. 生態系のバランスと保全									
3	主体的に学習 に取り組む態 度	生態系とその保全に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	1. 生態系									
3	知識・技能	生態系とその保全について、生物の多様性、生態系のバランスと保全の概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	2. 生態系のバランスと保全									
3	思考 判断 表現	生態系とその保全について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。	1. 生態系									
3	主体的に学習 に取り組む態 度	生態系とその保全に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	2. 生態系のバランスと保全									

3 評価方法とその観点

下記の(1)～(5)の項目を，評価の観点別(知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度)に評価します。
[知識・技能]：[思考・判断・表現]：[主体的に学習に取り組む態度]=1：1：1の割合で評価します。
各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。

(1)授業への取り組み

授業に対する姿勢，学習態度，生物への関心等で判断する。評価の観点のうち，特に関心・意欲・態度の項目を評価する。

(2)ノートの記載内容

授業内容を適切にまとめているか，科学的な思考ができているかなどを評価する。

(3)観察・実験等

観察・実験等を行い，レポートを書く。観察・実験に対する姿勢，予想や考察，器具の操作，報告書などから評価する。評価の観点のうち，知識・技能，思考・判断・表現に関する配分が大きい。

(4)教科書・問題集の問題

各問題への取り組み，取り組んだ内容から評価する。

(5)中間・期末考查

学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち，知識・技能，思考・判断・表現に関する配分がもっとも大きい。

4 学習のアドバイス等

- 1 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち，その法則性について考える態度をもつこと。
- 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- 3 学んだことをより正確に記録する方法と態度を身につけること。

令和5年度 生物 シラバス

教科	科目名	単位数	科(学年)	必・選(授業形態)	
理科	生物	4	普通科3年	選択	
教科書	東京書籍 スタンダード生物		副教材	なし	

【学習の到達目標】

- 1 「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象を更に広範囲に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けさせる。
- 2 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観を育てる。
- 3 観察・実験を通して自然を科学的に探究する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。
- 4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。

【評価の観点】

関心・意欲・態度	授業を積極的な態度で受けているか、実験実習も意欲的に取り組んでいるかなど授業態度を評価する。
技能・表現	実験実習では、支持された手順に沿ってきちんと行うことができるか、また質問事項に対して自分の考えを正確に表現できるか評価する。
思考力・判断力	与えられた課題や科学的な思考を問う内容を、理論立ててきちんと理解できるか、また適切な判断を下せるか評価する。
知識・理解	教科書の基礎基本事項を正確に理解し、覚えられるかペーパーテストで確認する。

【評価方法】

評価の方法	割合	具体的な評価の方法など
(1) 定期テスト	60%	テスト内容は授業で活用した教科書、プリント等で紹介した練習問題などから作問する。
(2) 提出物 (ノート・課題等)	30%	各単元の終了毎にノートや課題の提出を求める。 ノート：授業で配布したプリントは指示通り整理されているか。 課題：単元毎の練習問題やレポートなどを課す。
(3) 授業態度	10%	①学習用品・教科書の持参 ②授業への集中の程度 ③発問への応答の有無など。

【おすすめの学習方法・アドバイスなど】

①授業を大切にしよう。

自分で一から勉強するのはとても大変です。授業をしっかりと聞いて、自分なりにノートをまとめましょう。

②テスト勉強は特にしっかりやろう。

日頃の学習の確認として中間・期末テストが実施されます。日頃の学習を理解した上で、テスト予想問題やプリントに含まれる確認・発展問題を解こう。

③最新の科学的な話題を収集しよう。

小論や面接では、ニュースで話題になる科学的な内容も質問されます。新聞の切抜きや先生の談話などにも重要な話が含まれます。進路に合わせた情報収集を心がけよう。

2 学習計画及び評価方法等

学 期	学習内容 (知識を深める● 発展○)	月	学習のねらい	考 査 範 囲	評価の観点 のポイント			
					関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	観 察 ・ 実 験 の 技 能	知 識 ・ 理 解
1 学 期	第1編 生命現象と物質							
	1章 生体物質と細胞		・細胞は、どのような成分によって構成されているのだろうか。細胞の構造とはたらきについて学習する。		○			
	1節 生物の体をつくる細胞とその構造	4	・細胞は、水や、タンパク質、脂質、炭水化物、核酸などの成分によって構成されている。真核細胞と原核細胞が共通にもつ細胞膜は生体膜と呼ばれ、膜内外の物質の拡散を防ぐはたらきなどをもつ。 ・身のまわりの動物や植物の細胞のうち、細胞に動きのあるものを観察する。	第 1 学 期 中 間 考 査		○	○	○
	観察実験1「細胞の構造の観察」 ●真核細胞内に含まれる構造体を分ける方法 ●細胞膜での水の移動		・真核細胞の細胞小器官には、遺伝情報やエネルギーの変換、タンパク質の合成、細胞の形の維持や貯蔵、細胞分裂などにかかわる構造がある。さまざまな細胞小器官が協調して相互にかかわり合いながらはたらいっている。				○	○
2 学 期	2章 生命現象を支えるタンパク質		・タンパク質は、生体内においてどのようなはたらきをしているのだろうか。生命現象を支えるタンパク質の構造やはたらきについて学習する。		○			
	1節 タンパク質の構造とはたらき ●タンパク質の修飾とはたらき ●タンパク質の立体構造の形成と立体構造の異常による病気	5	・タンパク質は、アミノ酸がペプチド結合したもので、立体構造を形成して特有のはたらきをもつ。タンパク質の立体構造が崩れることを変性という。変性したタンパク質は、そのはたらきを失う。		○			○
	2節 酵素としてはたらくタンパク質 ●酵素がはたらくことで反応が進みやすくなるのはなぜか		・酵素には、特定の基質のみと結合する基質特異性がみられる。また、酵素には最適温度や最適pHがあり、高温や極端なpHなどの条件下では、タンパク質が変性して失活する。活性をもつために、補酵素が必要な酵素もある。			○	○	○
	観察実験2「カタラーゼがはたらく条件を調べる」 ●洗剤に利用される酵素 ●生体内ではたらく酵素にはどのようなものがあるか ●酵素反応を阻害する物質 ●フィードバック調節に関する酵素		・ブタのレバー（肝臓）に含まれるカタラーゼ（酵素）がはたらく条件を調べ、無機触媒のはたらき方と比較する。				○	
	3節 輸送や情報伝達にかかわるタ		・細胞膜ではチャネルやポンプ、細胞内ではモータータ		○			○

ンパク質	ンパク質によって物質の輸送が行われている。細胞間での情報は、神経伝達物質やホルモンなどのリガンドが、細胞内や細胞膜に存在するタンパク質でできた受容体と結合することによって伝えられる。					
4節 免疫にかかわるタンパク質 ●数千万種類の抗体はどのようにしてつくられるのか	・免疫にかかわるMHCタンパク質やT細胞受容体、B細胞受容体は、タンパク質からなる。情報伝達物質のサイトカインや抗体としてはたらく免疫グロブリンもタンパク質からできている。		○		○	
5節 細胞接着にかかわるタンパク質	・細胞接着には、密着結合、固定結合、ギャップ結合がある。さらに固定結合には、密着結合、デスモソームによる結合、ヘミデスモソームによる結合がある。これらの結合には、細胞膜を貫通するタンパク質がかかわっている。				○	
3章 代謝とエネルギー	・生物の体内では、エネルギーの出入りを伴うさまざまな代謝が行われている。呼吸や光合成を中心に、代謝反応の流れやしきみについて学習する。	○				
1節 エネルギー変化と化学反応 ●酸化と還元	・同化や異化におけるエネルギーのやりとりはATPによる。同化に必要なエネルギーは、ATPの加水分解によって供給される。				○	
2節 呼吸 ●解糖系ではどのようにしてATPが つくられるのか ●還元型補酵素はどのようにして つくられるのだろうか	・呼吸では、呼吸基質の有機物が二酸化炭素と水に分解される。このとき、解糖系、クエン酸回路、電子伝達系の3つの過程を通してATPが合成される。呼吸基質によって、呼吸商はそれぞれ異なる。				○	
観察実験3「コハク酸脱水素酵素の実験」 ●食物に由来するさまざまな分子の呼吸経路	・クエン酸回路で、コハク酸脱水素酵素のはたらきを、メチレンブルーの色の変化を利用して観察する。			○		
3節 発酵と解糖 ●呼吸と発酵の両方を行う生物	・酸素を用いないATP合成には、アルコール発酵や乳酸発酵、解糖などがある。酸素を用いないATP合成は、酸素を用いる呼吸に比べてATP合成の効率がよくない。	○			○	
観察実験4「アルコール発酵を調べる実験」	・酵母菌がグルコースをエタノールと二酸化炭素に分解するはたらきを観察する。			○		
4節 光合成 ●光の吸収と色素の関係	・光合成の第1段階では、光エネルギーによりチラコイドで光化学反応と電子伝達が起こりATPとNADPHが生成される。第2段階では、これらを用いて、ストロマのカルビン・ベンソン回路でCO ₂ が固定され、有機物ができる。				○	
観察実験5「クロマトグラフィーによる光合成色素の分離実験」 ●C4植物とCAM植物ではどのように二酸化炭素を取り込むのだろうか	・光合成色素の抽出と分離を行い、どのような色素が存在するかを観察する。			○		
5節 窒素同化と窒素固定	・アミノ酸などの有機窒素化合物は、窒素同化により合		○		○	

3章 遺伝子の発現調節	出し、その塩基配列からタンパク質への転写、翻訳の暗号を読み解く。また、塩基配列の変化が及ぼす影響について考察する。	○	○	○
1節 転写開始の調節	●代謝産物によって転写が抑制される原核細胞のオペロンのしくみ ○ヌクレオソームはどのようにしてゆるむのか ●RNAポリメラーゼと基本転写因子のみで転写が開始されるのか	○	○	○
2節 遺伝子発現の調節	●転写の開始はどのようなしくみで調節されているのだろうか。また、分化した細胞が特有のタンパク質をもつのはなぜだろうか。遺伝子発現のしくみと細胞分化について学習する。 ●原核細胞では、リプレッサーとよばれる調節タンパク質がオペレーターに結合したり離れたりすることで転写を調節する。真核細胞では、基本転写因子などの調節タンパク質とRNAポリメラーゼがプロモーターに結合すると、転写が開始される。	○		○
観察実験8 「ユスリカの染色体の同定とパフの位置の探し出し」				
4章 バイオテクノロジー				
1節 目的の遺伝子を増やす	●制限酵素の名前の由来とその特徴 ●染色体上のどの部位の遺伝子が発現しているかを観察する。			○
2節 遺伝子の情報を解読する	●サンガー法とはどのようなしくみで行われているのだろうか ●電気泳動法 ●イヌの体の大きさを決める遺伝子は？ ●難病の克服に光を当てるゲノムの解析	○	○	○
3節 遺伝子を細胞内に導入する	●目的の遺伝子を切り取るには制限酵素が、DNAにつなぎ合わせるにはDNAリガーゼが用いられる。遺伝子の運び手（ベクター）としてプラスミドがよく使われる。 ●遺伝子の塩基配列を解読するサンガー法などの技術が開発され、この技術を応用した機器によるゲノム解析がヒト以外の生物でも行われている。これらの成果は、医療などの分野に有効であると考えられている。		○	○
4節 バイオテクノロジーの課題	●iPS細胞をつくり出す山中ファクター ○遺伝子の機能を抑制する方法 ●遺伝子を細胞内に導入する技術は、農作物の生産などにも利用されつつある。また、GFPと呼ばれるタンパク質は、遺伝子が発現する場所や時期を特定するのに使用されている。 ●大腸菌に蛍光タンパク質を合成するGFPの遺伝子をもつプラスミドを導入し、バイオテクノロジーにおける遺伝子組換えのしくみを理解する。 ●バイオテクノロジーは、今後も病気の治療などに寄与すると考えられている。しかし、その技術の実用化については、安全性や倫理的問題など、慎重に考えていかなければならない課題もある。	○	○	○
探究2 「パン酵母を利用した組換えDNA実験」			○	○
第3編 生殖と発生				

学 期	1 章 多様な個体が生じる有性生殖	9	・有性生殖では多様な個体が生じるのはなぜだろうか。細胞分裂、染色体、遺伝子などのさまざまな視点から学習する。 ・遺伝子は、決まった染色体の、遺伝子座と呼ばれる決まった位置に配置されている。卵や精子などの配偶子は、1組の染色体のセット(n)を運ぶ。2個の配偶子の接合で生じた配偶子(受精卵)は、2組の染色体のセット(2n)を受け継ぐ。 ・有性生殖では、減数分裂による相同染色体の分離と乗換えにより、遺伝的に多様な配偶子がつくられる。そして、多様な配偶子どうしが接合することで、さらに遺伝的に多様な個体が生じる。 ・ムラサキツユクサなどの花粉形成時の、減数分裂の過程を観察する。 ・別々の相同染色体にある独立している遺伝子は互いに干渉せずに配偶子が生じる。同じ染色体にある連鎖している遺伝子では、一部で組換えが起こり、新しい遺伝子の組み合わせをもつ配偶子が生じる。 ・連鎖している2対の対立遺伝子がどのように配偶子に受け継がれるかを考えてみよう。	第 2 学 期 中 間 考 査					
	1節 有性生殖と染色体								
	2節 多様性を生じる減数分裂								
	観察実験10「植物における減数分裂の観察」								
	3節 遺伝子と染色体								
	観察実験11「交配実験のシミュレーション」								
	●組換え価と染色体地図								
	2 章 動物の発生								
	1節 精子と卵の形成と融合								
	観察実験12「ウニの配偶子と受精の観察」								
	2節 発生の進み方		・生物が1個の細胞である受精卵から成体になる過程を発生という。動物の発生はどのように始まり、どのように進行するか学習する。 ・精子と卵は始原生殖細胞から生じ、体細胞分裂で数を増やしたあと、減数分裂を経てできるという共通点がある。受精は、先体反応や表層反応などが起こることによって進行する。 ・動物の卵と精子を観察する。受精の過程を観察する。						
	観察実験13「ウニの発生の観察」								
	3 章 動物の発生のしくみ		・動物の体は、受精卵から出発し、卵割→細胞の移動→3つの胚葉の形成→分化の過程を経てできていく。 ・受精卵の発生を観察することで、卵割や細胞の分化、形態形成を観察する。						
	1節 動物の体軸と軸形成								
	2節 胚の細胞の分化と器官形成		・動物の発生の過程ではどのようなしくみがはたっているのだろうか。両生類や昆虫類の発生のしくみについて学習する。 ・多くの動物の体づくりは、体軸の形成から始まる。細胞質決定因子の極性が情報となり、体軸を決める遺伝子がはたらく。 ・胚の細胞の分化を促進する要因の1つに誘導がある。近接する細胞からのシグナル分子によって、細胞の分化が進む。さまざまな領域が形成体としてはたらく誘導の連鎖が起こり、複雑な器官が形成される。 ・動物の区分けごとの形は、頭尾軸に沿って場所ごとに異なるホックス遺伝子がはたらくことで、それぞれの場所に特徴的な構造が形成される。						
	●イモリの胚の結紮実験								
	3節 動物の形を決める遺伝子								
	観察実験14「キイロショウジョウバエの胚の観察」								
	4節 発生研究の成果と応用								

4章 植物の発生									○
1節 被子植物の生殖と発生									○
観察実験15「被子植物の胚や種子の形成過程の観察」								○	
2節 花の形態形成のしくみ									○
●植物研究におけるシロイヌナズナ									
観察実験16「八重咲き植物の花の構造」									○
●Cクラスの遺伝子の欠損と八重咲きの花								○	○
探究3「カエルの発生の観察」									
探究4「花粉管の発芽・成長と精細胞の観察」									○
第4編 生物の環境応答									
1章 動物の刺激の受容と反応								○	
1節 刺激の受容から反応へ	10								○
2節 興奮の伝導と伝達									
●パッチクランプ法								○	○
●フグ毒	11								
3節 光・音・平衡感覚の受容のしくみ									
●音の高低を聞き分けるしくみ									○
●さまざまな感覚と受容器	12								
4節 中枢神経での情報処理									
●脳機能マッピング								○	○
観察実験17「反射の観察」									

5節 効果器としての骨格筋	合を行う。また、脊髄は、延髄や中脳とともに反射の中枢となる。					
2章 動物の行動	- 単純な刺激であっても、適刺激であれば、反射が起こる。被験者や自分の体を使い、反射を観察する。 - 効果器の代表的な器官には骨格筋がある。骨格筋は運動ニューロンから送られた興奮によって収縮する。この筋収縮は、アクチンフィラメントとミオシンフィラメントの間の滑り運動によって起こる。					○
1節 動物の行動をめぐる4つの「なぜ」	行動とは、生物を含む環境に対して、生物が反応したりはたらきかけたりする活動である。動物の行動が起こるしくみについて学習する。	○				
●生得的行動と習得的行動	動物の行動を科学的に解明するには、行動のしくみを指すメカニズム、行動が完成されるまでの変化を指す発達、行動の役割を指す機能、祖先の種からの行動の進化という4つの視点がある。		○			○
2節 動物の行動の例	- 動物の行動には定型的運動パターン、走性、反射、学習などがあり、それらは神経のはたらきによって生じる。刺激を伝える介在ニューロンの影響によって、これらの行動の組み合わせや変化が起こる。 - カイコガのフェロモンに対する行動を観察する。	○				○
観察実験18「カイコガのフェロモンに対する行動」						
●コウモリの反響定位とヤガの捕食回避行動						
●古典的条件付け～マウスの恐怖の学習～						○
3章 植物の環境応答						
1節 植物の一生にかかわる環境応答	移動能力をもたない植物は、周囲の環境の変化に応じた発生や成長などの調節がみられる。植物の一生をたどりながら、植物の環境応答とそのしくみについて学習する。	○				
2節 環境要因による発芽の調節	植物は、その一生のなかで、さまざまな環境の変化を感知し、発生や成長などを調節している。植物は、環境要因のなかでも特に重要な光を光受容体によって感知している。植物の発生や成長などの調節には、植物ホルモンと呼ばれる生理活性物質が大きな役割を担っている。					○
3節 栄養成長の調節	水、酸素、温度、光などの環境要因は、種子の発芽に影響を与える。種子の休眠や発芽には、植物ホルモンのアブシシン酸やジベレリンが関与しており、光による発芽の調節には光受容体のフィトクロムが関与している。					○
●幼葉鞘を使った光屈性の研究						
●植物ホルモンと植物細胞の分化	茎や根の成長は、オーキシンなどの複数の植物ホルモンによって調節されている。植物は光や重力などの刺激に対し、屈性と呼ばれる屈曲反応を示す。光屈性と重力屈性は、刺激を受ける側とその反対側とでオーキシンの分布が不均等になり、成長速度に差が生じることによって起こる。					○
4節 気孔の開閉の調節	気孔は、水の出入りによって孔辺細胞が変形することで開閉する。孔辺細胞での水の出入りは、光や乾燥などの環境要因に対して調節される。環境に合わせて気孔の開閉が調節されることで、外界とのガス交換を効	○				○
5節 花芽形成の調節						
●熟しにくいトマトをつくる						
●植物ホルモンの農業への利用						
6節 葉の老化の調節と紅葉・落葉のしくみ			○			

	観察実験19「エチレンによる落葉促進の観察」		率よく行くと同時に、水分が失われすぎること回避している。						○
	7節 ストレスに対する植物の応答		・多くの植物においては、連続した暗期の長短がフィトクロムなどの光受容体で感知され、花成ホルモンが作用することで花芽が形成される。こうした光周性と、温度条件による春化のしくみによって、花芽形成の時期は調節される。						
	探究5「弱電気魚の電気定位」		・葉が役目を終えたり、光合成に不都合な環境を迎えたりすると葉の老化が始まり、葉から養分が回収される。葉の老化が進むと、エチレンの作用により葉柄の付け根に離層が形成され、落葉が起こる。	○					○
	探究6「植物の環境応答の観察」		・エチレンが葉の葉柄に離層を形成することで、落葉を促進するようすを観察する。					○	
			・植物は、過度の乾燥、塩、低温などの環境ストレス、傷害や病原菌の感染によるストレスなどを受けると、ストレスに対する抵抗性を高めたり、損傷の拡大を防いだりするような応答を示す。						○
3 									

観察実験21「河川の流量の変化が及ぼす藻類の多様性」	たらず相利共生という関係もある。また、擬態をもつ被食者は、捕食者から逃れやすくなる。	○	○
3章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ	・多種の共存は、種間競争をいかに回避するかがポイントとなる。生態的地位の分割、捕食や攪乱による競争に強い種の抑制は、特に重要なしくみである。	○	○
1節 食物網と物質生産	・河川の流量は渇水期や豪雨のときに大きく変動する。この大きな流量の変化に伴って、河川の生物の数や種類は増減している。このような流量の変化に伴う攪乱が生物の数や種類に及ぼす影響を、川底の石に付着している藻類の観察を通して考えてみよう。	○	
●深海底の生態系	・生態系のなかでの有機物の生産やエネルギーの流れに対して、生物がどのようにかかわっているかについて学習する。		
2節 生態系の構造とエネルギーの流れ	・生態系のなかでの物質やエネルギーの流れは、食物網を通して起こっている。生産者によってつくられた有機物は、食物網を通して、より高次の栄養段階の消費者に受け渡される。		
観察実験22「生産構造図の作成」	・生産者の物質収支は、総生産量・純生産量・成長量など、消費者の物質収支は、同化量、生産量、成長量などでとらえることができる。		
4章 生態系と生物多様性	・身近な広葉草本型の植物群集とイネ科草本型の植物の生産構造図をつくる。	○	
1節 生物多様性とその意味	・生物多様性とは何だろうか。生態系のなかでの人間（ヒト）とほかの生物とのかかわりについて学習する。	○	
●人間活動の変化で増えすぎた野生動物	・生物多様性を考えるときには、種の多様性、遺伝的多様性、生態系の多様性という3つの視点が重要である。	○	
2節 生物多様性を減少させる要因	・生物多様性を減少させる要因は、生息地の面積の減少や分断化だけでなく、人間活動の変化に伴う、さまざまな要因が関与している。また、いったん個体数が減少すると、個体数が少ないこと自体が絶滅を加速させる要因となる。	○	
●外来生物を駆除するときの注意点	・雌と雄の1つがいの子を4匹産む生物がおり、親は子を産んだのちに死ぬこととする。もし、雌と雄の子が同数産まれ、すべての子がつがいをつくれれば、この生物は1世代あたり2倍に増える。しかし、偶然、産まれる子がすべて雌であったり雄であったり、つがい1つもできなかつたりすると、この生物は絶滅してしまう。そこで、基石をこの生物の個体に見立てて、絶滅がどれくらいの確率で起こるかを確かめてみよう。	○	
観察実験23「生物の絶滅と模擬実験」	・生物多様性や生態系を保全するには、生態系の成り立ちや、生物が減少しにくいしくみを科学的に分析し、生態系を適切に管理する必要がある。	○	
3節 生物多様性の保全と復元	・現在、地球上でみられる多種多様な生物は、どのよう	○	
●生物多様性を守る認証制度			
探究7「外来生物についての法律と外来生物の観察」			
第6編 生物の進化と系統			
1章 生命の起源と生物の変遷			
1節 生命の起源			
●自然発生説を否定する実験			
2節 地球環境の変化と真核生物の誕生			

		にして地球上に誕生し、現在までどのような変遷をたどってきたかについて学習する。							
3節 生物の変遷		・約38億年前の原始地球において、無機物から有機物の合成、代謝や遺伝を担う物質の獲得、細胞膜の形成などの化学進化を経て、生命は誕生したと考えられている。生命が誕生した場所は、海底の熱水噴出孔が有力な候補である。							○
●新生代の区分									
●顎の進化									
●生物の大量絶滅									
●始祖鳥は現生の鳥類の祖先ではない？		・生命が誕生してから約17億年もの間は、嫌気的な環境を利用する原核生物の多様化が進んだ。その後、酸素を発生させる光合成を行うシアノバクテリアの誕生・大繁殖により、海水中の酸素濃度が上昇した。その環境の変化が、呼吸により効率よくエネルギーを獲得できる真核生物の誕生につながったと考えられている。							○
4節 人類の変遷		・真核生物は、さまざまな環境要因（酸素濃度、気温、乾燥、重力など）に適応し、進化して多様化をとげた。一方で、三葉虫や恐竜のように多くの生物が絶滅した。脊椎動物の四肢や種子植物の種子など、現生の生物がもつ形態は進化の過程でつくられた。							
観察実験24「脳容積の測定」									
●この絵は誤っているのだろうか？									○
●私たちの祖先と共存していたフローレス原人の発見									○
2章 進化のしくみ									
1節 進化		・人類は類人猿と異なり、直立二足歩行、横に広い骨盤、小さな犬歯などの特徴をもつ。人類の進化は直線的なものではなく、絶滅や多様化を経て、約20万年前のアフリカでヒト（ホモ・サピエンス）の祖先が誕生した。	○						○
2節 生物の個体間の変異とその起源		・頭の大きさからヒトの脳容積を推定し、人類やほかの哺乳類の脳容積と比較して、人類の進化について考える。							○
●染色体レベルで起こる突然変異と遺伝子重複と進化									
3節 遺伝子頻度とその変化のしくみ									
●ガラパゴスフィンチのくちばしにはたらいた自然選択									
観察実験25「遺伝子浮動による遺伝子頻度変化のシミュレーション」		・進化とは、一般に、生物の形質が世代を経るにつれて変化していくことである。進化はどのようなしくみで起こるかについて学習する。	○						
4節 種分化		・進化とは、1世代内で起こる1個体の変化ではなく、世代を経て集団に起こる遺伝的な変化と定義される。							○
		・進化の材料となる遺伝的変異は、生殖細胞に生じた突然変異によって起こる。突然変異のなかでも、染色体の乗換えの際に生じる遺伝子重複は進化に大きな影響を及ぼす。							○
3章 生物の系統									
1節 生物の系統と系統関係の推定									
●生物の名前と分類名		・進化は自然選択や遺伝的浮動によって生じ、自然選択は適応をもたらす。分子にみられる変異の多くは中立であり、遺伝的浮動により固定されることがある。種間のDNAの塩基配列やアミノ酸配列の違いを比較して分子系統樹をつくることができる。	○						○
2節 生物の世界の3ドメイン		・遺伝的浮動によって、無性生殖をする生物集団内の遺伝子頻度がどのように変化するかをシミュレーションする。							
●五界説									
●私たちの生活に身近な最近									
観察実験26「シダ植物の観察」									
探究8「自然選択による進化のしくみ」		・種とは、生殖的隔離を基準に区別される集団を指す。	○	○					○

		地理的隔離や突然変異などにより，2つの集団が生殖的に隔離され，種分化が起こる。種多様化は，共進化や適応放散などによって促進される。 • 生物が進化してきた道筋を系統という。さまざまな生物にはどのような系統関係があるのかについて学習する。 • 生物が進化してきた道筋（系統）の推定には，形態や発生様式も利用されるが，近年はDNAの塩基配列がおもに利用されている。生物の分類体系は，系統関係を反映するようになされている。 • 生物の世界は，細菌，古細菌，真核生物の3つのドメインからなる。すべての生物が共通してもつDNAの塩基配列を利用した分子系統の解析により，各ドメインにおいて系統関係を反映した分類が進められている。 • 胞子で繁殖するシダ植物を観察し，体のつくりなどを確認してみよう。	○				○
				○			○
						○	

英語科

令和5年度 英語コミュニケーションⅠ シラバス

学校名	辺土名高等学校	課程	全日	学科	自然環境科・普通科(4単位)
科目	英語コミュニケーションⅠ	使用教科書	COMET English CommunicationⅠ		
		副教材	COMET English CommunicationⅠ ベーシックノート		

科目の目標

(1)	(2)	(3)
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションの行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

◎その単元において特に重点化して指導し、記録に残す事項

○その単元において指導する事項

学期	学習項目	評価規準	領域					評価方法
			聞くこと	読むこと	「や話すこと」 り」と	「発表すること」	書くこと	
1 学期	Lesson 1 What Did You Do in Japan?	<知識・技能> ・動詞の過去形の用法に関する理解をもとに、各投稿者の日本での体験について書かれた文章を聞き取ったり、読み取る能力を身に付けている。 ・過去形を用いて、自分がきのうしたことについて、正しい英文を書く技能を身に付けている。	◎	◎	○		○	・授業での取り組み ・評価問題 ・ワークシート
		<思考・判断・表現> ・各投稿者の日本での体験について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・自分の気持ちや考えを伝えるために、過去形を用いて短い英文を書いたり、ペアで話し合ったりしている。	◎	◎	○		○	・ワークシート
		<主体的に学習に取り組む態度> ・各投稿者の日本での体験について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・自分の気持ちや考えを伝えるために、過去形を用いて短い英文を書いたり、ペアで話し合ったりしようとしている。	◎	◎	○		○	・取り組み状況 ・ワークシート
	Lesson 2 When Do You Feel Happy?	<知識・技能> ・動詞の進行形の用法に関する理解をもとに、ダンスについてのダイキとアナの会話を聞き取ったり、読み取る能力を身に付けている。 ・進行形を用いて、昨晚の行動について、正しい英文を書く技能を身に付けている。	○	○	◎	◎	○	・授業での取り組み ・評価問題 ・ワークシート
		<思考・判断・表現> ・ダイキが熱中していることやその理由について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・自分の好きなことを発表するために、情報や考えを整理して書いている。		○	◎	◎	○	パフォーマンス課題 (プレゼンテーション、Q&A)
		<主体的に学習に取り組む態度> ・ダイキが熱中していることやその理由について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・自分の好きなことを発表するために、情報や考えを整理して書こうとしている。	○	○	◎	◎	○	・取り組み状況 ・ワークシート
	Lesson 3 Onigiri Goes Overseas	<知識・技能> ・助動詞の用法に関する理解をもとに、おにぎりの海外での人気について書かれた文章を聞き取ったり、読み取る能力を身に付けている。 ・助動詞を用いて、自分ができることについて、正しい英文を書く技能を身に付けている。	○	○		◎	◎	・授業での取り組み ・評価問題 ・ワークシート
		<思考・判断・表現> ・おにぎりの海外での人気とその理由について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・日本の文化について発表するために、情報や考えを整理して書いている。		○		◎	◎	パフォーマンス課題 (ポスター作成とプレゼンテーション)
		<主体的に学習に取り組む態度> ・おにぎりの海外での人気とその理由について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・日本の文化について発表するために、情報や考えを整理して書こうとしている。	○	○		◎	◎	・取り組み状況 ・ワークシート
	Lesson 4 Pictograms	<知識・技能> ・to-不定詞の用法に関する理解をもとに、ピクトグラムについて書かれた文章を聞き取ったり、読み取る能力を身に付けている。 ・to-不定詞を用いて、今週末にやりたいことについて、正しい英文を書く技能を身に付けている。	◎	◎			○	・授業での取り組み ・評価問題 ・ワークシート
		<思考・判断・表現> ・ピクトグラムについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・身の回りにあるピクトグラムについて、情報や考えを整理してクイズを出題したり、クラスメートのクイズを聞いて質問や答えを伝えあったりしている。	◎	◎	○		○	・ワークシート
		<主体的に学習に取り組む態度> ・ピクトグラムについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・身の回りにあるピクトグラムに関するクイズを出題するために、情報や考えを整理して書こうとしている。	◎	◎	○		○	・取り組み状況 ・ワークシート

2 学期	Lesson 5 Morita Yuko Hospital Facility Dog Handler	<知識・技能> ・動名詞の用法に関する理解をもとに、ファシリテッドッグやハンドラーの仕事についての森田優子さんのインタビューを聞き取ったり、読み取る能力を身につけている。 ・動名詞を用いて、この前の日曜に自分が楽しんだことについて、正しい英文を書く技能を身につけている。	○	○	◎		◎	・授業での取り組み ・評価問題 ・ワークシート
		<思考・判断・表現> ・ファシリテッドッグやハンドラーの仕事について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・興味のある職業について、情報や考えを整理して発表したり、教師からの質問に答えたりしている。	○	○	◎		◎	パフォーマンス課題 (ライティング、インタビューテスト)
		<主体的に学習に取り組む態度> ・ファシリテッドッグやハンドラーの仕事について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・興味のある職業について、情報や考えを整理して発表したり、教師からの質問に答えたりしている。	○		◎		◎	・取り組み状況 ・ワークシート
	Lesson 6 Convenience Stores: Keys to Their Success	<知識・技能> ・that節の用法に関する理解をもとに、コンビニエンスストアの成功のかぎについて書かれた文章を聞き取ったり、読み取る能力を身につけている。 ・自分の好きな店やよく行く店について、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて書く技能を身につけている。	○	◎			◎	・授業での取り組み ・評価問題 ・ワークシート
		<思考・判断・表現> ・コンビニエンスストアの成功のかぎについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・自分の好きな店やよく行く店を発表するために、情報や考えを整理して書いている。		◎			◎	パフォーマンス課題 (パンフレット作成)
		<主体的に学習に取り組む態度> ・コンビニエンスストアの成功のかぎについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・自分の好きな店やよく行く店を発表するために、情報や考えを整理して書こうとしている。	○	◎			◎	・取り組み状況 ・ワークシート
	Lesson 7 High School Aquarium	<知識・技能> ・現在完了形の用法に関する理解をもとに、高校の水族館部の活動や将来設計についての生徒のインタビューを聞き取ったり、読み取る能力を身につけている。 ・自分たちの学校を海外に紹介するために、有名なところやアピールポイントについて、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて書く技能を身につけている。	○	○		◎	◎	・授業での取り組み ・評価問題 ・ワークシート
		<思考・判断・表現> ・高校の水族館部の活動について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・自分たちの学校を海外に紹介するために、情報や考えを整理して発表している。		○		◎	◎	パフォーマンス課題 (ビデオ作成)
		<主体的に学習に取り組む態度> ・高校の水族館部の活動について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・自分たちの学校を海外に紹介するために、情報や考えを整理して発表しようとしている。		○		◎	◎	・取り組み状況 ・ワークシート
	Lesson 8 Smart Farming	<知識・技能> ・受け身の用法に関する理解をもとに、スマート農業の具体例や利点について書かれた文章を聞き取ったり、読み取る能力を身につけている。 ・生活を快適にするテクノロジーや、それを用いた製品について、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて書いたり、質問に答えたりする技能を身につけている。	◎	◎			○	・授業での取り組み ・評価問題 ・ワークシート
		<思考・判断・表現> ・スマート農業について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・生活を快適にするテクノロジーや、それを用いた製品を発表するために、情報や考えを整理して書いたり、質問に答えている。	◎	◎	○		○	パフォーマンス課題 (インタビューテスト)
		<主体的に学習に取り組む態度> ・スマート農業について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・生活を快適にするテクノロジーや、それを用いた製品を発表するために、情報や考えを整理して書いたり、質問に答えようとしている。	◎	◎	○		○	・取り組み状況 ・ワークシート
3 学期	Lesson 9 Food Waste	<知識・技能> ・比較表現の用法に関する理解をもとに、世界の食糧問題や食品廃棄が起こる原因、日本の食糧事情などについて書かれた文章を聞き取ったり、読み取る能力を身につけている。 ・食品廃棄を減らすために自分ができる取り組みについて、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて書く技能を身につけている。	◎	○	◎			・授業での取り組み ・評価問題 ・ワークシート
		<思考・判断・表現> ・食品廃棄の問題について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・食品廃棄を減らすために自分ができる取り組みについて、情報や考えを整理して発表したり、クラスメートの発表を聞いて理解している。	◎	○	◎			・グループディスカッション
		<主体的に学習に取り組む態度> ・食品廃棄の問題について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・食品廃棄を減らすために自分ができる取り組みについて、情報や考えを整理して発表したり、クラスメートの発表を聞いて理解しようとしている。	◎		◎			・取り組み状況 ・ワークシート
	Lesson 10 William and His Windmill	<知識・技能> ・関係代名詞の用法に関する理解をもとに、ウィリアムが風車を完成させるまでの経緯や、その後彼に起こったことについて書かれた文章を読み取る能力を身につけている。 ・地域のために自分なら何ができるかについて、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて書く技能を身につけている。	○	○		◎	◎	・授業での取り組み ・評価問題 ・ワークシート
		<思考・判断・表現> ・ウィリアム・カムクワンプバが成し遂げたことについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・自分の好きな事や得意なことと地域のために自分なら何ができるかを発表するために、情報や考えを整理して書いている。	○	○		◎	◎	パフォーマンス課題 (ポスター作成とプレゼンテーション)
		<主体的に学習に取り組む態度> ・ウィリアム・カムクワンプバが成し遂げたことについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・地域のために自分なら何ができるかを発表するために、情報や考えを整理して書こうとしている。	○	○		◎	◎	・取り組み状況 ・ワークシート

令和5年度 英語コミュニケーションⅠ シラバス

学校名	辺士名高等学校	課程	全日	学科	自然環境科・普通科(4単位)
科目	英語コミュニケーションⅡ	使用教科書	COMET English Communication Ⅱ		
		副教材	COMET English Communication Ⅱ パーシックノート		

科目の目標

(1)	(2)	(3)
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションの行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などのを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

◎その単元において特に重点化して指導し、記録に残す事項

○その単元において指導する事項

学期	学習項目	評価規準	領域					評価方法
			聞くこと	読むこと	「 」 や話すこと と り と	「 」 話すこと と 表現	書くこと	
1 学期	Lesson 1 Places Worth Visiting 【SDGs 15】	<知識・技能> a. 疑問詞＋to-不定詞に関する事項を理解している。 b. 疑問詞＋to-不定詞の用法に関する理解をもとに、岩合氏のアフリカでの体験やネコを撮影するコツについて書かれた文章を読み取る能力を身につけている。 c. アフリカ旅行や写真を撮ることなどについて、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身につけている。	◎	◎	○		○	・授業での取り組み ・評価問題 ・ワークシート
		<思考・判断・表現> a. タイキとエラの旅先での体験について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 b. 本文の内容に関連して、屋久島や旅行について、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。	○	○	○		○	・ワークシート
		<主体的に学習に取り組む態度> a. タイキとエラの旅先での体験について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 b. 本文の内容に関連して、屋久島や旅行について、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとしている。	○	○	○		○	・取り組み状況 ・ワークシート
	Lesson 2 Iwago Mitsuaki: Animal Photographer	<知識・技能> a. 疑問詞＋to-不定詞に関する事項を理解している。 b. 疑問詞＋to-不定詞の用法に関する理解をもとに、岩合氏のアフリカでの体験やネコを撮影するコツについて書かれた文章を読み取る能力を身につけている。 c. アフリカ旅行や写真を撮ることなどについて、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身につけている。	◎	◎			○	・授業での取り組み ・評価問題 ・ワークシート
		<思考・判断・表現> a. 岩合氏のアフリカでの体験やネコを撮影するコツについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 b. 本文の内容に関連して、アフリカ旅行や写真を撮ることなどについて、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。	◎	◎	○		○	・ワークシート
		<主体的に学習に取り組む態度> a. 岩合氏のアフリカでの体験やネコを撮影するコツについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 b. 本文の内容に関連して、アフリカ旅行や写真を撮ることなどについて、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとしている。	◎	◎			○	・取り組み状況 ・ワークシート
	Lesson 3 The Haka	<知識・技能> a. 分詞に関する事項を理解している。 b. 分詞の用法に関する理解をもとに、ハカについて書かれた文章を読み取る能力を身につけている。 c. ハカや客をもてなすことなどについて、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身につけている。	○	○		◎	◎	・授業での取り組み ・評価問題 ・ワークシート
		<思考・判断・表現> a. ハカについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 b. 本文の内容に関連して、ハカや客をもてなすことなどについて、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。		○		◎	◎	パフォーマンス課題 (プレゼンテーション)
		<主体的に学習に取り組む態度> a. ハカについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 b. 本文の内容に関連して、ハカや客をもてなすことなどについて、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとしている。	○	○		◎	◎	・取り組み状況 ・ワークシート
	Lesson 4 Digital Detox	<知識・技能> a. if節・疑問詞節に関する事項を理解している。 b. if節・疑問詞節の用法に関する理解をもとに、デジタル機器の使い過ぎによる問題とデジタルデトックスについて書かれた文章を読み取る能力を身につけている。 c. デジタル機器の使用やデジタルデトックスキャンプなどについて、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身につけている。	○	○	○		○	・授業での取り組み ・評価問題 ・ワークシート
		<思考・判断・表現> a. デジタル機器の使い過ぎによる問題とデジタルデトックスについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 b. 本文の内容に関連して、デジタル機器の使用やデジタルデトックスキャンプなどについて、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。	○	○	◎		◎	・ワークシート (グループワーク)
		<主体的に学習に取り組む態度> a. デジタル機器の使い過ぎによる問題とデジタルデトックスについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 b. 本文の内容に関連して、デジタル機器の使用やデジタルデトックスキャンプなどについて、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとしている。	○	○	◎		◎	・取り組み状況 ・ワークシート

2 学 期	Lesson 5 Goal Setting	<知識・技能> a. seem+to-不定詞に関する事項を理解している。 b. seem+to-不定詞の用法に関する理解をもとに、効果的な目標設定の3つの事例について書かれた文章を読み取る能力を身につけている。 c. 過去や現在の目標／吹奏楽や明日の目標／将来の目標について、学習した語彙や言語材料, TOOL BOXの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身につけている。	○	○	◎		◎	・授業での取り組み ・評価問題 ・ワークシート
		<思考・判断・表現> a. 目標設定において重要なことについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 b. 本文の内容に関連して、過去や現在の目標／吹奏楽や明日の目標／将来の目標について、学習した語彙や言語材料, TOOL BOXの語句を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。	○	○	◎		◎	パフォーマンス課題 (ライティング、インタビューテスト)
		<主体的に学習に取り組む態度> a. 目標設定において重要なことについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 b. 本文の内容に関連して、過去や現在の目標／吹奏楽や明日の目標／将来の目標について、学習した語彙や言語材料, TOOL BOXの語句を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとしている。	○		◎		◎	・取り組み状況 ・ワークシート
	Lesson 6 The High School Hair Salon【SDGs 4, 8】	<知識・技能> a. 助動詞+have+過去分詞に関する事項を理解している。 b. 助動詞+have+過去分詞の用法に関する理解をもとに、高校生美容室の活動内容や部員の思いについて書かれた文章を読み取る能力を身につけている。 c. 美容室や美容師として働くことなどについて、学習した語彙や言語材料, TOOL BOXの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身につけている。	◎	◎				・授業での取り組み ・評価問題 ・ワークシート
		<思考・判断・表現> a. 高校生美容室の活動内容や部員の思いについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 b. 本文の内容に関連して、美容室や美容師として働くことなどについて、学習した語彙や言語材料, TOOL BOXの語句を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。	◎	◎				・ワークシート
		<主体的に学習に取り組む態度> a. 高校生美容室の活動内容や部員の思いについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 b. 本文の内容に関連して、美容室や美容師として働くことなどについて、学習した語彙や言語材料, TOOL BOXの語句を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとしている。	◎	◎				・取り組み状況 ・ワークシート
	Lesson 7 You Can Make a Difference【SDGs 11, 12, 14】	<知識・技能> a. 過去完了形に関する事項を理解している。 b. 過去完了形の用法に関する理解をもとに、バリ島が抱えるプラスチックゴミの問題やメラティとイザベル姉妹によるBye Bye Plastic Bags計画について書かれた文章を読み取る能力を身につけている。 c. 自分の住んでいる町／環境に優しい製品／環境保護のボランティア計画などについて、学習した語彙や言語材料, TOOL BOXの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身につけている。	○	○		◎	◎	・授業での取り組み ・評価問題 ・ワークシート
		<思考・判断・表現> a. Bye Bye Plastic Bags計画について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 b. 本文の内容に関連して、自分の住んでいる町／環境に優しい製品／環境保護のボランティア計画などについて、学習した語彙や言語材料, TOOL BOXの語句を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。		○		◎	◎	パフォーマンス課題 (ビデオ作成)
		<主体的に学習に取り組む態度> a. Bye Bye Plastic Bags計画について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 b. 本文の内容に関連して、自分の住んでいる町／環境に優しい製品／環境保護のボランティア計画などについて、学習した語彙や言語材料, TOOL BOXの語句を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとしている。		○		◎	◎	・取り組み状況 ・ワークシート
	Lesson 8 Nudge	<知識・技能> a. 関係代名詞whatに関する事項を理解している。 b. 関係代名詞whatの用法に関する理解をもとに、ナッジについて書かれた文章を読み取る能力を身につけている。 c. ナッジの効果や公共の場の掲示などについて、学習した語彙や言語材料, TOOL BOXの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身につけている。	◎	◎				・授業での取り組み ・評価問題 ・ワークシート
		<思考・判断・表現> a. ナッジについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 b. 本文の内容に関連して、ナッジの効果や公共の場の掲示などについて、学習した語彙や言語材料, TOOL BOXの語句を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。	○	○				・ワークシート
		<主体的に学習に取り組む態度> a. ナッジについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 b. 本文の内容に関連して、ナッジの効果や公共の場の掲示などについて、学習した語彙や言語材料, TOOL BOXの語句を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとしている	○	○				・取り組み状況 ・ワークシート
	Lesson 9 The Father of Braille Blocks【SDGs 3, 11】	<知識・技能> ・比較表現の用法に関する理解をもとに、世界の食糧問題や食品廃棄が起こる原因、日本の食糧事情などについて書かれた文章を聞き取ったり、読み取る能力を身につけている。 ・食品廃棄を減らすために自分ができる取り組みについて、学習した語彙や言語材料, TOOL BOXの語句を用いて書く技能を身につけている。	○	○	◎		○	・授業での取り組み ・評価問題 ・ワークシート
		<思考・判断・表現> ・食品廃棄の問題について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・食品廃棄を減らすために自分ができる取り組みについて、情報や考えを整理して発表したり、クラスメートの発表を聞いて理解している。	○	○	◎		○	・グループディスカッション
		<主体的に学習に取り組む態度> ・食品廃棄の問題について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・食品廃棄を減らすために自分ができる取り組みについて、情報や考えを整理して発表したり、クラスメートの発表を聞いて理解しようとしている。	○	○	◎			・取り組み状況 ・ワークシート

3 学 期	Lesson 10 Do We Need That? 【SDGs 11, 12】	<知識・技能> a. 使役動詞に関する事項を理解している。 b. 使役動詞の用法に関する理解をもとに、日本のサービスに対する留学生の考えについて書かれた文章を読み取る能力を身につけている。 c. 過剰包装／自動販売機／駅のアナウンスの必要性などについて、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身につけている。	○	○			◎	・授業での取り組み ・評価問題 ・ワークシート
		<思考・判断・表現> a. 日本のサービスに対する留学生の考えについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 b. 本文の内容に関連して、過剰包装／自動販売機／駅のアナウンスの必要性などについて、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。	◎	◎				・ワークシート
		<主体的に学習に取り組む態度> a. 日本のサービスに対する留学生の考えについて理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 b. 本文の内容に関連して、過剰包装／自動販売機／駅のアナウンスの必要性などについて、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとしている。	◎	◎				・取り組み状況 ・ワークシート
	Lesson 11 The Vancouver Asahi 【SDGs 8, 10, 16】	<知識・技能> a. 知覚動詞＋O＋動詞の原形／～ingに関する事項を理解している。 b. 知覚動詞＋O＋動詞の原形／～ingの用法に関する理解をもとに、日系カナダ人の暮らしやバンクーバー朝日の結成～消滅について書かれた文章を読み取る能力を身につけている。 c. 海外に住むこと／好きなスポーツチーム／日系カナダ人と太平洋戦争などについて、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身につけている。	○	○				・授業での取り組み ・評価問題 ・ワークシート
		<思考・判断・表現> a. 日系カナダ人の野球チーム バンクーバー朝日について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 b. 本文の内容に関連して、海外に住むこと／好きなスポーツチーム／日系カナダ人と太平洋戦争などについて、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。	◎	○				・ワークシート
		<主体的に学習に取り組む態度> a. 日系カナダ人の野球チーム バンクーバー朝日について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 b. 本文の内容に関連して、海外に住むこと／好きなスポーツチーム／日系カナダ人と太平洋戦争などについて、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとしている。	◎	○				・取り組み状況 ・ワークシート
	Lesson 12 From Small Companies to the World 【SDGs 8, 9】	<知識・技能> a. 仮定法に関する事項を理解している。 b. 仮定法の用法に関する理解をもとに、日本の小さな会社が開発した優れた製品や、開発に成功した理由について書かれた文章を読み取る能力を身につけている。 c. 新しい発明／水族館／海外市場への参入などについて、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて伝えたり、相手からの質問に答える技能を身につけている。	○	○			◎	・授業での取り組み ・評価問題 ・ワークシート
		<思考・判断・表現> a. 日本の小さな会社の開発力について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 b. 本文の内容に関連して、新しい発明／水族館／海外市場への参入などについて、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。	○	◎			◎	パフォーマンス課題 (プレゼンテーション)
		<主体的に学習に取り組む態度> a. 日本の小さな会社の開発力について理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 b. 本文の内容に関連して、新しい発明／水族館／海外市場への参入などについて、学習した語彙や言語材料、TOOL BOXの語句を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとしている。	○	◎			◎	・取り組み状況 ・ワークシート

令和5年度 SELECT English Conversation シラバス

対象教科・科目	単位数	学年・学級	必・選
英語会話	2	第3学年	必修
使用教科書・副教材等	SELECT English Conversation		

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1. 高校生が興味をもち楽しめる話題を通して、リスニングとスピーキングに重点を置くと同時に、情報や考えを理解する、自分の考えをまとめて発表するなど幅広くコミュニケーション活動する能力を身につけます。 2. 受動的な学習にとどまらず、自らが積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てます。 3. 異なる文化を理解し尊重する態度を育てます。
---------	---

2 英語会話の評価の観点、規準及び評価方法

	①関心・意欲・態度	②表現の能力	③理解の能力	④知識・理解
観 点	コミュニケーションに関心をもち、英語を聞いたり話したりして積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	日常生活の身近な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、発表したりして表現する。	日常生活の身近な話題について、英語を聞いて、情報や考えなど相手が伝えようすることを理解する。	日常生活の身近な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解している。
規 準	(ア) 言語活動への積極的な取り組み (イ) コミュニケーションを継続する努力	(ア) 正確さ（リズム・イントネーション・文法。情報の内容） (イ) 適切さ（場面や状況に応じた表現。声の大きさ、速さ）	(ア) 正確さ（リズム・イントネーション・文法などの知識の利用） (イ) 適切さ（場面や状況、目的に応じた聞き方）	(ア) 言語についての知識（リズム・イントネーション・文法。言語の働き。場面にふさわしい表現） (イ) 文化についての理解（円滑なコミュニケーションに必要なとされる文化についての理解）
評価 方法	a. 授業に対する意欲／b. 発表／c. 課題等の提出／d. 小テスト・定期考査			

3 学習計画及び評価方法等

	月	課	タイトル	内容	主な文法事項	配当 時間
1			スターになって自己紹介	自己紹介ゲーム		2
	4	1	New Friends はじめまして	興味あるものを言う	未来表現／不定詞（名詞用法）	4
	5	2	Free Time フリータイム	余暇について話す	現在形／過去形	4
		3	Are you okay? 元気？	体調や体調についてのアドバイスを話す	助動詞 should	4
	6		亜紀と拓の留学日記 1 The Host Family's House	海外生活・ホームステイ先でのあいさつを学ぶ		3
			Games in English 1: Square Game	英語でゲーム 1		3
		4	Our School 私たちの学校	学校について話す	There is/are～.	4
	7	5	Weather 天気・気候	天気・天候について話す	助動詞 will	4

2	9	6	TV Programs 好きな番組	自分の好みを言う	動名詞	4
			亜紀と拓の留学日記 2 Helping the Family	海外生活・ホームステイ先での日常会話を学ぶ		2
			Games in English 2: Guess What! Game	英語でゲーム 2		2
	10	7	Talking on a Cell Phone 携帯電話	都合をたずねる、待ち合わせをする（今話せるか、電源を切る、メールなど携帯電話特有の表現）	現在完了形	4
		8	Telling the Way 道案内	道をたずねる	S+V+O+O の文型	4
	11		亜紀と拓の留学日記 3 School Life	海外生活・学校での会話を学ぶ		2
		9	Kyoto 観光案内	乗り物での行き方をたずねる	How long ~ ?	4
	12	10	Shopping 買い物	欲しいものを買う	現在進行形／S+V+C の文型	4
3	1	11	Restaurant 食事	食事を注文する	不定詞（形容詞的用法）	4
	2		亜紀と拓の留学日記 4 Enjoying Holidays	海外生活・観光に必要な会話を学ぶ		2
			Games in English 3: Math Bingo Game	英語でゲーム 3		2
		12	Making a Plan 約束	誘う、誘いに応じる	Let's ~. Shall we ~?	4
	3	13	Future Jobs 将来やりたいこと	なりたい職業について話す	Why-Because／不定詞（副詞用法）	4
					合計	70

令和5年度 シラバス

教科	科 目 名	単位数	科 (学年)	必・選	
外国語	英語探究	2	普通科 (3)	必修科目	
使用教材		Watching Joyful (浜島書店)			

【教科 (科目) の目標】

1. 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。
2. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。
3. 教科書以外の他のメディアの英語を見たり、聞いたりして楽しむことができる。

【学習内容 (進路計画)】

	Lesson Title	内 容	Grammar ・ Function	3 学期制	時間
	Let's Interview Our Classmates!	クラスメートのインタビュー +他己紹介活動	—	1 学期	2
1	Yoasobi (人物)	「小説を音楽にするユニット」 YOASOBI	接続詞: because Because it rained, I~		4
2	American Football (スポーツ)	アメリカの国民的スポーツについて	比較最上級 the most~		4
3	MISO de SMILE (社会)	地元の味噌を伝える高校生のユニークな取り組みについて	want など+(人)+to-不定詞		4
	Video Clip [Lion King]	Disney「ライオンキング」の名シーンから英語を学ぶ	watching, listening understanding lines and acting out!		4
4	Oymyakon, the World's Coldest Village(世界)	世界一寒い村シベリアのオイミヤコンでの暮らし	Be 動詞以外の補語を捕る動詞 get, become~		4
5	Eco-Friendly Furniture (環境)	環境に優しい組み立て家具—組手什について	受動態 be 動詞+過去分詞		4
	Malala Speech	タリバンからの脅威に屈せず、銃撃から復活したマララの英語スピーチ	Listening and reading the speech script		2
6	Horigome Yuto: Skateboarder(人物)	スケートボードの金メダリスト堀米雄斗選手について	動名詞をとる動詞: enjoy, finish, mind		4
7	Holi, the World's Most Colorful Festival(世界)	世界一カラフルな祭り、ホーリー祭について	There 構文: there is~ there are~		4
8	Blackboard Art(文化)	見慣れた黒板が作品になる黒板アートについて	不定詞: to+動詞原型 「~するために」	2 学期	4
	Video Clip [Beauty & the Beast]	Disney[Beauty & the Beast]の名シーンから英語を学ぶ	watching, listening understanding lines and acting out!		4
9	Pictograms Go Beyond Borders(社会)	東京オリンピックで世界で初めて導入されたピクトグラムについて	接続詞: so that~ 「~するように」		4
10	Capybaras(動物)	カピバラの知られざる生態について学部	動詞: look, seem, sound 「~のように見える、思われる、聞こえ		4

			る」		
11	Green Curtains(環境)	楽しみながら節電できる緑のカーテンについて	接続詞:if If you want to enjoy flowers~		4
	Short Drama Shoes	ショートドラマのどんでん返しの結末を楽しむ	Watching &listening		2
12	Designing Sports Wheelchairs(社会)	パラアスリートを選手のコンディショニングやプレイングスタイル面から支える車いすについて学ぶ	動詞: start to, start ~ing 「～し始める」	3 学期	4
	Short Drama Daddy tells...	ちょっと悲しい切ない父と娘の物語	Watching &listening		2

【評価の観点及び趣旨】

関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行ない、コミュニケーションを図ろうとする。
表現の能力	外国語を用いて、情報や考えなどを伝えたいことを話したり、書いたりして表現する。
理解の能力	外国語を聞いたり、読んだりして、情報や話し手や書き手の意向など相手が伝えようとすることを理解する。
知識・理解	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。

【評価の方法】

評価の方法	割合	具体的な評価の方法など
(1)定期テスト	60～70%	授業で活用した教科書、プリント、副教材、練習問題等からテストを作問する。
(2)提出物 (ノート・プリント・課題等)	15～20%	板書事項がノートに書かれているか、プリントはファイルに綴って整理されているか、課題は提出されているかなどで提出物の評価をする。
(3)授業態度・小テスト	15～20%	学習用具（教科書、辞書など）の持参や授業の集中の程度、小テストの得点などで評価をする。

保健体育科

令和5年度 保健体育科「体育」シラバス

教科	科目	授業形態	
保健体育	体育	男女別授業 (種目によっては男女共習)	
対象科（学年）・単位数			
自然環境科（１）・２	普通科（１）・３	自然環境科（２）・２	普通科（２）・２

1. 教科(科目)の目標

- (1) 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができ、継続的に運動に親しむ力を育てる。
- (2) 生涯にわたって明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
- (3) 健康の保持増進のための実践力の育成・体力の向上を目指す。

2. 評価の観点と評価方法

	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点および内容	・運動技術のしくみと運動の学び方について理解できているか。 ・自己の能力と運動の特性に応じた課題解決をめざして運動を行い、技能を高めているか。	・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけ出しているか。 ・課題解決めざして、活動の仕方を考え工夫しているか。 ・健康や安全に留意して運動しようとしているか。	・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとしているか。 ・公正、協力、責任などの社会的態度が身についているか。
評価方法	・行動観察 ・技能テスト ・ルール理解テスト ・発表会	・行動観察 ・学習カード ・発表会	・行動観察 ・グループ活動 ・実技実践 ・学習カード

3. 年間計画

期	1学期				2学期				3学期		
月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
内容	オリエンテーション 体づくり運動 体育理論	水泳 球技(テニス、卓球)			武道 ダンス 郷土の踊り	陸上 持久走		球技(バスケットボール、バレーボール、サッカー、ソフトボール)			

5. 学習内容（進度計画）

時数	領域・種目	学習目標・学習内容	留意点
7 ・ 10	オリエンテーション 体づくり運動 体力テスト	・体育学習の意義や内容、評価の方法について理解する。 ・自分の体の状態を知り、身体をほぐしたり、体力を高める運動を行なう。また生活の中で実践できるようにする。	・自己の身体や動きに対する意識・知覚を養うよう学習を進める。
7 ・ 12	水泳	・自分の目標に応じた泳ぎ方をマスターし、速く泳いだり長く泳いだりすることができるようにする。 ・水泳の基礎・基本となる技能の習得をする。 ・自分の能力に合わせた練習をし、記録の向上の喜びや競泳を楽しむ。	・安全な水泳学習と教え合い学習をめざす。 ・各自の特性に応じた技能の習得を目指す。
7 ・ 12	テニス 卓球	・基本的なストロークやサービスを身につけ、簡易ゲームを行なうことができるようにする。 ・技能の向上を目指し、チームや個人で作戦を立て、それに応じたゲームができるよう工夫する。	・仲間で協力し合い、教え合い学習を目指す。 ・ルールやマナーを守り、フェアプレイを大切にしようとする態度を養う。 ・用具やボールを大切に扱うとともに、安全に十分配慮して学習する。
13 ・ 21	武道 ダンス 郷土の踊り	・武道は、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしながら、基本的な技を身につけることができるようにする。 ・ダンス・郷土の踊りは、みんなで楽しく踊ったりして交流し発表することができるようにする。いろいろな曲の振り付けをとらえリズムにのって踊る。	・伝統的な所作を大切にすることの態度を身につける。 ・各自の特性に応じた武道や舞踊の技を身につける。 ・安全面に十分に配慮して学習する。
10	陸上競技 長距離走	・自分の体力に応じて練習計画を立てたり、目標設定を行うことができるようにする。 ・自己に適したペースを維持して走り、目標タイムを達成できるようにする。 ・体力向上の成果を確認し競技会において自己の持てる能力を発揮できるようにする。	・走る距離は生徒の技能・体力の程度や気候等の状況に応じて弾力的に扱う。 ・安全に十分配慮した学習と教え合い学習をめざす。
22 ・ 38	バスケットボール バレーボール サッカー ソフトボール	・バスケットの基礎・基本の技術を理解し、簡単なルールでゲームを行いバスケットボールの楽しさを体験する。 ・技能の向上を目指し、チームや個人で作戦を立て、それに応じたゲームができるよう工夫する。 ・バレーボールの基礎・基本の技術を理解し、基本的なパスやサーブの技術を身に付ける。 ・チームの課題や自己の能力に応じて技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。 ・サッカーの基礎・基本の技術を理解し、簡単なルールでゲームを行いサッカーの楽しさを体験する。 ・チームの課題や自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習やゲームの仕方を工夫することができるようにする。 ・ソフトボールの基礎・基本の技術を理解し、基本的な送球や捕球の技術を身に付ける。 ・仲間とともに練習を工夫しながらチームや個人の特徴を生かした作戦やルールの工夫を通して、対抗戦を行なう。	<球技> ・仲間で協力し合い、教え合い学習を目指す。 ・ルールやマナーを守り、フェアプレイを大切にしようとする態度を養う。 ・用具やボールを大切に扱うとともに、安全に十分配慮して学習する。

令和5年度 保健体育科「体育」シラバス

教科	科目	対象科（学年）	単位数	授業形態
保健体育	体育	全科（3学年）	3	男女別授業 （種目によっては男女共習）

1. 教科（科目）の目標

- （1）運動の楽しさや喜びを深く味わうことができ、継続的に運動に親しむ力を育てる。
- （2）生涯にわたって明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
- （3）健康の保持増進のための実践力の育成・体力の向上を目指す。

2. 評価の観点と評価方法

評価の観点および内容		評価方法
a. 関心・意欲・態度	・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとしているか。 ・公正，協力，責任などの社会的態度が身についているか。	出席状況 授業態度 学習カード
b. 思考・判断	・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけ出しているか。 ・課題解決めざして，活動の仕方を考え工夫しているか。	行動観察 学習カード
c. 運動の技能	・自己の能力と運動の特性に応じた課題解決をめざして運動を行い、技能を高めているか。	行動観察 技能テスト 発表会
d. 知識・理解・表現	・運動技術のしくみと運動の学び方について理解できているか。 ・健康や安全に留意して運動しようとしているか。	行動観察 学習カード ルール理解テスト

4. 年間授業計画

期	1 学期				2 学期				3 学期		
月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
学習内容	オリエンテーション 体づくり運動 体育理論	水泳 球技：テニス、卓球			武道 ダンス 郷土の踊り		陸上 持久走	球技：バスケットボール、 バレーボール、 サッカー、 ソフトボール			

5. 学習内容（進度計画）

時数	領域・種目	学習目標・学習内容	留意点
1 0	オリエンテーション 体づくり運動 体力テスト	・体育学習の意義や内容、評価の方法について理解する。 ・自分の体の状態を知り、身体をほぐしたり、体力を高める運動を行なう。また生活の中で実践できるようにする。	・自己の身体や動きに対する意識・知覚を養うよう学習を進める。
1 2	水泳	・自分の目標に応じた泳ぎ方をマスターし、速く泳いだり長く泳いだりすることができるようにする。 ・水泳の基礎・基本となる技能の習得をする。 ・自分の能力に合わせた練習をし、記録の向上の喜びや競泳を楽しむ。	・安全な水泳学習と教え合い学習をめざす。 ・各自の特性に応じた技能の習得を目指す。
1 2	テニス 卓球	・基本的なストロークやサービスを身につけ、簡易ゲームを行なうことができるようにする。 ・技能の向上を目指し、チームや個人で作戦を立て、それに応じたゲームができるよう工夫する。	・仲間で協力し合い、教え合い学習を目指す。 ・ルールやマナーを守り、フェアプレイを大切にしようとする態度を養う。 ・用具やボールを大切に扱うとともに、安全に十分配慮して学習する。
2 1	武道 ダンス 郷土の踊り	・武道は、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしながら、基本的な技を身につけることができるようにする。 ・ダンス・郷土の踊りは、みんなで楽しく踊ったりして交流し発表することができるようにする。いろいろな曲の振り付けをとらえリズムにのって踊る。	・伝統的な所作を大切にする態度を身につける。 ・各自の特性に応じた武道や舞踊の技を身につける。 ・安全面に十分に配慮して学習する。
1 0	陸上競技 長距離走	・自分の体力に応じて練習計画を立てたり、目標設定を行うことができるようにする。 ・自己に適したペースを維持して走り、目標タイムを達成できるようにする。 ・体力向上の成果を確認し競技会において自己の持てる能力を発揮できるようにする。	・走る距離は生徒の技能・体力の程度や気候等の状況に応じて弾力的に扱う。 ・安全に十分配慮した学習と教え合い学習をめざす。
2 8	バスケットボール バレーボール サッカー ソフトボール	・バスケットの基礎・基本の技術を理解し、簡単なルールでゲームを行いバスケットボールの楽しさを体験する。 ・技能の向上を目指し、チームや個人で作戦を立て、それに応じたゲームができるよう工夫する。 ・バレーボールの基礎・基本の技術を理解し、基本的なパスやサーブの技術を身に付ける。 ・チームの課題や自己の能力に応じて技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。 ・サッカーの基礎・基本の技術を理解し、簡単なルールでゲームを行いサッカーの楽しさを体験する。 ・チームの課題や自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習やゲームの仕方を工夫することができるようにする。 ・ソフトボールの基礎・基本の技術を理解し、基本的な送球や捕球の技術を身に付ける。 ・仲間とともに練習を工夫しながらチームや個人の特徴を生かした作戦やルールの工夫を通して、対抗戦を行なう。	〈球技〉 ・仲間で協力し合い、教え合い学習を目指す。 ・ルールやマナーを守り、フェアプレイを大切にしようとする態度を養う。 ・用具やボールを大切に扱うとともに、安全に十分配慮して学習する。

令和5年度 保健体育「保健」シラバス

教科	科目名	単位数	対象科	学年
保健体育	保健	1	全科	1 学年
使用教科書 ・ 使用副教材				
第一学習社「高等学校保健体育」 ・ 第一学習社「高等学校保健体育ノート」				

1. 目標

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2. 評価の観点と評価方法

評価の観点	評価の内容	具体的な評価方法
a. 知識・技能	・ 個人生活や社会生活の健康や安全について、課題解決に役立つ知識を身につけているか。 ・ 適切な生活行動を選び、行動することや環境を改善していく努力が大切であることを理解しているか。	定期考査 授業参加の様子 学習ノート
b. 思考・判断・表現	・ 健康にかかわる事象や健康情報などから自他や社会の課題を発見し、よりよい解決に向けて考えることができるか。 ・ 様々な解決方法の中から適切な方法を選択するなどの判断をしたりするとともに、それらを他者に表現しようとしているか。	授業参加の様子 定期考査 学習ノート
c. 主体的に学習に取り組む態度	・ 自他の健康の保持増進を維持するために必要なことについて関心をもっているか。 ・ 自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもち、仲間と協力して資料を集めたり、積極的に意見交換しているか。	授業参加の様子 学習ノート 発表

5. 学習計画

期	月	単元	学習項目	学習内容
1 学 期	4	現代 社会と 健康	オリエンテーション 1. 健康の考え方	①保健学習に対する意識調査 ②わが国の健康水準の向上と変化する健康課題
	5		1. 健康の考え方 2. 現代の感染症とその予防	③健康の保持増進とヘルスプロモーション ①感染症の予防 ②性感染症とその予防
	6		3. 生活習慣病などの予防と回復	①生活習慣病の予防 ②食事と健康 ③健康と運動・休養・睡眠
	7		3. 生活習慣病などの予防と回復	④がんの発生 ⑤がんの発生とその予防
2 学 期	9		4. 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	①喫煙と健康 ②飲酒と健康
	10		4. 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	③薬物乱用とその予防（その１） ④薬物乱用とその予防（その２）
	11		5. 精神疾患の予防と回復	①脳と神経の働き ②欲求不満と適応機制
	12		5. 精神疾患の予防と回復	③心の健康と精神疾患
3 学 期	1	安全 な社会 生活	6. 安全な社会づくり	①交通事故と安全の確保 ②安全・安心な社会づくり
	2		7. 応急手当	①適切な応急手当の手順 ②心肺蘇生法の実践
	3		7. 応急手当	③日常的な応急手当

※学習単元・内容は、生徒の実態や社会情勢によって順序を入れ替える場合がある。

令和5年度 保健体育「保健」シラバス

教科	科目名	単位数	対象科	学年
保健体育	保健	1	全科	2 学年
使用教科書 ・ 使用副教材				
第一学習社「高等学校保健体育」 ・ 第一学習社「高等学校保健体育ノート」				

1. 目標

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2. 評価の観点と評価方法

評価の観点	評価の内容	具体的な評価方法
a. 知識・技能	・ 個人生活や社会生活の健康や安全について、課題解決に役立つ知識を身につけているか。 ・ 適切な生活行動を選び、行動することや環境を改善していく努力が大切であることを理解しているか。	定期考査 授業参加の様子 学習ノート
b. 思考・判断・表現	・ 健康にかかわる事象や健康情報などから自他や社会の課題を発見し、よりよい解決に向けて考えることができるか。 ・ 様々な解決方法の中から適切な方法を選択するなどの判断をしたりするとともに、それらを他者に表現しようとしているか。	授業参加の様子 定期考査 学習ノート
c. 主体的に学習に取り組む態度	・ 自他の健康の保持増進を維持するために必要なことについて関心をもっているか。 ・ 自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもち、仲間と協力して資料を集めたり、積極的に意見交換しているか。	授業参加の様子 学習ノート 発表

5. 学習計画

期	月	単元	学習項目	学習内容
1 学 期	4	生涯を通じる健康	オリエンテーション 1. 生涯の各段階における健康	①思春期と健康 ②思春期の体と健康
	5		1. 生涯の各段階における健康	③結婚生活と健康 ④新しい命の誕生 ⑤家族計画と不妊治療
	6		1. 生涯の各段階における健康 2. 労働と健康	⑥加齢と健康 ①労働者の健康・安全と健康問題 ②労働災害・職業病とその予防
	7		2. 労働と健康	③労働者の健康づくりと「働き方改革」(その1) ④労働者の健康づくりと「働き方改革」(その2)
2 学 期	9	健康を支える環境づくり	3. 環境・食品と健康	①環境汚染の広がりとその影響 ②大気汚染の健康への影響と対策 ③水質汚濁と土壌汚染の健康への影響と対策
	10		3. 環境・食品と健康	④廃棄物の処理と健康 ⑤環境衛生活動(その1) ⑥環境衛生活動(その2)
	11		3. 環境・食品と健康	⑦わが国のごみ問題 ⑧食品の安全性の確保
	12		4. 保健・医療制度と機関	①保健制度 ②医療制度
3 学 期	1	健康を支える環境づくり	4. 保健・医療制度と機関	③地域の保健機関・医療機関の活用 ④医薬品と健康
	2		4. 保健・医療制度と機関	④さまざまな保健活動や社会的対策 ⑤健康に関する環境づくりと社会参加
	3		4. 保健・医療制度と機関 5. 保健学習のまとめ	⑥環境に関する仕事

※学習単元・内容は、生徒の実態や社会情勢によって順序を入れ替える場合がある。

令和5年度 保健体育科「スポーツレクリエーション」シラバス

教科	科目	対象科（学年）	単位数	授業形態
保健体育	体育	全科（3学年）	2	男女共習

1. 目的

社会体育、医療、スポーツ系の分野への進路を希望する生徒を対象に、これまで学んできた学習内容を発展・充実させるとともに、より広範囲な領域のスポーツ種目の知識、技能の獲得を図る。

また、学習活動の実践を通して、心身ともに健全な発育をめざすとともに健康的な生活習慣の確立及び、生涯体育の推進及び社会福祉の進行発展に寄与することのできるような人格の育成を図る。

2. 概要

（1）体育理論

- ①現代社会と健康、体育、福祉 ②レクリエーション理論Ⅰ
- ③レクリエーション理論Ⅱ ④安全環境の確保、運営管理

（2）体づくり運動

- ①体ほぐし ②体力の向上を目指す運動 ③スポーツ技能の向上

（3）レクリエーションⅠ「ネット対戦型種目」（イデ、イカ、バレー、ソフトボール）

（4）レクリエーションⅡ「水辺活動」（救急法、ジュニア、遠泳）

（5）レクリエーションⅢ「山岳活動」（オリエnteering、トレッキング）

3. 注意事項

- （1）将来の進路希望を想定し、指導者としての立場や役割の理解と実践力を身につけることを意識して指導にあたる。
- （2）健康、体育、福祉に対する社会のニーズを的確に捉え、それに答えることのできるような資質や能力の基礎を身につけられるようにする。
- （3）進路希望の実現にも十分配慮した学習内容を計画、実施する。

4. 評価の観点と評価方法

評価の観点および内容		評価方法
a. 関心・意欲・態度	・運動の実践・目的に応じて主体的、合理的、計画的に自ら進んで取り組もうとしているか。 ・公正、協力、責任などの社会的態度が身についているか。	出席状況 授業態度 学習カード
b. 思考・判断	・主体的、合理的、計画的な実践を通して自己やグループの課題解決をめざして工夫しているか。	行動観察 学習カード
c. 運動の技能	・運動の専門的な理解と高度な技能及びレクリエーションの習得を目指し、取り組もうとしているか。	行動観察 技能テスト
d. 知識・理解・表現	・これまで学んできた運動についての総合的な理解を通して、その知識を運動の主体的、合理的、計画的な実践に活用しようとしているか。 ・健康や安全に留意して運動しようとしているか。	行動観察 学習カード

5. 年間指導計画

期	月	時間	指導内容	備 考
1 学 期	4	6	オリエンテーション 体育理論 体づくり運動	- 各単元とも目標や意義を十分理解し学習に臨む。 - 自分に合わせた体の使い方を考える。
	5	8	体育理論 体づくり運動 レクレーションⅠ（インディアカ）	
	6	8	体育理論 体づくり運動 レクレーションⅠ（ソフトバレーボール）	
	7	6	体育理論 体づくり運動 レクレーションⅡ（ビーチバレーボール）	
2 学 期	9	8	体育理論 体づくり運動 レクレーションⅡ （救急法、シュノーケリング）	- 各単元とも目標や意義を十分理解し学習に臨む。 - 天候により種目の変更も考慮する - 体調や安全に留意して取り組む。
	10	8	体育理論 体づくり運動 レクレーションⅡ （シュノーケリング、遠泳）	
	11	8	体育理論 体づくり運動 レクレーションⅡ（ビーチスポーツ）	
	12	6	体育理論 体づくり運動 レクレーションⅢ （オリエンテーション、トレッキング）	
3 学 期	1	8	体育理論 体づくり運動 レクレーションⅢ（トレッキング）	- 各単元とも目標や意義を十分理解し学習に臨む。 - 天候により種目の変更も考慮する - 体調や安全に留意して取り組む。
	2	4	体育理論 体づくり運動 レクレーションⅢ（トレッキング）	

家庭科

令和5年度シラバス

教科	科目名	単位数	科（学年）	必・選（授業形態）	
家庭	家庭総合	2	自然環境科・普通科（2年）	必須	
教科書	家庭総合 「自立・共生・創造(東京書籍)」			副教材	学習ノート(東京書籍)

●教科の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。

（２）家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。

（３）様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

●評価方法

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点で行う。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて理論的に表現するなどして課題解決する力を身につけている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

●学習計画及び評価方法等

月	学習内容	配当時間	指導上の留意点・評価方法
4	家庭科の学び方 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	2 4	・家庭総合の学習の意義や学習内容、学習方法、評価の方法を理解させる。（知） ・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解させる。（知） ・ホームプロジェクトにつながるよう、生活から課題を見つけることを常に意識させる。（思・態）
5	第1章 生涯を見通す 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる	2 2 2	・今までの自分を客観的に振り返らせ、自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解させる。（知・思・態） ・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解させ、歩みたい人生の目標を考えさせる。（知・思・態）
6	第2章 人生をつくる 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる	4 4	・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、様々な生き方について理解させる。（知） ・よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解させ、社会制度としての家族と法律を理解させる。（知・思・態）
7	3 これからの家庭生活と社会	4	・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解させ、誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造するにはどのような社会を実現すればよいか考えさせる。（知・思・態）
	第9章 1 情報の収集・比較と意思決定	2	・自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解させる。（知・態）

9	2 購入・支払いのルールと方法	2	・毎日の生活におけるさまざまな契約、販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解させる。（知・態） ・消費者には権利と責任があること、消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者 保護制度について理解させる。消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えさせる。（知・思・態） ・生涯安定した経済生活を送るために、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解させる。（知・思・態） ・生涯を見通して家計をマネジメントする力をつけるため、家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて理解する。（知・態） ・大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため、家計と地域経済・国民経済・国際 経済のつながりについて理解させ、どうすれば持続可能な経済成長が実現できるか考えさせる。（知・思・態）
	3 消費者の権利と責任	2	
	4 生涯の経済生活を見通す	2	
	5 家計をマネジメントする	3	
	6 これからの経済生活	1	
	第7章 衣生活をつくる	2	
	1 被服の役割を考える	2	
	2 被服を入手する	2	
	3 被服を管理する	4	
	4 被服を作る	10	
10	5 衣生活の文化と知恵	2	・健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解させる。（知・態） ・被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。（知・態） ・手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解させる。（知・態） ・環境に配慮した衣生活について考え、実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。（知・態）
	6 これからの衣生活	2	
11	第8章 住生活をつくる	4	・現代に受け継がれる日本の衣文化の工夫を受け継ぐために、日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解させる。（知・思・態） ・次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直させる。（知・思・態） ・全ての人が健康・安全・快適な衣生活を営むためのユニバーサルデザインの被服について理解を深める。（知・思・態）
	1 住生活の変遷と住居の機能	4	
	2 安全で快適な住生活の計画	4	
12	3 住生活の文化と知恵	2	・日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候 や風土の違い、時代の変化によって、大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。（知・思・態）
	4 これからの住生活	2	
		70	

令和5年度シラバス

教科	科目名	単位数	科(学年)	必・選(授業形態)	
家庭	家庭総合	2	普通科(3年)	必須	
教科書	家庭総合「自立・共生・創造(東京書籍)」		副教材	学習ノート(東京書籍)	

●教科の目標

人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

●評価方法

「a 関心・意欲・態度」「b 思考・判断・表現」「c 技能」「d 知識・理解」の観点で行う。

評価の方法	割合	具体的な評価の方法など
(1) 定期テスト	60%	テスト内容は授業で活用した教科書、ノート等から作問する。
(2) 提出物 (ノート・プリント・作品等)	25%	各領域の終了後に、ノート、プリントや作品の提出を求める。 ノート、プリント：授業の指示通り整理されているか。 作品：作品を指示通り仕上げて提出されているか。
(3) 授業態度	15%	①学習用具の持参②授業への集中の程度③発問への応答の有無。

●学習計画及び評価方法等

月	学習内容	配当 時間	指導上の留意点
4 5 6 7	家庭科の学び方 生活に生かそう～ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動～ 第2章子どもと共に育つ 1. 命を育む 2. 子どもの育つ力を知る 3. 親として共に育つ 4. 子どもとの触れ合いから学ぶ 5. これからの保育環境	2 4 4 4 4 4	・家庭総合の学習の意義や学習内容、学習方法、評価の方法を理解させる(a・d) ・ホームプロジェクトと学校家庭クラブの意義と実施方法について理解させる。(a・b・c・d) ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けさせて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てさせる。(a・b・c・d) ・命に対する責任について考えさせ、胎児の発育と母体の健康管理について理解させる。(a・d) ・子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解させる。(d) ・親の役割について理解させる。(a・d) ・子育てをサポートする社会支援について指導し、社会全体で子育ての意義を考えさせる。(a・b・d) ・子どもの権利と福祉について考えさせる。(a・b・d) ・保育実習(a・b・c)
9 10 11 12	第6章 食生活をつくる 1. 食生活について考える 2. 食事と栄養・食品 実習③西洋料理 実習④琉球料理 3. 食生活の安全と衛生 4. 生涯の健康を見通した食事計画 5. 調理の基礎 実習①お菓子 実習②和食 6. 食生活と文化 実習⑤中華料理 7. これからの食生活	2 2 2 2 2 10 4 2 2 2	・自分の食生活を振り返らせ、課題を明らかにさせる。(a) ・食品の栄養的特質について理解させる。(d) ・簡単な調理を通し、食生活の自立に必要な知識と技術を指導する。(b・c・d) ・食品の選択や保存方法、食中毒等に関する知識を身につけさせる。(d) ・食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を活用し、経済、能率家族の嗜好などを考慮して献立作成をさせる。(a・b・c・d) ・簡単な調理を通し、調理実習室の安全な使用方法について指導する。(c・d) ・食品の調理上の性質について理解させる。(c・d) ・行事食や郷土食について触れ、継承することの意義について理解させるとともに食事マナーや外国の食文化に関心をもたせる。(d) ・食生活の変化や問題点を知らせ、資源や環境、地域産業などに配慮した食生活を計画させる。(d)
1 2 3	第3章 高齢社会を生きる 1 高齢期を理解する 2 高齢者の心身の特徴 3 高齢者を支える 4 これからの高齢社会	4 4 2 2	・高齢社会の現状と課題を理解させる。(a・b・d) ・高齢者の心身の特徴について伝え、身近な高齢者と交流させたり、体験グッズを利用させたりして高齢者の気持ちを理解させる。(a・b・c・d) ・高齢者を支援する方法を具体的に考えさせる。(a・b・c・d) ・高齢者に関する福祉について指導し、高齢者を支える制度と課題を考えさせる。(a・b・c・d)
計		70	

專門 環境科

教科	科目名	単位数	科（学年）	必・選（授業形態）
数 学	理数数学 I	5	自然環境科（1）	必修（少人数）
教科書	新編数学 I（第一学習社） 新編数学 A（第一学習社）	副教材	ネオパル 数学 I・A（第一学習社） 新編数学 I サポートブック 新編数学 A サポートブック	

【 教科(科目)の目標 】

【理数数学 I】

数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析，図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【 評価の観点 】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析，図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 ・数学と人間の活動の関係について認識を深めている。	・命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりなどに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。 ・図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見だし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見だし，数理的に考察する力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善しようとしている。

【 評価の方法 】

評価の観点	具体的な評価の方法
(a) 知識・技能	定期考査にて判断する。考査内容は授業で実施した教科書、副教材、プリントに準拠して作問する。
(b) 思考・判断・表現	授業における発問に対する回答や、問題の解決過程や考察の様子を以て判断する。
(c) 主体的に学習に取り組む態度	授業において粘り強く取り組む姿勢や、過程を振り返って評価・改善の様子から判断する。

〔知識・技能〕：〔思考・判断・表現〕：〔主体的に学習に取り組む態度〕＝1：1：1とする。

【 おすすめの学習方法・アドバイスなど 】

数学Ⅰと数学Ⅱの授業を直列に配列して、数学Ⅰが終わると数学Ⅱに移ります。1クラス2展開で少人数授業を行います。少人数クラスは定期テストごとに変更もありますが、本人の希望も考慮に入れています。少人数授業の効果と効率を上げるため、習熟度を考慮に入れて展開しています。また、評価を統一するために定期テストは同一テストで行います。教材にあった問題集も使用しているため、上手く活用していく事が大切です。

【 学習内容(進捗計画) 】

時数	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c
14	1章 数と式 1節 式の展開と 因数分解	- 文字を含む式の表し方や見方を理解する。 - 同類項の整理や、整式の和・差の計算方法を理解する。 - 整式の乗法の計算方法を理解する。 - 乗法公式を利用して、いろいろな整式の乗法ができるようにする。 - 因数分解の公式を利用して、いろいろな整式の因数分解ができるようにする。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○
7	2節 実数	- 数の分類、数の集合の包含関係を理解する。 - 絶対値の定義を理解する。 - 平方根の定義や性質を理解する。 - 根号を含む式の計算方法を理解する。 - 分母の有理化の方法を理解する。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○
10	3節 1次不等式	- 不等式とその解の意味を理解する。 - 不等式の性質を理解する。 1次不等式の解法を理解する。 - 不等式を利用して、いろいろな問題を解けるようにする。 - 連立不等式の解法を理解する。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○
12	2章 2次関数 1節 2次関数と そのグラフ	- 関数の概念や関数の値について理解する。 $y=ax^2$ のグラフの形状や性質を理解する。 $y=ax^2$ のグラフの平行移動について理解する。 2次式の平方完成ができるようにする。 $y=ax^2+bx+c$ のグラフをかくことができるようにする。 - 定義域に制限がない場合の2次関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。 - 定義域に制限がある場合の2次関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。 - いろいろな最大・最小の問題を解けるようにする。 - グラフに関する条件が与えられたときの2次関数を求めることができるようにする。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
16	2節 2次方程式 ・2次不等式	2次方程式の解法を理解する。 2次方程式の実数解の個数について理解する。 2次関数のグラフとx軸の共有点のx座標や共有点の個数の求め方を理解する。 2次不等式の解法を理解する。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
14	3章 図形と計量 1節 三角比	- 鋭角の三角比の定義やその値の求め方を理解する。 - 三角比を利用して辺の長さを求める方法を理解する。 - 鋭角の三角比の相互関係を理解する。 - 鈍角の三角比の定義やその値の求め方を理解する。 - 鈍角の三角比の相互関係を理解する。 - 三角方程式の解法について理解する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
13	2節 図形の計量	- 正弦定理やその利用法を理解する。 - 余弦定理やその利用法を理解する。 - 三角形の面積の求め方を理解する。 - 正弦定理や余弦定理を利用して、いろいろな図形の計量の問題を解けるようにする。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○

時数	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c
9	4章 集合と論理 1節 集合と論理	・集合の意味や用語を理解する。 ・部分集合、共通部分と和集合、全体集合と補集合など、集合間の関係を理解する。 ・ド・モルガンの法則を理解する。 ・命題の真偽や命題と集合の関係を理解する。 ・必要条件と十分条件の意味を理解する。 ・条件の否定について理解する。 ・逆・裏・対偶とそれらの相互関係を理解する。 ・対偶を利用した証明、背理法による証明ができるようにする。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
10	5章 データの分析 1節 データの分析	・データを度数分布表やヒストグラムの形で整理できるようにする。 ・平均値、最頻値、中央値を求めることができるようにする。 ・偏差、分散、標準偏差について理解し、標準偏差を求めることができるようにする。 ・四分位数や外れ値の定義を理解し、箱ひげ図をかくことができるようにする。 ・散布図を利用して、相関関係を読み取ることができるようにする。 ・相関係数が求められるようにする。 ・仮説検定の考え方を理解する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
8	1章 場合の数 1節 数え上げの原則	・集合の意味や用語を理解する。 ・部分集合、共通部分、和集合、全体集合と補集合など、集合間の関係を理解する。 ・ド・モルガンの法則を理解し、それを用いて集合の要素の個数が求められるようにする。 ・もれなく重複なく数え上げるための工夫として、樹形図などを理解する。 ・数え上げの基本である「和の法則」、「積の法則」を理解し、それらを活用できるようにする。	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○
8	2節 順列・組合せ	・順序をつけて並べるときの並べ方の総数について理解する。 ・重複順列、円順列の総数を求める場合の考え方について理解する。 ・組合せの総数を求める考え方について理解し、総数を求められるようにし、それらを活用できるようにする。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
13	2章 確率 1節 確率の基本的性質と色々な確率	・確率の意味について理解する。 ・事象を、集合を用いて表すことができるようにし、各根元事象が同様に確からしい場合の確率の計算ができるようにする。 ・確率の基本的な性質や確率の加法定理、一般の和事象の確率を理解し、やや複雑な事象の確率が求められるようにする。 ・余事象の考えを用いて確率を求めることができるようにする。 ・独立な試行について理解し、2つの独立な試行におけるおのおのの事象がともに起こる確率が求められるようにする。 ・反復試行の確率が求められるようにする。 ・条件つき確率の概念を理解し、具体的な場面に対して的確に活用できるようにする。 ・確率の乗法定理を理解し、活用できるようにする。 ・期待値について理解し、具体的な意思決定の場面で活用できるようにする。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○

教科	科目名	単位数	科（学年）	必・選（授業形態）
数 学	理数数学Ⅱ	3	自然環境科（2）	必修
教科書	新編数学Ⅱ（第一学習社）		副教材	ネオパル数学Ⅱ（第一学習社） 新編数学Ⅱサポートブック

【 教科（科目）の目標 】

式と証明，複素数と方程式，図形と方程式，三角関数についての基本的概念や原理・法則を体系的に理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。

【 評価の観点 】

a. 関心・意欲・態度	b. 数学的な見方や考え方	c. 数学的な技能
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力，事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，三角関数の分野において，数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度を身に付けている。

【 評価の方法 】

評価の観点	具体的な評価の方法
(a) 知識・技能	定期考査にて判断する。考査内容は授業で実施した教科書、副教材、プリントに準拠して作問する。
(b) 思考・判断・表現	授業における発問に対する回答や、問題の解決過程や考察の様子を以て判断する。
(c) 主体的に学習に取り組む態度	授業において粘り強く取り組む姿勢や、過程を振り返って評価・改善の様子から判断する。

〔知識・技能〕：〔思考・判断・表現〕：〔主体的に学習に取り組む態度〕＝1：1：1とする。

【 おすすめの学習方法・アドバイスなど 】

1クラス一斉授業を行います。1学年で履修した数学Ⅰが基礎となるので、苦手分野があればなるべく復習するよう心掛けましょう。授業では、教材に準拠した問題集を使用しているので、考査前や授業の後で自主的に学習する力を身に付けていきましょう。

【 学習内容（進度計画） 】

時数	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c
11	1章 式と証明 1節 式と計算	・3次の乗法公式及び因数分解の公式を理解する。 ・二項定理やその利用法を理解する。 ・整式の割り算の方法を理解する。 ・分数式の約分や四則計算の方法を理解する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
11	2節 等式・不等式の証明	・恒等式の意味や等式が恒等式であるための条件を理解する。 ・等式を証明する方法を理解する。 ・不等式を証明する方法を理解する。 ・相加平均と相乗平均の大小関係について理解する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
10	2章 複素数と方程式 1節 複素数と方程式の解	・複素数の四則計算の方法を理解する。 ・2次方程式の解の公式を理解する。 ・2次方程式の解の判別の仕方を理解する。 ・2次方程式の解と係数の関係やその利用法を理解する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
11	2節 高次方程式	・剰余の定理やその利用法を理解する。 ・因数定理やその利用法を理解する。 ・高次方程式の解法を理解する。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
15	3章 図形と方程式 1節 点と直線	・数直線上の2点間の距離や内分点・外分点の座標を求めることができるようにする。 ・平面上の2点間の距離や内分点・外分点の座標を求めることができるようにする。 ・三角形の重心の座標を求めることができるようにする。 ・与えられた条件を満たす直線の方程式を求めることができるようにする。 ・直線の方程式の一般形について理解する。 ・2直線の平行条件・垂直条件やその適用の仕方を理解する。 ・点と直線の距離を求めることができるようにする。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
9	2節 円の方程式	・与えられた条件を満たす円の方程式を求めることができるようにする。 ・円の方程式から中心と半径を求め、図示することができるようにする。 ・円と直線の共有点の座標を求めることができるようにする。 ・円と直線の位置関係を調べる方法を理解する。 ・条件を満たす円の接線の方程式を求めることができるようにする。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
12	3節 軌跡と領域	・与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができるようにする。 ・不等式の表す領域を図示することができるようにする。 ・連立不等式の表す領域を図示することができるようにする。 ・領域を利用して1次式の最大値や最小値を求める方法を理解する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
15	4章 三角関数 1節 三角関数	・一般角について理解する。 ・弧度法による角の表し方を理解する。 ・扇形の弧の長さや面積を求めることができるようにする。 ・一般角の三角関数について理解する。 ・三角関数の相互関係や性質について理解する。 ・三角関数のグラフがかけられるようにする。 ・三角関数を含む方程式や不等式の解法を理解する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
11	2節 三角関数の加法定理	・三角関数の加法定理やその利用法を理解する。 ・2倍角の公式、半角の公式及びその利用法を理解する。 ・三角関数の合成やその利用法を理解する。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○

教科	科目名	単位数	科 (学年)	必・選 (授業形態)
数学	理数数学Ⅱ	4	環境科 (3)	必修 (少人数)
教科書	新編数学Ⅱ、新編数学B (第一学習社)		副教材	ネオパル数学B NEW (第一学習社)

【 教科 (科目) の目標 】

確率分布と統計的な推測，数列又はベクトルについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し，表現する能力を伸ばすとともに，それらを活用する態度を育てる。

【 評価の観点 】

a. 関心・意欲・態度	b. 数学的な見方や考え方	c. 数学的な技能	d. 知識・理解
数列，ベクトル，確率分布又は統計処理における論理や体系に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	数列，ベクトル，確率分布又は統計処理における事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	数列，ベクトル，確率分布又は統計処理において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数列，ベクトル，確率分布又は統計処理における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。

【 評価方法 】

評価の方法	割合	具体的な評価の方法
(1) 定期テスト	8割	テスト内容は授業で活用したプリント、教科書、副教材等に照会した練習問題などから作問する。
(2) 提出物 (ノート・課題等) 授業態度	2割	各単元の終了毎にノートや課題の提出を求める。 ノート：授業で配布したプリントは指示通り整理されているか。 課題：単元毎の練習問題やレポートなどを課す。 ①学習用品・教科書の持参 ②授業への集中の程度 ③発問への応答の有無など。

【 おすすめの学習方法・アドバイスなど 】

1クラス2展開で少人数授業を行います。少人数クラスは定期テストごとに変更もありますが、本人の希望も考慮に入れています。
少人数授業の効果と効率を上げるため、習熟度を考慮に入れて展開しています。また、評価を統一するために定期テストは同一テストで行います。
教材にあった問題集も使用していますので、自主的に学習する力を身に付けていきましょう。

【 学習内容（進度計画） 】

時数	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
4	新編数学Ⅱ 6章 微分と積分 1節 微分係数と導関数	・与えられた条件を満たす接線の方程式を求めることができるようにする。		○	○		・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・定期考査
1 5	2節 関数の値の変化	・導関数を用いて関数の増加・減少を調べることができるようにする。 ・関数の極値を求めることができるようにする。 ・3次関数のグラフをかくことができるようにする。 ・関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。 ・グラフを利用して方程式の実数解の個数を調べたり、不等式を証明する方法を理解する。	○	○			・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・定期考査
1 8	3節 積 分	・不定積分を求めることができるようにする。 ・定積分を求めることができるようにする。 ・定積分と微分の関係について理解する。 ・定積分を利用していろいろな図形の面積を求めることができるようにする。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・定期考査
2 0	新編数学B 3章 数列 1節 等差数列と等比数列	・数列の概念及び用語の意味を理解する。 ・等差数列の意味及び一般項を理解する。 ・等差数列の和の公式を理解する。 ・等比数列の意味及び一般項を理解する。 ・等比数列の和の公式を理解する。	○			○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・定期考査
1 7	2節 いろいろな数列	・自然数の2乗の和の求め方を理解する。 ・記号 Σ の意味、性質、公式を理解する。 ・階差数列について理解する。 ・和が与えられた数列の一般項や、分数の数列の和を求めることを理解する。	○	○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・定期考査
1 5	3節 漸化式と数学的帰納法	・漸化式から一般項を求めることを理解する。 ・数学的帰納法の考え方を理解する。		○	○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・定期考査
1 7	1章 平面上のベクトル 1節 ベクトルとその演算	・ベクトルの意味について理解する。 ・ベクトルの加法、減法、実数倍とその性質について理解する。 ・ベクトルの成分と成分による演算やベクトルの大きさについて理解する。 ・ベクトルの内積とその性質について理解する。	○			○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・定期考査
1 7	2節 平面図形とベクトル	・位置ベクトルの意味や線分の内分点・外分点の位置ベクトルについて理解する。 ・位置ベクトルを用いて、平面図形の性質を調べる。 ・ベクトル方程式の意味、及び直線や円のベクトル方程式を理解する。	○		○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・定期考査

時数	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
16	2章 空間のベクトル 1節 空間のベクトル	- 座標空間の意味を理解し、座標平面に平行な平面の方程式について理解する。 - 空間におけるベクトルの演算について、平面上のベクトルの場合と同様の法則が成り立つことを理解する。 - 空間におけるベクトルの成分や成分による演算、2点間の距離などについて理解する。 - 空間におけるベクトルの内積、ベクトルの垂直を理解する。 - 空間における位置ベクトルを理解し、空間図形の性質を調べる。 - 球面の方程式について理解する。			○	○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
				○		○	
					○	○	
			○	○	○		
			○	○	○		
			○	○	○		

教科	科目名	単位数	科(学年)	必・選(授業形態)
数 学	理数数学特論	4	環境科(3)	選択
教科書	新編数学Ⅲ(第一学習社)		副教材	スタディ数学Ⅲ(第一学習社)

【教科(科目)の目標】

平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法についての理解を深め，知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを積極的に活用する態度を育てる。

【評価の観点】

a. 関心・意欲・態度	b. 数学的な見方・考え方	c. 表現・処理	d. 知識・理解
平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法における論理や体系に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法における事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。

【評価方法】

評価の方法	割合	具体的な評価の方法など
(1) 定期テスト	8割	テスト内容は授業で活用したプリント、教科書、副教材等に照会した練習問題などから作問する。
(2) 提出物 (ノート・課題等) 授業態度	2割	各単元の終了毎にノートや課題の提出を求める。 ノート：授業で配布したプリントは指示通り整理されているか。 課題：単元毎の練習問題やレポートなどを課す。 ①学習用品・教科書の持参 ②授業への集中の程度 ③発問への応答の有無など。

【おすすめの学習方法・アドバイスなど】

内容は少し難しめですが、理系、工学系に進学を考えている生徒は是非受講して下さい。

【 学習内容(進度計画) 】

時数	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	d	評価方法
1 6	1 章 複素数平面 1 節 複素数平面	- 複素数の定義や四則計算について理解する。 - 複素数が座標平面上の点と対応することを理解し、複素数を図示できるようにする。 - 共役な複素数の性質と図形的意味について理解する。 - 複素数の加法・減法・実数倍の図形的意味について理解し、図示できるようにする。 - 複素数の極形式について理解する。 - 複素数の乗法・除法の図形的意味について理解する。 - ド・モアブルの定理について理解する。 - 複素数の n 乗根を求めることができるようにする。 - 複素数平面上の内分点・外分点を求めることができるようにする。 - 複素数平面上の距離について理解し、線分の垂直二等分線や円の方程式を求めることができるようにする。 - 複素数平面上の3点の位置関係を調べることができるようにする。	○		○		- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
8	2 章 式と曲線 1 節 2次曲線	- 放物線の定義とその方程式の標準形について理解し、放物線に関する用語の意味を理解する。 - 楕円の定義とその方程式の標準形について理解し、楕円に関する用語の意味を理解する。 - 双曲線の定義とその方程式の標準形について理解し、双曲線に関する用語の意味について理解する。 - 漸近線について理解する。 - 一般の曲線を平行移動して得られる曲線の方程式を求めることができるようにする。 2次曲線と直線の位置関係について理解する。	○			○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
8	2 節 媒介変数表示と極座標	- 図形の媒介変数表示について理解する。 円、楕円、双曲線、サイクロイドなどの媒介変数表示について理解する。 - 極座標について理解する。 - 極座標と直交座標の関係について理解する。 円、直線、2次曲線などの極方程式について理解する。 - 直交座標の方程式を極方程式で表したり、極方程式を直交座標の方程式で表したりすることができるようにする。	○	○			- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
8	3 章 関数と極限 1 節 関数	- 分数関数について理解する。 - 無理関数について理解する。 - 逆関数、合成関数について理解する。	○				- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
1 3	2 節 数列の極限	- 数列の収束・発散について理解する。 - 数列の極限の性質について理解する。 - 無限等比数列の極限について理解する。 - 無限級数について理解し、図形や循環小数に関する問題へ応用できるようにする。 - 無限級数の性質について理解する。		○	○		- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
1 3	3 節 関数の極限	- 関数の極限の性質について理解する。 - 右側極限、左側極限について理解する。 - 指数関数、対数関数、三角関数の極限について理解する。 - 関数の連続性について理解する。 - 中間値の定理について理解する。	○			○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査

8	4章 微分法 1節 導関数	- 導関数の定義を確認したり、微分可能性と連続性について理解したりする。 - 関数の定数倍、和、差、積、商の導関数について理解する。 - 合成関数の微分法について理解する。 - 逆関数の微分法について理解する。	○	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
8	2節 いろいろな関数の導関数	- 三角関数の導関数について理解する。 - 対数関数の導関数について理解する。 - 対数微分法について理解する。 - 指数関数の導関数について理解する。 - 第 n 次導関数について理解する。 - 方程式 $f(x, y)=0$ に関する微分法について理解する。 - 媒介変数表示に関する微分法について理解する。	○	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
14	3節 関数値の変化	- 曲線の接線や法線の方程式が求められるようにする。 - 平均値の定理について理解する。 - 関数の増減について理解する。 - 関数の極大・極小について理解する。 - 曲線の凹凸や変曲点について理解する。 - 増減、極値、凹凸、変曲点、漸近線などを調べてグラフをかくことができるようにする。 - 第2次導関数を用いて極値の判定ができるようにする。	○	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
9	4節 導関数の応用	- 関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。 - 関数の増減を調べることにより、不等式を証明したり、方程式の実数解の個数を求めたりすることができるようにする。 - 速度・加速度について理解する。 - 近似式について理解する。	○	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント
10	5章 積分法 1節 不定積分	- 不定積分の意味、関数の定数倍や和、差の不定積分、三角関数の不定積分、指数関数の不定積分などの公式を理解する。 - 置換積分法について理解する。 - 部分積分法について理解する。 - 複雑な分数関数や三角関数の積などの不定積分について理解する。	○	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
12	2節 定積分	- 定積分の意味や性質について理解する。 - 定積分の置換積分法や偶関数・奇関数の定積分の性質について理解する。 - 定積分の部分積分法について理解する。 - 定積分で表された関数について理解する。 - 区分求積法と定積分の関係について理解する。 - 定積分と不等式の関係について理解する。	○	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント - 定期考査
13	3節 積分法の応用	- 定積分を用いて、直線や曲線で囲まれた図形の面積を求めることができるようにする。 - 定積分を用いて、立体の体積や回転体の体積を求めることができるようにする。 - 定積分を用いて、曲線の長さを求めることができるようにする。	○	○	○	○	- 授業態度 - 発問評価 - ノート確認 - 課題プリント

令和5年度シラバス

教科	科目名	単位数	科(学年)	必・選(授業形態)
理科	理数物理	3	自然環境科2年	選択
教科書	第一学習社 高等学校改訂新物理基礎			副教材

【 教科(科目)の目標 】

自然現象について観察、実験などを行い、体験を伴う授業を多く取り入れる。そのなかで、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

【 評価の観点 】

知識・技能	教科書の基礎基本事項を正確に理解し、覚えられるかペーパーテストで確認する。実験実習では、支持された手順に沿ってきちんと行うことができるか確認する。
思考・判断・表現	与えられた課題や科学的な思考を問う内容を、理論立ててきちんと理解できるか、また適切な判断を下せるか評価する。また実験等において質問事項に対して自分の考えを正確に表現できるか評価する。
主体的に学習に取り組む態度	授業を積極的な態度で受けているか、実験実習も意欲的に取り組んでいるかな、自らの学習状況を把握して粘り強く学びを進めようとしたかなど学習態度を評価する。

【 評価方法 】

評価の方法	割合	具体的な評価の方法など
(1) 定期テスト	6割	テスト内容は授業で活用したプリント、教科書に照会した練習問題などから作問する。
(2) 提出物 (ノート・課題等)	2割	レポート：実験ごとにレポートの提出を求める。 ファイル：授業で配布したプリントは指示通り整理されているか。 課題：適宜練習問題(プリント)を課す。
(3) 授業態度	2割	① 学習用品・教科書の持参 ②授業への集中の程度 ③発問への応答の有無 ④課題への取り組み状況など。

【 おすすめの学習方法・アドバイスなど 】

①授業でもらったプリントをしっかりと理解しよう。

プリントには必要最小限の学習内容を盛り込んでいます。教科書でわかりにくい内容もプリントを見ながら授業を思い出せば分かるはず→学習内容をしっかりと理解しよう。

②計画的に学習を進めよう。

課題や復習など、提出日や学習計画の日程を確認して、計画的に学習に取り組みましょう。

③テスト勉強は特にしっかりとやろう。

日頃の学習の確認として中間・期末テストが実施されます。日頃の学習を理解した上で、テスト予想問題やプリントに含まれる確認・発展問題を解こう。

④最新の科学的な話題を収集しよう。

小論や面接では、ニュースで話題になる科学的な内容も質問されます。新聞の切抜きや先生の談話などにも重要な話が含まれます。進路に合わせた情報収集を心がけよう。

【 学習内容（進度計画）と評価の観点 】 — 物理基礎 —

観点別評価 【知】技能・技能 【思】思考・判断・表現 【態】主体的に学習に取り組む態度

学 期	月	学習内容（単元・小単元）	観点別評価	配当 時間
1 学 期	4	第1章 力と運動 第1節 物体の運動 ①速さと等速直線運動 ②変位と速度 ③速度の合成・相対速度	第1章—1節 ①【知】【態】 ②【知】【思】 ③【知】【思】 ④【知】【思】	8
	5	④加速度 ⑤等加速度直線運動 ⑥重力加速度と自由落下 ⑦鉛直投げおろし・鉛直投げ上げ	⑤【知】【思】 ⑥【知】【思】【態】 ⑦【知】【思】【態】 ⑧【知】【思】【態】	
	6	⑧水平投射・斜方投射		
	7	第2節 力と運動の法則 ①力と質量 ②いろいろな力 ③力の合成・分解と力のつり合い ④慣性の法則 ⑤力と質量と加速度の関係 ⑥運動の法則 ⑦作用・反作用の法則 ⑧摩擦力 ⑨運動方程式の利用（1） ⑩運動方程式の利用（2）	第1章—2節 ①【知】【思】 ②【知】【思】 ③【知】【思】 ④【態】【思】 ⑤【知】【思】【態】 ⑥【知】【思】【態】 ⑦【態】【思】 ⑧【知】【思】【態】 ⑨【知】【思】 ⑩【知】【思】	12
		第2章 エネルギー 第1節 仕事と力学的エネルギー ①力がする仕事 ②仕事と仕事率 ③運動エネルギー ④位置エネルギー ⑤力学的エネルギー保存の法則 ⑥いろいろな運動と力学的エネルギー	第2章—1節 ①【思】【態】 ②【知】【思】 ③【知】【思】 ④【知】【思】	10
		第2節 熱とエネルギー ①温度と熱運動 ②熱と熱平衡 ③熱と仕事 ④エネルギーの変換と保存	第2章—2節 ①【知】【思】【態】 ②【知】【思】 ③【知】【思】 ④【知】【思】	6

2 学 期	9	第3章 波動	第3章—1節	10
		第1節 波の性質	①【知】【思】	
		①波と振動	②【知】【思】	
		②波の表し方	③【知】【思】	
		③波の重ねあわせと定常波		
	10	④波の反射	第3章—2節	10
		第2節 音波	①【知】【思】	
		①音の速さと3要素	②【知】【思】	
		②波としての音の性質	③【知】【思】	
	11	③弦の固有振動		
		④気柱の固有振動	第4章—1節	10
		第4章 電気	①【知】【思】	
		第1節 電荷と電流	②【知】【思】	
	12	①電荷	③【知】【思】	
		②電流と電気抵抗		
		③物質と抵抗率	第4章—2節	9
		④直流回路	①【知】【思】	
		⑤電力量と電力	②【知】【思】	
		第2節 電流と磁場		
		①磁場		
		②交流の発生と利用		
		③電磁波		
3 学 期	1	第3節 エネルギーとその利用	第3章—3節	10
		①太陽エネルギーの利用	①【知】【態】	
		②原子力エネルギー	②【知】【態】	
		終章 物理が抱く世界		10
	2	探究活動		10
		1 自由落下の加速度		
		2 力と質量と加速度の関係		
		3 静止摩擦係数の測定		
		4 力学的エネルギーの保存		
		5 比熱の測定		
	3	6 仕事と熱		
		7 弦の固有振動		
		8 気柱の固有振動		
		9 金属線の抵抗の測定		
		10 モーターの製作		
				計
				105

令和5年度 シラバス

教科名	理科	科目名	理数化学	単位数	3	学科・コース	自然環境科	学年	1	クラス	1		
教科書 (出版社)	高等学校新化学基礎 (第一学習社)												

目 標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (１) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。【知識及び技能】 (２) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。【思考力、判断力、表現力等】 (３) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】												
-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

◎記録に残す評価

学期	月	単元名	育成を目指す資質・能力 評価規準（達成目標）		学習項目	学習内容	知	思	態	備考（観察・実験や指導上の留意点）	評価方法	時数		
1	4	(1)(ア)化学と物質	知識・技能	物質と物質について、化学の特徴、物質の分離・精製、単体と化合物、熱運動と物質の三態の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	⑦化学の特徴 序章 化学と人間生活	化学とは何だろう？	○			【実験】うがい薬の色の变化		2		
						？から探究は始まる	○							
						探究の取り組み		○		【実験】砂糖水と食塩水				
						報告書の書き方			○					
			思考 判断 表現	化学と物質について、観察、実験などを通して探究し、科学的に考察し、表現している。	1章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素 ④物質の分離・精製 ⑦単体と化合物 ⑨熱運動と物質の三態	物質の分離(1)	○						1	
						物質の分離(2)		○		【実験】エタノールの分離		1		
						物質を構成する元素	○					1		
						元素の確認	○			【実験】炎色反応		2		
						探究：実験を計画する		◎		【実験】重曹に含まれる元素	ワークシート	2		
						物質の三態	○					1		
						④⑦⑨のまとめ			◎		振り返りシート	1		
			主体的に学習 に取り組む態度	化学と物質に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	問題演習	1章1節④⑦⑨	◎					定期考査	1	
1	5	(2)(ア)物質の構成粒子	知識・技能	物質の構成粒子について、原子の構造、電子配置と周期表の基本的な概念や原理・法則などを理解している。	⑦原子の構造 ④電子配置と周期表	原子の成り立ち	○					1		
						同位体とその利用	○					1		
						原子の電子配置		○				1		
						元素の周期律と周期表		○				1		
						実験：アルカリ金属		◎		【実験】アルカリ金属	ワークシート	1		
			思考 判断 表現	物質の構成粒子について、規則性や関係性を見いだして表現している。		⑦④の学習のまとめ	○					1		
						第1節のまとめ			◎		振り返りシート	1		
			主体的に学習 に取り組む態度	物質の構成粒子に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。										
							節末問題	1章第1節	◎				定期考査	1
							⑦イオンとイオン結合	イオン(1)	○			【実験】水溶液の電気伝導性		2

1	6	(2)(4)化学と化学結合	知識・技能	分子と共有結合、金属と金属結合の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	④分子と共有結合	イオン(2)	○					1			
						イオン結合	◎				小テスト	2			
						イオンからなる物質		◎		【実験】イオン結晶の電気伝導性	ワークシート	2			
			思考 判断 表現	物質と化学結合について、観察、実験などを通して探究し、物質と化学結合における規則性や関係性を見いだして表現している。		共有結合(1)	○				2				
						共有結合(2)	○				2				
						分子の極性		◎		【実験】分子の極性と溶解性	ワークシート	2			
	分子間に働く力	○						1							
	7	主体的に学習 に取り組む態度	物質と化学結合に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	⑤金属と金属結合	共有結合の結晶	○					1				
					金属結合と金属結合	○					1				
					金属の利用		○		【実験】金属の性質		2				
					節末問題	化学結合と結晶	◎		◎		定期考査、振り返りシート	2			
					2	(3)(7)物質量と化学反応式	知識・技能	物質量と化学反応式について、物質量、化学反応式の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	2章 物質の変化 第1節 物質量と化学反応式 ⑦物質量	数値の取り扱い	○				
原子量										○					2
分子量・式量	○										1				
物質量と粒子の数	○										2				
物質量と式量	○										2				
物質量と気体の体積	○										2				
10	主体的に学習 に取り組む態度	物質と化学反応式について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現している。	④化学反応式	物質量の換算	◎				小テスト	2					
				溶解と濃度		◎			ワークシート	2					
				化学反応式(1)	○					2					
				化学反応式(2)	○					2					
				化学反応の量的関係		◎		【実験】炭酸水素ナトリウムの熱分解	ワークシート	3					
				化学の発展と諸法則		○				1					
2	11	(3)(4)化学反応	知識・技能	化学反応について、酸・塩基と中和、酸化と還元 の基本的な概念や原理・法則などを理解している とともに、科学的に探究するために必要な観察、 実験などに関する基本操作や記録などの基本的な 技能を身に付けている。	第2節 酸・塩基とその反応 ⑦酸・塩基と中和	第1節のまとめ	◎		◎		定期考査、振り返りシート	2			
						酸と塩基	○					1			
						実験：酸と塩基		○		【実験】酸と塩基		1			
						酸・塩基の強弱	◎				小テスト	1			
						水素イオン濃度とpH	○					2			
						pHの測定	○					1			
	12	思考 判断 表現	化学反応について、観察、実験などを通して探究 し、物質の変化における規則性や関係性を見いだ して表現している。	第3節 酸化と還元 ④酸化と還元	実験：pHの測定		○		【実験】pHの測定		1				
					中和と塩	○					2				
					実験：塩の加水分解		◎		【実験】塩の加水分解	ワークシート	1				
					中和の量的関係	○					2				
					中和滴定	○					2				
					探究：中和滴定		◎		【実験】中和滴定	ワークシート	1				
3	1				中和滴定曲線	○					1				
					節末問題	第2節のまとめ	◎				定期考査	1			
					酸化と還元	○					1				
					酸化数	◎				小テスト	2				
					酸化剤と還元剤	○					2				
					実験：酸化剤と還元剤		◎		【実験】酸化剤と還元剤	ワークシート	1				
金属のイオン化傾向	○					1									
実験：イオン化傾向		◎		【実験】金属のイオン化傾向	ワークシート	1									
金属の反応性	○					1									

[illegible]

令和5年度 シラバス

教科名	理科	科目名	理数生物	単位数	3	学科・コース	自然環境科	学年	2	クラス	1
教科書 (出版社)	高等学校生物基礎 (数研出版)										

1 学習の目標

目 標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】 （２）自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。【思考力、判断力、表現力等】 （３）生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】
-----	---

2 学習計画

◎記録に残す評価

学期	月	単元名	育成を目指す資質・能力 評価規準（達成目標）		学習項目	学習内容	知	思	態	備考（観察・実験や指導上の留意点）	評価方法	時数
1	4	第1章 生物の特徴	知識・技能	生物の特徴について、生物の共通性と耐用性、生物とエネルギーの概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	1. 生物の多様性と共通性	生物の多様性		○	○		授業態度	1
						生物の共通性と多様性の起源		○			発問評価	2
						細胞の構造にみられる共通性		◎			定期考査	4
						顕微鏡の操作	◎				実験レポート	1
						観察 植物細胞の観察と長さの測定	○					2
						観察 原核細胞、真核細胞の観察	○					2
	5		思考 判断 表現	生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。	2. 細胞とエネルギー	代謝とエネルギー、ATP	○					2
						代謝と酵素	◎		○			2
						実験 酵素カタラーゼの特性	○	○				1
						光合成	○					2
						観察 葉緑体の観察	○	○				1
						呼吸	○					2
	6		主体的に学習 に取り組む態度	生物の特徴に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		ミトコンドリアと葉緑体の起源	○					1
						酵素の特性			◎			2
	7	第2章 遺伝子とその働き	知識・技能	遺伝情報とその働きについて、遺伝情報とDNA、遺伝情報とタンパク質の合成の概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	1. 遺伝子の本体の構造	遺伝子の本体-DNA	○					2
						DNAの構造	○					2
						実験 DNAの抽出	○					1
					2. 遺伝情報の複製と分配	演習 DNA分子モデルの作製			◎			3
						細胞周期		○				2
						観察 細胞周期の観察	○					2

2	9	思考 判断 表現	遺伝情報とその働きについて、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。	3. 遺伝情報とタンパク質	遺伝情報とタンパク質	○				授業態度 発問評価 定期考査 実験レポート	2				
		主体的に学習 に取り組む態 度	遺伝情報とその働きに関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		タンパク質			○			2				
	第3章 生物の体内環境	知識・技能	神経系と内分泌系による調整と免疫について、体内環境維持の仕組みや免疫の概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。		1. 体液とその働き	体液と物質の輸送	○					3			
						体液成分の濃度調節	◎					3			
						観察　ブタの腎臓の観察	○					1			
						肝臓の働き	○	○				2			
	10	知識・技能	神経系と内分泌系による調整と免疫について、体内環境維持の仕組みや免疫の概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	2. 体内環境の維持のしくみ	自律神経系の働きと構造	○					2				
					内分泌系による調節	○					4				
					自律神経系と内分泌系による調節	○					2				
					11	思考 判断 表現	神経系と内分泌系による調整と免疫について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。	3. 生体防御	皮膚や粘膜での物理的・科学的な防御			○			1
	免疫に関わる細胞と器官	○									1				
	自然免疫	○									2				
獲得免疫	○								3						
12	知識・技能	神経系と内分泌系による調整と免疫に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	1. 植生と遷移	植生	○				3						
				植生の遷移	○				2						
				2	思考 判断 表現	植生と遷移について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。	2. バイオームとその分布	バイオーム	○		○		2		
								世界のバイオーム	○				2		
日本のバイオーム	○								2						
探究　葉の形態に及ぼす光の影響		◎							2						
3	1	知識・技能	植生と遷移について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。	2. バイオームとその分布						授業態度 発問評価 定期考査 探究レポート					
					主体的に学習 に取り組む態 度	植生と遷移に関する事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。									
	第5章 生態系とその保全	知識・技能	生態系とその保全について、生物の多様性、生態系のバランスと保全の概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。		1. 生態系	生態系の成り立ち	○					2			
						生態系内の物質循環とエネルギーの流れ	◎					2			
						2. 生態系のバランスと保全	生態系のバランス	○					2		
							人間活動による生態系への影響		◎				4		
	生態系の保全				◎			3							
	3	思考 判断 表現	生態系とその保全について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。		2. 生態系のバランスと保全										
	3	思考 判断 表現	生態系とその保全について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。	2. 生態系のバランスと保全											
3	思考 判断 表現	生態系とその保全について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見い出して表現するなど、科学的に探究している。	2. 生態系のバランスと保全												

3 評価方法とその観点

下記の(1)～(5)の項目を，評価の観点別(知識・技能，思考・判断・表現，主体的に学習に取り組む態度)に評価します。
[知識・技能]：[思考・判断・表現]：[主体的に学習に取り組む態度]＝1：1：1の割合で評価します。
各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。

(1)授業への取り組み

授業に対する姿勢，学習態度，生物への関心等で判断する。評価の観点のうち，特に関心・意欲・態度の項目を評価する。

(2)ノートの記載内容

授業内容を適切にまとめているか，科学的な思考ができているかなどを評価する。

(3)観察・実験等

観察・実験等を行い，レポートを書く。観察・実験に対する姿勢，予想や考察，器具の操作，報告書などから評価する。評価の観点のうち，知識・技能，思考・判断・表現に関する配分が大きい。

(4)教科書・問題集の問題

各問題への取り組み，取り組んだ内容から評価する。

(5)中間・期末考查

学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち，知識・技能，思考・判断・表現に関する配分がもっとも大きい。

4 学習のアドバイス等

- 1 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち，その法則性について考える態度をもつこと。
- 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- 3 学んだことをより正確に記録する方法と態度を身につけること。

令和5年度 生物 シラバス

教科	科目名	単位数	科(学年)	必・選(授業形態)	
理科	理数生物	2	環境科3年	選択	
教科書	東京書籍 スタンダード生物		副教材	なし	

【学習の到達目標】

- 1 「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象を更に広範囲に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けさせる。
- 2 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観を育てる。
- 3 観察・実験を通して自然を科学的に探究する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。
- 4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。

【評価の観点】

関心・意欲・態度	授業を積極的な態度で受けているか、実験実習も意欲的に取り組んでいるかなど授業態度を評価する。
技能・表現	実験実習では、支持された手順に沿ってきちんと行うことができるか、また質問事項に対して自分の考えを正確に表現できるか評価する。
思考力・判断力	与えられた課題や科学的な思考を問う内容を、理論立ててきちんと理解できるか、また適切な判断を下せるか評価する。
知識・理解	教科書の基礎基本事項を正確に理解し、覚えられるかペーパーテストで確認する。

【評価方法】

評価の方法	割合	具体的な評価の方法など
(1) 定期テスト	60%	テスト内容は授業で活用した教科書、プリント等で紹介した練習問題などから作問する。
(2) 提出物 (ノート・課題等)	30%	各単元の終了毎にノートや課題の提出を求める。 ノート：授業で配布したプリントは指示通り整理されているか。 課題：単元毎の練習問題やレポートなどを課す。
(3) 授業態度	10%	①学習用品・教科書の持参 ②授業への集中の程度 ③発問への応答の有無など。

【おすすめの学習方法・アドバイスなど】

①授業を大切にしよう。

自分で一から勉強するのはとても大変です。授業をしっかりと聞いて、自分なりにノートをまとめましょう。

②テスト勉強は特にしっかりやろう。

日頃の学習の確認として中間・期末テストが実施されます。日頃の学習を理解した上で、テスト予想問題やプリントに含まれる確認・発展問題を解こう。

③最新の科学的な話題を収集しよう。

小論や面接では、ニュースで話題になる科学的な内容も質問されます。新聞の切抜きや先生の談話などにも重要な話が含まれます。進路に合わせた情報収集を心がけよう。

2 学習計画及び評価方法等

学 期	学習内容 (知識を深める● 発展○)	月	学習のねらい	考 査 範 囲	評価の観点 のポイント			
					関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	観 察 ・ 実 験 の 技 能	知 識 ・ 理 解
1 学 期	第1編 生命現象と物質							
	1章 生体物質と細胞		・細胞は、どのような成分によって構成されているのだろうか。細胞の構造とはたらきについて学習する。		○			
	1節 生物の体をつくる細胞とその構造		・細胞は、水や、タンパク質、脂質、炭水化物、核酸などの成分によって構成されている。真核細胞と原核細胞が共通にもつ細胞膜は生体膜と呼ばれ、膜内外の物質の拡散を防ぐはたらきなどをもつ。			○		○
	観察実験1「細胞の構造の観察」 ●真核細胞内に含まれる構造体を分ける方法 ●細胞膜での水の移動	4	・身のまわりの動物や植物の細胞のうち、細胞に動きのあるものを観察する。				○	
	2節 真核細胞内の構造とのはたらき		・真核細胞の細胞小器官には、遺伝情報やエネルギーの変換、タンパク質の合成、細胞の形の維持や貯蔵、細胞分裂などにかかわる構造がある。さまざまな細胞小器官が協調して相互にかかわり合いながらはたっている。	第1学期中間 考 査				○
	2章 生命現象を支えるタンパク質		・タンパク質は、生体内においてどのようなはたらきをしているのだろうか。生命現象を支えるタンパク質の構造やはたらきについて学習する。		○			
	1節 タンパク質の構造とはたらき ●タンパク質の修飾とはたらき ●タンパク質の立体構造の形成と立体構造の異常による病気	5	・タンパク質は、アミノ酸がペプチド結合したもので、立体構造を形成して特有のはたらきをもつ。タンパク質の立体構造が崩れることを変性という。変性したタンパク質は、そのはたらきを失う。		○			○
	2節 酵素としてはたらくタンパク質 ●酵素がはたらくことで反応が進みやすくなるのはなぜか		・酵素には、特定の基質のみと結合する基質特異性がみられる。また、酵素には最適温度や最適pHがあり、高温や極端なpHなどの条件下では、タンパク質が変性して失活する。活性をもつために、補酵素が必要な酵素もある。			○		○
	観察実験2「カタラーゼがはたらく条件を調べる」 ●洗剤に利用される酵素 ●生体内ではたらく酵素にはどのようなものがあるか ●酵素反応を阻害する物質 ●フィードバック調節に関する酵素		・ブタのレバー（肝臓）に含まれるカタラーゼ（酵素）がはたらく条件を調べ、無機触媒のはたらき方と比較する。				○	
	3節 輸送や情報伝達にかかわるタ		・細胞膜ではチャネルやポンプ、細胞内ではモータータ		○			○

ンパク質	ンパク質によって物質の輸送が行われている。細胞間での情報は、神経伝達物質やホルモンなどのリガンドが、細胞内や細胞膜に存在するタンパク質でできた受容体と結合することによって伝えられる。					
4節 免疫にかかわるタンパク質 ●数千万種類の抗体はどのようにしてつくられるのか	・免疫にかかわるMHCタンパク質やT細胞受容体、B細胞受容体は、タンパク質からなる。情報伝達物質のサイトカインや抗体としてはたらく免疫グロブリンもタンパク質からできている。		○		○	
5節 細胞接着にかかわるタンパク質	・細胞接着には、密着結合、固定結合、ギャップ結合がある。さらに固定結合には、密着結合、デスモソームによる結合、ヘミデスモソームによる結合がある。これらの結合には、細胞膜を貫通するタンパク質がかかわっている。				○	
3章 代謝とエネルギー	・生物の体内では、エネルギーの出入りを伴うさまざまな代謝が行われている。呼吸や光合成を中心に、代謝反応の流れやしぐみについて学習する。	○				
1節 エネルギー変化と化学反応 ●酸化と還元	・同化や異化におけるエネルギーのやりとりはATPによる。同化に必要なエネルギーは、ATPの加水分解によって供給される。				○	
2節 呼吸 ●解糖系ではどのようにしてATPが つくられるのか ●還元型補酵素はどのようにして つくられるのだろうか	・呼吸では、呼吸基質の有機物が二酸化炭素と水に分解される。このとき、解糖系、クエン酸回路、電子伝達系の3つの過程を通してATPが合成される。呼吸基質によって、呼吸商はそれぞれ異なる。				○	
観察実験3「コハク酸脱水素酵素の実験」 ●食物に由来するさまざまな分子の呼吸経路	・クエン酸回路で、コハク酸脱水素酵素のはたらきを、メチレンブルーの色の変化を利用して観察する。			○		
3節 発酵と解糖 ●呼吸と発酵の両方を行う生物	・酸素を用いないATP合成には、アルコール発酵や乳酸発酵、解糖などがある。酸素を用いないATP合成は、酸素を用いる呼吸に比べてATP合成の効率がよくない。	○			○	
観察実験4「アルコール発酵を調べる実験」	・酵母菌がグルコースをエタノールと二酸化炭素に分解するはたらきを観察する。			○		
4節 光合成 ●光の吸収と色素の関係	・光合成の第1段階では、光エネルギーによりチラコイドで光化学反応と電子伝達が起こりATPとNADPHが生成される。第2段階では、これらを用いて、ストロマのカルビン・ベンソン回路でCO ₂ が固定され、有機物ができる。				○	
観察実験5「クロマトグラフィーによる光合成色素の分離実験」 ●C4植物とCAM植物ではどのように二酸化炭素を取り込むのだろうか	・光合成色素の抽出と分離を行い、どのような色素が存在するかを観察する。			○		
5節 窒素同化と窒素固定	・アミノ酸などの有機窒素化合物は、窒素同化により合		○		○	

3章 遺伝子の発現調節	出し、その塩基配列からタンパク質への転写、翻訳の暗号を読み解く。また、塩基配列の変化が及ぼす影響について考察する。			
1節 転写開始の調節	●代謝産物によって転写が抑制される原核細胞のオペロンのしくみ ○ヌクレオソームはどのようにしてゆるむのか ●RNAポリメラーゼと基本転写因子のみで転写が開始されるのか	○	○	○
2節 遺伝子発現の調節	●転写の開始はどのようなしくみで調節されているのだろうか。また、分化した細胞が特有のタンパク質をもつのはなぜだろうか。遺伝子発現のしくみと細胞分化について学習する。 ●原核細胞では、リプレッサーとよばれる調節タンパク質がオペレーターに結合したり離れたりすることで転写を調節する。真核細胞では、基本転写因子などの調節タンパク質とRNAポリメラーゼがプロモーターに結合すると、転写が開始される。	○	○	○
観察実験8 「ユスリカの染色体の同定とパフの位置の探し出し」				
4章 バイオテクノロジー				
1節 目的の遺伝子を増やす	●制限酵素の名前の由来とその特徴 ●分化した細胞の特有なタンパク質は、選択的遺伝子発現によってつくられる。また、真核細胞では、細胞外の物質によって遺伝子の転写が誘導されるしくみもある。 ●染色体上のどの部位の遺伝子が発現しているかを観察する。	○	○	○
2節 遺伝子の情報を解読する	●サンガー法とはどのようなしくみで行われているのだろうか ●電気泳動法 ●イヌの体の大きさを決める遺伝子は？ ●難病の克服に光を当てるゲノムの解析	○	○	○
3節 遺伝子を細胞内に導入する 観察実験9 「大腸菌を使った遺伝子組換え実験」	●目的の遺伝子を切り取るには制限酵素が、DNAにつなぎ合わせるにはDNAリガーゼが用いられる。遺伝子の運び手（ベクター）としてプラスミドがよく使われる。 ●遺伝子の塩基配列を解読するサンガー法などの技術が開発され、この技術を応用した機器によるゲノム解析がヒト以外の生物でも行われている。これらの成果は、医療などの分野に有効であると考えられている。	○	○	○
4節 バイオテクノロジーの課題 ●iPS細胞をつくり出す山中ファクター ○遺伝子の機能を抑制する方法 探究2 「パン酵母を利用した組換えDNA実験」	●遺伝子を細胞内に導入する技術は、農作物の生産などにも利用されつつある。また、GFPと呼ばれるタンパク質は、遺伝子が発現する場所や時期を特定するのに使用されている。 ●大腸菌に蛍光タンパク質を合成するGFPの遺伝子をもつプラスミドを導入し、バイオテクノロジーにおける遺伝子組換えのしくみを理解する。 ●バイオテクノロジーは、今後も病気の治療などに寄与すると考えられている。しかし、その技術の実用化については、安全性や倫理的問題など、慎重に考えていかなければならない課題もある。	○	○	○
第3編 生殖と発生				

学 期	1 章 多様な個体が生じる有性生殖	9	第 2 学 期 中 間 考 査				
	1節 有性生殖と染色体			○		○	○
	2節 多様性を生じる減数分裂						
	観察実験10「植物における減数分裂の観察」			○		○	
	3節 遺伝子と染色体					○	
	観察実験11「交配実験のシミュレーション」					○	
	●組換え価と染色体地図					○	
	2 章 動物の発生						
	1節 精子と卵の形成と融合			○			
	観察実験12「ウニの配偶子と受精の観察」					○	
	2節 発生の進み方						
	観察実験13「ウニの発生の観察」					○	
	3 章 動物の発生のしくみ					○	
	1節 動物の体軸と軸形成						
	2節 胚の細胞の分化と器官形成			○			
	●イモリの胚の結紮実験						○
	3節 動物の形を決める遺伝子						○
	観察実験14「キイロショウジョウバエの胚の観察」						○
	4節 発生研究の成果と応用			○			○

4 章 植物の発生		・ ショウジョウバエの胚では、発生が進むと表皮にクチクラという硬い層ができる。胚（幼虫）の体節の表皮には、それぞれに特徴的な構造があり、どの体節かを示す目印になっている。クチクラ標本を作製して胚（幼虫）の形態を顕微鏡で観察してみよう。					○
1 節 被子植物の生殖と発生		・ 発生の研究で得られたES細胞やiPS細胞などの知見は、再生医療などへの応用が期待されている。その一方で、倫理的な問題や安全性の確保のため、さらに研究を進めることが求められている。				○	○
観察実験15「被子植物の胚や種子の形成過程の観察」		・ 動物の発生のしくみと比較しながら、被子植物の生殖と発生・分化について、その特徴やしくみを学習する。		○			
2 節 花の形態形成のしくみ		・ 被子植物の発生では、動物の発生にみられるような細胞や組織の移動はみられず、体細胞分裂や細胞の成長の方向によって体が形成される。茎頂分裂組織や根端分裂組織が、生涯を通じて器官形成を担っている。					○
●植物研究におけるシロイヌナズナ		・ 受精しためしべの子房を用意し、被子植物の胚や種子の形成過程を観察してみよう。					○
観察実験16「八重咲き植物の花の構造」		・ 花のつくりは植物で共通しており、その形態は3つのクラスの調節遺伝子のはたらきによって形成される。動物のホックス遺伝子と同様に、これらの調節遺伝子の種類と組み合わせが、花の形態的な特徴を決めている。		○			○
●Cクラスの遺伝子の欠損と八重咲きの花		・ 園芸用の八重咲の品種と八重咲でない品種（あるいは野生の原種）の花の構造を観察する。					○
探究3「カエルの発生の観察」							
探究4「花粉管の発芽・成長と精細胞の観察」							
第4編 生物の環境応答							
1 章 動物の刺激の受容と反応		・ 動物は、光や音などの刺激を手がかりにして、獲物や外敵の存在などの情報を得ている。情報を処理して正確ですばやい反応を引き起こすしくみについて学習する。		○			
1 節 刺激の受容から反応へ	10	・ 外界からの刺激は、眼、耳、鼻などの受容器で受容される。外部環境から得られた情報は、ニューロンによって電気信号として伝えられ、中枢神経系から筋肉などの効果器に指令が伝えられて反応が起こる。					○
2 節 興奮の伝導と伝達		・ ニューロンで生じる電気信号は、膜電位の変化で生じる。膜電位が活動電位に変化すると、興奮が生じる。ニューロンの中を興奮が伝わることを興奮の伝導といい、ニューロンの間を興奮が伝わることを興奮の伝達という。ニューロンは、閾値以上の刺激を受けないと興奮しない。			○		○
●パッチクランプ法	11						
●フグ毒							
3 節 光・音・平衡感覚の受容のしくみ		・ 光は、網膜にある2種類の視細胞によって、色や明暗の情報として受容され、視神経によって大脳の視覚野に伝えられて視覚が生じる。音（空気の振動）は、鼓膜を振動させ、うずまき管のコルチ器の中の基底膜を上下に振動させ、聴細胞が興奮する。この興奮は、聴神経によって大脳の聴覚野に伝えられ聴覚が生じる。	第2学期期末考査				○
●音の高低を聞き分けるしくみ	12	・ 受容器で感知された刺激は、感覚神経を通して脳や脊髄（中枢神経）に伝わり、大脳で情報として統合される。大脳以外の脳は、自律神経の調節や随意運動の統		○			○
●さまざまな感覚と受容器							
4 節 中枢神経での情報処理							
●脳機能マッピング							
観察実験17「反射の観察」							

5節 効果器としての骨格筋	合を行う。また、脊髄は、延髄や中脳とともに反射の中枢となる。					
2章 動物の行動	- 単純な刺激であっても、適刺激であれば、反射が起こる。被験者や自分の体を使い、反射を観察する。 - 効果器の代表的な器官には骨格筋がある。骨格筋は運動ニューロンから送られた興奮によって収縮する。この筋収縮は、アクチンフィラメントとミオシンフィラメントの間の滑り運動によって起こる。					○
1節 動物の行動をめぐる4つの「なぜ」	行動とは、生物を含む環境に対して、生物が反応したりはたらきかけたりする活動である。動物の行動が起こるしくみについて学習する。	○				
●生得的行動と習得的行動	動物の行動を科学的に解明するには、行動のしくみを指すメカニズム、行動が完成されるまでの変化を指す発達、行動の役割を指す機能、祖先の種からの行動の進化という4つの視点がある。		○			○
2節 動物の行動の例	- 動物の行動には定型的運動パターン、走性、反射、学習などがあり、それらは神経のはたらきによって生じる。刺激を伝える介在ニューロンの影響によって、これらの行動の組み合わせや変化が起こる。 - カイコガのフェロモンに対する行動を観察する。	○				○
観察実験18「カイコガのフェロモンに対する行動」						
●コウモリの反響定位とヤガの捕食回避行動						
●古典的条件付け～マウスの恐怖の学習～						○
3章 植物の環境応答						
1節 植物の一生にかかわる環境応答	移動能力をもたない植物は、周囲の環境の変化に応じた発生や成長などの調節がみられる。植物の一生をたどりながら、植物の環境応答とそのしくみについて学習する。	○				
2節 環境要因による発芽の調節	植物は、その一生のなかで、さまざまな環境の変化を感知し、発生や成長などを調節している。植物は、環境要因のなかでも特に重要な光を光受容体によって感知している。植物の発生や成長などの調節には、植物ホルモンと呼ばれる生理活性物質が大きな役割を担っている。					○
3節 栄養成長の調節	水、酸素、温度、光などの環境要因は、種子の発芽に影響を与える。種子の休眠や発芽には、植物ホルモンのアブシシン酸やジベレリンが関与しており、光による発芽の調節には光受容体のフィトクロムが関与している。					○
●幼葉鞘を使った光屈性の研究						
●植物ホルモンと植物細胞の分化	茎や根の成長は、オーキシンなどの複数の植物ホルモンによって調節されている。植物は光や重力などの刺激に対し、屈性と呼ばれる屈曲反応を示す。光屈性と重力屈性は、刺激を受ける側とその反対側とでオーキシンの分布が不均等になり、成長速度に差が生じることによって起こる。					○
4節 気孔の開閉の調節	気孔は、水の出入りによって孔辺細胞が変形することで開閉する。孔辺細胞での水の出入りは、光や乾燥などの環境要因に対して調節される。環境に合わせて気孔の開閉が調節されることで、外界とのガス交換を効	○				○
5節 花芽形成の調節						
●熟しにくいトマトをつくる						
●植物ホルモンの農業への利用						
6節 葉の老化の調節と紅葉・落葉のしくみ			○			

	観察実験19「エチレンによる落葉促進の観察」		率よく行くと同時に、水分が失われすぎること回避している。						○
	7節 ストレスに対する植物の応答		・多くの植物においては、連続した暗期の長短がフィトクロムなどの光受容体で感知され、花成ホルモンが作用することで花芽が形成される。こうした光周性と、温度条件による春化のしくみによって、花芽形成の時期は調節される。						
	探究5「弱電気魚の電気定位」		・葉が役目を終えたり、光合成に不都合な環境を迎えたりすると葉の老化が始まり、葉から養分が回収される。葉の老化が進むと、エチレンの作用により葉柄の付け根に離層が形成され、落葉が起こる。	○					○
	探究6「植物の環境応答の観察」		・エチレンが葉の葉柄に離層を形成することで、落葉を促進するようすを観察する。					○	
			・植物は、過度の乾燥、塩、低温などの環境ストレス、傷害や病原菌の感染によるストレスなどを受けると、ストレスに対する抵抗性を高めたり、損傷の拡大を防いだりするような応答を示す。						○
3 									

観察実験21「河川の流量の変化が及ぼす藻類の多様性」	たらず相利共生という関係もある。また、擬態をもつ被食者は、捕食者から逃れやすくなる。	○	○
3章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ	・多種の共存は、種間競争をいかに回避するかがポイントとなる。生態的地位の分割、捕食や攪乱による競争に強い種の抑制は、特に重要なしくみである。	○	○
1節 食物網と物質生産 ●深海底の生態系	・河川の流量は渇水期や豪雨のときに大きく変動する。この大きな流量の変化に伴って、河川の生物の数や種類は増減している。このような流量の変化に伴う攪乱が生物の数や種類に及ぼす影響を、川底の石に付着している藻類の観察を通して考えてみよう。	○	
2節 生態系の構造とエネルギーの流れ	・生態系のなかでの有機物の生産やエネルギーの流れに対して、生物がどのようにかかわっているかについて学習する。	○	
観察実験22「生産構造図の作成」	・生態系のなかでの物質やエネルギーの流れは、食物網を通して起こっている。生産者によってつくられた有機物は、食物網を通して、より高次の栄養段階の消費者に受け渡される。		
4章 生態系と生物多様性	・生産者の物質収支は、総生産量・純生産量・成長量など、消費者の物質収支は、同化量、生産量、成長量などでとらえることができる。		○
1節 生物多様性とその意味 ●人間活動の変化で増えすぎた野生動物	・身近な広葉草本型の植物群集とイネ科草本型の植物の生産構造図をつくる。	○	○
2節 生物多様性を減少させる要因 ●外来生物を駆除するときの注意点	・生物多様性とは何だろうか。生態系のなかでの人間（ヒト）とほかの生物とのかかわりについて学習する。	○	
観察実験23「生物の絶滅と模擬実験」	・生物多様性を考えるときには、種の多様性、遺伝的多様性、生態系の多様性という3つの視点が重要である。	○	○
3節 生物多様性の保全と復元 ●生物多様性を守る認証制度	・生物多様性を減少させる要因は、生息地の面積の減少や分断化だけでなく、人間活動の変化に伴う、さまざまな要因が関与している。また、いったん個体数が減少すると、個体数が少ないこと自体が絶滅を加速させる要因となる。		○
探究7「外来生物についての法律と外来生物の観察」	・雌と雄の1つがいの子を4匹産む生物がおり、親は子を生んだのちに死ぬこととする。もし、雌と雄の子が同数産まれ、すべての子がつがいをつくれれば、この生物は1世代あたり2倍に増える。しかし、偶然、産まれる子がすべて雌であったり雄であったり、つがいが1つもできなかったりすると、この生物は絶滅してしまう。そこで、基石をこの生物の個体に見立てて、絶滅がどれくらいの確率で起こるかを確かめてみよう。	○	○
第6編 生物の進化と系統	・生物多様性や生態系を保全するには、生態系の成り立ちや、生物が減少しにくいしくみを科学的に分析し、生態系を適切に管理する必要がある。	○	
1章 生命の起源と生物の変遷			
1節 生命の起源 ●自然発生説を否定する実験			
2節 地球環境の変化と真核生物の誕生			
	・現在、地球上でみられる多種多様な生物は、どのよう	○	

		にして地球上に誕生し、現在までどのような変遷をたどってきたかについて学習する。							
3節 生物の変遷		・約38億年前の原始地球において、無機物から有機物の合成、代謝や遺伝を担う物質の獲得、細胞膜の形成などの化学進化を経て、生命は誕生したと考えられている。生命が誕生した場所は、海底の熱水噴出孔が有力な候補である。							○
●新生代の区分									
●顎の進化									
●生物の大量絶滅									
●始祖鳥は現生の鳥類の祖先ではない？		・生命が誕生してから約17億年もの間は、嫌気的な環境を利用する原核生物の多様化が進んだ。その後、酸素を発生させる光合成を行うシアノバクテリアの誕生・大繁殖により、海水中の酸素濃度が上昇した。その環境の変化が、呼吸により効率よくエネルギーを獲得できる真核生物の誕生につながったと考えられている。							○
4節 人類の変遷		・真核生物は、さまざまな環境要因（酸素濃度、気温、乾燥、重力など）に適応し、進化して多様化をとげた。一方で、三葉虫や恐竜のように多くの生物が絶滅した。脊椎動物の四肢や種子植物の種子など、現生の生物がもつ形態は進化の過程でつくられた。							
観察実験24「脳容積の測定」									
●この絵は誤っているのだろうか？									○
●私たちの祖先と共存していたフローレス原人の発見									○
2章 進化のしくみ									
1節 進化		・人類は類人猿と異なり、直立二足歩行、横に広い骨盤、小さな犬歯などの特徴をもつ。人類の進化は直線的なものではなく、絶滅や多様化を経て、約20万年前のアフリカでヒト（ホモ・サピエンス）の祖先が誕生した。	○						○
2節 生物の個体間の変異とその起源		・頭の大きさからヒトの脳容積を推定し、人類やほかの哺乳類の脳容積と比較して、人類の進化について考える。							○
●染色体レベルで起こる突然変異と遺伝子重複と進化									
3節 遺伝子頻度とその変化のしくみ									
●ガラパゴスフィンチのくちばしにはたらいた自然選択									
観察実験25「遺伝子浮動による遺伝子頻度変化のシミュレーション」		・進化とは、一般に、生物の形質が世代を経るにつれて変化していくことである。進化はどのようなしくみで起こるかについて学習する。	○						
4節 種分化		・進化とは、1世代内で起こる1個体の変化ではなく、世代を経て集団に起こる遺伝的な変化と定義される。							○
		・進化の材料となる遺伝的変異は、生殖細胞に生じた突然変異によって起こる。突然変異のなかでも、染色体の乗換えの際に生じる遺伝子重複は進化に大きな影響を及ぼす。							○
3章 生物の系統									
1節 生物の系統と系統関係の推定									
●生物の名前と分類名		・進化は自然選択や遺伝的浮動によって生じ、自然選択は適応をもたらす。分子にみられる変異の多くは中立であり、遺伝的浮動により固定されることがある。種間のDNAの塩基配列やアミノ酸配列の違いを比較して分子系統樹をつくることができる。	○						○
2節 生物の世界の3ドメイン		・遺伝的浮動によって、無性生殖をする生物集団内の遺伝子頻度がどのように変化するかをシミュレーションする。							
●五界説									
●私たちの生活に身近な最近									
観察実験26「シダ植物の観察」									○
探究8「自然選択による進化のしくみ」		・種とは、生殖的隔離を基準に区別される集団を指す。							

		地理的隔離や突然変異などにより，2つの集団が生殖的に隔離され，種分化が起こる。種多様化は，共進化や適応放散などによって促進される。 • 生物が進化してきた道筋を系統という。さまざまな生物にはどのような系統関係があるのかについて学習する。 • 生物が進化してきた道筋（系統）の推定には，形態や発生様式も利用されるが，近年はDNAの塩基配列がおもに利用されている。生物の分類体系は，系統関係を反映するようになされている。 • 生物の世界は，細菌，古細菌，真核生物の3つのドメインからなる。すべての生物が共通してもつDNAの塩基配列を利用した分子系統の解析により，各ドメインにおいて系統関係を反映した分類が進められている。 • 胞子で繁殖するシダ植物を観察し，体のつくりなどを確認してみよう。	○				○
				○			○
						○	

教科	科目名	単位数	科(学年)	必・選(授業形態)	
理科	理数生物	3	環境科3年	必修選択	
教科書	第一学習社			副教材	なし

【教科(科目)の目標】

自然現象について観察、実験などを行い、体験を伴う授業を多く取り入れる。そのなかで、自然に対する関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

【評価の観点】

関心・意欲・態度	授業を積極的な態度で受けているか、実験実習も意欲的に取り組んでいるかなど授業態度を評価する。
技能・表現	実験実習では、支持された手順に沿ってきちんと行うことができるのか、また質問に対して自分の考えを正確に表現できるか評価する。
思考力・判断力	与えられた課題や科学的な思考を問う内容を、理論立ててきちんと理解できるか、また適切な判断を下せるか評価する。
知識・理解	教科書の基礎基本事項を正確に理解し、覚えているかを確認し評価する。

【評価方法】

評価の方法	割合	具体的な評価の方法など
(1) 定期テスト	60%	テスト内容は授業で活用したプリント、教科書、副教材等に照会した練習問題などから作問する。
(2) 提出物 (ノート・課題等)	30%	各単元の終了毎にノートや課題の提出を求める。 ノート：授業で配布したプリントは指示通り整理されているか。 課題：単元毎の練習問題やレポートなどを課す。
(3) 授業態度	10点内の加算	①学習用品・教科書の持参 ②授業への集中の程度 ③発問への応答の有無など。

【おすすめの学習方法・アドバイスなど】

- ①授業を大切にしよう。
自分で一から勉強するのはとても大変です。授業をしっかり聞いて、自分なりにノートをまとめましょう。
- ②テスト勉強は特にしっかりやろう。
日頃の学習の確認として中間・期末テストが実施されます。日頃の学習を理解した上で、テスト予想問題やプリントに含まれる確認・発展問題を解こう。
- ③課外講座や特別講座も利用しよう。
大学進学や進路で理科が必要な生徒のために特別講座が設置しています。
進路の情報を見て申し込もう。
- ④最新の科学的な話題を収集しよう。
小論や面接では、ニュースで話題になる科学的な内容も質問されます。新聞の切抜きや先生の談話などにも重要な話しが含まれます。進路に合わせた情報収集を心がけよう。

2 学習計画及び評価方法等

観点別評価 A (関心・意欲・態度) B (思考・判断・表現) C (観察・実験技能) D (知識・理解)

学 期	月	学習内容 (単元・小単元)	学習のねらい (◎ 発展的学習内容)	評価の観点 のポイント				配 時	考 査
				A	B	C	D		
1 学 期	4	第1編 生物と遺伝子							
		1章 生物の特徴	・生物の特徴の1つに挙げられる、多様性と共通性について学ぶ。	○				6	
		第1節 生物の多様性と共通性	・顕微鏡の操作を学ぶ			○		2	
		顕微鏡の使い方	・植物の細胞を観察し、長さを測定する			○		2	
		細胞の観察	・身のまわりの原核細胞・真核細胞を光学顕微鏡で観察し、スケッチする。			○			1
		原核生物と真核生物の観察	・多くの生物の細胞には核が含まれているが、核がない生物も身近にいることを知る。	○				1	学 期 中 間 考 査
		「身近な原核生物」	・エネルギーと代謝の関係性とエネルギーの通貨としてはたらくATPについて学ぶ。	○				2	
	5	第2節 細胞とエネルギー	・ATPと発光物質を組み合わせて、環境の汚染度が測定できることを知る。				○		
		「ATPで衛生管理」	◎酵素の基質特異性や最適温度・最適pHについて学ぶ。			○		3	
		◎「酵素の性質」	◎葉緑体にはチラコイドとストロマがあり、それぞれが光合成において重要な反応の場となっていることを知る。		○			4	
		◎「葉緑体の構造とはたらき」	◎ミトコンドリアにはマトリックスとクリステがあり、それぞれが細胞呼吸において重要な場となっていることを知る。		○			4	
		◎「ミトコンドリアの構造とはたらき」	・光合成において有機物であるデンプンが合成されることを実験を通して学ぶ。			○		1	
2 学 期	6	光のエネルギーを用いて有機物がつくられることの確認	・「ハテナ」と名付けられた単細胞生物において、細胞内への共生の初期段階の観察ができることを知る。				○	1	
		「現在もみられる細胞内への共生」	・葉緑体の観察を通じて観察実験の計画と実施方法について学ぶ。			○		1	学 期 期 末 考 査
		〈探究〉葉緑体				○		2	
		第2章 遺伝子とその働き							
		第1節 遺伝子の本体の構造	・遺伝子の本体としてのDNAについて学ぶ。	○				4	
		DNAの抽出	・身のまわりの材料のDNA抽出実験を通して生物がDNAをもつことを知る。			○			
		◎「ヒトゲノムプロジェクト」	◎ヒトのゲノムがどのような方法で解読され、その結果どのような注意点が生じたかを学ぶ。		○				
		「遺伝物質であるDNAはどのように解明されてきたのだろうか」	・歴史的な研究成果を追いながら、だれのどのような研究により、遺伝子の本体やDNAの構造が解明されたか、それぞれの経緯を理解する。				○	1	
			・体細胞分裂に伴うDNAの複製と分配について学ぶ。				○		
	7	第2節 遺伝情報の複製と分配						4	
		体細胞分裂の観察	・染色体の動きを光学顕微鏡で観察し、スケッチする。					3	
		卵割の観察	・卵割と細胞分裂の違いを理解する			○		1	
		◎「DNAと染色体」	◎DNAとヒストンにより構成される染色体の構造について理解する。		○			1	
3 学 期		「分裂する細胞、分裂しない細胞」	・分裂する細胞としない細胞にはどのような違いがあるか細胞周期をもとにして理解する。				○	1	
		◎「塩基の相補性を利用したDNA	◎核の中で、DNAが塩基の相補性に基づき複製されるしく				○	2	

		の複製」	みを図をもとにして学ぶ。							
2	学	9	第3節 遺伝情報とタンパク質の合成 「生命現象とタンパク質」	・遺伝情報がタンパク質の合成という形で現れる過程を理解する。 ・生命現象に関わるいろいろなタンパク質について学ぶ。				○	3	第2学期 中間 考 査
			◎「デオキシリボースとリボース」	◎DNAとRNAをそれぞれ構成するデオキシリボースとリボースの構造について知る。	○			○	1	
			◎「3つの塩基の並び方とトリプレット」	◎アミノ酸を指定するために4種類の塩基が必要な理由を理解し、トリプレットの種類について学ぶ。	○				1	
			◎「翻訳のしくみ」	◎mRNAのコドンがリボソームによりアミノ酸に翻訳されるしくみを学ぶ。						
			◎「ハエの発生過程とパフ」	◎DNAの転写とハエなどの発生過程でみられるパフの関係性を理解する。				○	1	
			パフの観察 〈探究〉細胞周期の観察	・だ腺染色体のパフを光学顕微鏡で観察し、スケッチする。 ・細胞周期における各時期に要する時間と観察される数との関係について考察する。 ・体細胞分裂のひとつである卵割の観察を行い、卵割と通常の体細胞分裂の違いについて考察する。			○			第2学期 期 期
		10	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境 第1節 体液とその働き	・体液の循環や調節に関わる心臓・腎臓・肝臓などののはたらきを学ぶ。	○				2	
			◎「細胞の膜のはたらき」	◎細胞膜の性質としての選択的透過性には、エネルギーを必要としない受動輸送とエネルギーが必要な能動輸送があることを学ぶ。				○	1	
			半透膜の性質	・半透膜の性質と浸透現象を学ぶ				○	2	
			植物細胞の浸透現象	・原形質分離と原形質復帰を観察する				○	2	
期			魚類の細胞濃度の調節	・魚類の鰓、腎臓、小腸の働きを理解する。				○	1	
			「酸素のヘモグロビンへの結合」	・酸素解離曲線の意味と、酸素とヘモグロビンの結合に影響する諸条件について理解し、組織への酸素の受け渡し方について学ぶ。	○				1	
		11	◎「血液凝固反応のしくみ」	◎血小板と血しょう中に含まれるタンパク質や Ca^{2+} の相互作用について理解し、凝固が起こるしくみについて学ぶ。				○	1	第2学期 期 期
			血球の観察 「腎臓による尿の生成と老廃物の濃縮」	・動物の血球を光学顕微鏡で観察し、スケッチする。 ・腎臓におけるろ過と再吸収のしくみにより、老廃物は濃縮して尿とし、必要な物質は血液中に残すはたらきを理解する。	○			○	4	
			第2節 体内環境の維持の仕組み	・自律神経とホルモンによる体内環境の調節のしくみを学ぶ。	○				1	
			「内分泌腺と外分泌腺」	・ホルモンを分泌する内分泌腺と汗や消化液などを分泌する外分泌腺との構造上の違いについて学ぶ。				○	2	
期			「ホルモンの発見」	・ベイリスらによるセクレチン発見の経緯を知る。				○	1	第2学期 期 期
			ホルモンによる魚の心拍数の変化	・ルーペもしくは実体顕微鏡で観察し、アドレナリンによる魚類の心拍数変化を測定する。				○		
			◎「ホルモンによる体脂肪量の調節」	◎レプチンとグレリンという2種類のホルモンによって、体脂肪量の調節がなされるしくみを理解する。				○	2	
			第3節 生体防御	・異物の体内への侵入を防いだり、侵入した異物を排除するしくみを学ぶ。	○				2	

学 期	12	バッタの白血球の食作用の観察	・ バッタの白血球が異物を排除するしくみを光学顕微鏡で観察する。		○				末 考 査
		◎「ウイルスの増殖に対する免疫細胞の対応」	◎ウイルスに感染した細胞がナチュラルキラー細胞やキラーT細胞により細胞死に至るしくみを知る。			○		1	
		◎「自己と非自己の認識」	◎主要組織適合性複合体が自己・非自己の認識に関わる目印としてはたらくしくみを理解する。	○				1	
		◎「移植された組織に対する免疫反応」	◎移植された組織が主要組織適合性複合体により抗原として認識され、拒絶反応が起こるしくみを理解し、免疫抑制についても合わせて学ぶ。	○				1	
		◎「花粉症のしくみ」	◎花粉に対する抗体によりアレルギー反応が起こるしくみ理解する。	○				1	
		「ABO式血液型と抗原抗体反応」	・ ABO式血液型の分類と、異型血液の輸血により凝集反応が引き起こされるしくみを理解する。	○				2	
		〈探究〉血液の観察	・ 血液を材料として、塩類濃度の変化が血液に与える影響を調べ、さらに血液凝固や血流の観察を行うことで、体内環境を保つ上で血液が重要な役割を果たしていることを理解する。		○				
		〈探究〉交感神経のはたらきを調べる	・ 辛み成分を用いて交感神経のはたらきを高め、その影響を調べることで、自律神経系のはたらきに関する理解を深める。			○		2	
		第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と分布 第1節 植生と遷移 身近にみられる遷移	・ 生態系の成り立ちと植生の果たす役割を理解し、植生の遷移が生じるメカニズムを学ぶ。 ・ 観察地で植物採集をし、遷移の段階、方向、環境要因との関係を学ぶ。	○				4	
				○				1	
学 期	3	1 「湖沼からはじまる遷移」	・ 湖沼から始まる湿性遷移の場合、どのような経緯で湖沼が陸地化し、乾性遷移に移行するのか、具体例をもとにして理解する。				○	1	学 年 末 考 査
		第2節 バイオームとその分布	・ 気候条件の違いにもとづいて、さまざまなバイオームが成立する過程を知り、世界や日本におけるバイオームの分布について学ぶ。	○				3	
		「気候に適応した植物の生活形」	・ 植物の生活様式を反映する生活形の意味を知り、各生活形とそれぞれの気候条件の関連性について学ぶ。		○			1	
		暖かさの指数を求める	・ 自分の住む地域の暖かさの指数を求め、バイオームを推測する。		○				
		「富士山でみられる植生」	・ 富士山の各段階における植生の違いを知り、本州中部のバイオームの垂直分布について学ぶ。			○		1	
		2 「マングローブ林」	・ 熱帯から亜熱帯地域のバイオームであるマングローブ林について学ぶ。	○				2	
		「日本の草原植生」	・ 日本の草原が人工的に保たれる意味を知る。				○		
		第5章 生態系とその保全 第1節 生態系	・ 生態系におけるエネルギーの流れと物質の循環のしくみについて理解し、生態系の保全について学ぶ。	○				4	
		「生態系での物質の移動に人間生活が与える影響」	・ 窒素を例にとって、生態系における物質の移動に人間生活がどのような影響を与えているかを知り、いわゆる環境問題とその解決策について学ぶ。				○	2	
		3 「熱帯多雨林の生物多様性」	・ 東南アジア等に分布する熱帯多雨林における生物多様性を知り、気候条件との関係性を考える。	○				1	
		〈探究〉外来生物が生態系に与える影響	・ 人為的に移入された生物が生態系にどのような影響を与えるかを、文献や資料を用いて具体的に考察する。	○				2	

令和5年度シラバス

教科	科目名	単位数	科(学年)	必・選(授業形態)
理科	理数地学	3	環境科3年	必修選択
教科書	第一学習社 改訂地学基礎		副教材	

【 教科(科目)の目標 】

自然現象について観察、実験などを行い、体験を伴う授業を多く取り入れる。そのなかで、自然に対する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

【 評価の観点 】

関心・意欲・態度	授業を積極的な態度で受けているか、実験実習も意欲的に取り組んでいるかなど授業態度を評価する。
技能・表現	実験実習では、支持された手順に沿ってきちんと行うことができるか、また質問事項に対して自分の考えを正確に表現できるか評価する。
思考力・判断力	与えられた課題や科学的な思考を問う内容を、理論立ててきちんと理解できるか、また適切な判断を下せるか評価する。
知識・理解	教科書の基礎基本事項を正確に理解し、覚えられるかペーパーテストで確認する。

【 評価方法 】

評価の方法	割合	具体的な評価の方法など
(1) 定期テスト	70%	テスト内容は授業で活用したプリント、教科書、副教材等に照会した練習問題などから作問する。
(2) 提出物 (ノート・課題等)	20%	各単元の終了毎にノートや課題の提出を求める。 ノート：授業で配布したプリントは指示通り整理されているか。 課題：単元毎の練習問題(プリント)を課す。
(3) 授業態度	10%	①学習用品・教科書の持参 ②授業への集中の程度 ③発問への応答の有無など。

【 おすすめの学習方法・アドバイスなど 】

①授業でもらったプリントをしっかりと理解しよう。

プリントには必要最小限の学習内容を盛り込んでいます。教科書でわかりにくい内容もプリントを見ながら授業を思い出せば分かるはず→学習内容をしっかりと理解しよう。

②テスト勉強は特にしっかりとやろう。

日頃の学習の確認として中間・期末テストが実施されます。日頃の学習を理解した上で、テスト予想問題やプリントに含まれる確認・発展問題を解こう。

③課外講座や特別講座も利用しよう。

大学進学や進路で理科が必要な生徒のために特別講座を設置しています。
進路の情報を見て申し込もう。

④最新の科学的な話題を収集しよう。

小論や面接では、ニュースで話題になる科学的な内容も質問されます。新聞の切抜きや先生の談話などにも重要な話が含まれます。進路に合わせた情報収集を心がけよう。

【 学習内容（進捗計画）と評価の観点 】 — 地学基礎 —

観点別評価 【関】 関心・意欲・態度 【技】 技能・表現 【思】 思考力・判断力 【知】 知識・理解

学期	月	学習内容	観点別評価	配当時間
1	4	第1章 宇宙における地球 第1節 宇宙の構成 ①宇宙の始まり ②宇宙の広がりや銀河の分布	①【関】 【知】 ②【知】 【思】	7
	5	第2節 太陽 ①太陽の組成 ②太陽の構造 ③太陽の誕生と将来 第3節 太陽系の中の地球 ①太陽系の構造 ②太陽系の誕生 ③地球型惑星 ⑤木製型惑星 ⑥惑星・衛星以外の天体 ⑦生命の惑星・地球 中間考査	①②③ 【知】 【思】 ①②③④⑤⑥⑦ 【関】 【知】 【思】	9
	6	第2章 活動する地球 第1節 地球の姿 ①地球の形と大きさの測定 ②地球の形と大きさ ③地球内部の層構造 ④地球の構成物質 ⑤プレートの運動 ⑥大山脈の形成	①②③④ 【関】 【知】 ⑤⑥【知】	11
	7	第2節 火山活動と地震 ①火山の分布 ②火山の地形 ③火山の噴火と火成岩 ④火成岩の種類 ⑤地震が発生するしくみ ⑥地震の動き ⑦地震が発生する地域 期末考査 第3節 地質時代 ①化石 ②地層の対比 ③地質時代の区分 ④地質調査 ⑤地質図	①②③④【知】 ⑤⑥⑦【関】 【思】 考】 ①②③④⑤ 【知】 【思】	9 計 36
2	9	第3章 移り変わる地球 第1節 地層や岩石と地質構造 ①地層の形成 ②堆積岩 ③地殻の変動 ④変成岩 第2節 地球環境と生物界の変遷 ①化石 ②地層の対比 ③地質時代とその区分	①②③④⑤ 【関】 【知】 【思】 ①②③ 【関】 【知】 【思】	9
	10	④先カンブリア時代1 ⑤先カンブリア時代2 ⑥古生代1 ⑦古生代2 ⑧中生代 ⑨大量絶滅 ⑩新生代1 ⑪新生代2 第4章 大気と海洋 中間考査 第1節 地球の熱収支 ①大気の種類 ②大気圏の特徴 ③対流圏での天気の変化	④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪ 【関】 【技】 【知】 ①②③ 【関】 【知】 【思】	10
	11	④太陽放射と地球放射 ⑤地球の熱平衡 第2節 大気と海洋の運動 ①緯度によるエネルギー収支 ②大気の大循環 ③高気圧と低気圧 ④海洋の層構造 ⑤海洋の大循環 ⑥大気と海洋の相互作用	①②③ 【関】 【知】 ①②③④⑤⑥ 【関】 【知】 【思】	11
	12	第5章 地球の環境 第1節 地球環境の科学 ①地球温暖化1 ②地球温暖化2 ③オゾン層の破壊 ④エルニーニョとラニーニャ 期末考査	①②③④ 【関】 【知】	10 計 40
3 学期	1	第2節 日本の自然環境 ①季節の変化 ②自然景観 ③気象災害と防災	①②③ 【関】 【技】 【知】	10
	2	④地震災害 ⑤地震予測と防災 学年末考査	④⑤ 【関】 【技】 【知】	10
	3	⑥火山災害と防災 ○ 1年を振り返って	⑥ 【関】 【技】 【知】	9 計 29 年 計 105

令和5年度シラバス

教科	科目名	単位数	科(学年)	必・選 (授業形態)	
環境	課題研究	3	環境科 3年生	必修	
教科書	なし (オリジナルプリント)			副教材	なし

【 教科(科目)の目標 】

やんばるの自然について1年から学習した内容のなかで特に興味を持った分野について観察、実験などを行い、科学的に探究しレポート作成を行う。学年末には環境科生徒全員で課題研究発表会を開催し、レポートでまとめた内容について他人が分かるように発表を行う能力を身につけさせる。

【 評価の観点 】

関心・意欲・態度	積極的な態度で研究を進め意欲的に取り組んでいるかなど、授業態度を評価する。
技能・表現	実験実習は、科学的な手順に沿ってきちんとして行うことができるか、また自分達の考えを元に正確に表現できるか評価する。
思考力・判断力	自分たちが進めた研究が科学的な思考にもとづいて進められているか、またその結果を適切な判断でまとめることができるか評価する。
知識・理解	基礎基本事項を正確に理解し、覚えられるかを確認する。

【 評価方法 】

評価の方法	割合	具体的な評価の方法など
(1) レポート 発表	70%	レポートが科学的手順に基づいて作成されているか。またグループ内で分担して関わっているかも参考にする。 発表会ではわかりやすく発表できているかを評価する。
(2) 授業態度	30%	①学習用品・教科書の持参 ②主体的に研究に取り組む態度

【 おすすめの学習方法・アドバイスなど 】

- ①授業でもらったプリントをしっかりと理解しよう。
プリントには必要最小限の学習内容を盛り込んでいます。環境課題研究では教科書がないので学習する内容はプリントを見ながら確認しよう。
- ②レポート作成は特にしっかりとやろう。
日頃の学習の成果発表として課題研究発表会や中間報告会が実施されます。日頃の実習を計画的に進め、グループで協力して発表会を成功させよう。
- ③最新の科学的な話題を収集しよう。
日常より科学的な分野に興味を持ち、ニュースや新聞の切抜き、先生の談話などにも関心を持とう。また、やんばるの自然で起こっている出来事や沖縄固有の生き物についてもできるだけ関心を持って情報収集を行おう。

学期	月	学 習 内 容	配 当 時 数	備 考
一 学 期	4	授業説明、テーマ設定、班編制 班ごとに 年間計画を作成 調査開始	3 3 3	全体 班で行動
	5	フィールド調査	9	班で行動
	6	フィールド調査 中間報告の作成	4 4	班で行動
	7	中間報告会 2学期に向けて、調査再開 今後の計画、反省見直しも行う	2 4 3	全体 1学期 評価
二 学 期	9	フィールド調査	8	班で行動
	10	フィールド調査	6 3	班で行動 作品展申し込み
	11	調査およびレポート作成 フィールド調査 校内レポート提出に向けた取り組み	3 8 3	科学 作品展
	12	レポート作成、提出	8	2学期 評価
三 学 期	1	環境科 課題研究発表会に向けた取り組み	7	
	2	環境科 課題研究発表会	4	環境科 1～3年 参加
	3	レポート、パネル等の提出	計 105	

令和5年度 保健体育「野外の活動」シラバス

教科	科目名	単位数	対象科	学年
保健体育	野外の活動	2	自然環境科	2 学年

1. 目的

環境教育にふさわしい指導をめざして、あらゆる角度から野外活動をとらえ、体験的・問題解決的学習のプログラムを作成し、充実した指導を図る。

- (1) 水辺活動の基礎知識を学ばせ、体験学習をさせる。
- (2) 野外活動、自然体験学習を通して自然に親しみ、活動する喜びを育てる。また、自然を直接体験し、仲間と共同生活を営むことによって規律と規則の大切さを学ばせ、「気づき」の教育をめざす。

2. 概要

- (1) 水辺活動の体験学習
 - ①マリンスポーツの体験学習（シュノーケリング、カヌー、体験ダイビング等）
 - ②スキndaイビングライセンスの交付
 - ③安全学習の実施、水辺環境の観察と保全活動
- (2) 野外実習
 - ①キャンピング基礎知識の学習および自然体験学習
 - ②ネイチャーゲーム、ウォークラリー、トレッキング、川歩き等の学習
 - ③安全学習の実施、自然環境の観察、保全と育成
- (3) 救急法に関する体験活動
 - ①基礎知識および体験学習
 - ②救急法の実習（心肺蘇生法）
- (4) 冬季スポーツの実習
 - ①アイススケートの体験学習

3. 注意事項

- (1) 生命の危険にかかわる実習のため、健康と安全教育を徹底する。
 - ・ 規律・規則の遵守およびマナーの教育
- (2) 自然環境を大切にする心の教育、人間教育の推進
 - ・ 自然環境の観察・保全（環境教育の育成）
- (3) 資格の取得
 - ・ スキンダイビングライセンスの取得
- (4) 実習に積極的に関わられるような教育的配慮を十分におこなう。

4. 評価の観点と評価方法

評価の観点	評価の内容	具体的な評価方法
a. 知識・技能	・野外の活動の特性、成り立ち、技術の構造及び技能の高め方などについて科学的、社会的な側面から知識を身につけることができる。 ・個人や集団の能力をできるだけ発揮することができ、自然体験活動に必要な専門的な技能を習得することができる。	行動観察 学習カード 技能テスト
b. 思考・判断・表現	・個人や集団に適した目標や課題を適切に設定して練習に取り組み、その課題を解決できるようにする。 ・自然に親しむ活動を通して、好ましい人間関係や自然を愛する心を持つことができる。 ・野外の活動において、危険を予見して回避行動を取ったりするなどによって健康・安全を確保し、事故予防を図ることができるようにする。	行動観察 学習カード
c. 主体的に学習に取り組む態度	・野外での活動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、自己の能力・適正等に応じて活動することができる。 ・野外の活動に主体的に取り組むとともに、個人の体力の違いに配慮し、自己の役割と責任を果たそうとすることができる。	行動観察 グループ活動 実技実践 学習カード

5. 学習内容（進捗計画）

期	月	時数	学習項目	学習内容
1 学 期	4	計 26	宿泊野外実習	・キャンピング ・マリンスポーツ体験
	5		マリンスポーツ	・ヨット ・シュノーケリング ・スキندайビング ・カヌー
	6		マリンスポーツ	・ヨット ・シュノーケリング ・スキندайビング ・体験ダイビング
	7		マリンスポーツ	・シュノーケリング ・スキندайビング
2 学 期	9	計 32	マリンスポーツ	・シュノーケリング ・スキندайビング
	10		マリンスポーツ 救急法の講習会	・スキندайビング技能テスト ・心肺蘇生法の実習
	11		自然・環境活動	・トレッキング ・ネイチャーゲーム
	12		自然・環境活動	・トレッキング ・アウトドアレクリエーション
3 学 期	1	計 12	自然・環境活動	・バードウォッチング ・ネイチャーゲーム
	2		農林業学習活動	・農業体験 ・林業体験
	3		冬季スポーツ実習	・アイススケート実習

教科	科目名	単位数	科(学年)	必・選
環境	やんばるの自然	3	自然環境科1年	必修
教科書	なし		副教材	なし

【教科(科目)の目標】

やんばるの自然について調査観察などを行い、体験を伴う授業を展開する。そのなかで、自然に対する関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てる。環境問題に関心を持ち、沖縄の特異な自然を守り共存する心を育成する。

【評価の観点】

知識・技能	基礎基本事項や実験実習方法等を正確に理解しているかを評価する。
思考・判断・表現	与えられた課題や科学的な思考を問う内容を、理論立ててきちんと理解できるか、適切な判断を下せるか、また自分の考えを正確に表現できるかを評価する。
主体的に学習に取り組む態度	授業や実習を積極的な態度で受けているか、粘り強く取り組んでいるかを評価する。

【評価方法】

下記(1)～(4)の項目を評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度＝1：1：1の割合で評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。

(1) 授業への取り組み

授業に対する姿勢、学習態度、生き物への関心等で判断する。評価の観点のうち、特に主体的に学習に取り組む姿勢の項目を評価する。

(2) ノートの記載内容

授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているかなどを評価する。

(3) 観察・実習等

観察・実習等を行い、レポートを書く。観察・実習に対する姿勢、考察、器具の操作、報告書などから評価する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現に関する配分が大きい。

(4) 定期考査

学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現に関する配分が最も大きい。

【学習方法・アドバイスなど】

①身の回りの生物に興味を持ち実習と関連づけよう。

やんばるの自然(実習)には身近な自然(沖縄の自然)や気象情報(天気予報や新聞)などに興味を持って積極的に参加すると学習が深まります。

②実習でのプリント、提出物は特に重要。

やんばるの自然の評価は、日々の提出物をしっかり指示に従って記入しているか？授業や実習態度や服装などをきちんとしているか評価します。

③最新の科学的な話題を収集しよう。

小論や面接では、ニュースで話題になる科学的な内容も質問されます。新聞の切抜きや先生の談話などにも重要な話しが含まれます。興味がある生徒は、積極的に調べよう。

【 学習計画 】

学期	月	学 習 内 容	配当時数	備 考		
一 学 期	4	○はじめに やんばるを特徴づける自然の概略 1. 琉球列島の地理的特徴 ①弧状列島 ②気候の特徴(亜熱帯海洋性気候) ③地形・地質・土壌 ○実習(大国林道・饒波海岸)＊生き物記録 ○実習(バタフライウォッチングによる環境診断) ○宿泊学習(バタフライウォッチング、野外炊飯、植物)	2 4 2 8	沖縄の生きものたち プリント フィールドノート利用 青年の家		
		5	④琉球列島の生い立ち(孤島の生成の歴史) 2. 琉球列島の生物相 ①琉球列島の生物相の概略 ②植物相の特徴 ③動物相の特徴 ○実習(饒波海岸：貝類、甲殻類) ○実習(学校周辺のバードウォッチング)コールバック法	1 2 2 3 2	プリント 映像資料 プリント フィールドノート	
			6	④天然記念物の動植物 ○実習(饒波海岸：貝類、甲殻類の同定) ○実習(饒波川沿い昆虫調査) 座学(生態系：生物Ⅱ内容)	2 4 3 1	プリント フィールドノート プリント
				7	座学(生物の分類、5界説：生物Ⅱ内容) ○実習(奥間川の水質・指標生物の利用) ○実習(浜林道の生物調査：林縁から林内に展開) 期末考査、ファイル、実習帳提出	2 3 2
	二 学 期				9	座学(鳥のさえずりと判定) ○実習(石灰岩林の調査：大宜味村創造の森) ○実習(昆虫標本の作製)
		10	座学(河川調査) ○実習(やんばるの森・植物乾燥標本作製) ○実習(大宜味村上原の昆虫調査)石灰林	3 7 2		映像資料他 フィールドブック
			11	地球環境(生態系と人間のくらし) ○実習(海岸の植生・校庭の裏山の動植物調査) ○実習(喜如嘉の野鳥観察)		3 7 2
				12	地球環境(環境に調和した生き方) 期末考査、ファイル、実習帳提出 ○実習(森林公園・与那演習林沿い河川の利用)	3 7
	三 学 期	1	4. 生物調査の方法(植物の方形枠調査)他 ○実習(森林探索・バードウォッチング喜如嘉他)		 9	フィールドブック
			2	5. やんばるの問題を考える ①山林の開発と生態系の変化 ②河川・海の赤土汚染・河口閉塞(リュウキュウアユ) ③小動物への配慮(保護) ○実習レポート作成(昆虫、学校周辺調査など) レポート、ファイル、実習帳提出	3 6	プリント パソコン利用
3		○実習レポートまとめ(昆虫、その他) まとめ(次年度 環境測定に向けて)		5 1	フィールドブック	
					計 105+8	

教科	科目名	単位数	科(学年)	必・選
環境	やんばるの自然	2	普通科1年	必修
教科書	なし		副教材	なし

【教科(科目)の目標】

やんばるの自然について調査観察などを行い、体験を伴う授業を展開する。そのなかで、自然に対する関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てる。環境問題に関心を持ち、沖縄の特異な自然を守り共存する心を育成する。

【評価の観点】

知識・技能	基礎基本事項や実験実習方法等を正確に理解しているかを評価する。
思考・判断・表現	与えられた課題や科学的な思考を問う内容を、理論立ててきちんと理解できるか、適切な判断を下せるか、また自分の考えを正確に表現できるかを評価する。
主体的に学習に取り組む態度	授業や実習を積極的な態度で受けているか、粘り強く取り組んでいるかを評価する。

【評価方法】

下記(1)～(4)の項目を評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度＝1：1：1の割合で評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。

(1) 授業への取り組み

授業に対する姿勢、学習態度、生き物への関心等で判断する。評価の観点のうち、特に主体的に学習に取り組む姿勢の項目を評価する。

(2) ノートの記載内容

授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているかなどを評価する。

(3) 観察・実習等

観察・実習等を行い、レポートを書く。観察・実習に対する姿勢、考察、器具の操作、報告書などから評価する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現に関する配分が大きい。

(4) 定期考査

学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現に関する配分が最も大きい。

【学習方法・アドバイスなど】

①身の回りの生物に興味を持ち実習と関連づけよう。

やんばるの自然(実習)には身近な自然(沖縄の自然)や気象情報(天気予報や新聞)などに興味を持って積極的に参加すると学習が深まります。

②実習でのプリント、提出物は特に重要。

やんばるの自然の評価は、日々の提出物をしっかり指示に従って記入しているか？授業や実習態度や服装などをきちんとしているか評価します。

③最新の科学的な話題を収集しよう。

小論や面接では、ニュースで話題になる科学的な内容も質問されます。新聞の切抜きや先生の談話などにも重要な話しが含まれます。興味がある生徒は、積極的に調べよう。

【 学習計画 】

学期	月	学 習 内 容	配 当 時 数	備 考
一 学 期	4	○はじめに やんばるを特徴づける自然の概略 1. 琉球列島の地理的特徴 ①弧状列島 ②気候の特徴(亜熱帯海洋性気候) ③地形・地質・土壌	2 2 2	沖縄の生きものたち プリント フィールドノート利用
	5	○実習(大国林道・饒波海岸・昆虫・鳥類調査) 2. 琉球列島の生物相 ①琉球列島の生物相の概略 ③植物相の特徴 ③動物相の特徴	2 3 3 2	プリント 映像資料 プリント
	6	○実習(饒波海岸:貝類・甲殻類・校庭の植物) ○実習(沖縄の固有種・野鳥のラインセンサス) ④天然記念物の動植物 ○実習(饒波海岸:貝類・甲殻類)	2 2 2 2	フィールドノート プリント フィールドノート
	7	○実習(昆虫調査・生態系) ○実習(辺戸岬・慶佐次・天仁屋) ○実習(饒波海岸・河川・やんばるの森、林道調査) 期末考查、ファイル、実習帳提出	2 2 2	フィールドブック
		3. 生物調査の方法		フィールドブック
	9	○実習(石灰岩林の調査:大宜味村創造の森) ○実習(河川調査)	4 2	
	10	○実習(昆虫について:昆虫標本の作製) ○実習(やんばるの森・植物乾燥標本作製)	4 2	フィールドブック
	11	地球環境(生態系と人間の暮らし) ○実習(喜如嘉の野鳥観察)	8	プリント
	12	○実習(森林探索・バードウォッチング喜如嘉他) 期末考查、ファイル、実習帳提出	6	フィールドブック
		4. やんばるの問題を考える		
三 学 期	1	○実習(初春の森、生き物観察) ①山林の開発と生態系の変化	4 2	フィールドブック プリント
	2	②河川・海の赤土汚染・河口閉塞 ③小動物への配慮(保護)	2 4	
	3	○実習レポート作成(昆虫、学校周辺調査など) レポート、ファイル提出	6	パソコン利用
			計 70	

教科	科目名	単位数	科(学年)	必・選(授業形態)	
環境	環境測定 I	3	自然環境科 2年	必修	
教科書	なし			副教材	なし

【 教科(科目)の目標 】

測定技術の原理・実践を理解・習得し、身近な環境から調査する。調査結果から、身近な環境の現状、報告書(レポート)の書き方、考察の仕方を学んでいくとともに、これからの環境について、社会・家庭・自分でできることを考えさせ、実践していく能力と態度を育成する。

【 評価の観点 】

知識・技能	測定することの意義、数値の意味を理解し、適切な比較・説明をすることができるか、理論立てた考察・まとめができるか評価する。また、実験・実習では、支持された手順に沿ってきちんと行うことができるか評価する。
思考・判断・表現	得られた調査・測定結果から、理論立ててきちんと理解・説明をすることができるか、生じている問題について考えることができるか評価する。また質問事項に対して、自分の考えを正確に表現できるか評価する。
主体的に学習に取り組む態度	授業を積極的な態度で受けているか、実験及び実習も意欲的に粘り強く取り組んでいるかなど授業態度を評価する。

【 評価方法 】

評価の方法	割合	具体的な評価の方法など
(1) 定期テスト	30%	テスト内容は授業で活用したプリントなどから作問する。
(2) 提出物 (ノート・課題等)	35%	毎時間終了毎にプリントや課題をファイリングして提出を求める。 課題：定期的な調査のレポートなどを課す。定期テスト終了毎にファイルの提出を課す。各自しっかりまとめておくこと。
(3) 授業態度	35%	①学習用品・教科書の持参 ②授業への集中の程度 ③実験・実習に臨む態度など。

【 おすすめの学習方法・アドバイスなど 】

①授業でもらったプリントをしっかりと理解しよう。

プリントには必要最小限の学習内容を盛り込んでいます。教科書でわかりにくい内容もプリントを見ながら授業を思い出せば分かるはず→学習内容をしっかりと理解しよう。

②テスト勉強は特にしっかりやろう。

日頃の学習の確認として中間・期末テストが実施されます。日頃の学習を理解した上で、テスト予想問題やプリントに含まれる確認・発展問題を解こう。

③環境問題に関心を持とう。

私たちの生活と「環境問題」は密接に関係しています。普段の生活から常に「環境問題」を意識して、行動できるようにしよう。

④最新の話題について収集しよう。

ニュースでは最新の環境問題についての報道がなされています。常に新しい情報を知識として持つように心がけよう。

【 学習内容（進度計画）と評価の観点 】 — 環境測定Ⅰ —
 観点別評価 【関】 関心・意欲・態度 【技】 技能・表現 【思】 思考力・判断力 【知】 知識・

学期	月	学習内容	観点別評価	配当 時間
1	4	○植物調査 (1)葉からの植物の検索方法 (2)在来種と外来種（園芸種） ○昆虫調査 (1)バタフライウォッチングからの環境診断（春季）	【技】 【知】 【関】 【思】	9
	5	○河川調査（春季） (1)化学的調査…測定器やパックテストを使った測定 (2)生物的調査…採集方法、種の同定法、在来種と外来種の割合	【技】 【知】 【関】 【思】	1 1
	6	○昆虫調査 (1)バタフライウォッチングからの環境診断（夏季） (2)学校周辺の昆虫相（夏季）、クワガタなど ○森林調査 (1)樹高、胸高円周長（直径）の測定（与那フィールド）	【技】 【知】 【関】 【思】	1 2
	7	○1 学期期末考査 ○野鳥調査…営巣調査（アジサシなど） ○昆虫調査 (1)学校周辺の昆虫相（夏季）、クワガタなど	【技】 【知】 【関】 【思】	8
2	9	○昆虫調査 (1)学校周辺の昆虫相（秋季） (2)バタフライウォッチングからの環境診断（秋季）	【技】 【知】 【関】 【思】	1 1
	10	○河川調査 (1)化学的調査…測定器やパックテストを使った測定 (2)生物的調査…採集方法、種の同定法、在来種と外来種の割合	【知】 【関】 【思】	1 1
	11	○森林調査 (1)ドングリの豊凶調査 ○海の調査 (1)漁港における魚類調査（釣りによる） (2)干潟における貝類調査 (3)海岸に打ち上げられる漂流物調査	【技】 【知】 【関】 【思】	1 0
	12	○2 学期期末考査 ○鳥類調査 (1)ラインセンサス法（喜如嘉ターブク）、スポットセンサス（大保ダムビオトープ）	【技】 【知】 【関】 【思】	9
3	1	○鳥類調査 (1)ラインセンサス法（喜如嘉ターブク）、スポットセンサス（大保ダムビオトープ）	【技】 【知】 【関】 【思】	9
	2	○海の調査 (1)漁港における魚類調査（釣りによる） (2)干潟における海藻類の調査	【知】 【関】 【思】	9
	3	○学年末考査 ○外来種問題について…マングースなど	【思】	6 合計 105

令和5年度「環境測定Ⅱ」シラバス

教科	科目名	単位数	科(学年)	必・選(授業形態)
理科	環境測定Ⅱ	4	環境科3年	選択
教科書	なし		副教材	なし

【教科(科目)の目標】

「環境測定Ⅱ」は「環境測定Ⅰ」との関連を図りながら科学的な見方や考え方を理解させ、その技能や態度を身につける。「やんばる」地域のフィールドを活かした調査研究を季節変化や外来種問題などを中心に行う。環境調査を通して身近な環境の状態を数量的に把握させ、データの処理や考察までを生徒自身が行い、論文や作品を仕上げることを目標とする。

【評価の観点】

関心・意欲・態度	授業を積極的な態度で受けているか、実験及び実習も意欲的に取り組んでいるかなど授業態度を評価する。
技能・表現	実験・実習では、支持された手順に沿ってきちんと行うことができるか、また質問事項に対して自分の考えを正確に表現できるか評価する。
思考力・判断力	得られた調査・測定結果から、理論立ててきちんと理解・説明をすることができるか、生じている問題について考えることができるか評価する。
知識・理解	測定することの意義、数値の意味を理解し、適切な比較・説明をすることができるか、理論立てた考察・まとめができるか評価する。

【評価方法】

評価の方法	割合	具体的な評価の方法など
(1) 提出物・授業態度(ノート・課題等)	100%	(1)毎時間終了毎にプリントや課題をファイルして提出を求める。 (2)定期的な調査のレポートなどを課す。定期テスト終了毎に提出。 (3)授業態度等 ①学習用品の持参 ②授業への集中の程度 ③発問への応答の有無など。

【おすすめの学習方法・アドバイスなど】

①授業でもらったプリントをしっかりと理解しよう。

プリントには必要最小限の学習内容を盛り込んでいます。教科書でわかりにくい内容もプリントを見ながら授業を思い出せば分かるはず→学習内容をしっかりと理解しよう。

②日々の授業・実習に積極的に取り組もう。

与えられたことだけではなく、自ら課題を見つけて主体的に調査・研究を行うこと。課題研究の授業と合わせて、独自の研究を進めてもよい。

③環境問題に関心を持とう。

私たちの生活と「環境問題」は密接に関係しています。普段の生活から常に「環境問題」を意識して、行動できるようにしよう。

④最新の話題について収集しよう。

ニュースでは最新の環境問題についての報道がなされています。常に新しい情報を知識として持つように心がけよう。

【 学習内容（進捗計画）と評価の観点 】 — 環境測定Ⅱ —

観点別評価 【関】 関心・意欲・態度 【技】 技能・表現 【思】 思考力・判断力 【知】 知識・理解

学期	月	学習内容	観点別評価	配当時間
1	4	○環境調査Ⅰ（春季） （１）学校周辺の植生 （２）花や実をつける季節の植物を調べる	【関】・【知】 【関】・【知】	8 2
		（３）学校周辺の昆虫相（春季） （４）バタフライ・ウォッチングからの環境診断（春季） （５）学校周辺の河川調査（春季） （６）干潟の生物	【関】・【知】 【関】・【技】 【関】・【技】 【関】・【技】	4 6 6 2
	6	（７）島ヤギの嗜好性（植物の種類） （８）鳥類の調査（プレイバック法・営巣観察）	【関】・【知】 【関】・【技】	4 6
		○1 学期期末考査 ○環境調査Ⅱ（夏季） （１）鳥類の営巣調査（アジサシ）	【知】・【思】 【知】・【関】 【関】・【技】	6 6 6
	9	（２）学校周辺の昆虫相（春季） （３）バタフライ・ウォッチングからの環境診断（夏季） （４）河川調査（春季） （５）生態系調査（里山、シイ林、石灰岩林）	【関】・【知】 【関】・【技】 【関】・【技】 【関】・【技】	4 4 4 4
		○環境調査Ⅲ（秋季） （１）鳥類調査（ロードセンサス・スポットセンサス） （２）学校周辺の昆虫相（秋季） （３）バタフライ・ウォッチングからの環境診断（秋季） （４）河川調査（秋季）	【関】・【知】 【関】・【技】 【技】・【知】	6 4 4 2
		○標本・剥製製作Ⅰ （１）鳥の剥製、昆虫の標本など	【関】・【技】	4 8
		○2 学期期末考査 ○環境調査Ⅳ（冬季） （１）鳥類調査（ロードセンサス・スポットセンサス） ○研究論文作成 （１）年間を通じた調査のまとめ	【技】・【関】 【思】・【関】	8 8
3	1	○環境調査Ⅳ（冬季） （１）学校周辺の昆虫相（冬季） （２）バタフライ・ウォッチングからの環境診断（冬季） （３）河川調査（冬季） ○標本・剥製製作Ⅰ （１）マングースの剥製、昆虫の標本など	【関】・【知】 【関】・【技】 【関】・【技】 【関】・【技】	4 4 4 4
		○標本・剥製製作Ⅰ （１）マングースの剥製、昆虫の標本など ○学年末考査	【関】・【技】	4 合計 128

令和5年度シラバス

教科	科目名	単位数	科(学年)	必・選(授業形態)
理科	環境科学概論	2	普通科3年	選択
教科書	なし		副教材	なし

【 教科(科目)の目標 】

地域（沖縄・やんばる）から世界における環境問題等の課題について、体験的な学習を通して理解する。また、環境調査の基本的な操作を学習し、身近な環境の状態を数量的に把握し、報告書の作成を通して、測定値の見方や考え方・まとめ方の技能や態度を身につける。調査結果から、これからの環境について、社会・家庭・自分でできることを考えさせ、実践していく能力と態度を育成する。

【 評価の観点 】

関心・意欲・態度	授業を積極的な態度で受けているか、実験及び実習も意欲的に取り組んでいるかなど授業態度を評価する。
技能・表現	実験・実習では、支持された手順に沿ってきちんと行うことができるか、また質問事項に対して自分の考えを正確に表現できるか評価する。
思考力・判断力	与えられた課題や科学的な思考を問う内容を、理論立ててきちんと理解できるか、また適切な判断を下せるか評価する。
知識・理解	基礎基本事項を正確に理解し、覚えられるかテストで確認する。

【 評価方法 】

評価の方法	割合	具体的な評価の方法など
(1) テスト	60%	テスト内容は授業で活用したプリントなどから作問する。
(2) 提出物 (ノート・課題等)	30%	毎時間終了毎にプリントや課題をファイリングして提出を求める。
(3) 授業態度	10%	①学習用品の持参 ②授業への集中の程度 ③発問への応答の有無など。

【 おすすめの学習方法・アドバイスなど 】

①授業でもらったプリントをしっかりと理解しよう。

プリントには必要最小限の学習内容を盛り込んでいます。教科書でわかりにくい内容もプリントを見ながら授業を思い出せば分かるはず→学習内容をしっかりと理解しよう。

②テスト勉強は特にしっかりとやろう。

日頃の学習の確認として中間・期末テストが実施されます。日頃の学習を理解した上で、テスト予想問題やプリントに含まれる確認・発展問題を解こう。

③最新の科学的な話題を収集しよう。

小論や面接では、ニュースで話題になる科学的な内容も質問されます。新聞の切抜きや先生の談話などにも重要な話が含まれます。進路に合わせた情報収集を心がけよう。

④身近な自然に興味を持ち実習と関連づけよう。

沖縄の自然・やんばるの自然（海、山、川、生物等）や環境問題（大気汚染、海洋汚染、赤土流出等）などに興味を持って積極的に授業に参加すると学習の理解が深まります。

【 学習内容（進捗計画）と評価の観点 】 — 環境科学概論 —

観点別評価 【関】 関心・意欲・態度 【技】 技能・表現 【思】 思考力・判断力 【知】 知識・理解

学期	月	学習内容	観点別評価	配当時間
1	4	I 環境とは…。 ・自然環境と生活環境	【関】【知】	6
	5	II 地球規模の環境問題について 地球温暖化・酸性雨・オゾン層破壊・砂漠化 大気や海洋汚染・熱帯林の減少	【関】【思】 【知】	1 8
	6	III 水辺の環境 (1) 水質調査 化学の実験を基礎におき、水質検査の技術を身につける。 (2) 水質検査法 水質試験法の中から環境実習に適した項目を用いて、水質検査の技術・意義を学ぶ。(機器測定、蒸発残留物 パックテスト、菌検査、他)	【関】【技】 【思】【知】	
	7	(3) 総合実習 (地域の水質調査)	【関】【技】 【思】【知】	6
2	9	(4) 水質調査のまとめ ・追加実習や追加実験など実習	【関】【技】 【思】【知】	6
	10	IV 身近な環境問題 沖縄の大気(地質)・土壌・河川・海 やんばるの自然と生活環境・野生生物と人間	【関】【思】 【知】	1 6
	11	V 大気調査 (1) 基礎実験 (大気の性質、酸素・水素の発生など) (2) 大気調査法 大気調査法の中から環境実習に適した項目を用いて、大気調査の技術・意義を学ぶ。 (二酸化窒素の測定・粉じん調査・酸性雨の測定など)	【関】【技】 【思】【知】	
	12	(3) 大気調査のまとめ	【思】【知】	6
3	1	VI 理想的な環境とは (1) 開発と保護のバランス (環境保全について) (2) 破壊(汚染)と自然の回復力のバランス自然界における共生 (3) 循環型社会と持続 (維持) の可能な社会 (4) 抑制とゼロミッション	【関】【思】 【知】	1 2
	2	VII これからの環境について 社会、家庭、自分でこれからできること	【関】 【思】【知】	計 70